カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　20円

世界平和のために

正月元日の『世界平和祈願の日』はことし第六回をむかえるが、パウロ六世教皇は「平和は実現可能である」のテーマを提唱しておられる。福岡教区では平田司教の指示により元日か一月第一日曜日をこれに当て、小教区ごとに平和のために祈る。なお一月九日の全教区司祭集会の日に、この意向で共同ミサがささげられる。

年頭のことば

主の降誕と新しいおよろこびをつーてます

福岡司教
ペトロ　平田三郎

新しい年をむかえるにあたり、教区の司祭、修道者、信徒の皆さまの上に神のゆたかな祝福を求め、今年も実り多い年でありますようお祈り申し上げます。

年の始めに際して、私がかねて胸にいだいている考えの一端を、創刊二百号をむかえた「カトリック」誌をかりて、申し述べてみたいと思います。

私たちはゆたかな暮しと多忙な仕事に心を奪われて、静かな祈りのうちに「人間にとって、もっとも大切なものは何か」を反省するいとまを失っております。それに伴い、神を求める信仰、神との親しい交わりの体験に乏しくなって、家庭における宗教教育がなおざりにされがちで、親から子へと受けつがるべき信仰の遺産も先細りになるのではないかと心配でなりません。

こういう時代の雰囲気であるからこそ、私たちは神から託された神聖な責任を思い出して、家庭における宗教教育を確立するよう、とくに親たる者はいっそうの努力を決意すべきではないでしょうか。宗教教育は全人間教育の完成だと言われます。それによって青少年は生きることの究極目標をつかみ、道徳の基礎を理解し、エゴイズムを乗りこえて、高い理想に進む力を身につけることができます。しかし信仰にもとづく価値観が、かれらの人生の指標となるためにはまず親が家庭で子どもたちに、身をもって神への畏敬と信仰のよろこびを感じさせなければならないのです。親が日々の生活のなかで、生きた信仰生活のあかしをすること、それがほんとうの宗教教育です。「私もお父さんやお母さんのようになりたい……」と、子供たちが心からそう思うようになるならば、教育は成功したと言えると思います。私たちの信仰は理解する教理としてでなく、まず神の子として生きるエネルギーとして伝えられるべきものです。親がまず信仰実践の模範を示してこそはじめて、子供の心にそのような信仰の芽を植えつけることができます。神のお心とのふれ合いから生まれる信仰の確信とよろこびに、子供を引きよせないで、宗教の規則や義務、教理の理解ばかりを強調しても、子供の心には通じないと思います。

教育とはまことに地道な努力の積みかさねです。教えたことがすぐに目に見えてあらわれるものではありません。とくに神のお心にふれさせる宗教教育は、神への祈りのなかでほどこされてゆくものです。神の前で敬けんに祈る親の姿ほど、子供に大きな影響を及ぼすものはないでしょう。ところがこの祈りの習慣が、私たちの家庭から次第に稀薄になっているようです。ほんとうに残念なことです。私は年の始めに当たり、教区の信徒のみなさまに、家庭での宗教教育の重要性をあらためて自覚していただき、子供とともに祈る家庭を築きあげていただきたいと、とくにお願い申し上げます。

皆さまお一人ひとりの上に神の豊かな祝福と力強いお導きをお祈りいたします。

昭和四十八年元旦

教会りぐめ

本渡（聖パトリック）教会

本渡市大浜町

デイキン神父

天草五橋周辺のすばらしい景色を楽しみながら大矢野島までくると、いたるところで、白塗りの十字架の案内標識に行きあう。観光キリシタンの地であるが、信仰キリシタンの姿はない。松島からさらに四〇キロ近く、上天草の北側を走って下天草に入れば本渡市である。

五橋の完成にともなってこの町は姿を変えた。観光ホテル、土産物の店舗、交正会の建物など、どれも都会地のすがたと変わるものがない。大浜町のカトリック教会は併設の幼稚園とともに本渡市の観光コースにあるらしく、観光客が二人、三人と教会から出て来ていた。市の胆入りで先任者のライル師が丹誠こめてつくったルルドの庭が大きく比重を取って、教会はクリスマスケーキのように小さく立っている。観光客も古めかしいキリシタンのイメージをこわされるのではないだろうか。

「これほど、市も一生懸命になってキリシタンを取りあげているのに、なぜもっと信仰が芽ばえないでしょうか」開口一番オーストラリアから宣教一途を念じて来られた神父様の熱意のほどがうかがえる。寸暇をおしんで信者訪問、英語塾、市当局との接触に東奔西走、神父様は所詮、天草でキリシタンを探ろうとすれば、歴史の回想の中にしか見出されないような気がする。堂々たる体躯に童顔の主任神父様は当教会三代目のデイキン神父である。

少なくとも市民の人気者である。

教会をこのまちに開いたのがもう十数年前。聖心会のシスター五名も、市民とともにあかしの生活にはげんでおられる。神父様と同じお気持であろう。信者数は三角地区までくるめて二百人足らず、さらに天草の乱ゆかりの談合島（湯島）もふくめて、小教区の範囲は気が遠くなる程広い。

本渡市で二十年前、初めて受洗したと言う年老いた信者さんは、当時まだ観光など考えられなかった時代に、「畑や山のすみの草かげの石にきざまれた多くの十の字が何か気になって、意味のわからぬまま自分に男の子が出来たら、〇〇十と命名してやろうと一心に考えた若い時代があった。結局男の子は授からなかったですが…」と笑いながら話してくれたが、これほど広範囲にわたる往時のキリシタンの生活が、人の心に語りかけるものを持っている事も否めない事だと思って、お別れをしてから、此の地の現代キリシタンの方々に『しっかりみ教えを生きぬきましょう。むかしのように日本全国のキリスト者の、心温まる中心となる事も夢とばかりは言えないでしょう』と言ってあげたい思いにかられた。

福岡小神学校入学希望者に

福岡小神学校に入学を希望する方は、左の要項にしたがってご通知ください。

① 高校一年に入学する方は、泰星高校への入試がありますので一月末日までに主任司祭の推せん書、中学校の内申書を送ってください。

② 中学一年に入学する方は、三月十五日までに同じく主任司祭の推せん書を送ってください。いずれの場合にも、希望者は主任司祭をとおして出来るだけ早くご通知ください。

福岡市中央区浄水通三八
福岡小神学校
畠山　七郎　神父

1月のこよみ

1日（月）神の母マリア　元旦
年のはじめにあたり、この一年を神にささげたい。この一年は単なる時の流れではなくて、神のご意志がこの時間のなかで受肉するそしてそれを生んでゆくのはこの私だ。

7日（日）主の公現の祭日
公現とは、神がご自分をお示しになること神は人間の歴史のなかで、さまざまの出来事をとおして人々に公現された。そして最後に神の御子ご自身が人となって現われた。

9日（火）教区全司祭集会

13日（土）教区修女連院長会議（司教館で）

14日（日）年間第2主日
少年サムエルは、はじめて神の呼びかけをきいたときから、神に生きる者となった。洗者ヨハネの二人の弟子もイエスにはじめて出会ったとき、そのお住いにおもむいた。この出会いの日から、かれらの生涯はまったく新しい方向をたどることになる。

15日（月）－22日（月）司教および管区長の共同体練成会（静岡県天城山荘で）

15日（月）成人の日

18日（木）－25日（木）キリスト教一致のための祈りの週間
ことしの祈りの週間主題は「主よ、祈ることを教えてください」（ルカ11・1）。この八日間、毎日、各地で主キリストのお望みの一致をもとめて、キリスト教各派の人々が共に祈る。唯一の父に、御子キリストをとおして、聖霊の交わりのなかで、心を合わせて祈ることこそ、一致を実現するもっとも効果的な道である。

21日（日）年間第3主日
神はニネベの町の改心のために、ヨナを召してその地に送られた。キリストも神から送られて、人々に改心と信仰をお告げになる。それは全世界への神の呼びかけであり、私たちはこれに責任をもって答えねばならない。

23日（火）教区司祭評議会

28日（日）年間第4主日
キリストは「権威あるもののように教えられた」という。それは神から言葉を受けて、それを伝えたということである。それを耳にしたとき、私の一生の運命に大きな変化が生じたのである。

児童福祉の日の献金
浄水通教会で堅信

事務用機器　賀正　文具・紙
放送用機器
福岡市南区大楠二丁目13番21号
有限会社　シオタ事務機
(52) 5327・(53) 4905
スチール製品　デスク・ロッカー・黒板

大名町外国語アカデミー
福岡市中央区大名2丁目カトリック教会内　TEL：74—3687
課目と曜日　英語（月・水）ドイツ語（火・木）スペイン語（火・木）フランス語（火）
教師　英語　Ward Biddle, Richard Harr, David Ullrich, Rogers Pelow, William Schultz, Joseph O'Connor, Sister Maureen, Sister Agatha
ドイツ語　Lucas Bertram
スペイン語　Sisrer Mercedes
フランス語　Julien Gayard
1973年前期は1月10日開講　4月2日まで
夜間　P.M.6.00—7.15　P.M.7.30—8.45
昼間　A.M.10.00—11.15　P.M.1.30—2.45
授業料　5,500円（ほかにテキスト代実費）フランス語は、3,000円

本紙前号のこの欄『信徒使徒職とは何か』は、前書のなかで

『信徒使徒職の実践は日本だけでなく、全カトリック教会の合い言葉となっている』

『信徒使徒職は現代の信者を起ち上らせる起爆剤になるはずのものである』

と言っている。

ここ数年、『信徒使徒職』という言葉が、教会と信者の間で頻繁に使われ、問題になってきたことは事実である。本誌もまた、再三というより、一貫してこの問題を追求してきたが、『笛吹けど人踊らず』というのか、『信徒使徒職』という言葉はただ空転しているだけで、信徒を起ちあがらせる起爆剤は、まだ煙も見せていないというのが現状だ。

こん回も前号に続き『信徒使徒職』をとりあげ、なぜそうなのか、どう実践に踏み切ればよいかなど、信者の声のなかに問題と解答を探ってみた。

信徒使徒職の定義

信徒の間で、『社会参加』という言葉がさかんに使われたことがあるが、社会参加とは何かということになると、確かな答はなかなか出てこなかった。おなじような現象は、今日使われている『信徒使徒職』という言葉にも見ることができる。それは言葉が熟していないこと、言葉の指向しているものが単一でないことなどからくる一種のあいまいさによるものである。

ところで、その『信徒使徒職』とは何であろうか。第二バチカン公会議の『教会憲章』は、うまくこれを定義づけている。

『信徒使徒職は教会の救霊活動そのものに参与することであり、すべての人は洗礼と堅信を通じて主ご自身からこの使徒職に任じられる』

この定義の中から、私たちは『信徒使徒職』の意味を見つけ、方向を探らなければならないわけだが、教会憲章はまた、信徒使徒職が『すべてのキリスト信者の務めである』ことを明らかにし、信者一人一人の責任を問うている。これは『信徒使徒職』を考えるとき、絶対に忘れてはならないことである。

社会分野における使徒職

『信徒使徒職に関する教令』は信徒使徒職の分野を、①教会の諸団体②家庭③青少年④社会環境⑤国家的、国際的領域、の五つに分けているが、ここでは『社会環境』、すなわち、社会分野における使徒職を中心に考察を進めてゆきたい。

社会分野における使徒職とは何であろうか。

『社会環境』はこう書いている。

『ある人が生活している共同団体の精神、風習、法律、組織をキリスト教的精神で満たす努力――』

『そこで信徒は、生活によるあかしを、ことばによるあかしによって完全なものにする。労働、職業、勉学の領域でも、また家の中でも、慰安や寄り合いの時でも、信徒こそ友を助けることのできる最適の者である』

これは文字どおり、社会環境の中での、信者一般の使徒職である。

しかしいま、私たちは、社会分野での使徒職をもう一歩進めた積極的な段階で捉えたい。それが現在最も要望されている使徒職であり、また前書の『起爆剤はまだ煙も見せていない』ということも問題を、観念的な世界から現実の場へ移してみよう。

現在の日本には、『公害』をはじめ、いろいろな社会問題が溢れている。その問題のために働いている人も沢山いる。

ある雑誌の調査で知ったことだが、全国で行なわれている市民運動の数は、ほぼ三五〇団体にのぼるという。その中には『水俣病を告発する会』や、『カネミオイル被害者を守る会』も含まれており、また僧侶や牧師を代表者とする会もいくつか目についた。だが皿眼になって探したにもかかわらず、少なくとも九州地区では、カトリック関係者の名は、一人も見出すことができなかった。

それは社会分野での信徒使徒職が、まだ始まっていないということだろうが、一般社会の人々のそういう働きに比べて、神の愛を口にするカトリックの信者が、社会問題の中で苦しんでいる人たちを手をこまねいて見ているというこの事態を、いったいどう考え、理解すればよいのであろうか。

☆　☆　☆　☆

公害にたいする住民の戦いは盛りあがっている……

社会問題と使徒職

『信徒はこの世の秩序の刷新を信徒固有の任務として受け取り、福音の光と教会の教えに導かれ、かつキリスト教的愛をもって、この世の秩序において決然として具体的に行動しなければならない』

それは、社会の秩序を正すことを信者の務めとし、キリストの教えに導かれて行動せよということであり、言葉を変えれば、現代社会にキリストの義を行なえということである。

［公会議をふり返える］(5)

信徒使徒職・盛りあがってきた気運

待たれる青年の自覚と決意

この時点ではじめて生きてくるからである。

このばあい、その根拠をどこに求めるかが問題であるが、それはおなじ教令の第七項、『この世の秩序の更新』のなかに求めることができる。

『人間がこの世の事がらの全秩序を正しく打ち立て、またそれをキリストを通して神へ秩序づけうるよう働くことは、全教会の務めである』

使徒職の現状

昨年の九月、福岡で実施された『信徒布教研修会』の二日めに、〝こんご何をするか〟をテーマに活発な意見の交換が行なわれた。結局結論が出ないまま終ったが、一部信者の中に、布教、あるいは信徒使徒職への関心が高まり、何かをやろうという気運が盛りあがっていることは確かだ。

しかしいまの段階では、何をするかということになると、どうしてよいか解らないというのが実状で、これはカトリック一番の泣きどころと言ってもよさそうだが、そういう事情を踏まえ、信徒使徒職の現状を、北九州のAさんはこう言っている。

『使徒職ということが、ほんとうに信仰の中に入っていないから社会の問題に目を向け、真剣に受けとめることができないのだ』

また、

『使徒職活動をすれば家庭のことが留守になる。若い人であれば、困難が予想される使徒職活動に足を突っ込むより、教会のアクション団体の中で決ったことをしている方が、無難で気楽だという人が多いのではないか。そういう生まぬるい雰囲気の中から、どうして社会分野での使徒職が生まれよう』という、Bさんの意見もある。

使徒職を妨害するもの

前号『信徒使徒職とは何かは、』

『日本のカトリック教会は他宗教、なかでもプロテスタント諸教会に比べて、信徒のなかからの運動が少ない。その最大の原因はこれまでの聖職者中心主義的な行き方、裏を返せば信徒教育の欠除にあると考える』

と書いている。いちおうこれを事実として認めたとしても、ここではなお胸の中に残るものがある。北九州のBさんは、

『信徒と司祭の間には心の断絶がある。それが信者が何かをしようとするときに出てきて、行き違いの原因になるのだ』というが、実はそれは、心の断絶というようなことではなく、司祭の側の事なかれ主義、用心深さが、信者の行動を押さえているのではなかろうか。そういう意味で、佐賀のCさんの『司祭が信者を押さえるのは教会の評判を気にするからだ』という声は暗示的である。

司祭の中には、自分の考えを固執して妥協しない人がいる。また新しい考え方を絶対に許容しない人もいる。『信徒布教研修会』で聞いたことだが、信者の参加をどうしても認めない司祭がいたそうだ。こういう司祭の姿勢が、使徒職推進に大きなブレーキとなっていることは、否むことのできない事実であろう。

ブレーキになっている人は信者の中にもいる。福岡のDさんは、

『無関心な人も使徒職の障害だ』と言う。また『信者の新しい動きを、個人の古い信仰観から、確かめもしないで押さえつける幹部がいる』というDさんは、

『ブレーキになる司祭、信者がなくならないかぎり、信徒使徒職とくに社会分野での使徒職は、絶対に実現しないだろう』とため息をもらしていた。

青年信徒によせる期待

創価学会には青年行動隊というものがある。布教活動の先端で活動している若者たちだ。F神父は『信徒使徒職を推進するためにはどうしても青年行動隊が必要』という。本誌は数年前、青年挺身隊を作ることを提案したことがあるが、そのときは何の反響もなかった。Bさんは、

『信徒使徒職、また布教活動を要望する声が高い中で、青年行動隊の発想が出て来ないのは、カトリックの青年たちにやる気がないからだ』というが、事実どこの教会に行っても、ほとんどが親睦機関で、青年会が中心となっているところはない。

昨年の『信徒布教研修会』で、青年たちが〝青年会の活動〟について、深夜まで語り合ったことがある。本誌の記事は、そのときの熱っぽい雰囲気を伝えていたが、去る十月、そのときの青年たちがふたたび大名町教会で集会をひらいた。主催者側の準備不足のために収獲らしいものはなかったが、この青年たちのやる気は十分に認められた。

この集りは結局、教区の連合体を作ることに落ちついたようだが、F神父は、

『青年の熱意をぜひ伸ばしてやりたい』と乗り気を見せ、Aさんも

『社会分野での使徒職を実現するには、ぜひ青年の力が必要』と張り切る。

だがそこには、Cさんの

『連合体を作っても何もできはしない。司祭の干渉に遭い、親睦会になり下がるのが落ちだ』という問題があり、

『連合体を引っぱってゆくような指導者がいるか』（Dさん）という疑問も浮びあがってくる。

青年たちがどうまとまり、問題をどう解決して『青年行動隊』にたどりつくか。カトリックの名をかざして、どう社会で活動するか。すべては青年の自覚、決意、英知にかかっている。『信徒使徒職』実践へ、突破口をひらく可能性を秘めた未知数として、こんごの青年たちの動きに期待しよう。

（広報室）

栄養のバランス
牛肉・かしわ・豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
TEL 52・4015

一般住宅建築・増築
祭壇・教会用具室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市東区箱崎原田一の五
TEL (65)・4718

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 (57) 2673

フリーマン式視度測定法
べっ甲製品及び修理専門店
一年間保証付
メガネのべっこうや
福岡市中央区平尾二丁目19
平尾サニー側　四ツ角
TEL 52・0943

神士の気品と誇りを創る
お誂え洋服
紳士服の
ニューライン
電話 福岡 52・0820
ペトロ 糸永秀雄
福岡市中央区小笹四丁目4番2636号

辞書は三省堂

市内三十教会が合同して
熊本市民クリスマスの夕べ

第四回「熊本市民クリスマスの夕べ」は、十二月十九日午後六時から市民会館大ホールに、約二千人が参加しておこなわれた。カトリック、ルーテルなど諸教派の市内三十教会が合同して、一般市民のために催したもので、ことしは人気歌手の坂本スミ子さんを司会にむかえて、にぎやかなお祝いであった。

福田令寿委員長（満百歳の熊本名誉市民）に代って石井昇事務局長が開会のあいさつをのべ、豊田隆博氏のオルガン伴奏で「きよしこの夜」を全員でうたったあと、信愛女学院と九州女学院生徒が「マリアの子守唄」など合唱曲を披露、つづいて劇作家・高見沢潤子氏が「愛されるよりも」と題して講演。氏はそのなかで「神の御子が私たちの世界に降誕されたという神秘は、やさしく理解できるものではないが、少しでもそこに教えられた深い意味を考えてみよう。精神的なことをまじめに考える習慣は失わないように」と語った。終りに九州学院ブラスバンドのハレルヤ演奏があり、会館前でのクリスマス・キャロリングで八時半すぎ散会した。

神学講座の終了式
十七人が証書をうける

昭和四十六年四月にはじまった福岡教区の神学講座（二年基礎課程）が十二月で終わり、十九日大名町教会の旧聖堂で終了証書授与式がおこなわれ、平田司教がお祝いのことばをのべた。終了者氏名はつぎのとおり。（敬称略）

藤崎多恵子、佐藤伊佐子、野村光子、植木玲子（聖心ウルスラ会）宮坂珠江、弓野志津子（三位一体会）篠崎千恵子（サンモール会）中村泰、山田綱子、森園一子、藤原愛子（久留米幼きイエズス会）鍋内シズエ（援助会）山野シゲ（新田原聖母訪問会）藤原康子（師イエズス会）能登原保（大名町教会）山田民子、田町節子（東田島教会）

片岡弥吉教授が講演
唐津市民クリスマス

唐津市でも十二月十六日午後六時から文化会館大ホールで第四回「市民クリスマスの夕べ」が開かれた。市内の四教派の教会合同主催で、児童、父兄ら千四百人余りが楽しい雰囲気のなかで主キリストの降誕を祝った。まず長崎純心短大の片岡弥吉教授が講演し、神を除外しての人間文明の進歩はブルドーザーの作業に等しく、これこそ現代の悲劇であると訴えた。このほか聖書朗読、クリスマス・メッセージ、祈りがささげられたあと、福岡西南大聖歌隊、地元のママコーラス、マンドリンクラブの合奏、幼稚園児らのうたや聖歌がつぎつぎとおこなわれた。また唐津カトリック幼稚園児一同は虹の松原保養院と松風園をおとずれて病人や老人たちをうたや聖劇で慰問した。

コネリー神父司祭叙階銀祝

熊本市手取教会助任コネリー神父と、千葉県佐原教会主任グローガン神父の司祭叙階二十五周年のお祝いは、十二月十八日午後手取教会であり、二人をかこんで平田深堀両司教、コロンバン外国宣教会の司祭らが共同ミサをささげた。

信徒点描
信者は信者の手で救おう
カトリック熊本共助組合理事長　野田義之さん

『質屋やサラリーマン金融は、あれは高利貸ですよ。カトリックの信者のなかに、そんな連中に金を借りて困っている人はいないでしょうか』

カトリック熊本共助組合は、そんな人たちの役に立てたいと、昨年十一月創立された。世界共助組合連合会、日本では日本共助組合連合会（事務局長ラ・フオント神父）に属する、国内二十八番めの単組である。この組合は、入会金百円、出資金一口五百円。集った資金総額の十パーセントを、二十カ月払いで組合員に貸与するという仕組だ。

発起人は理事長の野田義之さん、五十七歳。『銀行に預けるとその金は大資本に回って公害のもとになります。私たちはこの組合を全国に作って、民衆の金が大資本に利用されないようにしなければなりません』またこうもいう。

『金に困っている信者は、私たち信者の手で救わねばなりません。現実の問題も解決できないで何がカトリック、何が救いでしょうか』

この野田さんは、戦争中は満鉄で保線の仕事をしていた。戦後引きあげてきて鉄道公安官十年。停年のときは三里木駅の助役を勤めていた。公安官時代、鹿児島から逃げてきた少年殺人犯を捕らえて、公安室に連れて行く途中、いきなりドスで斬りつけられたことがあるという。そう聞けば目の光り、目の配りに、やはり常人と違った鋭い感じがあるようだ。

信者になったのは終戦後。昭和二十五年のクリスマスに洗礼を受けた。

『戦後の虚脱感のために生活が乱れていました。これではいかん何とか立ち直りたいと思い手取教会の表まで来ましたが、どうしても入ることができません。三日ぐらい門の前をうろついたでしょうか、最後にはとうとう裏門から入って行きましたよ』このとき野田さんを導き、洗礼を授けてくれたのは、いま福岡にいる平田惣五郎神父だったという。

『国鉄で信者の集りを始めたとき、共助組合を作ろうとしたことがあります。居住地域のかんけいで実現しませんでしたが、こんど熊本の共助組合を思い立った裏には、そのときのことがあったのかも知れません。いま私が一番やりたいのは、推進委員会を作って、全教区に共助組合を広げることです』

野田さんの職業は電気治療と治療器具の販売。手取教会の幹部、そして活動家らしい迫力を持った人だった。

福岡カテキスタ会発足
希望者の参加を歓迎

信徒使徒職司教委員会の肝入りで誕生した、日本カテキスタ連盟（NCK、鶴巻彰会長）の方針に従って、四十七年二月、福岡カテキスタ会（FCK）が発足して、平田司教の承認のもとに新しい活動をはじめている。

現在会員は十五人、会長は角田晶次郎氏、担当司祭はガイヤール神父。

この会は信徒使徒職活動の一端として、福音宣教に従事しようとカトリック要理を実際に何らかの形で教えている人であれば、専門のカテキスタでなくても会員になれる。

会は会員の活動を活発にするために、養成（要理の教え方の指導などをとおして）と、霊的および財政的援助を与える。年に四回集会と研修をおこなうが、去る十一月九日にも「カテキスタの役割と責任」について、大名町教会で研修会をひらいている。また福岡教区を北九州、福岡、熊本の三ブロックに分けて、会員の便宜をはかりながら、各ブロックで月一回程度の研修もする。

FCKについて詳細を知りたい人は、角田会長（福岡市光ケ丘教会内）かガイヤール神父（福岡司教館）にたづねるとよい。

恵まれない人のために募金

クリスマス・歳末助け合い運動は、十二月はじめから各地で一せいに始まったが、福岡地区では目標額百七十万円めざして信徒・学生らが買物客でゴッタがえす繁華街で熱心に協力をよびかけた。拠金は全部めぐまれない家庭に物資に代えて贈られた。

北九州市でも週末と日曜日に募金運動を進めたが、十二月二十日までに集まった六十一万三千二百五十円のうち三十万円はカリタス・ジャパンに、残りは朝日、毎日読売の各新聞社に寄託した。

熊本市ではインド救ライのための募金を信徒全員でおこなった。

働く青年の集い
JOC福岡地連

北九州地区JOC（カトリック青年労働者連盟）会員らは、十二月十七日午後一時から朝日新聞西部本社事業団の後援で、同本社四階ホールに百人の青年労働者を集めてチャリティーショーをひらいた。各会員が同じ職場で接している友だちとクリスマスの喜びを共にしながら、自分たちの生活を見直すためで、キャンドルサービスのなかで、低賃金、友人不在、合理化の問題をとり上げた生活文を発表しながら、全員で暗から光へ進む決意を表明した。

なお大名町、茶山、久留米の信徒青年たちも合同で、また古賀でも友だちを招いて同じ趣旨のパーティーを催した。

謹賀新年
福岡教区聖職者一同

平田三郎司教
深堀仙右衛門司教

福岡邦人司祭地区
司教館　平田惣五郎
川口　康頼
山頭原太郎
ガイヤール
平田　正喜
平田　寛
島山　助雄
伊東　誠二
平田　勇
鵜野　泰年
オッカナー
ドワイヤー
ルカ
シギスベルト
藤田　忠美
グリン
堤　要吉
シュルツ
ピロー
ベリボー
ハー
ウーリック
乾　盛夫
デルター
浦口　均
岩永　義人
糸永　一
糸永　武男
牧山　重光
三村　邦明
浦　俊雄
牧山　勝美
堤　敏雄
黒川　博
大牟田　吉野　久留米　本郷　光ケ丘　箱崎　古賀　二日市　小郡　今村　大楠　吉塚　美野島　高宮　東田島　茶山　西新　浄水通　大名町教会

北九州パリ会地区
呼子　馬渡島　大神学院
平田　敬
田川　清美
高木　善行
ラベル
ツルデル
イエル
野原　清
山内　潤海
高見　三明
畠山　七郎
深堀　敏
松本　忠信
カール
ウォード
日置孝三郎
共同訳聖書担当
黙想の家
聖パウロ小神
聖心高校
小神学校
門司港教会
門司
小倉
湯川
西畑
若松
天神町
八王寺
ベルトラン
ラバルタ
青木　保
西田　邦洋
グローシャン
バスチ
ベリオン
デシャンブー
ボネ
バイヨ
キニュー
ドルエ
ヴェイヨン
ボンカズ
トクブフ
パスカレル
ベルトラン
ドレル
ベニエ
牧山　薩房
青木　功
黒崎　田川　行橋　飯塚　直方　水巻　本城

佐賀ミラノ会地区
唐津教会
武雄
多久
伊万里
鹿島
佐賀
鳥栖
聖母の騎士修院付
トラピスチヌ修院付
新田原
天使の聖母修院付
援助修院付
山川　辰幸
ラグレブ
ボア

熊本コロンバン会地区
荒尾教会
玉名
手取
オメラ
オブライエン
ドノフー
ノーリス
コーネリー
山田　成章
ドイル
ガラハ
リンチ
マッグワイヤ
デバイン
マッコネル
ディキン
コア
グリフィン
パチフィコ
ブルク
ベラス
ユンカム
健軍
帯山
島崎
菊池
八代
人吉
水俣
本渡
崎津
大江
琵琶崎修院付
少年の町付
熊本マリスト高校

あけまして
おめでとう
ございます
福岡教区修道女連盟

フィーリングがあなたをゆさぶる雑誌
カトリックグラフ
'73年1月号　200円
各界11人が推薦する思い出のとき
初日の出
思い出の場所
全国名所
あの角田弁護士が北京で見た聖堂や信徒との会話
これが中国教会の真実
人間百歳未青年論
連載　奇蹟　曽野綾子
おたあジュリア故郷へ帰る
■インテリ・ゲリラの目
愛国心はどこから生まれるか
■この道一直線
講談界93歳の至芸
服部伸

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の　河野電気
ミカエル　河野三千夫
福岡市田1162—29
TEL 87—3099

教養

牛の迷信

小崎登明

冬がきびしい北朝鮮の川の氷はコンクリートのように固い。氷すべりに行った当時中学一年だった私はドカンと尻もちをつき、その衝撃から重症の骨盤カリエスになってしまった。

私の家は牛肉屋であった。長崎県・信者部落出身の父と二人の伯父たちは、村の若者十数人をさそい出し、北朝鮮の海を舞台に網を入れたが、事業に失敗し、三人は出稼ぎ先で牛肉屋になった。

九州地方では牛肉屋を"エタ"と称して、非人の商売だと嫌っている。つまり父たちはドン底に落ちて仕方なくこの看板をかかげたのであろう。

ところで牛肉屋の息子が大病を患らったことで、近所の人たちは「牛のタタリがきた」とうわさしあった。

牛をコロシたり、切り刻んだりすると、その子どもにタタリがくる。つまり牛肉屋の子にはカタワモノが多い、というのだ。

もっとも私の一家は信者だからそのような迷信は相手にしなかった。さして気にとめることもなくいま考えれば療養のおかげで、みじめな異国での敗戦をみることなく長崎へ帰った。

つづいてドカンと今度は頭上にまた一発。原子爆弾をうけた。危機一発のところを救われ、それがもとでフランシスコ修道会へ入会した。

北朝鮮での尻モチは私の生涯の方向を決定した瞬間であり、決して不幸ではなく、道を求めるスタートとなった。

その後、いくつかの重症の結核にさいなまれたが、ちょうどその時期にパスやヒドラジッドなどの特効薬が普及して、死ぬべき人間は立ちなおった。

こんなことが度重なるので、私は以来「人生とは神の摂理だ」と素直に思えるようになった。

聖母の騎士誌の編集者を経て、三年前から東京に出てカトリック・グラフの取材記者をしているが先日、丑どしの記事取材で隅田公園近くにある牛島神社をおとずれたとき、タタリの牛に面会することができた。

この神社には牛の石像が二つある。一つは百五十年のいわれをもつ撫牛で、庭の中央にあり、自分の病気の部分を撫でて、牛の同じ部分を撫でると快癒するという。

「丑どしには繁昌」と宮司さんはほこらしげだった。

もう一匹は鳥居の近くにねそべっている牛で、これがタタリを消す供養牛だ。

全国の牛肉屋さんが牛の霊を慰めるために昨年献上したもので、「包丁、十数本もいっしょに埋めている」そうだ。

撫牛はヨダレかけ姿で愛嬌があるのに、この牛は胸を張って威厳を保っている。全国に一匹しかないタタリの牛を眺めて、私は少年時代をなつかしく思った。

私の家は敗戦で牛肉屋をやめたが、「やっと会えたね、でも、牛肉屋の息子は幸福だったよ」と私はそのとき思いきって石牛のケツをポンと叩いてやった。

（聖母の騎士修道士）

聖書のなかの家庭 ②

神の御子が家庭を聖化

福音による新しい輝き

家庭の神聖さ

ながい旧約の準備の歴史のおわりに、神の御子が「エワのすえ」「アブラハムの子孫」「ダビドの後継者」として、この世にお降りになった。神の英知と祝福に満ちあふれたこのイエズスは、人々に完全無欠の「法」をお与えになる。人間生活の中心である家庭も、イエズスの福音の教えと愛憐によって、新しい輝き（聖性）を帯びてくる。

まずイエズスは公生活のはじめての奇跡で、夫婦の結びつきを聖なるものになさった。カナの婚礼に出席なさることで、先に二人の生活に神の祝福がもたらされた（ヨハネ2・1—11）。

またイエズスは、自分のこの地上での生活を、婚礼にたとえられたときにも、結婚が聖なるものであることを、いっそう明らかに示された。

「『なぜあなたの弟子は断食しないのですか』とたずねる人にむかって、イエズスは『花むこといっしょにいる間は、その友人は断食できようか』と答えられた」（マルコ2・16—17）。

また天の御父は王子のために盛大な婚礼を準備する主であり、この席にはすべての人が招かれる。

父親

結婚を聖とされたイエズスは、っ父親の役割をも聖とされた。それはイエズスが神を父とよび、子どもとしての信頼をもって祈り求めるように教えられたことで明らかである（ルカ11・2—4）。

世の父たるものは、天の御父のように、ねだる子どもにはよいものを与え、聖霊さえも与えることができる（ルカ11・13）。

母親

イエズスはさらに母親を聖とされる。ご自分が「一人の女から生れる」ことによって（ガラチア4・4）。

「故郷の人々は言う『あの人は大工で、マリアの子ではないか』」（マルコ6・2）。

マリアがイエズスの母であることの深い神秘の意味はナザレの人々にはもちろん理解できない。マリアにとって、一番大切なのは肉体的に母であるよりも神に服従するということである。

「そのとき人々の中からある女が「しあわせなこと、あなたを宿した母、あなたが吸った乳房は」と叫んだ。イエズスは「むしろしあわせなのは、神のみ言葉をきいてそれを守る人だ」とおおせられた。（ルカ11・27—28）。

マリアの聖性とめぐみはすべての世の母親のものでもある。洗礼者ヨハネの母エリザベットのマリアへの挨拶と賛美もまた、すべての母親にむけられたものである。

「あなたは女の中で祝福された方で、あなたの御子も祝福された方です。主からいわれたことの実現を信じた方はしあわせ」（ルカ1・42・45）。

子ども

子どもたちにイエズスはやさしい父として振舞う。

「幼ない子たちを私の方にこさせなさい、とめてはいけない。神の国をうけるのは、このようなものたちである」（マルコ10・14）

イエズスはこのあと子どもたちをだき、手をおいて祝福された。

こうしてイエズスは子どもの心に特別にすぐれて霊的な、何物にもかえられない価値のあることを教えられたのである。

「幼子のように神の国をうけいれない人は、そこに入れないだろう」（マルコ10・15）。

× × ×

本誌創刊200号に思う

—編集者として心がけたこと—

ズブの素人が

福岡教区報として昭和三十年二月に発足した本誌「カトリック」は、この正月号で創刊二百号をむかえました。年数でいうとちょうど満十八年です。

この十八年をふりかえりみて正直のところ「ヤレヤレ」という感慨です。続けたがやってみようと続けているうちに、ここまでやって来ただけのことです。定期刊行物をつづけるのは大変むづかしいとよく聞きますが、それは編集者が途中から交替するのがおもな原因ではないかと考えます。私の場合幸か不幸か司教館づとめが長く、小教区司牧に直接タッチしなかったのと、もう一つは体が健康であったことで、ここまでやってこれたのだと思います。

もう一つの隠れた原因をあげるならば、私自身が刊行物の編集・発行にズブの素人であったからだとも考えます。なまじっか私に経験らしいものがあったら、欲を出しすぎて、きっと見栄と焦りのために自滅したことでしょう。「無策の策」ということばがありますが、どうなるかわからないままにやっているうち、持ちこたえたまでです。

民の一致のため

ここで教区報は何のために出すかということを少し考えてみます。教区報を出すのは、一口でいうと教区という大きな家族の一致のためです。私たち教区民は信仰を一つにしていますが、まず地域的にかけ離れて住んでいますし、年齢や社会的地位、伝統や希望などさまざまです。信仰が一つであればどんな人でも一つにまとまることができると考えるのは、単純すぎます。与えられた信仰は一つであっても、受ける側の現実の相違は深くかつ広いものです。

そこで誰にも無理強いをしないで、全員が大きな教区活動に参加してゆけるには、誰かが音頭をとり、方向の大筋を知らせるのが大切です。

この方向づけは教区の父である司教によって示されます。そして司教のお考えが伝達され、広く浸透してゆくための手段はいろいろありますが、教区報の発行はそのなかの重要な一つの手段です。

私自身カトリックの編集にあたりながら、教区司牧に関しての司教のお考えが何であるかを、陰に陽に教区民に正しく伝えるよう努める重大な責任があると痛感しています。

こういいますと「教区報は結局は官報と同じだ」と言われましょうが、実際にはそれほど格式ばったものでなくて「官報的な色合いをいくらか具えた教区の機関誌」とでも言ったほうが妥当のようです。

教区の方針を伝達

教区報はもちろん月々のニュースを収録します。教区内の出来事を記事にするのは、記録をめざすということもありますが、それよりも先きにまず、教区の動きとその意味を読者に考えさせるという目的があります。

ある所で何かの行事が計画され実施された場合、その記事を読んだ読者は、なぜそこでこのことが行われたのかを考えなければならないのです。教区内で何かが行われたのは、根本的には司教の直接間接の同意があったからです。それを行うことによって信者の信仰がいっそう積極的になり、外に開かれたものになり、教区の進路に益するものであると司教が判断したからなのです。

一例をあげます。最近結婚講座のことが記事になりました。この講座を準備して開講にこぎつけるまでには多くの人たちの力が結集されました。そして実際に講座をひらくことで、信者はもちろん外部の多くの青年男女に、正しい結婚観を教えています。こうして現代の混迷した社会を建て直すという使徒的使命が、この教区でも具体的な形をとったことになります。ですからこの小さなニュースに接した時に、読者は間接にでも教区全体の活動の一コマを把握できるのです。

進歩を促す

私たちが教区報を編集していてもう一つ考えめぐらしているのは口幅ったいことですが、ゆったりとした歩調で進む教区の歩みに、時として拍車をかけて、教区が外部社会の動きから取り残されないようにすることです。

教区は大きな組織ですから、そこから活動力を吸み出せるのですが、組織であるからこそまた、少しでも自己批判の努力を怠ったり広く外に目をむけて新風を吹きこむのを忘れると、現状に安住して刷新をきらうようになるおそれが出てきます。

もし教区報に民の一致を作り出す役割があるとすれば、同時に民が小さくまとまろうとする閉鎖的傾きに対抗して、新しく生まれ変ってゆく動きを促す役割もあるのだと思います。

教区報がこれからも自分の役割と使命を十分に果たしてゆけるためには、編集者の努力が第一です。この十八年間にご協力をいただいた方は数え切れないほどです。誌上をかりて厚くお礼申し上げます。

電話番号の訂正と変更

昭和48年度の「典礼暦」教会所在地とおなじく、電話番号にも訂正・変更があります。

197ページ、聖母訪問会　大濠
72—4250の代りに
74—4250と訂正

193ページ　本郷教会
094276—11の代りに
09427—7—0011（直通）と変更

今村教会
094276—204の代りに
09427—7—0204

内科・胃腸科・循環器科

吉川病院

院長ルカ　吉川東陽

福岡市中央区平尾四ツ角（山荘通）

電話代表 ㊷0568

新しい年のおよろこびを申しあげます

主イエズスが一人でも多くの人に知られ、希望の年となりますように。

ことしもよろしくお願いいたします

聖パウロ書院

大名町教会となり

電・74—4588

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額　五〇〇万円
一、募金方法　一口五〇〇円
一、送り先　本誌編集部（振替福岡四二九八一）

寄付者報告（敬称略）
野山勝 2,000円、宮尾環 1,000円（小倉教会）11,000円（吉野教会信徒一同）、4,000円（大牟田明光学園中・高宗教部）累計 149,000円

カテキスタ研究会
広く信徒の参加歓迎

要理を教えている人（カテキスタ）の研究会が、二月十八日午後二時から六時まで大名町教会である。福岡カテキスタ会主催によるもので、テーマは「子供のアクションと信仰教育との関係」、ボネ神父の話しがある。誰でも参加できるが、実際に要理教育に携っている信徒の参加を歓迎。申込み、費は不要。

平和の実現に力を尽そう
大名町教会で平田司教説教

パウロ六世教皇は一九七三年元日の第六回「世界平和祈願の日」にあたり、世界中の各分野の指導者、一般市民、諸悪の犠牲になっている人々にむけ、平和のメッセージを送り、そのなかで「もし心から平和を望むなら、平和は実現できる。そして平和は実現できるものだとしたら、平和の実現は義務である」と訴えた。

福岡教区では平田司教の通達にもとづき、元日または一月第一日曜のミサで全信徒が心から平和を祈願した。大名町教会では一月七日朝九時からのミサで平田司教がつぎのように説教した。

人間の歴史を見ると、これまでに約八千回以上の戦争がおき、約八千回の平和条約が締結された。今世紀に入っても二つの世界大戦の他にベトナム戦争、中東戦争があり、人種的争いもある。その原因は南北の緊張、資源のための競争、人種差別、ゲリラ革命、新植民地主義、経済的帝国主義などである。

歴史は戦争にみちており、こんごとも人間世界から戦争をなくすことはできないとの悲観的な見方も生まれてくる。しかし平和のための努力が空しかったわけではない。一九四五年の第二次大戦後、五十回以上も紛争が起ったが、同じ時期に二百回以上も紛争が未然に防止されたことも事実である。戦争は歴史に記されて人目を引くが、平和は必ずしもそうではない。

パウロ教皇は「平和は実現できるといつも確信していなければならない」と教えておられる。私たちは平和が実現不可能であるとの考えにとりつかれてはいけない。戦争は不可避ではない。神を信じるならば平和の実現をも信じるはずである。もちろん私たちは平和の建設に力を尽くすべきだ。もし戦争にはられるだけの手段が平和のために向けられるならば、平和は実現できるはずである。私たちは平和の維持にもっと金を使ってもよいのではないか。もし平和を心から望むならば……。

那覇初代司教に
石神忠真郎神父
旧制泰星中学の出身

教皇パウロ六世は一月一日、琉球代牧区と那覇司教区に昇格、初代教区長に名護教会の石神忠真郎神父を任命した。琉球代牧区は昨年一月二十三日フェリックス・レイ司教の急逝以後空位になっていた。石神被選司教の略歴は次のとおり。

石神被選司教

一九二〇年（大正九年）鹿児島県奄美大島生まれ、三八年福岡小神学校（旧制泰星中学）を卒業、サンスルピス大神学校で哲学を修めた。戦後四八年にカプチン会に入り四九年米国インディアナ州の同会修練院で初誓願、五二年九月ニューヨーク市でユーピン大司教（現台北大司教・枢機卿）の手で司祭叙階、五三年帰国、那覇開南教会に赴任、昨年から名護主任をつとめた。

石神新司教の福岡小神（泰星）在学中の校長はフレデリック・ボア神父（黒崎援助修道院付）、ボンカズ神父（八王寺教会）とソルデル神父（サンスルピス大神教授）もラテン語を教えた。

司祭人事

男子聖パウロ四谷修院付・塚本孝夫師（同会福岡修院付）同会福岡修院付・石田拓磨師（同会四谷修院付）
休暇帰国、ルカ・ベルトラン師（高宮教会主任）

司祭評議員と顧問
新メンバーを発表

本年初の教区司祭集会は一月九日平和のための共同ミサで始まり、平田司教は教区司祭評議会員の新しい顔ぶれと教区顧問を発表した。

①司祭評議会員は次の十四人。

伊東誠二師（教区総代理、浄水通）高木善行師（小倉）浦口均師（二日市）堤要吉師（大楠）浦俊雄師（久留米）シュルツ師（吉塚）ハー師（光ケ丘）バスチ師（戸畑）デシャンブー師（若松）ガザルディ師（佐賀）サルデイ師（伊万里）ドノフー師（熊本地区長）グリーン師（美野島）

②教区顧問は次の七人。

伊東誠二師、平田惣五郎師（カンチェラリウス）青木保師、平田正喜師（大名町）深堀敏師（泰星高校）畠山七郎師（小神校長）川口康穎師（教区会計）

『祈れ、そして働け』
熊本地区信徒協の活動目標

熊本地区信徒使徒職協議会の理事会が、一月二十一日熊本市手取カトリック教会の信徒会館でひらかれた。十二時から平田司教がミサをおこない、大江教会をのぞく全理事とレジオ、カナの会、連合青年会の代表者ら約四十人とドノフー、山田成章神父ら九人の司祭が昼食をはさんで四時まで、本年の活動方針などについて話し合った。

まず各教会が方針についての具体的な意見や希望をのべたが、祈りによる家庭の聖化を押す空気が大勢を占めた。これにたいし一部から、家庭に閉じこもるのでは使徒職とは言えない、社会にむかう活動をすべきではないかの意見があり、結局「祈り、そして働け」をことしのモットーとし、家庭の聖化につとめながら同時に社会への働きかけに努力することになった。

なお信徒協としては恒例の少年侍者の練成会を強く後援するほか教会合同運動会をひらいて信徒間の親睦をはかることを決定した。

りぐめ会教
泰
水巻（絶えざる御助けの聖母）教会
福岡県遠賀郡水巻町頃末

遠賀郡、国鉄水巻駅からタクシーで約十分。道の左側に、広い空地を抱いて、この字をタテにしたような形で建て物が並んでいる。これが〝絶えざる御助けの聖母〟教会で、正面の十字架を掲げた建て物が聖堂。右は幼稚園、司祭館は左側である。

ベルトラン神父

この教会は、昭和三十年七月、日本炭鉱で働いていた長崎の信者によって建てられたもの。初代の司祭はパスカレル神父だが、建設については、ルリエ神父の努力に負うところが多かったという。いまのベルトラン・アンドレ神父は二代め。戸畑教会の助任から、この主任司祭になったのは四十五年の八月。南フランス、セベラックの出身で、四十歳。若々しい、清潔な感じの神父さまだ。

水巻は遠賀川の下流石岸を、南北に細長くのびた町。東の丘陵を境に、八幡、若松に隣接し、明治の末期から、炭鉱の町として急速に発展してきたところだが、炭鉱の没落に遭って、いまはみるかげもなく寂びれている。

一昨年、日炭が閉山して、人口が大幅に減ったが、教会でもそのあおりを食って、八十世帯の信者のうち、半数の四十世帯が転出していった。教会にとってはかなりのショックだったようだが、この人たちに代って、昨年、長崎から新しい人たちがやってきた。

『よくしたもので、昨年春、三菱の鋳鋼鋼社宅に、長崎から四十三世帯が転入してきましたので、教会はまたにぎやかになりましたよ』と、ベルトラン神父は嬉しそうだ。

この人たちは中間、芦屋、海老津などに分散居住し、そこから教会に通ってくる。この転入組では大串初男さん、大川一俊さん、片岡悟さんらが支柱となって働いているが、また岡部睦子さんのように、射撃場の撤去運動に単身で飛び込み、きびしい闘いを続けている人もいる。

現在は、町の状態からも布教活動は考えられない。だが近いうちに、長崎から工場が移転してくるというニュースがある。また日炭社宅のあとにも住宅建設が予定されているというから、こんごの教会の活動には期待が持てそうだ。

ベルトラン神父は、

『去年は、幼稚園からお母さんが受洗しました。嬉しかったです。いまは町もこんなふうだし、布教らしいことは何もできませんが、将来の布教には大きな可能性がありますね』と語っていた。

5月連休に男女合同クルシリヨを開く

福岡教区クルシリヨ事務局ではことし五月の連休に、男女合同のクルシリヨ（信徒使徒職練成会）の開催を決定した。

日時　5月3日（木）から6日（日）まで
場所　福岡默想の家
資格　二十歳以上の男女信徒、修道者、司祭
会費　五千円
申込み　福岡市中央区浄水通三十九、福岡司教館内クルシリヨ事務局
深堀　敏

男女合同のクルシリヨは本教区ではじめての試みです。申込み用紙は各教会に送ります。

2月のこよみ

2日（金）主の奉献の祝日
イエズスが律法に従い、生後四十日目に、神殿で神にささげられたことを記念する。この奉献は十字架でのいけにえのはじまりであった。

4日（日）年間第5主日
失意の人々に生きる希望を与えるために、キリストは福音をお告げになる。「イエズスは手をとって起こされた」。そして助けられた人がこんどは他の人を助ける。「かの女は一同をもてなした」。

5日（月）日本26聖殉教者
殉教は信仰をあかしする最高のものである。二十六人は、人間にとって生命よりも大切なものがあることを実証した。

6日（火）福岡地区司祭集会

11日（日）年間第6主日
私たちの日常の生活は「ひたいに汗して」はたらく苦労多いもの。苦労に打ちひしがれている私たちを、救い上げるためにイエズスはおいでになった。病人をいやす奇跡はこの救いの到来のしるしである。

石神那覇司教叙階式（平田司教列席）

18日（日）年間第7主日
自分の心をまともに眺める人は、余りにもみにくい姿を発見する。もし誰かが心の汚れを清めてくれるなら、と思わないだろうか。イエズスの前にかつぎこまれる中風者、そして「お前の罪はゆるされた」とのおことば。私もそれを聞こうと、イエズスに近づきたい。

大楠教会で堅信

教区カテキスタ会研究会

24日（土）熊本信愛女学院体育館落成式

25日（日）年間第8主日
キリストは「自分を花むこに、私たちを花嫁にたとえられた。花嫁にたいする花むこの愛情で、私たちにたいする自分の愛の深さとやさしさを教えておられる。この愛情を知ることで、私たちはキリストのいつくしみを体で感じとることができる。本渡教会で堅信

事務用機器　文具・紙
放送用機器
福岡市南区大楠二丁目13番21号
有限会社　シオタ事務機
(52) 5327・(53) 4905
スチール製品　デスク・ロッカー・黒板

大名町外国語アカデミー
福岡市中央区大名2丁目カトリック教会内　TEL：74—3687
課目と曜日　英語（月・水）ドイツ語（火・木）スペイン語（火・木）フランス語（火）
教師　英語　Ward Biddle, Richard Harr, David Ullrich, Rogers Pelow, William Schultz, Joseph O'Connor, Sister Maureen, Sister Agatha
ドイツ語　Lucas Bertram
スペイン語　Sisrer Mercedes
フランス語　Julien Gayard
1973年前期は1月10日開講　4月2日まで
夜間　P.M.6.00—7.15　P.M.7.30—8.45
昼間　A.M.10.00—11.15　P.M.1.30—2.45
授業料　5,500円（ほかにテキスト代実費）フランス語は、3,000円

福音の使徒聖フランシスコ・ザビエル

「公会議をふり返える」(6)

布教活動・私は何を伝えるのか

私が見た神を証ししよう

第二バチカン公会議は、これまでも本欄でくり返しのべてきたように、二つの主要目標をめざしていた。一つは教会とは何かという、教会の自己認識。もう一つは、教会はそとの世界にたいしてなにをしなければならないかということ。もし第一の課題が十分に理解できたら、第二のそれにも当然結論が出てくるはずで、この二つは結局一つの課題でしかない。その意味で公会議の十六の公文書のなかで教会憲章は最重要のものであり、このなかに現代の教会の全課題がふくまれているのである。

今回私たちは、公会議が教会の布教活動について、何を教えているかを見ることにしたい。ここでいう布教活動とは、全世界にむかってキリストの福音の精神を浸透させることでなく（これはむしろ一般的に使徒職活動とよばれる）、「教会がまだ根を深くおろしていない国民や社会の中に福音を宣布し、教会を植えつけることである」（宣教教令6番）。キリスト者の数がカトリック、プロテスタント合わせて百万人にも達しない日本こそは、まさに布教活動の典型的な舞台であり、従って布教は私たちにとって重要な関心事であるはずである。

布教活動とは

教会とは「神との親密な交わりと、全人類の一致のしるしであり道具である」（教会憲章1番）。だから教会はすべての人を神のもとに一つに集め、神の家族とする使命をもっている。宣教しない教会はすでに教会ではない。それはキリストがご昇天に先立って、使徒たちに「あなたたちは行って、すべての国の人々を弟子にせよ。父と子と聖霊とのみ名に入れる洗礼をかれらに授け、私があなたたちに命じたことを、すべて守るように教えよ」（マタイ28・19—20）と仰せられた命令によっても明らかである。

教会はこの命令を守って絶えず宣教者を送りつづけている。それは若い教会が成長をとげて、自分からも宣教活動ができるようになるまでつづく。この活動は特定の宣教者だけが果すのではなく、キリストの弟子となった者がみな果すべき使命である（教会憲章17番参照）。私たちがキリストのからだに合体された者として、「世間に対する自分の責任を痛感し、自分自身の中に真にカトリック的な精神をはぐくみ、福音の宣教に全力を傾倒する」義務のあることについては（宣教教令37番）、いまさらここで強調する必要はなかろう。それを自覚しない者、「その能力に応じて教会の発展に寄与しない肢体は、教会にとっても、また自分自身にとっても無益な肢体と言わねばならない」（使徒職教令2番）。

いまここで取り上げたいのは信者の宣教義務についてではなく、この義務をどのように果たしてゆけばよいかである。宣教とは教会に閉じこもることでもなければ、信心的法悦に〝恍惚〟となることでもない。それはそとに向って活動し、働きかけ、何かを造り出すことである。「宣教論」といったむづかしい議論は別にして、私たちが教会の信者としてキリストを与え、福音を人々の心に植えつけ、その人をキリストの弟子にするには、具体的にどういう方法があるのか、その手段の一つを一緒に考えてみたいのである。

見たことを告げる

ヨハネ福音書をひもといて見よう。この福音書のなかに「私は見た、そして見たことを告げ、それについて証しをする」という非常にはっきりしたテーマがあるのに気づく。

まず第一章。神のふところの中におられた永遠のみことばが、人となって、私たちの中に宿られた。このお方、イエズス・キリストは、ご自分が見た父の栄光を人々にお示しになった。「いまだかつて神を見た者はない。父のふところにいる神、ひとり子こそ神を あらわしたのである」。キリストがこの世に降られた第一の使命はご自分だけが見て知っておられる御父を、すべての人にも見せ知らせることであった。「いっしょに近くの町や村に行こう。私はそこでも福音をのべ伝えなければならない。私はこのために出てきたのである」（マルコ1・38）。「もしあなたたちが私を知るなら、私の父をも知るだろう。今からあなたたちは父を知ることになる。いやすでに父を見たのだ」（ヨハネ14・7）。

イエズスの公生活のはじめ、洗者ヨハネはガリラヤから来られたイエズスを人々に紹介する。かれはイエズスがどんな方であるかを前もって知らされ、しるしを見たので、それを人々に告げて証言する。洗者は言う。「私は雲が鳩のように天からかれの上にとどまるのを見た。……それで私はこの方こそ神の子であるとあかしを立てたのである」（ヨハネ1・32—34）。

洗者ヨハネはさらに自分のふたりの弟子をイエズスに近づける。「かれはイエズスが通りかかるのを見て、見よ、神の小羊をと言った」。ふたりはそれを聞いてイエズスのあとについて行く。「何の用ですか」ときかれたので「先生どこにお住まいですか」とたずねる。イエズスは「見においで」と答えられる。こうしてイエズスと出会い、話しを交わしたふたりは、早速この人のことをひとに話す。アンデレは翌日、兄弟のシモンをイエズスのところにつれてゆく。将来の使徒のかしらペトロがイエズスとはじめて顔を合わせたのはこの時である。フイリッポもイエズスを知ったあとすぐに、自分のよろこびを友人のナタナエルに伝え、かれをイエズスのところにつれていった（ヨハネ1・35—51参照）。

このように洗者ヨハネは、キリストについて知ったこと見たことを弟子に知らせ、それが次から次に波及してゆく。誰も、イエズスとの出会いのよろこびを一人占めにしないで、まず親しい人々に分け与えてゆく。キリストを取り囲む最初の集団はこうして生まれた。

別の例をあげよう。イエズスがサマリア地方を横切られたとき、品行のよくない婦人に近づき、ご自分が誰であるかをお話しになった。かの女は話しを聞き終ると、水がめをおいて村にもどり、おっぜいの人たちをつれてくる。この人たちもイエズスに心ひかれ、ご逗留を願って話しをきく。その時かれらは婦人にむかって、「私たちはあなたの手引きでイエズスを知らせてもらったが、今ではもう直接にかれの教えをきき、まことの世の救主であることがわかった」という（ヨハネ4・40—42）。

知識ではなく体験を

布教するとはどういうことなのか。私たちはその具体的な解答をヨハネ福音書のなかに見付けることができた。神を見せてもらったものが、見たことをほかの人にも見せてやるのが、布教の第一歩である。間違ってはいけない。布教は信仰の教えの体系とか、知識として知っていることを説明し、納得させることではない。

見せてもらったこと、見てすばらしいと感じたこと、心がおどったこと、心がよろこびに満たされたことを、自分の中にだけ隠しておかないで、ひとにも伝えることである。もう少しこのことを考えよう。

「キリストを信じる」とは、教会がまとめた教理書の内容をよく理解して認めることではない。キリストを信じているとは、私がキリストと共に生きているという、不動の確信とよろこびの体験をもつことである。この体験がただ感情的な主観的なもの、ひとりよがりのものにならないように、私たちはしっかりした教理を学ぶのである。

福音書によると、キリストが私たちに伝えようとなさったのは、御父がどれほど私たちを愛しておられるか、その愛の実際を私たちに伝えることであった。だからキリストのおことばは抽象的でも体系的でもない。

私たちも神との交わりについて語るときに、要理書で学んだ知識の切り売りをするのではない。相手に聞かせたいのは「私の知識」ではなくて「神から受けた私の感動と確信」である。

体験の交流

私たちカトリック信者は、他の宗教の人に比べると、上に述べたような自分の信仰体験の率直な伝達が苦手である。プロテスタントの人たちを含めて、日本の多くの新興宗教に所属する人も（仏教の古い信者はそれほどでもないが）信仰体験の交流を大切にしている。カトリック信者にこれが欠けている理由は何だろう。幼児洗礼の人にも成人洗礼者の場合にも、教会での要理の教え方に一つの問題があるのではなかろうか。

これまでの要理教授法は、よく理解させることに重点をおいたようである。上から一方的に教えてゆく、先生と生徒との関係のような勉強法に従った私たちは、知性偏重に陥って、心の感動を無視するのに慣らされてしまっている。子供が何を理解しているか、ミサ参加の状態はどうかを大切にする制度的な信仰教育のあり方が、そとに目を向けない、自分中心の霊性を作り上げたのではないかと思う。

私たちの多くは、信者間で教会のきまりや習慣について細かいことまで話し合うことはあっても、信仰の深いよろこびを分かち合った経験をほとんど持たない。福音の教えを「聞かされる」ばかりで「進んで話す」ことは少ない。もし私たちが小さなグループの間でも、そういう話し合いをするようになったら、布教活動への手がかりが出るのではなかろうか。これは練習と慣れが進むと大してむずかしいことではない。クルシリスタが毎週のグループ・ミーティングを勧められるのはこのためである。これこそ「いのちの分かち合い」である。

まず親しい友に

信仰体験の交流はもちろん信者間だけで終ってはならない。持たない人にも与えるように努めてこそ、布教の第一歩が始まるのである。誰でも親しい友だちの一人や二人いない人はあるまい。隣近所に住む人、職場の同僚、病院でベットを並べている人が、親しくなった私に相当に内密なことまで打明けて話してくれるのに、信仰のよろこびについては、絶対に口を開かないというのでは、余りにも不自然ではなかろうか。信仰について話すのを友人が嫌うとでも思っているのか。

私たちが信仰について話すときに、ある程度の慎重さ、厳粛さが必要なことはいうまでもない。テレビの番組を話題にするときとは違った話し方が要求されるし、いくら率直にといっても、子供っぽい表現はさけるべきだろう。

信者のなかにはこう考えている人もいる。「私が教会の信者であることは隠しておいて、りっぱな模範を示すだけにしたい」。それが慎しみある、信者らしい態度だろうと言うのである。たしかに自分の信仰を喧伝したり吹聴して廻るのは厳持ちならない。しかしだからといって、ひっそりと信仰を隠蔽（いんぺい）するのも、ズレた感覚のように思えるがどうであろうか。私が信仰を表わすのは自己宣伝のためでなく、キリストが世に知られるためである。迫害の時代ならともかく、今は自由に堂々と自分の信仰を示し、それにふさわしい行動をするよう、自重してゆくのが常道ではないか。

個人の能力に応じて

私たちの国で布教活動を展開してゆくのに、いままで述べてきたような、個人レベルの活動もあるが、またいっぽうではもっと高い次元のものもある。テレビ、ラジオをとおしてのマスコミによる布教、聖書その他の印刷物による文書伝道、教育事業による青少年、その父兄への働きかけ、福祉事業をとおしての愛の実践による布教もある。どれが一番効果的であるかとか、どれが先決であるかとか議論するのは、まったく無意味である。このような、広く高い分野で活動する信者もいるし、人目につきにくいつつましい働きもある。大切なのは、私は何の活動をしているかである。「私ひとりの働きなど、何の役に立つか」と言うほど卑怯なことはない。私がいま大きな活動に直接参加できないなら、身近かなところでキリストを与えてゆくのだ。ブルドーザーで荒く土地を切りひらくのもいいし、またくわを手にしてうねを作ってゆくのもいい。

まず今日から私のうちに生きておられるキリスト、私が祈りと秘跡をとおして見ているキリスト、私が教会によって教えられ、自分のうちにも、確かに体験されたキリストを、私の身近かにいる人に与えてゆきたい、それが私の願いである。（広報室）

栄養のバランス
牛肉・かしわ・豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
TEL 52・4015

一般住宅建築・増築
祭壇・教会用具室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市東区箱崎原田一の五
TEL ⑥⑤・4718

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ⑤⑦ 2673

フリーマン式視度測定法
べっ甲製品及び修理専門店
一年間保証付
メガネのべっこうや
福岡市中央区平尾二丁目19
平尾サニー側 四ツ角
TEL 52・0943

神士の気品と誇りを創る
お誂え洋服
紳士服の
ニューライン
電話 福岡 52・0820
ペトロ 糸永秀雄
福岡市中央区小笹四丁目4番
2636号

辞書は三省堂

祈りをとうして一致へ

福岡市の祈禱週間

一月十八日から二十五日まで、教会一致のめぐみを祈る祈禱週間中、福岡地区では毎朝三十分間各教派の教職者や信徒が集って、熱心な祈りをささげた。ことしの総主題は「主よ、祈ることを教えて下さい」の聖句で、これに主の祈りの各句が副題としてつけられた。

この祈禱期間中、二十一日の日曜日は午後三時から西公園下の福岡バプテスト教会で、また二十二日は朝食祈禱会と合流して上居町の茶房「エルム」で集ったほかは、呉服町交差点角の新生館三階で祈禱がつづけられた。奨励・司会者はつぎのとおり。

18日―深堀神父（聖星高校）、19日―ブレンズバッグ牧師（聖マタイ・ルーテル教会）、20日―今泉幹夫牧師（福岡南教会）、21日―シェパード牧師（西南大学、姪浜バプテスト教会）、22日―野田千尋牧師（福岡中部教会）、23日―平田寛神父（大名町カトリック教会）、24日―岩崎洋司牧師（長丘伝導所）、25日―鍋倉勲牧師（鳥飼バプテスト教会）。

なお二十一日午後三時からの集会でシェパード牧師は「私自身、幼年時代からカトリックにたいして深い偏見をいだいていたが、やがて教会一致こそは神の強いお望みであることがわかるようになった。聖霊が使徒たちの上に降臨して一つのことばが語されるようになったように、今日も聖霊のお働きによって、教会の一致は必ず実現するであろう。しかしそのためには私たちが真剣に心を合わせて神に祈るべきである」と語った。

（写真は福岡バプテスト教会の祈禱会）

C・アカデミーの集り

黙想の家で三月二十日

日本クリスチャンアカデミーでは、三月二十日、二十一日の二日間、福岡市西区片江の『黙想の家』で『こんごの家庭はどうなるか』をテーマに、講演とディスカッションの会を開くことになった。講師は関西大学教授・松村克己、九州大学名誉教授・関計夫、九州大学教授・池見酉次郎氏の予定。

日本クリスチャンアカデミーは現代社会の中で対立している人々の間に、人間の対話を生み出し、人間性を回復しようというもので、カトリックでも積極的に協力することになっており、一般信者の参加が要望されている。

助け合い募金運動の成果

昨年十二月におこなわれたクリスマス・年末助け合い運動の募金額と配分状況が、それぞれの地区の責任者から公表された。

福岡地区（福岡市中心）で八十六万二千三百四十六円、筑後地区（久留米市中心）で七十二万九千七百三十五円、計百五十九万二千八十一円を募金。

配分は要望のあった小教区に両地区あわせて三十八万三千三百六十円のほか次の諸施設に送られた。

りんどう学園、あけぼの学園に各十四万円。久留米天使園、今村聖母園、聖心慈愛園、聖ヨゼフ園に各十五万円。古処学園に十七万四千円。原病院に十五万四千七百二十一円。計百二十万八千七百二十一円。

以上配分総額は百五十九万二千八十一円。

熊本地区ではカトリック・プロテスタント合同の募金運動を展開募金額は九十六万五千二百四十九円に達した。このなかから諸雑費九万七千百七十九円を差引いた残額八十六万八千七十円はインド救ライセンターに献金された。

北九州地区では既報のとおり、六十一万三千二百五十円を募金したなかから、カリタス・ジャパン（日本カトリック社会福祉協議会）に三十万円、朝日新聞社厚生文化事業団と毎日新聞社社会事業団に各十万四千四百十七円、読売新聞社総務部に十万四千十六円を寄託した（雑費なし）。

信徒点描

細胞活動に努力

八幡天神町教会レジオ会長

古賀　喬さん

『このへんは昔のままのところで、地理的な条件もあって人が増えません。それに若い人たちは、仕事のためにつぎつぎに出て行くので、いまは減る一方です。レジオにも若い人が二人いましたが、去年出て行きました』

萩原神父に公教要理を学び、広島の教会で洗礼を受けたというこの人は、北九州市八幡区天神町、聖ミカエル教会のレジオ会長、古賀喬さん。大正十年生まれ、やせ形の大柄な人で、話している間にも、神経質そうな目が、骨ばった顔の中できらりと光り、ときには莞爾な顔が紅潮する。

聖ミカエル教会のレジオ会員は男二人、女二人の計四人。活動の重点は未信者訪問と、教会を訪ずれる人たちの指導にあるようだ。

古賀さんは、

『会員の一人一人が、細胞となって活動するように努力しています』というが、それはたとえば、井戸端会議の話の中で、或は同じ職業を持つ人々との話の間で、福音の精神を説き、その人たちを神へ導こうということだ。

はじめ古賀さんは、なかなかインタビューに応じようとはしなかった。ミサのあと、新年の会食がはじまろうとしている教会の中を、しつこくくっついて歩き回ったが、

『あたしは新聞に出ることは好かん。止めてください』の一点張り。何の理屈もないところに、この人らしい頑固さを観取することができるが、しかしそういう頑固さが、レジオの会長、教会の幹部としてのこの人を支え、また信仰の強い芯ともなっているのであろう。

『神父の指導に自主性がないから、信者は福音の読み方も知らない。いまの段階では神父の指導がなければ、信者だけでは何もできませんよ』

『いまの信者には生活の見直しがないのです。だから他人のことなど考えようともしないし、教えについても関心がありません。洗礼のとき〝世の光となれ〟と言われても、それが何を意味するか考えない、むしろすぐに忘れてしまうのではないでしょうか。そんな状態の中から、どうして信徒使徒職が生まれますか』

話を信徒使徒職に向けると、こんな言葉がつぎつぎに飛び出してくる。激しさを内に秘めたような話しぶりに耳を傾けていると、この人の胸の中には、教会の将来に対する見とおしと、現状に対する不満が、大きくわだかまっているのではあるまいかという印象が強かった。

家には夫人のほかに高二と中一の男児がふたり。職業はクレオソードなどタール製品の販売。

『商売でいちばん苦労されることは』と聞くと、

『金ぐりにきまっていますよ。馬鹿なことを聞きなさんな』と釘をさされたが、そういう答が返ってくるところに、良い意味でも悪い意味でも、この人柄が単的にうかがわれるように思われた。

カトリック学校での宗教教育

教師たのための講演会

福岡地区カトリック教育協議会では、一月二十五日午後一時半から福岡聾学園に広島学院校長ウォルシュ神父（イエズス会）を招き「カトリック学校における宗教教育」について講演会をひらいた。授業としての宗教科、学校全体の行事その他をとおしての宗教教育のあり方などについて、具体的な指導が与えられた。参加者は教区内の九学園の教師百三十人。

高校生練成会

青春の分かち合い

北九州高校生会の会員三十人は師走も押し迫った十二月二十七日から三日間、八幡区天神町教会で「青春の分かち合い」をテーマに練成会をひらいた。学校、家庭でどのように生きているか、各自の体験と意見を述べ合うもので、西田邦洋神父が指導。同会では三月の春休みに古賀教会で黙想会をおこなう。

今月おすすめする本

『詩編』
典礼委員会
現代語訳

教会の公式祈禱書の大半を占める旧約の詩編が、風格ある現代語訳で単行本として出版されたことをよろこぶ。

装丁も落付いていて美しい。詩編番号の見出しも楽である。

アブラハムによって、ヘブライ人に近づく神は、歴史の小さな事件の中に救済の慈悲をもってのぞまれる。詩編の中でその神は、喜怒哀楽の神、ねたみの神でさえありながら超絶の姿を失うことなく、ひとびとの心に一つの応答を用意してくれる。これが祈りのこころとでもいうものではないだろうか。

ヘブライの歴史をふまえ、しかもこの民族詩の詩情にあわせて祈るには、適当な勉強と心の集中が必要なために、詩編はうとまれ気味であるが、じかに神に向う人が身につけねばならない祈りのこころが、この中で養われる霊感の書である。

本書の各詩篇の下段の詩の大意と、ヘブライ表現の特性をおぎなっての短い注解は、気にならぬ程平易で明解であるのが有難い。

職務上詩篇に親しむ人達のみならず、私たち素人の手に持っても不思議でない書物である。

公的、私的な祈りに聖歌集といっしょに携帯して思う存分利用させてもらう心算である。（あかし書房、七百円）（伊東）

神学校援助報告

昨年12月の司祭養成献金と昭和46年9月以降47年12月末日までの後援会費を報告いたします。みなさまのご協力に感謝申しあげます。

教区会計　川口神父

教会名	司祭養成献金	後援会費
大名町	12,200	182,410
浄水通	5,320	30,500
光ケ丘	8,625	—
西新	5,200	74,890
美野島	1,935	45,800
高宮	15,600	77,640
吉塚	10,000	—
茶山	3,000	—
箱崎	6,210	45,261
大楠	2,705	68,330
東田	4,520	—
古賀	—	—
二日市	5,300	124,550
久留米	14,000	283,500
大牟田	2,270	—
吉野	1,150	37,200
今村	24,000	515,123
本郷	8,500	23,040
小郡	2,530	54,650
呼子	2,600	20,000
馬渡島	3,500	11,370
佐賀	3,000	110,275
唐津	2,500	18,600
伊万里	2,000	29,200
鳥栖	2,010	20,200
武雄	1,000	33,150
鹿島	1,000	—
多久	—	16,000
門司	1,950	62,700
門司港	8,203	20,000
小倉	29,200	360,000
湯川	11,983	34,400
戸畑	26,911	174,250
若松	6,000	80,000
天神	5,000	70,000
八王寺	8,000	41,600
黒崎	10,000	104,000
木城	1,400	15,000
水巻	5,000	43,200
直方	2,000	18,000
飯塚	2,000	—
田川	1,500	29,000
行橋	8,866	38,000
新田原	13,430	245,957
荒尾	1,230	—
玉名	800	24,745
手取	15,000	133,000
健軍	9,692	—
帯山	4,600	40,850
島崎	25,000	120,000
菊池	5,500	20,000
八代	5,000	44,650
人吉	9,000	104,800
水俣	2,065	32,550
木津	4,500	35,600
崎江	8,300	83,500
大名	2,200	54,000
匿名		20,000
合計	384,915 (45年度	3,961,491 2,518,298)

カトリックグラフ　2月号　200円

私たちの医療費はほんとうに高すぎるのか
開業医師や綜合病院事務長が打ち明ける医家のふところ具合

あの生還は許されるか
アンデス山中遭難事件を教会はこう見ている
＜総括・アポロ計画＞
暗黒の宇宙に神を見た
元NASA研究所員　成相恭二

新連載ノンフィクション
翼の影　ゲレオン・ゴルドアン
◇新企画
人力車夫のかじ棒人生訓
家庭向き手芸アラカルトはやわかり　人生質問箱
■カラー童話
『あかいぼうし』
■浜尾司教の対談
①曽野綾子さん

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の　河野電気
ミカエル　河野三千夫
福岡市田1162―29
TEL 87―3099

教養

◇◇◇◇◇◇◇ 身辺雑記

稲垣良典

学生であった時期まで加えますと、ちょうど四分の一世紀を大学ですごしたことになりますが、このごろつくづく考えることは大学の平和とはいったいなんだろうか、ということです。これはもちろんただ漠然と心にうかんでくる疑問ではなく、平和は大学への強い希望にともなってうかんでくる疑問です。一方においてわたくしは大学が平和なところであることを強く望んでいます。しかし、それと同時に、大学の平和とはどのようなものだろうか、という疑問がたえず頭をはなれないのです。

こんなことを言うと、何という間のびのした話だろう、大学がそんなに平和でなく、ぶっそうな所になっているのなら、すぐに手をうって安全な所にしたらよいではないか、平和な工場、平和なデパート、平和な街角があるのに、どうして大学を平和にすることがそんなに難しいのか、難しく考えすぎているのではないか……と言いかえしたくなる人が多いかもしれません。

わたくしはそれが見当ちがいの反対論だとは思いません。じっさいに、大学も社会の一部であるかぎり、大学の内と外とで社会の秩序というもののうけとり方が違ってよいはずはない、という考え方は、大学紛争をしずめるのにたしかに役立ったといえるでしょう。いいかえると、これは、健全な世間の常識は大学の内においても通用しなければならない、という考え方であり、それは間違ってはいないと思います。むしろ、このような健全な常識が大学のなかに入りこんで、いわば風通しをよくしてくれるのでなかったら、大学のなかでの平和の回復は不可能だったと思われます。

しかし、世間の常識だけでは、大学というものに固有の平和を、積極的に創りだしてゆくことはできないのではないでしょうか。やはり大学の平和は、デパートや電車のなかの平和とは違ったものです。乱暴したり、盗みをはたらいたりする者をとりおさえ、排除するだけでは、「大学の」平和を創りだすことはできないのでしょう。そこで問題はふたたび大学に固有の平和とはどのようなものか、それはどのようにして創りだされるのか、ということになります。

ここでわたくしの心にうかぶのは、平和は秩序の静穏さであるというアウグスティヌスの言葉であり、また平和を創りだすのは愛であるというトマス・アクィナスの言葉です。ほんとうの秩序があるところ、そこにはなにか満ちたりたやすらぎ、憩いがあり、それがわれわれの平和と呼んでいるものだ、とアウグスティヌスは語っています。では大学の秩序とはなんでしょうか。それはただ騒音とか暴力事件がない、ということだけではないでしょう。それらは火の粉のようなものであり、人間の社会であればそのような火の粉を完全に免れることはできないと思われます。大学はそんな火の粉ですぐにもえ上ってしまう枯れ草のようなものであってはならず、少々火の粉が舞っても燃えあがることのない、いわばしっとりと露をふくんだ夏草のようでなければならないのではないか、そして、そのような状態を平和というのではないでしょうか。

かつて大学の平和をささえていたのは師弟の間の尊敬と信頼との絆であり、それが大学の秩序であったといわれます。それはいまも、これからも変ることはないでしょう。しかし、こんにちの大学では、このような秩序をなにかわかりきったこととして前提することができず、その秩序を創りだしてゆく力を探求しなければならなくなっています。トマスのいう、平和を創りだす力としての愛そのものを探求しなければならなくなっていると思います。

ではさいごに、大学に固有の平和を創りだす愛とはどのようなものでしょうか。興味ぶかいのは、ふつう「研究」と訳される Studium, study という言葉が、もと「愛」を意味するものであるということです。研究はたんなる好奇心の満足ではなく、愛の行為だ、ということは深い意味をふくんでいると思われます。それは、研究という形の愛において、つきつめたところなにが愛の対象となっているのだろうか、という問いにわれわれを導いてゆきます。

たいへんまわりくどいようですが、大学の平和を創りだすためには、われわれのひとりひとりがこの愛をつきとめてゆかなければならないと思います。（いながき・りょうすけ＝九州大学教授）

回廊のある修道院（12世紀）

聖書のなかの家庭 ②

家庭・人間の意志を越えるもの

神の国のため結婚しない人も

新約の完全なおきて

あたらしおきての授与者であるイエスは、家庭をあらゆる面から聖なるものにしようと、旧約のおきてにまさる、もっと完全なおきてを教えておられる。

男女の交わりを正す性道徳は、外的な行為ばかりでなく、まず心の純潔を要求する。「かんつうしてはならないと命じられたのを、あなたがたは聞いている。しかし私は言う、だれでも情欲をいだいて女を見る者は、その女に対して心の中ですでにかんつうの罪を犯したことになる」（マタイ5・27―28）。

夫婦の結びつきは破ってはならないものである。「妻を離縁する者は、妻に離縁状を渡せと命じられている。しかし私は言う、無効な結婚の場合は別だが、それ以外の理由で妻を離縁する者はみなかんつうを犯す機会を妻に与えることになる」（同5・31―32）。

離縁はたしかに悪いことであるが、離縁のあとに再婚するのはかんつうなのである。だから教会は重大な理由があるときには、再婚をしないという条件で別居だけを認めるのである。ただ別居している者には周りの人は、むしろいたわりをかけるべきである。

神の合わせたもの

キリストの時代の律法学者のなかには、モーセは離縁状を書けば妻を離縁してもよいと言うが、離縁の理由はささいなことでもよいか、それとも重大なものでなければならないかと議論が分れていた。これは現代の法学者も同様であるが、これに対するイエスの答えは驚くほど単純明快で、いささかの妥協の余地もないという意味で、まったく特異のものである。

「神は天地創造のはじめから人間を男と女に造られた。それゆえ人は父母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一体となる…。それゆえ神が合わせたものを人間が離してはならない」（マルコ10・5―9）。

はたしかに言葉どおりに解すべきものではないが、軽々しく見逃してよいものでもなかろう。実際イエスにつき従うためには、あらゆるもの、自分の家族さえも捨てなければならないこともある。ペトロに向ってこう仰せられる。

「神の国のために家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てた者はだれでも、この世でその幾倍もの報いを受け、また来るべき世で永遠の生命を受ける」（ルカ18・29―30）。

生易しいことではない。しかしそれは神の国のため、永遠の生命のためである。「私が来たのは地上に平和をもたらすためであると思うな。平和でなく、剣を投げこむためである。私よりも父や母を愛する人は私にふさわしくない。自分のいのちを保とうとする人はそれを失い、私のためにいのちを失う人は、それを得るであろう」（マタイ10・34―39）。

家庭より偉大なもの

家庭の高貴な価値はどれほど強調しても十分すぎることはない。ところがイエスは、天の国のためにこの家庭をも放棄しなければならないことがあると、言明なさる。

「すべての人がこのことを受け入れるのではなく、ただその恵みを与えられた人たちだけが、これを受けいれる。生れつき結婚できない者があり…、天の国のために進んで結婚しない者もいる。これを受けいれうる者は受けよ」（マタイ19・10―12）。

進んで結婚しないこと、自分の目をえぐり取るように。この表現は、これからも変ることはないでしょう。しかし、こんにちの大学では、このような秩序をなにかわかりきったこととして前提することができず、その秩序を創りだしてゆく力を探求しなければならなくなっています。トマスのいう、平和を創りだす力としての愛そのものを探求しなければならなくなっていると思います。

ではさいごに、大学に固有の平和を創りだす愛とはどのようなものでしょうか。興味ぶかいのは、ふつう「研究」と訳される Studium, study という言葉が、もと「愛」を意味するものであるということです。研究はたんなる好奇心の満足ではなく、愛の行為だ、ということは深い意味をふくんでいると思われます。それは、研究という形の愛において、つきつめたところなにが愛の対象となっているのだろうか、という問いにわれわれを導いてゆきます。

たいへんまわりくどいようですが、大学の平和を創りだすためには、われわれのひとりひとりがこの愛をつきとめてゆかなければならないと思います。（いながき・りょうすけ＝九州大学教授）

連載随筆　炉辺詩語

選択するということ

森雅生

われも見つ人にも告げむ葛飾の真間の手児名が奥津城処（まままてこなおくつきところ）　『万葉集』巻三　山部赤人

下総葛飾（しもふさかつしか）の真間という所に、みめ美わしい処女（おとめ）がいた。幾人もの男に言い寄られたが、どうしても心を決めることができず、思い迷ったすえ入水して死んでしまった。この歌はその伝説の地をおとずれた山部赤人が、その処女の立場と心に深い同情を寄せて詠んだ歌である。歌の意味は『わたしも見た、人にも告げ知らせよう、この真間の手児名の墓のあるところを』ということで、手児名は処女のこと、奥津城処は墓地をさす。一首は感動を押さえて、むしろ淡々といい放ったところに良さがあり、赤人一流の感懐の表現を見ることができる。

ここにこの歌をあげたのは、歌そのものよりも、歌に詠みこまれた真間の手児名の入水の事情に、『選択』の問題がからんでいるからであった。選択の悩みが、すでに万葉のむかしあったということは興味深いことであるが、人間が欲望にうながされながら生活をつづけてゆく、その具体的な場で、余儀なく選択を迫られるということは、きわめて自然なことで、また人間が必ず持たねばならない運命でもあって、それは万葉のむかしといえど、避けられないことだったに違いない。

おなじ悩みは、いまの私たちの生活のなかにもある。私の知人に、二人の男性に求婚されたお嬢さんがいた。相手の一人は資産家の息子で大学生、一人は高校卒ではあるが、気っぷのいいやり手のサラリーマン。

『どっちがよいでしょうか』と相談されたこともあったが、選択に迷う裏には、高校卒の方に引かれているお嬢さんの気持と、学歴のないことから、将来に不安を感じて反対する両親の気持があって第三者の私には、何とも答えるすべがなかった。

決断することのできない点は、親子ともに変りはなかったが、夜も眠らないで思い悩んでいるお嬢さんの姿は、目も当てられぬということはそのまま、まことに痛々しいものであった。私はこの親子の、そういう選択に迷う姿を見ながら、ふとキルケゴールが『あれか、これか』のなかで『結婚したまえ、きみは後悔するだろう。結婚しないでいたまえ、やはりきみは後悔するだろう。きみは結婚するかしないかどちらかでしかありえない。どちらにしても、きみは後悔するだろう』といっていることを思いだした。

これは具体的な生活の場で、私たちが余儀なくされる選択が、そこで何を選ぼうと、結局は満たされないという、選択の運命的な挫折を言い現わしているのであるが、それはまた、ありのままの人間がその欲望のうえでは、いかに矛盾したものであるかということなのである。

選択するということはむずかしい。それには責任がともない、選択しないことにも、『選ばない』という責任をまぬがれることはできない。何をどう選ぶかということは、自分が、自分自身にどうかかわるかを具体的に示すことで、このきびしい選択の場に立っているのが人間なのである。

詩

傷み

俣野衛

夜が耐えきれぬ暗さで
胸壁の鰭に泌みていくとき
不安が激しく私を揺すぶって過ぎる
黒い翼をひろげた天使が
すみやかに空をよぎり　墓の下で
死者が音もなく寝がえりをうつ
闇の厚いかさなりの底へ
頭を垂れて沈んでいく私を
元后の憐れみがじっと見守っている
私の中で　時間が静かに滅んでいく
壁ぎわに獣の影がうずくまり
ひそかに脇腹の傷を舐めはじめる

新刊

☆いえすさまのおはなし
石森延男・矢野滋子（ぶんえ）
コタンの口笛で好評だった著者が、なんとかして、小さな子どもたちに限りない世界があることを、少しでもわからせたいとの願いをこめて書いた本です。
小学校一・二年向き。
愛するお子さまのためにご利用ください。
¥450

☆ロボットはいやだ
W・A・グロータース著　美田稔訳
¥350

ぜひ一度お読みください。
金文堂、積文館、ショッパーズ・りーぶる天神でもとりあつかっております。

聖パウロ書院
大名町教会隣り
でんわ七四・四五八八

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長　ルカ　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角（山荘通）
電話代表　52 0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額　五〇〇万円
一、募金方法　一口五〇〇円
一、送り先　本誌編集部（振替福岡四二九八一）

男女合同クルシリヨ 5月連休にひらく

ことし五月はじめの連休に、男女合同のクルシリヨ（信徒使徒職練成会）が行われる。福岡教区でこの練成をうけた男女はすでに三百人に近く、小教区内外の諸活動を推進している。

いつ　5月3日（木）よるから6日（日）まで

どこで　福岡黙想の家

だれが　二十歳以上の男女信徒修道者、司祭

会費　五千円（宿泊費など）

申込み　福岡市中央区浄水通三十九、福岡司教館内クルシリヨ事務局あて

申込用紙、案内書などは各小教区に送ります。

新校地に校舎建設
泰星高校の新方針

カトリック福岡司教区経営の泰星高等学校（福岡市中央区平尾五丁目）では、理事長平田三郎司教、法人理事会、特別委員会の一年余にわたる検討の結果、つぎのように新しい経営方針を決定した。

校長人事については昨年末発表されたとおり、現校長末吉敦義氏（マリア会修道者）に代り、今春四月山頭（やまがしら）原太郎神父が校長に就任する。

また泰星の現所有地を売却して市内小笹四丁目二三五番地にある教区所有地（二万五千平方米余）を購入して、新校舎を建設する。新校舎建設は五月ごろに着工、第一期工事を十二月までに完成させる予定。第一期分は普通教室（三）、特別教室（七）、準備室をふくむ鉄筋コンクリート四階建校舎（二千百七十六平方米）、体育館（三千七十一平方米）、用務員住宅などで、全床面積五千三百四十九平方米（千六百十八坪）。体育館は一階が生徒食堂、卓球場、柔道・剣道場、その他。二階はバスケットボールの公式試合が二つ出来る広さ。なお二五〇メートルトラックの運動場の整理も始める。

将来の二期工事では普通教室と管理室をふくむ四階建校舎（二千九百十七平方米）、聖堂・図書館（四百七十一平方米）、寄宿舎なども建設する。

泰星高校はもともと福岡小神学校として昭和七年に創立され、これまでに数十人の邦人司祭を育てた由緒ある学校。戦後の昭和二十一年四月から日本マリア修道会に経営が移ったが、四十四年に再び教区に返還されて今日に至っている。小笹四丁目の新校地は南公園・動物園の西、山ノ上ホテルの南隣りで、明るく広々とした理想的な学校々地である。

召命促進委員会設置
司祭評議会で決定

一月二十三日午前十時三十分から福岡司教館で、平田司教ほか十四人の新メンバーによって司祭評議会がひらかれ、つぎのことが討議または決定された。

❶年齢にかかわりなくすべての「司祭の生涯教育」を実施するために、研修会などの機会を多くつくる。

❷教区司牧協議会の組織化は望ましいが、信徒使徒職協議会の基礎固めがまだ不十分であるので、早急に具体化するのをさしひかえる。

❸昨年十一月の全司祭研修会で、もっとも強く要望された司祭召命促進の委員会は、大神学校長と小神学校長のほか、司教が指名する司祭および信徒数名によって設立される。

❹泰星高校の経営の新方針について説明。

【註＝司祭評議会とは、教区をつかさどる司教の諮問機関で、司祭の生活と役務に関することがらのほか、宣教または司牧など教区全体にかかわることについて、教区行政を助けるもの。評議員は司祭の互選によって選出される者のほかに、司教が任命する者、またたとえば大神学校長のように職務上加えられる者がいる。】

『ベトナムの教会復興のため』
四旬筋愛の実行目標

毎年四旬節の期間中に、全国のカトリック信徒が愛の実践運動として、老人や病人、児童福祉のために募金を行っている。福岡教区としては今年の援助目的を「長い間戦乱に苦しんできたベトナムの教会の復興のため」とし、広く信徒の協力を訴える。四旬節の精神を理解し、ぎせいの実行のみのりとして献金することが、望まれている。

司祭人事
（カッコ内前任地）

美野島主任グローガン師（千葉県佐原主任）。玉名主任グリーン師（美野島主任）。コロンバン会米国本部付ガラハ師（島崎主任）島崎主任コーフィールド師（和歌山市西浜教会主任）大阪浜知大学フィネルチ師（玉名主任）

石神那覇司教の祝聖

新らしく誕生した那覇教区の初代司教・石神忠良郎師（カプチン会士、奄美大島出身）の祝聖式は、二月十一日午後二時から宮野湾市の主たるキリストの国際学校講堂で盛大に行われた。駐日教皇大使はじめ里脇大司教、平田司教ほか十三人の司教が共同ミサをささげた。

終りに新司教は教区民に初の司教祝福を与えたが、一年余りの空位のあとに霊的父をむかえた信徒の感激はいつまでも会場にこだました。

×　×

教区青年の組織まとまる
積極的な意欲に期待

二月十七日（午後八時三〇分）十八日（午後四時）の二日間、健軍（熊本市）、新田原（行橋市）など十教会の青年たち二十五人が福岡市郊外〝黙想の家〟に集り、超小教区的な青年組織を結成しようと熱心な討議を行なった。

これは昨年九月の第一回信徒布教研修会参加者を中心とした集りで、❶使徒職の意識を高め実行すること❷連絡機関として教区青年の一致をはかること、を決議したほか、指導司祭に平田正青神父を、また事務局を大名町教会に置くことなどを決めたが、全体に積極的な意欲が自だち、こんごこの動きに期待が持てそうである。

りぐめ会教 泰
田川（無原罪の聖母）教会
福岡県田川市上本町

国鉄後藤寺駅で汽車を下りて、すぐそばのタバコ屋の小母さんに『カトリックの教会を知りませんか』と尋ねると、

『この先の、銀天街のアーケードを抜けて、右へ坂を下りたところです。そのあたりでまた聞いてください』と教えてくれた。

牧山藤房神父

そのだらかな坂を下りて右へはいると、道の右側、石垣の上に十字架を掲げた建て物が見え、それが『無原罪の聖母教会』だった。この教会の主任司祭は馬渡島出身の牧山藤房神父。五十五歳と聞いて来たが、そうとは思えない、童顔の若々しい神父様であった。

信者の数は、十年前からずっと一六三人を動かなかった。それが現在の一三五人に減ったのは炭鉱閉山の影響という。田川市は筑豊最大の炭鉱都市として知られた所。石炭産業合理化の深刻な影響を受けて、活気に溢れていた町が、いまは死んだような淋かな町に変ってしまった。牧山神父は

『炭鉱の盛んなころは荒々しい町でしたが、いまは昔のおもかげはありません。その頃からみると、布教もしやすくなったと思いますが、この教会には長崎や五島の、いわゆる旧信者が多く、万事に消極的で、まだ意識が布教というところまでは来ておりません』という。

そんな信者の意識に変化を与えようと思い立ったのが、集会所の建設。昨年の七月竣工したこの集会所は、聖堂と隣り合わせで、集会所を通らないと聖堂にはいれない仕組になっている。それは集会所で入祭文をとなえ、行列を作って聖堂にはいり、喜びに満ちて集会所に帰ってくる。そしてそこではじめてミサが終るという典礼の方式に基づき、また信者がこの場所で自由に、家庭的に話しあい、そこから新しい姿勢を探し出すようにという、牧山神父の希いもこめられているのである。

この教会が建ったのは昭和三十八年ごろ。初代司祭はパリ・ミッション会のボンカズ神父。二代ラバルタ神父。牧山神父は三代めにあたり、この五月に赴任三周年を迎えることになっている。

毎年一月に決める年間行事、教会委員会、婦人会、男女青年によるマリア会など、すべてが三代の司祭によって培かわれた、伝統精神のうえに立っているということだが、それにしても、信徒使徒職や布教の活動が見られないことはやはり寂しい。この教会と信者の課題は、公会議以後の教会の姿をどうとらえ、いかに信仰に結びつけるかということではあるまいか。

高校生練成会

北九州カトリック高校生は、三月の春休みに古賀教会で、また福岡高校生は黙想の家で練成会をひらく。

3月のこよみ

1日（木） 泰星高校卒業式

4日（日） 年間第9主日
昔ユダヤ人にとって安息日とは、罪からの解放を記念する日であった。現代の私たちにとって、日曜日とは、日々のはげしい労働から解放されて、人間として、また神の子として深いよろこびを見出す日である。

7日（水） 灰の水曜日
四旬節が始まるきょう、信者はひたいに灰をうける。もともと頭に油をぬるのが、喜びと祝祭のしるしであったように、灰をうけるのは、罪の痛悔のしるしである。

11日（日） 四旬節第1主日
断食は宗教上の大切な習慣である。いまは昔ほど実行されないが、断食をするのは、自分に苦しみを課する以上に自己反省と心の浄化をめざすものである。心の浄化をめざさない断食は、単に健康のためでしかない。
田川教会で堅信

17日（土） 福岡大神学院で叙階式

18日（日） 四旬節第2主日
アブラハムは神のご命令のままに無条件で、一人息子をいけにえにしようとする。神のなさることに私の方から理由や説明を求めないこと、これが純粋な信仰というもの。

19日（月） 聖母マリアの夫聖ヨゼフ
ヨゼフは、マリアをとおしてあらわれる神のみわざ（神の御子の受肉）に協力するよう、召される。マリアとその子イエスを守ったように、いまもヨゼフは神の教会を守ってくださる。
の黙想指導

24日（土） マリアへの神のお告げ
ヨゼフに助けられてマリアは神の御子の母となる。神の偉大な出来事も、かよわい人間の協力を得て実現してゆく。

25日（日） 四旬節第3主日
イエスは神殿から商人を追出された。神の家を祈りの場所にふさわしいものにするためである。心の浄化こそは四旬節の目標である。
崎津・大江両教会で堅信

22日（木）―24日（土）平田司教が崎津教会信徒

昭和48年度福岡教区
神学講座（第一学期）**要項**

一、期間　4月17日から7月3日まで毎週火曜日計12回
二、時間　午後3時30分―6時20分
三、講義科目および担当講師

科目名	回数	担当講師
聖書学		
神の国	1	平田三郎司教
典礼の聖書	2	日置孝三郎師
教義神学		
キリストのご受難とご復活の奥義	2	ウォード師
奇跡論	1	深堀敏師
倫理神学		
掟	1	浦口均師
キリスト者の賢明さ	1	松永久次郎師
要理教育学		
信仰生活と家庭教育	2	平田敬師
子供の成長に応じた信仰の教育	1	シスター景山
教会史		
キリシタン史	1	深堀敏師

四、場所　大名町旧聖堂
五、申込み　4月10日までに受講科目（三、六〇〇円）をそえて事務局へ
六、修了証書　本講座は2カ年継続で49年12月に修了する

事務局　福岡市西区片江神松寺一九〇〇　サンスルピス大神学院内　J・P・ラベル

事務用機器　文具・紙
放送用機器
福岡市南区大楠二丁目13番21号
有限会社　シオタ事務機
(52)5327・(53)4905
スチール製品　デスク・ロッカー・黒板

［公会議をふり返える］(7)

現代の宣教について
まず教会のイメージの転換を

ガイヤール

現代社会ではいま一つの大きな問題を研究している。それはこの社会においては、あるグループは周囲の人々にどんなイメージを与えるか、この人々はこのグループをどう見ているかということである。従って企業の世界ではメーカーは調査から得たデータにもとづき、TVのコマーシャルや新聞広告、ポスター、スローガンをとおして購買者に当企業への印象をよくし魅力的なものにしようと努力をしている。

前教皇ヨハネ二十三世も十四年ほど前、第二バチカン公会議開催を公表したときに、カトリック教会がプロテスタントや無神論者、教外者にどんなイメージを与えているかに着目し、信者たちに反省を求めた。同教皇は、教会がどこに出ても恥かしくない姿になるように勧めて、聖パウロのつぎの句をよく引用している。「キリストは教会を清め、しみとしわと、すべてそのようなもののない清い汚れのない教会をご自分にさし出すために、生命を捨てられた」（エフェゾ5・26−27）。

日本の教会は一般の日本人にどのように見えているのか、どのような印象を与えているのだろうか。私たち自身に自分の教会の顔はよく見えないのであるが、一般の人には教会の顔にしわやしみを見つけているのではないか、一考せざるを得ない。私たちは福音宣布につとめる前に、いや福音宣布の一部として、ヨハネ教皇の勧めに従い、真なる教会の顔を美しくするために反省と回心の必要を迫られるのである。

教会の暗い顔

教会は固苦しく、喜びのない所だと、よく教外者から言われる。すでに百年前に「信者の顔を見れば、この人たちが救われた人間だとは絶対に思えない」とニーチェは言っている。また「修道院なんて、私は大きらい」と、卒業後の生活進路を考えていたとき、修道院入りをすすめられると二言ではねつけて しまった 女子学生もいた。自由に自分の道を歩みたいなら、教会に入るのはまずいと思っている人もいる。「私はキリスト様が好きだし、キリスト教もユニークなものだと思うが、教会には入りたくない」と、数年間もシスターや司祭らと交ってきたある青年は答えている。

教会というものが、教外者には少しも魅力的なものでないのは事実らしい。実際教会外の人たちと話しているとよくこんなことを言われる。「カトリックでは神父は結婚してはいけない、離婚はいけない、産児制限もいけない、日曜日には教会に行かないと罪になると言う。まるでがんじがらめではないか」「信者は聖人みたいだから、私のようなものは教会に入れるはずがない」。胸をおどらせて洗礼の日を準備していた人に、ある先輩信者がこう言ったという。「あなたは洗礼を受けてそうだがおきてを守れるのですか」。

教会の人間がまず反省すべき点はこれである。私たちが福音（よい知らせ）の精神から離れて、救いの喜びと希望、キリストが与えた自由を生かしていないなら、そのとき教会の顔は暗くなっているのだ。愛の息吹きで生きる姿でなく、掟のくびきにしばられたような顔をしているかぎり、教会は力強く福音をのべることが出来ないし、人々にいい印象を与えることもおぼつかないのである。

日本の教会は金持

教会は金持ちだという非難もよく聞く。「それはウソだ、私たちは金がなくて四苦八苦している」と懸命に言訳しても、外部の人たちはかんたんに納得はしない。教会が持っている学校、幼稚園、聖堂、その他の施設を見ると、誰でも教会の財産はケタ外れだと思うだろう。しかも教会はいつも資本家側であり、信者もブルジョア階級が多いという 印象を 与えている。

最近四歳の娘をもつ共稼ぎの若い主婦と話したことがある。「では来年はあのカトリック幼稚園にお子さんを入れますか」「あそこは高いでしょう」「いいえ別に、よその幼稚園と変らないですよ」「そうでしょうか、でもあそこにいく人は、みなりっぱで金持ちですから、私は娘を近所の幼稚園に入れます」。結局この母親のカトリック幼稚園にたいする偏見は根強く、貧しい者には無縁のものだと思い込んでおり、私の説明はとうとう信じてもらえなかった。

低所得の人々のあいだで創価学会が成功している事実を、私たちはどう受けとめたらよいのか。「私は教会の神父の態度に納得できない点がある」といった大学教授がいた。「神父たちは金集めばかり考えている。それが 福音なのか」「この人は教会は偽善的だという感じをうけたのだろう。貧しい人は幸いだと口で唱えながら、実際は金のことばかり考えているではないかと。

日本の教会は金持ちだという印象を外部の人に与えているとすれば、これほど手ぜいことはない。私たちはこの点でも大いに反省しなければなるまい。

権力に従順というイメージ

日本の教会は公害問題についてカトリック信者は冷たく、引っこみ思案だとは、あちこちからよく聞く。社会活動に献身した信仰ぶかいフランスの詩人ペギーは、七十年まえに「カトリック信者の手は汚れていない、きれいだ。いやかれらに手はないのだ」と言っている。

キリスト者は人間の現実の苦しみと取組もうと、善意の人々と力を合わせ、積極的に戦っているだろうか。フランスのノーベル賞作家カミュも二十数年前に「キリスト者は社会・政治問題を解決するのに、当てにできる仲間ではない」と残念がっている。いまでもキリスト者は人間全体の問題と取組む手を持たないと、半ばあきらめられている状態である。だからある教会人が 積極的な 行動に出ると、驚きの目を見張る。

ある神父は自分の園児の母親の面倒な相談事に、最後まで乗っていった。すると母親はびっくりしてこう言ったという。「神父さまが、家庭のゴタゴタにまで関心をはらってくださるとは」。

労働者で、組合の活発なメンバーであった信者が結婚式をあげたとき、会社の同僚数人が 出席したて、ミサの直前に司祭は労働の苦しみや組合員としての困難と、ミサ聖祭との関係について短かく話したところ、式後に一人がその司祭のところにやって来て、「教会が労働や組合の問題にこんなに心をくばっているとは知らなかった」と率直に驚きを伝えたという。

社会改善に献身している信者を見て「カトリックだというのに、よくやるな」と、皮肉ともつかないことばを吐いた者もいる。

キリスト者というのは、どうせ社会運動や闘争には積極的に加わらないし、同時にまた権力には素直で従順、困難に出会うとただ我慢をし、トラブルを起さず、日曜日にはおとなしく教会で祈る者だというイメージが 一般化している。たとい事実はそうでないにしても、社会・政治問題が起ると必ず権力者側につき、絶対に反対行動をしないのがキリスト者だという考え（偏見かも知れない）が、教会をよく知らない人々の頭にふかく印象づけられている。

教会が手を汚す時は来ている

しかし教会が、そして信者が手をよごすべき時はもう来ている。現代世界宣言ははじめにこう述べている。「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある。真に人間的なことがらで、キリストの弟子達の心に反響を呼び起こさないものは一つもない。それはかれらの共同体が人間によって構成されているからである」。

私たち信者が強い関心をはらうべき問題は、いまの日本にも少なくはない。一例をあげると、昨年から田中首相が提唱している日本列島改造論にたいし、すでに方々から疑問が表明されている。この計画が実現したとき人間の自由、品位、人格性は十分に守られるのか、人間の品位と密接な関係ある公害、人口増加、農業の諸問題の解決を、ひとにぎりの大企業の独善にまかせてよいのか、改造論は四次防と関係はないのか、この四次防でアジアの平和が脅かされないだろうか、社会建設の目標はなにか、GNPをふやして強大な国家を樹立することではないのか、それとも「人格をいっそう完全に発展させ、自分の権利をより多く発見し主張して」（同宣言41番）、人間の人格尊重と自由を促進することをめざしているのか。

このような重大な問題に、私たちはいつまでも手をこまねいて黙っていてよいのだろうか。ベトナム戦争についてもそうである。幸い戦争終結に至ったが、私たちは共産党員や社会党員に劣らず、戦争反対に努力したであろうか。

人類とその歴史とに、実際にふかく結ばれていることを自覚しているならば、抽象的にではなく具体的に、人間的なことがらのなかで、人類の歴史のなかで、「折があろうとなかろうと、しきりに勧め、反駁（ばく）し、戒めて、みことばを宣教しなければならない」（チモテオ後4・2）。私たちがもし人間の苦しみと悲しみの原因となっている問題をさけて通っている限り、キリスト者は引っこみ思案だというイメージを拭いさることはできまい。

求められる反省と回心

教会の顔をよごしているしみやしわは、このほかにもまだたくさんあるが、上にあげた三点だけにも、私たちは反省と回心を求められている。要するに教会のメッセージ、キリストから預けられて人々に宣布すべき福音の教えと、外側の人の目にうつる教会の姿とのあいだに、大きなギャップがある。このズレをちぢめるように努めなければ、教会のいうことはウソのようにひびき、福音宣布も空しいものとなる。

（ガイヤール神父・福岡カテキスタ会相当司祭）

エルサレムの婦人を慰めるキリスト

皆さまのご意見を

本らん『公議会をふり返える』で、これまで取り上げた諸問題について、読者のみなさまから率直なご意見をお寄せいただけたら、幸いです。宣教問題のあと、典礼（教会の祈り）をとり扱う予定です。

まず子供が語るのを聞こう
福岡でカテケジス研修会

教会や学校でこどもに要理を教えている人たちの研修会が、二月十八日午後二時から大名町教会でひらかれた。出席者三十五人。今回のテーマは「子供の信仰教育とアクションについて」で、講師のボネ神父は小・中学生五人を使って実演しながら、つぎのように語った。

子供に要理を教えるにあたって目をつけるのは、一人ひとりの子供がどういう環境のなかにあって、どういう共同体をつくり、他の子供らと交っているかである。「神は朝ごとに私の耳を開く」というイザヤのことばがあるように、教師の方から何かを教えるのではなく、子供らが自分の世界と行動についてありのままに語るのを聞くべきだ。かれらが家で、学校で、公園で他の友だちと何とかりっぱな共同体をつくろうと努めているならば、そこにキリストの国が建設されている。子供はそれを意識しないので、大人がそれを知らせ、キリストの働きに協力するよう指導してゆきたい。大人は子供のアクションにいい影響を与えねばならない。それが教師や大人の責任であろう。

講話につづいて出席者から土曜・日曜学校への出席率の低さ、カリキュラムの不足などの悩みが出されたが、この研修会を主催した福岡カテキスタ会としては、これから教区内四地区の実情に応じて、教師の養成を定期的に行うことになった。

栄養のバランス
牛肉・かしわ・豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
TEL 52・4015

女子学生（原則として短大生）のための寮
光の園ホーム
詳細については左記にご連絡下さい
〒816 福岡市博多区光丘町二の四二
福音の光修道会
TEL092・58・1663
係シスター川岡

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 (57) 2673

ヴィノ・デ・ミサ
（ミサ用ワイン）
720mℓ入 1,000円
教会の信者さまがたから好評をいただいております
取扱店
大楠酒店
福岡市南区大楠二丁目4番8号
電53・4718
ミカエル青木実（大楠教会）

紳士の気品と誇りを創る
お誂え洋服
紳士服の
ニューライン 糸永
電話 福岡 52・0820
ペトロ 糸永秀雄
福岡市中央区小笹四丁目4番
2636号

辞書は三省堂

福岡教区信者状況

（昭和47年12月31日現在）

教会	類種	洗礼 臨終外 子供	洗礼 臨終外 大人	洗礼 臨終時 子供	洗礼 臨終時 大人	求道者	結婚 信者間	結婚 混宗	信者数 今年度	信者数 昨年度
邦人司祭地区	山町市崎島島	21	6	0	0	0	3	3	503	492
	名日田カ水留渡野	47	61	0	0	39	28	33	1,272	982
	茶大二箱東光本今浄古久馬美西小大大高呼吉吉地	3	0	0	0	1	1	0	239	225
		1	2	0	0	6	0	2	97	106
		15	5	0	0	13	1	1	260	234
		20	7	0	0	3	2	15	444	419
		13	6	0	0	3	4	1	679	671
		25	3	0	2	0	8	3	1,239	1,246
		7	5	0	1	1	5	7	208	199
		8	3	0	0	8	1	5	226	218
		29	21	1	3	21	6	13	789	747
		15	1	0	0	0	4	0	476	453
		8	0	0	0	3	0	2	139	146
		8	4	0	0	5	2	0	479	479
		8	0	0	0	0	0	1	224	201
		7	1	0	0	4	2	2	187	188
		4	9	0	1	16	0	4	245	244
		19	17	0	1	13	7	12	589	580
		11	0	0	0	2	5	0	427	429
		2	1	0	0	2	0	1	45	43
		9	6	0	0	6	0	0	341	365
										241
ミラノ会地区	里津島賀雄久栖	4	0	0	0	1	0	0	156	152
	万伊唐鹿佐武多鳥	13	7	0	0	8	2	4	260	233
		1	2	0	0	2	0	1	100	75
		19	17	15	0	22	4	5	506	473
		5	3	0	0	4	2	1	99	81
		2	2	0	0	0	2	2	90	86
		5	0	0	0	3	0	0	163	148
パリー会地区	寺城塚倉崎巻司港方原川町畑松川橋	5	2	0	0	3	0	8	267	290
	王八本飯小黒水門門直新田天戸若湯行	1	0	0	1	0	0	5	114	115
		2	0	0	0	4	0	3	173	161
		55	11	0	0	27	9	26	2,286	2,424
		26	23	0	0	13	3	17	960	962
		21	6	0	1	7	1	4	459	415
		12	6	0	0	4	1	9	458	423
		5	2	0	1	4	1	4	161	164
		2	0	0	0	0	0	1	180	178
		52	5	0	21	1	9	3	1,462	1,403
		3	0	0	0	7	1	1	135	137
		14	3	0	0	9	2	10	391	400
		24	79	0	0	53	4	13	1,103	1,169
		8	6	0	0	6	2	4	360	370
		25	6	1	0	18	6	12	669	655
		17	2	0	0	7	4	10	426	400
コロンバン会地区	荒尾人吉本渡健菊水帯大崎島玉手八	0	0	0	1	0	0	0	67	53
		8	11	0	1	12	0	4	233	236
		4	3	0	0	6	0	3	197	197
		10	2	0	1	8	0	5	386	352
		7	9	0	6	11	0	4	325	354
		1	1	0	0	3	0	0	159	179
		14	12	0	2	15	1	9	267	242
		10	0	0	0	4	0	3	537	549
		8	3	0	0	2	2	2	331	335
		13	21	7	13	16	7	4	401	482
		0	0	0	1	4	0	1	67	70
		24	20	1	12	26	2	5	794	786
		3	7	0	10	3	0	2	272	268
合計		703	429	25	116	462	144	300	24,122	23,761
増加数									361	

着々と進んでいる共同訳聖書
単語の選び方にも苦心
日置孝三郎神父に聞く

カトリックとプロテスタントの『共同訳聖書』は、三十二人の翻訳者たちの手で、いま着々と作業が進んでいる。九州では日置孝三郎神父（サンスルピス大神学校講師）、中村和夫牧師（西南学院大学教授）、小平卓神父（鹿児島純心女子短大教授）の三氏が選ばれているが、本日は福岡市今川の地行教会跡に日置神父を訪ねて、その進行状況などを聞いてみた。

共同訳聖書の翻訳に取組む日置神父

日置神父はローマのウルバン大学と、ローマ教皇庁立聖書学院を出た聖書学者。『共同訳聖書はいまやっと動きだしたところ、また試訳の段階……』仕事はこれからという表情だ。

共同訳聖書の話は、カトリックとプロテスタントの、エキュメニカルな動きの中から生まれた。昭和四十四年、『共同訳聖書の可能性検討委員会』ができたのがはじまりで、その後『共同訳聖書実行委員会』、『共同訳聖書編集委員会』などの、数次にわたる協議と検討を経て、四十七年の夏、はじめて本決まりとなったもの。

日置神父はほとんど一日中を机に向い、翻訳のペンを離さないそうだが、『教会語になれているため、それを離れて大衆にわかる文章ということになると、これは予想以上にむずかしい。砕くといっても限度があるし、単語の選び方一つにも気を使う』と、その苦心を語っていた。

共同訳聖書刊行の目的は、教会の外にいる大衆に読ませ、神のことばを万人に解らせることにある。そのためには『やさしく、理解しやすく』ということが、翻訳の重要なポイントになる訳だ。だから書かれた原稿が、最後の決定をみるまでには、翻訳者の全員にコピーを配付して意見を聞く、編集委員会で検討する、国語委員会、助言グループ、検討委員会で協議するなど、幾重もの手数を踏まねばならないことになっている。

日置神父は、さきごろ第一稿を提出したばかり。『解りやすく、しかも原典に忠実にいうのだから、これは大変な仕事だ』と苦笑していたが、教会の外にいる大衆のために、神のことばである聖書が出版されるということは、宣教にもエキュメニズムにも、はかり知れないプラスをもたらすに違いない。そういう意味で、カトリックとプロテスタントが、日置神父の仕事に寄せる期待は大きく、また日置神父の責任も重大な訳である。

× × ×

信徒点描
神の道具として……
大名町教会レジオ会長 鈴木 美子さん

『レジオの低調さは、何かやっているということを実感としてつかまなければ救えないと思いました。そのためには一つの目標に向って一致することが必要です。布教研修会はそういう考えと、信者の養成が大切だという考えが結びついて計画されました。』

『信徒布教研修会』がひらかれたのは昨年の九月。これを推進したのが大名町教会のレジオ・マリエで、その中心となり、経験も理解もない人たちを励まし、ともかく開会まで漕ぎつけたのは会長の鈴木美子さん、四十六歳だった。

『はじめてのことで何もかも困りました。しかし、自分たちにできることをせい一ぱいやるほかに手はなく、そういう意味ではあまり苦労はありませんでした。』

この研修会は、予想を上回る人を集めて大きな成功をおさめた。そしてその中から、教区青年の連合体を作ろうという動きまでが生まれた。

鈴木さんは東京都の出身。メルセス会の光塩女子学院を卒業したのが、昭和十九年の三月。歌誌『未来』の主宰、近藤芳美氏の門下で、短歌では群を抜く力倆を持っているが、その素地は、この女子学院在学中に培かわれたという。

二十一年、お父さんとともに下関に移住、間もなく聖小崎育児園に勤め、ここで十六年間働いた。大名町教会に顔を出すようになったのは四十五年一月からで、翌四十六年の十一月、レジオ会長に推薦された。女性には珍しい積極性と、進歩的な考え方を持った人で、『大名町教会のレジオは、鈴木さんが会長になって活動的になりました。』（信者Aさん）という評価も、そのへんに起因しているのだろう。

『五歳のとき母を失いましたがそれが後に信仰につながりました。』

そのお母さんの死後、預けられた叔父さんの家が熱心な日蓮宗の信者で、そこで無意識のうちに宗教的な情操を身につけた。女学生になってからは、『私より早く生まれた者は私より早く死ぬ。それでは私が生まれたことの意味は何だろうか。』という疑問に悩み、それが、鈴木さんを入信に結びつけたのだという。

『聖書から知ることのできるマリア様――自分の主観で判断するのではなく、ただ神の計画を実現する。そのように、神の道具として用いられることを承諾する、その信仰の姿を全面的に自分のものにしたい。』

鈴木さんのお父さんは、一昨年食道癌で亡くなった。『いちばん理解してくれた人を喪った。』と悲しむが、二人の信仰の姿にはお父さんの生前のことばという、『美子は男と対等に話すような女だが、あれはあれでよいのだ。自分のことは自分で責任をとればよい。』に見られる、姿勢と理解が強く影響しているようだ。

――いま悩みがありますか。

『本を読めないこと、歌を作れないこと、眠いこと。』

そういう忙しさの中で、ことしも布教研修会を計画している。『信徒使徒職をテーマにとりあげたいと思っています。その節はよろしく。』キリギリスと自称するほどやせたこの人、その細い顔が眼鏡の下であでやかに微笑した。

教会刷新はかる
久留米で司祭・信徒の集い

久留米教会（主任＝三村邦明神父）では、二月十八日ミサ後十時半から『司祭・信徒の集い』をひらいた。これは教会内のタテとヨコの対話をすすめ、小教区の刷新をはかるために計画されたもので、十一時から昼食を一緒にとりながら、百人近い信徒、修道女が七つのグループに分かれて意見を出し合った。

司祭にたいするいろいろの希望のほかに、信者同志がもっと兄弟として親しく交わるためにどうしたらよいかが話し合われ、最後に全体会議でまとめたことは信徒委員会で実行を検討する。

上智大学理学部へ
定年の桑原教授

ことし三月、九州大学を定年で引退する桑原万寿太郎教授（高宮教会所属）は、四月から上智大学理学部教授として赴任する。ミツバチの研究では世界的権威として知られ、専門は動物生理学（動物の感覚能力を研究する）。昨年四月には天皇陛下にご進講した。またラジオやテレビ、講演でも活躍。長らく福岡カトリック学士会々長をつとめた。

フィーリングがあなたをゆさぶる雑誌
カトリックグラフ
3月号 200円
百年前キリシタンはフランス寺で復活した
大浦天主堂再見記
本当の救いを日本人が知ればと願う35歳
列島改造を宗教音楽で
全員集合で一で14人集まる国鉄機関士一家
天に届け、大家族賛歌
連載ノンフィクション
翼の影 G・ゴルドマン
カメラ風土記
春風を待つ四国の聖母像
■インテリ・ゲリラの目
ベトナム 和平報道にみる平和論
■この道一直線
浅草を去るデン助 大宮 敏光
■連載対談／浜尾司教 V・S高宮行男
予備校こそ全人教育の出来る場だ

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の 河野電気
ミカエル 河野三千夫
福岡市田 1162―29
TEL 87―3099

沖縄から

福田正隆

（首里城・守礼の門）

私と沖縄の結びつきは昭和三十九年、四十年後半の二回、総理府から結核医療の指導に派遣されたときに始まります。現在は北九州市小倉区に匹適するほどの那覇市ですが、当時はエレベーターのついたビルもない街で、日本文字より横文字の多い看板、街に漂っている異国ムードなど、私たち内地から来た者には、いかにも犠牲の島という印象の強いところでした。

昭和四十二年、私は東京の日本カトック医師会森口先生の依頼を受け、琉球カトリックの経営する『聖母診療所』に赴任してきました。赴任して驚いたのは、専門が内科であっても外科であっても、診察を受けに来るのは皮膚科の患者ばかりだということでした。幸い私は、医学校を卒業して小倉にいたとき、恩師から皮膚科の専門知識を授かっていましたので、その知識を利用することができました。しばらくの間に名医という評判が立ち、街の医者で治らない皮膚病の患者が、沖縄全島から集ってきました。

私の本職は結核ですから、やはり結核を離れることはできません。当時週に二日は琉球政府立の医療機関に応援に行き、結核患者の診療に当たりました。結核患者の医療はその機関で無料で行なわれていました。調査の結果によりますと、患者数は大体九州並みのようですが、診療の面では内地にくらべて、十年から十五年の遅れがあるように思われます。全般的にみると、衛生思想は平均以下で、受診の時期が遅れるのはふつう、それに大部分の開業医が結核に興味を示さないため、ほとんどの患者が重症になるまで放置されているありさまです。

沖縄の人たちは、いまでも内地人のことをヤマトンチュウと呼びますが、この言葉の中には激しい敵意が秘められています。太平洋戦争の末期、沖縄の人たちが戦火の犠牲になったことほど存知でしょう。当時は一木一草、弾痕のないものはなかったといいますから、米軍の攻撃がいかに凄かったか推察できると思います。沖縄の人たちはそのことから、『内地人はわれわれを犠牲にした』という意識を持ち、『内地人にはその償いをする義務がある』と考えているようです。これは沖縄で医療に当っている私たちはもちろん、沖縄の人たちに接する日本人の誰もが、知って置かねばならないことです。

沖縄にも、復帰と同時に国立の療養所ができました。私はいま公務員として、その療養所で結核撲滅の闘いに専念しています。そして琉球大学と沖縄大学で、衛生思想の普及向上のために努力していますが、せめて海洋博までには、沖縄の人たちの衛生思想を高め、ゴミだらけの街をきれいにしたいというのが私の願いです。

（ふくだ・まさたか、国立療養所金武保養院勤務。現住所・那覇市上之屋一三）

教養

聖書のなかの家庭

連載随筆

炉辺詩語

徹するということ

森雅生

わりなしや氷る筧の水ゆゑに思ひ捨ててし春の待たるる　西行

西行はもと佐藤義清と名のり、鳥羽上皇に仕えた北面の武士であった。北面の武士というのは、院政の時代に院御所の北面を詰所として、院中の警固、治安維持などに任じた武士のことである。義清は崇徳天皇の保延六年（一一四〇）突然妻子を捨て出家した。数え年二十三歳のことである。理由はつまびらかでないが、前日元気で別れた一族の佐藤憲康が、翌日訪ねて行くと、なきがらとなって横たわっていたという事件があり、それが義清を出家に導いたと伝えられている。

西行の歌は、自然を歌っただけでなく、自然に即し、いかに生きてゆくかを実現しているといわれるが、西行は自然の中を放浪しながら、自然に対する愛をとおして、幽玄の境地を体得した歌人であった。

石に掲げた歌は出家して間もなく、はじめて鞍馬山の山奥にはいった時の作で、歌意は『いっさいを捨てた出家の身が、何に脅を待つというのだろうか』というほどのことである。この歌には『世を遁れて鞍馬の奥に侍りけるに筧氷りて水まで来ざりけり。春になるまでかく侍るよりと申しけるを聞きて詠める』ということば書がついて、この『水まで来ざりけり』には、『都からの便りが絶えてしまった』という意味がふくまれているという。

この歌には世を捨てたつもりで、まだ捨て切れないでいる自分の姿に、世俗への執着の強さを見た悲しみがこめられており、そこに道に徹し切れないで悩んでいる、若き日の西行をみることができるのである。

現実は人間の欲望と利害の上に成り立っている。子が親を平気で殺す。そこまでゆかなくても人を欺き、裏切ることが日常茶飯の醜い世界である。この世界には金や名誉はあっても、人間の自由、人間の価値は存在しない。そこで、人間らしく真実に生きようとするなら、私たちは自分を拘束するものから、自分を解放しなければならない。西行が出家した心理の中にも、そういう事情は働いていたに違いない。

新しい生き方を見つけて、その中に身を投じたばあい、その生き方に徹しようとするのは当然のことである。だが、徹するというのはむずかしいことだ。過去は執物について回って、なかなか私たちを解放しないからである。

若いころ、私も現世のわずらわしさを逃れたいと思って家を飛び出したことがある。二、三日さまよい歩いたすえ、くたくたになって田んぼの畦づみに腰を下ろした。おりから夕暮れで、空を真っ赤に染めて、日が山の端に沈もうとしている。それを眺めているうちに、急に父や母のことを思い出した。そして広い自然の中に、一人うづくまっている自分に気がつくと、じっとしていられないような不安に襲われた。私はこのとき親子のきづなの強さに気がつき、一人ということがどんなことであるかを知ったのであった。

聖書の中で、キリストが幾たびとなく『私を信じなさい』と言われるのは、信仰に徹せよということではあるまいか。私は思い悩むときには、いつもそのことを考える。洗礼によって新しくされた私たちであれば、この歌の西行のように世俗への執着があったとしても、神の民としての生き方に徹するよう、自らに鞭うち努力しなければならないのではあるまいか。

聖書のなかの家庭

④

イエスの弟子たちは、当時の教会が出会ったいろいろなケースに応じて、結婚・家庭についてのイエスの教えを説明している。もっとも多いのは、ユダヤ教以外の宗教からキリスト教に改宗してきた人々に、人間として当然の道徳を教えることであったが、なかにはまたキリスト教に独特の教えも述べられている。

人間共通の道徳

パウロは男女の結合について旧約の掟をくり返えし教える。

「みな結婚を尊び、寝床をけがすな。」（ヘブレオ13・4）。ペトロは女性には慎しみを、男性には女性尊重を教える。当時の女性軽視の風潮から見れば、めずらしい考えといえる。（ペトロ前3・1―12）。

老人、老婆、若者にたいする態度、母子家庭への援助について細部にわたる勧告も多い（テイト2・1―9、テイモテオ前5・4―16など）。

キリストが与えた掟

パウロは結婚についてのキリストの掟をはっきり打ち出す。

「すでに結婚した人には、妻は夫と別れるなと命じる、命じるのは私ではなく主である。もし妻が別れるなら、再び嫁いではならぬ、さもなくば夫と和解するがよい。夫も妻を離別してはならぬ。妻は夫の生きている間はかれに結ばれているが、夫が死ねば、のぞみの人に嫁ぐ自由がある。しかし主において行え。私の意見では、そのまま止まった方が、もっと幸福だと思う。私も神の霊をもっているつもりである」（コリント前7・10…40）。

自由な奉仕のため

パウロは結婚しないで独り身でいる方がよいと言っている。

「独身の人と寡婦に私は言う。私と同じように結婚しないでいることは、あなた達にとってよいことだ…。未婚の女性については、主の命令を受けなかった。しかし自分の意見としては、目のあたりの困難を考えると、そのままでいる方がよいと思う。たとい結婚したとしても罪を犯すのではない。こういう人は自分の体において試煉を知るであろう」（同7・8、25―28）。

各自が神からの賜物によって

二心なく神に奉仕できる道を

パウロは結婚すれば苦労が多く、独身でおれば苦労がないと言っているのではない。生涯を神に捧げ切って使徒職を果したパウロ自身数え切れないほどの苦難を経験している。ただかれは、二心なく純粋に神に奉仕できる自由をすばらしいと言っているのである。

「結婚した人は、どうして妻を喜ばせようかと、この世のことを思い、心が二つに分かれる。未婚の女性は、体と心を聖とすることを心がけ、主のことを思う。私がこういうのは、あなた達をひたすら主に仕えることに導くためである」（同7・32―35）。

命令でなく勧め

これはもちろん勧告であって、命令でも掟でもない。「各人が神からそれぞれ違った賜物を受けている」（同7・7）のであって、誰もが修道者になることはできない。実際には寡婦は再婚の道を探した方がよいのだと、別の箇所で語っている。祈りと孤独のなかでキリストのために生きることは、多くの人にとって容易なことではない。自分の性格やこれまでの境遇をも考慮して決定すべきことなのである。

詩

生誕

岡部隆介

スポンジボールほどのあたまに
とがったちいさな鼻をくっつけて
なんにも見えない眼が
しきりにまばたきしている
いま　生まれたばかりのあかんぼう
くちびるをつき出して
ぶつぶつ言っているのは
生誕への抗議か　祈りか
巻貝のような両手のこぶしを
にぎりしめているのは
生存への意志か　恐怖か
うすらあかりのさす
夜あけの果実の内部
何者かの透明な舌が
稲妻のようにかけめぐっている

（直方市在住・詩人）

一般書店でカトリック書籍を

女子聖パウロ会出版の『ロボットはいやだ』（c・グロータス神父のエッセイ集、新書版一四四ページ、価三五〇円）は、福岡市の新天町金文堂、積文館、ショッパーズ・りーぶる天神でも取扱っている。カトリックの書籍が一般書店にも進出できる好機なので、協力が望まれる。

『こんごの家庭はどうなるか』

講演と話し合いの会

日本クリスチャン・アカデミーでは、三月二十日、二十一日の二日間、黙想の家で『こんごの家庭はどうなるか』をテーマに、講演とディスカッションの会をひらく。講師は松村克己（関西大学教授）関計夫（九州大学名誉教授、池見西次郎（九州大学教授）の各氏の予定。キリスト教各教派の人々が参加するが、カトリックからの積極的協力が要望されている。会費二千円。希望者は福岡市浄水通教会の伊東神父に申込むこと。

ご存知ですか？
この聖書を！

旧約聖書物語　文 わきたあきこ　絵 やのしげこ　¥700
新約聖書物語　文 わきたあきこ　絵 やのしげこ　¥600

この二冊は全国学校図書館協議会選定図書にはいりました。
読みやすく、理解しやすいこの聖書をおとなの方もぜひ一度読んでください。

聖パウロ書院
大名町教会隣
でんわ ⑭四五八八

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長 ルカ 吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 ⑫0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額　五〇〇万円
一、募金方法　一口五〇〇円
一、送り先　本誌編集部（振替福岡四二九八一）

寄付者報告（敬称略）
宮尾環、皆川節夫、岩崎真、山下モヨ（以上小倉教会、各千円）
累計　一五三、〇〇〇円

クルシリヨ参加の申込みは早目に

五月はじめの男女合同クルシリヨは次のとおり行なわれる。

日時　5月3日（木）夕七時から6日（日）夕刻まで
場所　福岡黙想の家
資格　二十歳以上の男女信徒、修道者、司祭
会費　五千円（宿泊費など）
申込み　福岡市中央区浄水通三九、福岡司教館内、クルシリヨ事務局あて

各小教区に用紙がありますので、早目にお申込みください。定員は三十人です。

四旬節司教教書『家庭における子供の宗教教育』

平田司教はことしの四旬節教書で「家庭における子供の宗教教育」という大きな問題をとりあげておられる。教書は、子供に宗教教育をほどこすことの困難、これまでのやり方への反省にふれ、後半でいくつかの方法を示唆（しさ）している。このなかでとくに注目したいのは、信仰を子供に教えるのに、きまった一つの方法、ほとんど形式化してしまった方法しかないと考えてはならず、むしろ家庭や子供自身、また教師が現実に即して、いつも最良の方法を探してゆく努力を望んでいる点である。

子供は家庭と教会だけでなく、自分たちの作る小さな社会をとおしても、生きた信仰を身につける。その環境はさまざまで、単純に一定化されえない。だからきまった型を準備して、それに子供をはめこむ教育方法をとってはならず、生きた子供を中心に新しい要理教授法を、みんなで模索し試みてゆく必要がある。それには学校のPTAに準じたものが欲しいし、こうした大人の真剣な努力こそ、子供に信仰を植えつける第一のステップであることを、教書は指摘している。教書の大要はつぎのとおり。

ゆらぐ家庭像

現代社会の急激な変化は、家庭にも大きな影響をおよぼし、これまでの家庭像を根底からゆるがせています。受験勉強や、クラブ活動、塾通いや学校ぐるみのレジャーなどで、子供は家庭で落着く時間が少なく、外で働く親がふえているため、親と子の生きた対話の機会がまれになっております。他方、戦後からの新しい学校教育によって、子供の自主性が強調されているため、親のすすめや言いつけは、昔のように無批判には聞かれなくなり、いまでは親と子の断絶が当然のことのようになっております。こうして信者の家庭の子供でも、日曜日のミサ、要理の勉強、家庭での祈りに何の関心もはらわなくなり、やがて信仰をなげすてて、神と社会に反抗する行動にさえ走る危険さえ見せ始めるのです。

宗教的ふんいき

では、このようなむずかしい状態のなかで子供の宗教教育は、どのようにやってゆけばよいのでしょうか。わたくしたちはまず、宗教教育についてまちがった考え方をもってはいないか、反省しなければならないと思います。たとえば祈りを暗記させ、要理の勉強にやり、日曜日のミサに与ずるのが、宗教教育のすべてだという考えです。これだけでは教育は不充分で子供に形式的な信仰を押しつけることにもなりかねません。しかし子供が生き生きとした信仰のよろこびを家庭をとおして体得し、それを実生活のなかで実らせてゆけるようになるのが、家庭での宗教教育の大きな目標であります。

この目標に達するための方法として、いろいろのものがあるでしょうが、わたくしは、家庭のなかに宗教的な暖かい雰囲気を作り出すのが第一だと思います。雰囲気とはことば以前の、確信とよろこびが自然にただよっている状態のことです。子供はこの中で知らず知らずのうちに、神ご自身を吸い込むのです。それは信仰の無言のあかしであって、これが子供の心にいちばん深い印象をきざみこむのだと思います。

信仰感覚を養う

もちろんそれだけではなく、時として子供たちにそのあかしの生活の理由を説明してやる必要も当然おこってきます。社会のいろいろな出来事や現象について、子供と話し合ったり、質問されなくても機をつかんでは、身近かにおこる出来事、たとえば子供の出産や肉親の死去に際して、生命の神秘について教えるのもいいことです。

周囲の人たちの価値判断がまちがっていたり、むずかしい事件が報道されたりしたときに、信仰の立場から正しい判断を下して、信者らしい感覚を養ってやることもできます。宗教教育の場はこういう日々の会話のなかに、たくさんあることを忘れないようにしましょう。要理の本で学んだことが、日々の生活のなかで生かされまた要理の理解を助けるのです。神の教えが、子供の血となり肉となるように指導することが、宗教教育の理想だと思います。

みんなで研究を

子供の宗教教育が成功するためには、もう一つ考えられるのは、親と教会との密接な助け合いです。学校教育でさえ親と教師との連携（れんけい）がたいせつな要素となっています。子供の信仰教育について悩み、あれこれ努力している親たちが、司祭やカテキスタを交えて、具体的な意見を交換し合い、失敗や成功の体験をもとに、最善の方法を探してゆく努力が欲しいものです。司祭にしてもカテキスタにしても、もともと親の側からの積極的な協力がないかぎり、子供の宗教教育の効果をあげることは不可能なのです。みなが新しい要理教授法やカリキュラムにも関心をもっていただきたいと望んでおります。

わたくしは子供の宗教教育について全部をここで申し上げることは出来ません。なお多くのことはみなさまがお力に応じた研究と具体的な試みをかさねていかれるよう希望いたします。

四旬節愛の実行目標『ベトナムの教会復興のため』

毎年四旬節の期間中に、全国のカトリック信徒が愛の実践運動として、老人や病人、児童福祉のために募金を行っている。福岡教区としては今年の援助目的を「長い間戦乱に苦しんできたベトナムの教会の復興のため」とし、広く信徒の協力を訴える。四旬節の精神を理解し、ぎせいの実行のみのりとして献金することが、望まれている。

司祭人事

シーギスベルト師（高宮フランシスコ修院付）はドイツのグロースンブルグ市で新任務につく。

りぐめ会教　水俣（イエズスの聖心）教会

熊本県水俣市桜井町

水俣は熊本県南端の都市、いまでは日本中知らぬ人はいない水俣病公害の発生地である。国鉄水俣駅まえの国道3号線を渡ったところが有名なチッソ水俣工場の正門。イエズスの聖心水俣教会はそこから歩いて2分。鉄筋コンクリート、白亜の教会堂と塔が、林立する工場煙突群とむき合って静かにそびえ、田んぼに降りた鶴を連想させる。昭和三十五年献堂、福岡市の菅種雄氏の設計によるもの。

マッコーネル神父

この町にはじめて福音宣教の拠点がつくられたのは昭和五年、そのころの水俣は、人口二万ほどの、ただ海のきれいな一漁港にすぎなかった。ルマリエ神父（パリ外国宣教会司祭、故人）が八代教会から、月何回か巡回してきていた。

「現在では信者数百六十人、四十五世帯のうち十世帯がチッソ工場かその関連会社で働いています。古い信者といえば、長崎出身の嘉松さんら数人だけです」と語るのは、市内袋に住む山田隆男さん、四十六歳。この人もチッソ開発会社の機械課につとめ、昭和二十七年受洗以来、信徒たちの中心的存在。戦後に入信した人の多いこの教会は、たしかに、県下のほかの教会とは異質のふんい気を感じさせる。それは水俣が県内唯一の工事都市だからでもあろう。

チッソ開発、共栄ハム、九州燃料の社長・村越典夫氏また共栄合板会社を経営する越後正氏、水光社（チッソ生活協同組合）の総務部長・岩本市氏、製菓業をいとなむ山内光氏らが、夫人ともどもマッコーネル神父をよく助けている。神父は一年前、玉名教会からここに転住してきた。表面きわめておだやかだが、信者のことをじつによく知っている。

「日曜日にミサにあずかるのは五、六十人ですが、婦人会がよく活動します。先月愛の実行運動の近藤神父が見えて、みんなを激励してくれました。何かしたいという気持が一杯ですから、近いうちに必ず具体的な働きが出てくると思います」。

すでに市内の盲人を見舞って、身のまわりの世話、手紙の代筆など定期的な奉仕を、みなが交替でおこなっている。

水俣病裁判の判決は下った。もちろんこれで片付いたわけではない。水俣市民全員が、これからも長くずっと、この十字架をになってゆかねばなるまい。カトリック者とて例外ではない。むしろ誰にもまして町全体の苦しみをキリストと共に感じ、受けとめる覚悟がいるのではなかろうか。

聖週間最後の三日間の司教司式のミサ

聖木曜日　聖香油祝別のミサ、浄水道教会で午前十時三十分（このミサで聖体拝領ができる。なお本日夜のミサに与る信者はふたたび聖体拝領ができる）最後の晩さんのミサ、大名町教会で午後七時
聖金曜日　主のご受難とご死去の記念、大名町教会で午後七時
聖土曜日　主のご復活徹夜のミサ　大名町教会で午後七時

4月のこよみ

1日（日）　四旬節第4主日
神の民は、たびたび預言者から神のいましめをうけていたが、耳をかたむけなかった。いまの日本の国全体も、神の怒りを買うほど不道徳の温床となっていないだろうか。**西新教会で堅信**

2日（月）　聖心のウルスラ福岡修道院で誓願式

5日（木）　馬渡島・聖母園（養護）と聖母保育園の増築落成式

8日（日）　四旬節第5主日
神が私たちと契約をむすぶとは、ふしぎなことだ。契約は信用し合った者同志のあいだで結ばれる。では神は私のようなものを、ほんとうに信用しておられるのか。私は神の信頼に答えられるものなのか。

15日（日）　受難の主日
きょうは「枝の主日」。キリストが私たちに先立ってエルサレムに向かわれる。それはぎせいの場である。こうしてキリストは「十字架の死にいたるまで従う者となられた」。

19日（木）　主の晩さんの記念日
午前中に聖香油祝別ミサ、夕刻から聖体制定の記念のミサがある。

20日（金）　主のご死去の記念日
午後からよるにかけて、十字架の礼拝と全人類の救いのための祈願がささげられる

21日（土）　復活祭徹夜のミサ
こんや主の復活のお祝いがはじまる。中心は洗礼による再生のよろこびである。私たちも洗礼の約束を新たにする。

22日（日）　ご復活の祭日
私たちがキリストの復活を盛大に祝うのは、この事実によって私たちの救いが真実であることが実証されたからである。キリストの復活、それは私の復活である。

29日（日）　復活第2主日
キリストは復活のその日、使徒たちに聖霊をお与えになる。**健軍教会で堅信**

天皇誕生日

事務用機器　文具・紙
放送用機器

福岡市南区大楠二丁目13番21号
有限会社　シオタ事務機
(52)5327・(53)4905

スチール製品　デスク・ロッカー・黒板

大名町外国語アカデミー

福岡市中央区大名2丁目カトリック教会内　TEL：74—3687

課目と曜日　英語（月・水）スペイン語（火・木）フランス語（火）
教師　英語　Ward Biddle, Richard Harr, David Ullrich, Rogers Pelow, Joseph O'Connor, Sister Agatha
スペイン語　Sister Maria Conception
フランス語　Julien Gayard
1973年中期は4月27日開講　7月9日まで
夜間　P.M.6.00—7.15　P.M.7.30—8.45
昼間　A.M.10.00—11.15　P.M.1.30—2.45
授業料　5,500円（ほかにテキスト代実費）フランス語は、3,000円

「公会議をふり返える」(8)
布教は信徒の使命
愛をもってキリストを知らせよ

この『公会議をふり返る』は、前々号（6回）『布教活動・私は何を伝えるのか』で、公会議が教会の布教活動について何を教えているかを考え、前号（7回）『現代の宣教について』では、日本の教会は一般の日本人にどのように見えているかを問い、教会のイメージの転換をはかれと訴えたが、こんにちの教会と一般信徒は、布教をどのように考え、いかに対処しようとしているのであろうか。

こん回は、布教活動を進めている司祭や、一般信徒の意見を手がかりに、その方向と問題を探ってみた。

社会認識の遅れ

ガイヤール神父の『現代の宣教について』は、その末尾にこう書いている。

『要するに教会のメッセージ、キリストから預けられて、人びとに宣布すべき福音の教えと、外側の人の目にうつる教会の姿との間に大きなギャップがある。このズレをちぢめるように努めなければ、教会のいうことはウソのようにひびき、福音宣布も空しいものとなる』

こんにち、社会の中にあるカトリックのイメージは、かならずしも良好ではない。もちろんそこには、局外者としての誤解が多く含まれているが、中にはカトリックが自身反省しなければならないこともある。

ガイヤール神父は、そのような、社会の中にある教会の悪いイメージを、良いイメージに転換しなければ、カトリックの布教はおぼつかないといっているのである。

カトリック信徒の、こういう社会に対する認識が、大幅に遅れていることは周知の事実だ。それが信徒の目を、教会の外側に向けさせないのだということも、よく指摘されるところであるが、Aさんは、そういう事情を単的に象徴するエピソードとして、つぎのような話を聞かせてくれた。

ある教会の信者で五十歳ぐらいの婦人。昨年ひらかれた布教研修会に参加した。研修会が終って帰宅したとき、その婦人が何よりもまず主人に言ったのは、『信仰がこんなに大変なものとは知りませんでした。私はもうカトリックを止めようと思います』ということだったという。この婦人は研修会に参加はしたが、自分の信仰を、そこで習った布教や社会に奉仕するということに、結びつけることができなかったわけだが、カトリックの信徒には、こういう人が意外に多く、信徒使徒職や布教の進路をさえぎっているのである。

信徒自身のイメージ転換

ガイヤール神父の『教会のイメージを転換せよ』という意見に対して、『信者自身のイメージを変えなければならない』と主張するのはB神父である。

カトリックの信徒は、ながいあいだ教会の中に閉じこもり、外側の社会に目をそそごうとしなかった。それが信徒の閉鎖性となり、個人主義的な信仰を形づくったといわれる。そういう信徒の姿を、卒直に伝えてくれるのがつぎの意見ではあるまいか。

信徒の中には、掟を守ればそれでよいという考え方があって、社会の中に教会があり、教会の中に社会があることを知ろうとしなかった。（Cさん）

子どものときから〝ミサにいきなさい、祈りをしなさい〟とは教えられるが、〝人のために何かしなさい〟とは教えられなかった。（Dさん）

公教要理を暗記させるという指導のしかたに難点があり、公会議の共同体意識が、信徒の中に浸透していない。（Eさん）

いままでの信徒の理想は、修道者のような霊性に、重点を置いた信仰であった。B神父は、そういう信徒の理想を捨てて、公会議にもとづく、新しい信仰のイメージを把握せよというのであるが、そこにはまた、信徒自身が、そういう古い信仰のイメージを変えなければ、教会の布教活動はいつまでたっても進展しないという考えがこめられているのである。

重大な布教の責任

前々回『布教活動・私は何を伝えるのか』の前書は、『教会とは何か』『教会はそとの世界に対して何をしなければならないか』という公会議の二つの目標を、前者を理解すれば、必然的に後者の結論が出てくるという意味で、『結局は同一の課題である』と言っているが、それはおなじ筆者が後で書いている『教会はすべての人を神のもとに一つに集め、神の家族とする使命を持っており、布教をしない教会はすでに教会ではない』ということにつながるのだ。

布教は、このように神の家族である私たちの使命である。とすれば、公会議以後、とくに布教への関心が高まってきているこんにちにおいては、私たちの布教の責任は、いよいよ重大さを加えてきているということができよう。

だが残念なことには、教会を見まわしても、ミサに連らなるだけ、自分の祈りを祈るだけの、旧来の信仰を守りつづける頑固な信徒が目だつだけで、積極的な布教活動は、どこにも見当らないというのが現状だ。

もちろん、布教の動きが全くないわけではない。Fさんのように、『布教活動は低調ではない。むしろ盛りあがってきているのではないか』という人もいるのである。

昨年の九月、大名町教会のレジオは、信徒協その他と協力して布教研修会を開催した。またこの研修会の中から生まれた教区青年の連合体は、布教を中心に活動をはじめようということで、いま組織づくりを進めている。

こういう動きを見ていると、いかにも布教活動が盛りあがっているような印象を受けるが、Gさんは、つぎのようにこれを否定する。

『布教研修会も青年会も、布教の一歩手前のことをしているのであって、これは決して布教ではない。一歩ゆずって、布教の第一段階として認めたとしても、これを動かしているのはきわめて小数の活動家。しかもその後ろには、布教など見向きもしない、頑迷そのものの多数の信者がひかえている。

意地の悪い言い方をすれば、小数の活動家はいつの時代にもいて、自分たちだけの活動をしてきた。今日の問題は多数の信者が、どう布教のために動くかであってそういう意味では、布教活動が盛りあがっているとも、大勢が動いているとも思われない』

小教区と個人の布教大切に

布教研修会の推進力となり、研修会が終ったあとも、青年連合体の組織づくりに奔走している若者たちがいる。この人たちは教会のアクション団体にも加わっていて、日常活動の中で、身をもって布教のむずかしさを味わっている。それだけに、現代の布教活動に何が障害となっているかを、鋭い目で見つめているので、つぎにこの人たちの声を、幾つか紹介してみよう。

教会に消極的にさせる雰囲気があって、それが信徒の活動を阻害している。（Hさん）

司祭は信徒の失敗の責任を負うまいとして消極的になり、信徒は失敗を恐れて消極的になっている。（Iさん）

司祭は気に入った信徒を自分の目のとどくところに置き、自分の計画した仕事をさせる。そこから司祭が自分に忠実な信徒を可愛がる傾向が生まれ、自主的に活動する信徒がいなくなる。（Jさん）

布教は活動家だけの仕事ではない。信徒の全員が布教活動をはじめなければならない。（Kさん）

なぜ布教活動が盛りあがらないのか、教会、信徒の中にある原因については、これまで多くのことが言われてきた。この若者たちの声もその中の一つに過ぎないが、それにもかかわらず、いぜんとして布教活動が沈滞しているのはなぜであろうか。

その大きな理由は、結局、私たちが教会や、信徒の中にある原因を取り除き得ないということに帰着しよう。いまの私たちはそういう条件の中で、布教活動を進めなければならないのだが、どこにその方法を求めたらよいのであろうか。

布教といえば、ドンピシャリの方法があると思って探し回る信徒がいるが、そんな方法があると考えることが間違いで、またそんな姿勢の中から、ほんとうの布教活動が生まれるはずもないのである。布教は、単に未信者を教会に誘うことではない。この人に神を知らせて、カトリックの救いに導こうというまごころと、この人の救いのためなら、どんな犠牲でもしようという愛がなかったら、布教活動は意味をなさないのではあるまいか。小教区の中には、光ケ丘教会のレジオのように、教区の未信者家庭にパンフレットを配布しているところや、病院訪問をとおして、布教の輪を広げているグループがある。またいっぽうには、ひそかに俳句を教え、それによって布教の糸口を見つけている人があり、団地の奥さんや、事をひいてくる商人との会話の中で、キリストを知らせようと努力している婦人もいる。

Lさんは、『愛をもってイエスさまを知らせることが布教だと思っています。私たちが信じてそれを行なうなら、すぐには実らなくても、いつかはかならず実を結ぶはずです』というが、私たちはこのような、小教区、個人の布教をもっと大切にしてよいのではなかろうか。

信徒全員の布教

『宣教活動に関する教令』の布教には、マスコミによる布教、出版による文書伝道など、高い次元の布教が含まれているが、いま私たちに要望されているのは、信徒の全員が布教に起ちあがることである。

それは何をどうということではなく、信徒の一人一人が、身のまわりから、自分の手のおよぶところから布教をはじめるということで、私たちはそういう布教を進めていくうちに、神の愛にみちびかれて社会に目をひらき、もっと次元の高い方法にもたどりつくことができるのではあるまいか。

ガイヤール神父がいうように、私たちの布教は、社会正義の中にも向かわなければならないが、そのためには、社会の中に、きびしいカトリック批判があることを知って置く必要がある。

いつかある人に『君たちが布教というのは、カトリックのエゴイズムではないか』と言われたことがある。社会には経済や、政治のヒズミの中で苦しんでいる多数の人がおり、その人たちのために、苦しい闘いをつづけている人たちがいる。そういう人たちのためには何もしないで、教会を押しつけようとするのは、カトリックのエゴイズムだというのである。

これは、カトリックの弱点を突いたものと考えてよいと思うが、それよりも私たちは、一般社会の人たちが、口に出しては言わなくても『カトリックは何をしているのか』と、たえず私たちに目をそそいでいることを知るべきであろう。

私たちは『カトリックは社会のために何をしているか』と人に問われたとき、大きな声で、これに答えるだけのものを持っているであろうか。残念だが何も持ってはいない。そうだ、私たちは何もしなかった。ベトナム戦争のためにも、水俣病のためにも……。そしていまも何もしてはいないのである。

社会と教会の壁

三月二十日、熊本地裁の水俣病裁判は、

『被告チッソは、工場廃液を放流するにあたり、安全を確認するなどの注意義務を尽さず、その後の対策や措置も、きわめて適切を欠いた。見舞金契約は公序良俗に反し無効である』として、患者側の主張を、ほぼ全面的に認める判決を言い渡した。

患者勝訴――チッソが法の前に屈するまでの十七年間には、患者とその家族の言語に絶する苦しみがあり、患者を助けて働いた『水俣病を告発する会』など、多くの支援団体と、個人支援者の激しい闘いがあった。判決当日のテレビにも、地裁の前に座り込んで、発表を待っているこの人たちの姿が写しだされたが、あの中に、はたして幾人のカトリック信徒がまじっていたであろうか。

水俣病を支援している信徒のことは、幾たびか耳にしたことがあるが、それは氏名も明らかではなく、指を折るにも足りない数であった。多くの信徒が、『この子は殺して死ぬ』と叫んだ母、父や母を殺された子、また植物人間という言葉さえ生んだ、口をきくことも、動くこともできない患者の叫びと苦しみに、耳を傾けようとさえしなかったのである。

神の義を説き、神の愛を口にする、カトリックの信徒がこれでよいのであろうか。これはガイヤール神父がいう『カトリックのウソ』、そして社会の人たちが指摘する『カトリックの欺瞞』ではないのか。

私たちはいま、こういうカトリックの姿勢が、社会と教会の間に大きな壁となって立ちふさがっていることを、肝に銘じて知らねばならない。カトリックのなかにこんな姿勢がある限り、社会はカトリックを拒否し、私たちがいかに努力しても、布教を推進することはできないだろう。いやそれよりも、大衆は蔑みの中に、いよいよカトリックから遠ざかっていくに違いないのである。（広報室）

信愛女学院〔本〕〔熊〕で記念式典

熊本信愛女学院（市内上林町、吉沢百合子校長）は、二月二十四日午前九時半から学園創立七十周年記念式と体育館兼講堂の落成式を挙行した。

平田司教の祝別のあと、熊本県知事、市長、市立学校協会理事長職員、生徒が学園のながい歩み、かがやかし成果とかくれた労苦をしのんび、こんごの発展を祈った。

同女学院は明治三十三年、幼きイエズス修道女会のメール・ボルジア（フランス人）が創立し、本年で七十三年の教育伝統をもつことになる。

こんどの体育館は建坪一六七〇平方米、地上三階、収容人員二千人。一階の特別教室のほか、教官室、シャワー室、車庫などが設けられている。

栄養のバランス
牛肉・かしわ・豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
TEL 52・4015

女子学生（原則として短大生）のための寮
光の園ホーム
詳細については左記にご連絡下さい
〒816 福岡市博多区光丘町二の四二
福音の光修道会
TEL092・58・1663
係シスター川岡

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ㊲2673

ヴィノ・デ・ミサ
（ミサ用ワイン）
720mℓ入 1,000円
教会の信者さまがたから好評をいただいております
取扱店
大楠酒店
福岡市南区大楠二丁目4番8号
電53・4718
ミカエル青木実（大楠教会）

紳士の気品と誇りを創る
お誂え洋服
紳士服の
ニューライン 糸永
電話 福岡 52・0820
ペトロ 糸永秀雄
福岡市中央区小笹四丁目4番2636号

辞書は三省堂

雑役と点字で盲人に奉仕

教会に広げよう使徒職の輪

教会の信徒使徒職論議をよそに私は私なりの使徒職をとひそかに点字を学び、盲人に奉仕している老夫婦がいる。大名町教会の信者で、福岡市下呉服町に住む横山清さん（64）と、奥さんのハルノさん（63）がそうである。

「まだ序の口で人に話すことではありません」というこの人たちの奉仕は、二年前ハルノさんが点字の講習会に参加したことから始まった。講習会は一般の人に点字を教え、盲人の教養になるような本を点字になおしてもらいたいと、市の身体障害者協議会盲人部会が行なっているものだが、清さんはこの講習会にハルノさんを送っていくうちに、盲人の講師が不便を忍んでいる点に気がついた。

ある日「何か手伝わせてください」と申し出て、講習生に点字板を配ること、そのあとの整理、貸し出しの記帳などを受け持った。それからずっと休まずに続けているが、最近は頼まれて、官庁関係に提出する書類まで作っているという。

ハルノさんは小説「ビルマの竪琴」の点字化を思い立ち、仕事の余暇を、二年近くこの仕事に打ち込んできた。一日に点字板二枚（裏表）がやっと、量にして文庫本約二ページというから、これは大変な仕事だ。

だがこの二人の何よりの喜びは、盲人との私信の交換。いま通信をしているのは、福岡市今津老人ホームの内藤福寿さん、栃木県那須町聖心園老人ホームの市川雪子さん。この二人の老婆は、清さんとハルノさんの便りを唯一の楽しみとし、とくに市川さんは、ハルノさんがはじめて便りをしたとき「嬉しくて涙がこぼれました」と喜びの返事をよこしたそうだ。

清さんは「魂の落ちぶれるのが恐ぐ、何かしなければと思ってはじめましたが、盲人には心の澄んだ人が多く、かえってなにかと教えられます」と語り、ハルノさんは「私が感動したのは日赤の奉仕グループで、若い人たちが点字を勉強し、博多歳時記や汽車の時刻表を、いっしょうけんめい点字に打ちなおしています。カトリックにもそんなグループが欲しいとしみじみ思います」と話してくれたが、カトリックの中に、このような使徒職……愛行の輪を広げたいものだ。

日本宣教六十五年

ヴェイヨン神父帰天

F・ヴェイヨン神父は、三月十二日早朝、行橋市の新田原病院で老衰のため死去した。九十歳。葬儀は十三日午後二時、新田原教会で平田司教、ミルサン管区長ら約四十人の司祭の共同ミサでおこなわれ、湯川墓地に埋葬された。

ヴェイヨン神父は一八八三（明治十六）年、フランスの生まれ、一九〇七年十二月パリ外国宣教会本部で司祭叙階、翌年長崎着、二年間豊崎で日本語習得後、長崎県五島の久賀島教会を十八年間司牧（五年間は第一次大戦で応召）司祭十八、修道者五十九人の召出しを育てた。福岡教区が長崎から独立した昭和二年に呼子教会にうつり、十一年から二十三年まで唐津主任、そのあと門司の天使の聖母修院の指導司祭をつとめて引退、パリ会北九州本部で余生をおくっていた。司祭生活六十五年三カ月。

叙階式と選任式

三月十七日福岡大神学院で、平田司教司式による助祭叙階式と、選任式がおこなわれた。

助祭位をうけたのは名古屋教区の狩浦正義氏、教会奉仕者に選ばれたのは長崎教区神学生の中島健二、前田万葉、松下光男の三氏。また宣教奉仕者に選ばれたのは同じ長崎教区の村川昌彦と島田健二の二神学生。

聖式は昨年八月新しく制定されたもので、従来の剃髪式、下級叙階、副助祭の制度は廃止、代って教会共同体の奉仕のため「宣教奉仕者」と「教会奉仕者」という二つの役目が選任式によってさずけられる。この二つの役目は司祭を志願する者だけでなく、男性信徒もつけることができる。その条件、資格は司教協議会がきめる。

二期工事も完成（光の園保育園）

創立20周年のお祝いも

光の園保育園（福岡市博多区光ケ丘、木付節子園長）では、第二期工事の落成式をかねて、二月二十五日午後二時から創立二十周年記念式をおこなった。平田司教に代り参列の深堀司教がテープを切って建物を祝別、経営母体である福音の光修道女会の佐藤総長（社会福祉法人・光の園理事長兼任）が感謝のことばをのべ、亀井県知事（代理）、進藤福岡市長、西村法昭氏（全国保育所連盟副会長）らの祝辞があり、おわりに園児・職員による園歌の発表があった。

昭和四十六年十二月に終った第一期工事とこん回の第二期工事で園の建設は完成。総工費六千五百万円、鉄筋コンクリート三階建、塔屋付で延千二百四十四平方米、日本自転車振興会、船舶振興会から約三千三百万円の補助金が得られた。三階の一部は修道院と女子学生寮、収容児童は乳児六十六人、2歳以上児八十四人計百五十人。保母十七人。過去二十年間の卒園者は六百八十人。

信徒点描

自分の信仰の上に立って

芦屋射爆場反対の　岡部睦子さん

「射爆場の反対運動をしているうちに、町会での議員の姿勢がわかり、町政がどういうものかを知りました」

遠賀郡水巻教会の婦人会長で、海老津地区の役員も兼ねている岡部睦子さん、四十四歳。

この人が芦屋射爆場の、自衛隊使用反対運動に飛び込んだのは昨年の十月、末の娘さんが通っている山田小学校で、PTAのお母さん達に、「町会議長さんにお願いにいきましょう」とさそわれたのがはじまり。

防衛庁が、米軍から返還された芦屋射爆場を、航空自衛隊の射爆場にしたいと申入れたのは昨年の三月。これに対して岡垣町は、五月二十七日の町議会で射爆場撤去を決議したのだが、「座り込んでも射爆場を撤去させる」といっていた町長の深田順一氏が、防衛庁と交渉を重ねていくうちに、「国の壁は厚く、即時撤去は無理」と態度を変えた。町長は七月になると、射爆場の使用に同意の意思を表明し、このへんから「射爆場撤去をすすめる会」、「子どもを守る母の会」など、住民の反対運動が急速な盛りあがりを見せはじめる。

岡部さんが「子どもを守る母の会」に加った十月は、深田町長が住民の反対運動をしり目に、同意書と「自衛隊が五年間使用しその後の使用については関係町と協議」という覚え書を、正式に福岡防衛施設局に提出した時期に当っていた。岡部さんは、盛りあがっていく運動の中で、町長、町議会議長など、町当局との交渉にかりだされたが、いつも、老獪な当局にたくみにかわされ、また撤去するという回答を引き出しても、翌日はもうくつがえされるということの繰りかえしだったそうだ。

「私は自分の信仰の上に立ってこの反対運動をはじめました。そしてこの町のためにも、子ども達のためにもぜひ撤去を実現したいと願んでいます。でも時おり、ふっと、この私の行ないが教会に迷惑をかけるのではないかと、危惧を感じることがあります」

岡部さんは大分県中津市の出身。自宅の前がカトリックの教会で、子どものころはよく遊びに行った。受洗はずっと遅れるけれど、終戦の翌年、あいついで亡くなった二人の兄さんの信仰と、その兄さんの病床を見舞ってくれたマルテリという神父の影響を受けた。またフランシスコ会の稲用神父は、お母さんの弟で叔父に当たる。カトリックが、ずっと岡部さんについて回った感じだが、それだけにこの人の信仰に対する自覚は強く、反対運動をしていても、いつも信仰からそれないように気を配ってきたという。

「こんどどうなるかわかりませんが、三里塚のような結末は迎えたくありません」

深田町長のリコールがはじまったのは、ことし二月の二十二日。そして町長は二十五日夜辞表を提出し、射爆場問題の舞台は町長選挙へ移行することになった。町民の意向を無視した町と、町議会に反発した町民のパワーが、町長を辞任へ追いやったわけだ。

選挙の結果はわからない。しかしいずれにしても、反対派の人達が、強大な国家権力と保守系の圧力に抗して、どこまで闘うかがこんごの焦点になりそうだ。岡部さんの活動も、こんごいっそうきびしく、困難を加えていくに違いないが、カトリックの信者として、一家の主婦として、深い考慮と勇気をもって対処してもらいたいものだ。

第四回結婚講座

5月17日福岡でひらく

福岡結婚講座センター主催の第四回結婚講座が、来る五月十七日から六月九日まで、毎週木、土曜の二回、午後七時から九時まで、福岡市大名町教会の旧聖堂でひらかれる。

この講座は一種の学校」と呼ばれ、結婚生活が真の幸福に至るため、高められた愛がいかに不可欠のものであるかを強調する。家庭を築く出発点である結婚について、あらゆる角度から指導を与えるこの講座は参加者に大いに利益するはず。

講座には原則としてこれから結婚する人、最近結婚した人が男女二人いっしょに参加する。また信者にかぎらず誰でも申込むことができる。

プログラムは、5月17日（木）オリエンテーション、婚約時代。19日（土）新婚時代、座談会。24日（木）夫として父として、妻として母として。26日（土）愛の円熟をめざして、座談会。31日（木）社会と家庭とのつながり、人生の門出。6月2日（土）すこやかな子を生むために、座談会。7日（木）家庭経済・男性の立場から女性の立場から。9日（土）結婚の価値と意義、修了式とパーティ

問合わせ先は、小郡市津古四八七の三、井上輝正。申込み書は四月初旬に各教会に送付する。

児童福祉献金

（1月28日）

大名町	11,249円	門司	10,000	大江	4,100
浄水通	5,780	門司港	2,000	高宮カトリック幼稚園	19,858
光ケ丘	6,532	小倉	21,500	福岡 〃	4,780
西新	13,582	湯川	11 291	西新 〃	55,233
美野島	2,220	戸畑	29,363	八幡 〃	79,400
高宮	12,000	若松	6,000	小倉 〃	58,600
吉塚		天神町	5,000	宮ノ尾 〃	25,730
茶山		八王寺	8,000	二日市 〃	37,130
箱崎	3,611	黒崎	21,000	田川 〃	44,575
大楠	2,305	本城	2,210	戸畑天使園	153,728
東田島	2,200	水巻	5,000	若松 〃	30,000
古賀		直方	19,500	久留米聖母幼稚園	48,222
二日市	3,539	飯塚	2,000	菊池 〃	15,000
久留米		田川	2,650	大濠幼稚園	10,000
大牟田	2,700	行橋	5,500	人吉 〃	20,000
吉野	1,730	新田原	57,485	水俣信愛 〃	20,000
今村	19,600	荒尾	450	聖母愛児 〃（熊本）	22,733
本郷	7,500	玉名	3,020	殿ノ浦愛児園	4,100
小郡	2,230	手取	16,000	カトリックさゆり園	23,418
呼子	4,463	健軍	10,710	大牟田明光学園	12,233
馬渡島	4,500	帯山	7,300	熊本マリスト学園	9,500
佐賀	6,000	島崎		熊本信愛女学院	30,000
唐津	3,000	菊池	5,000	八代白百合学園高校	12,090
伊万里	2,000	八代	4,000	福岡愛業学園	119,239
鳥栖		人吉	8,500	福岡海星女子学院	45,000
武雄	1 100	水俣	3,000		
鹿島	1,000	本渡	6,500		
多久	2,000	崎津	7,865	計	1,306,354円

高麗人蔘茶（韓国専売庁管理品）2,300円

医学博士　黒田倭民先生談

最近は、自律神経失調によるものが多く、高麗人蔘は間脳に作用し、ホルモンの高位中枢を刺戟するらしいので、ホルモンの分泌を促し、バランスを保つので体調がよくなるわけで、食欲増進、肩こり、冷え症、めまい、便秘、いらいら、不眠症etc。ホルモンのアンバランスには大へんよいと思います。

利益金を生命尊重運動活動基金と乳児院の補助資金に当てます。購入ご希望の方は左記にお問合せください。

生命尊重運動九州支部
〒814 福岡市西区別府2—16—13
電話 82—4968
本多義昭

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の　河野電気
ミカエル　河野三千夫
福岡市田 1162—29
TEL 87—3099

教養

童話

空がなくなった

武田幸一

ユキオくんの家は、にぎやかな町のどまんなかにあるのです。三年まえ、北に向いたおもての五メートル道路のむかいがわに、三かいだてのスーパーマーケットができました。買物するのには、とても便利になりましたが、それからというものは、まいにちつめかけるお客さんで、とってもうるさく、大売出しの日など、がやがやわいわい、やりきれないさわがしさでした。

ところがきょねん、東がわにくっつくようにして、四かいだてのアパートができました。それまでは、まあ町の中だからしかたがないと、おとうさんも、おかあさんもあきらめていたのですが、こんどはまた、がまんのできないニュースが、とびこんできました。

ある夕方、西がわとなりのタケシくんのおとうさんが、かおいろをかえて、かけこんできました。

『吉田さん、たいへんですよ。家のうしろに、十二かいだてのビルがたつそうですよ』

『なんですって？南がわに、十二かいのビルなんかたてられては、このえんがわはまっくらになる。空がなくなってしまう』

ユキオくんのおとうさんも、かおいろをかえました。

『そうですよ……、一日じゅう、日があたらなくなる。どたい、むちゃなことだ』

それをきいていたおかあさんは大きなためいきをつき、おばあちゃんはなきべそをかいています。

『ほんとだ……、ぼくんち高いたてものの中にしずんで、空が見られなくなっちゃう』

ユキオくんも、ガックリです。

『いくら空がなくなったって、なん十年も住んでいるこの家を出たくない』

おばあちゃんはそういって、しくしくなきだすしまつでした。ユキオとタケシのおとうさんは、それからはなんども、なんども、ビルをたてるの取りやめてもらうように、やくしょにこうしょうに出かけましたが、そのかいもなく、ビルの工事がはじめられました。

『ぼく、べんきょうなんて、ぜんぜんできんよ』

『そうだよ、夜おそくまで工事をやるんだもん。ギイゴー、ガタンガタンって、あのきかいの音、やりきれんね』

『ぼくんちのおばあちゃん、ノイローゼになって、すぐめそめそなくんだ』

ユキオくんとタケシくんは、学校へいくみちみち、そんなはなしばかりです。

しかし、ひるまるおかまいなしに工事がすすめられ、高く鉄骨がくみたてられ、セメントがながしこまれて、十二かいのビルはできあがっていきました。

『おせんたくものが、セメントだらけなの』

おかあさんは、ためいきばかり。

『セメントがふってきたり、鉄の板きれがおちてきたり、きけんでしょうがない』といって、おとうさんは、いよいよ、この家を売る決心をしました。おばあちゃんも、こうなっては、あきらめるよりしかたがありませんでした。

ビルができあがりました。あかるい五月晴れというのに、ユキオとタケシの家は、まるであなぐらにいるように、ひるまでもうすぐらくなってしまいました。

そして落成式の日、ユキオくんの一家は、タケシくんの家よりひとあしさきに、町はずれにひっこすことになりました。ビルの屋上では花火があがり、なん百という、いろとりどりの風船がまいあがります。その一つがふわりふわりと、ユキオくんの家のお庭におちてきました。それをひろったおとうさんが、風船の文字をよんでみると、『平和なあかるい町づくりをおひきうけする、平和げんせつビル落成記念』とかいてありました。

『ちえッ、とんだ平和な町づくりだよ』

おとうさんはそういって、風船をバーンとたたきわりました。そして、みんなトラックにのりこんで、空のなくなった家を出ていきました。（童話作家、日本児童文学者協会福岡支部代表）

連載随筆

炉辺詩語

賭（かけ）

森雅生

命二ッの中に活たる桜哉　芭蕉

芭蕉の『野ざらし紀行』末尾に見られる一句で、この句には『水口にて二十年を経て故人に逢ふ』という詞書がついている。故人というのは門弟服部土芳のこと。土芳は芭蕉とおなじ伊賀上野の人で、槍術をもって藤堂藩に仕えていたが、芭蕉の門に入り、元禄元年草庵を結んで『蓑虫庵』と称した。伊賀蕉門の中心人物である。

芭蕉は、土芳が播磨へ行っていた留守に伊賀に寄き、土芳が帰ったときは大和、京へ向けて旅立っていた。土芳はすぐ後を追い、先回りして、近江国伊賀那水口の駅で対面を遂げることができた。芭蕉が伊賀を去ったのは十九年前、土芳十歳、芭蕉二十三歳のときであったから、すでに二十九歳となり、たくましく成長した土芳を見たとき、芭蕉はその成長ぶりに、さぞや驚きの目をみはったことであろう。

この句の『命二ッの』は、土芳と芭蕉自らの命が、ここに再会したということで、句意はその二つの命の間に、もう一つ爛漫と花をつけた桜が、命生きて立っているというのである。

『野ざらし紀行』は、芭蕉が全人生を賭けて決行した命がけの旅であった。野に骨をさらすことを、心に思い描いたほどの芭蕉だから、その旅の終りに、土芳と再会した感動の中には、旅立の際の絶望感と、悲壮な死の思いが、響となってこもっていたに違いない。それが『二ッの命』となり、とくに『命』という表現に収約されて、私たちの胸に迫ってくるのである。

『野ざらし紀行』は、

千里に旅立ちて、路粮をつつまず、三更月下無何に入るといひけむ、むかしの人の杖にすがりて、貞享甲子秋八月、江上の破屋をいずる程、風の声そぞろ寒げなり。

という書きだしではじまる。冒頭の『千里に旅立ちて』は、荘子『逍遥遊篇』の『千里を適く者』にもとづいているといわれ、遠い旅に出ることであるが、いっさいを旅に賭けた芭蕉の苦悩が、実感をともなって心に訴えてくる。そして『風の声そぞろ寒げなり』にも、その悲痛な魂の声は聞かれるのである。

人間は転機に立ったとき、いっさいを捨てて、つぎの行動に自分を賭けなければ、その転機を乗り切ることはできない。自分を賭けるということは、『成るようにしか成らない』運命に、自分をまかせることではない。私が、自分の人生を賭けて何かを企てたとき、自分の努力で、それが成功すると期待することはできない。企ての前途には、多くの困難と障害、不運が横たわっているからである。だが私はこの成功に期待することを決意する。それが賭というものであり、そういう意味で人生は賭なのである。

『パスカルの賭』ということがある。この世に神が存在するかどうかは、理性によって決定することはできない。パスカルは『そこには、われわれを隔てる無限の混沌がある。この無限の距離の果てるところで、一つの賭がおこなわれる。表が出るか、裏が出るかなのだ。君はどちらに賭けるか？』というのだが、重点は、その『どちらに賭けるか？』にあるのである。信仰もまた一つの賭であるということができようか。

詩

霧雨

安永俊国（詩人・匈奴の会同人）

麦笛が聞えている
霧雨の中から

きのう　大陸の島嶼山脈あたりから
垂直に降ってきた　雨
それはまるで拾鉢のように思われたが

幼な子の　おさげをやさしく編むように
きょう　六月の雨は静かに降る

あじさいの花びらの
アイシャドー
瞼をさするように
きょう　六月の雨は美しく降る

麦笛の音は　霧雨の中を
霧雨は　幼な子の瞼の中を
一つにまろして静かに降りつづけている

聖書のなかの家庭 (5)

主のことを求めて生きる

新しい人間をまとうことで

越えられぬカベ？

パウロは、結婚しないで主のことに専念するのがもっともすぐれた道であると言い、また他方では主に生涯をささげて修道の生活をするのは、誰にでもできることではないと言う。「若いやもめは再婚して子を生み、家をおさめ敵に乗じさせる余地を与えないように」（チィモ前5・14）。

では、まじめに家庭生活をいとなんでいても、その人には「主のことを求める」のは不可能なのだろうか。家庭生活と独身生活とのあいだには越えられないカベがあると言うのであろうか。いやそうではない。

キリストをまとって

キリストは、男女のつながりをもふくめて、万物を新たにされるとパウロは言う。

「あなたたちは、新しい人間をまとったのである…。そこにはギリシヤ人とユダヤ人…奴れいと自由民の区別はない」（コロサイ3・10—11）。かれは同じことを取扱ったガラチア3・28で「もう男も女もない。あなたたちはみな、キリストにおいて一つだからである」とのべている。

それは、キリストと一つになった者の生活では、男は男以上のものに、女も女以上のものにならねばならない、ということである。男も女も、おのおの自分の役割にだけたてこもっていてはいけない、キリスト者としてそれ以上にすべきことがあるという意味である。男と女は相対立するのでなく、相互の愛とゆるしの心を最高度に高めねばならない。

「だからあなたたちは、慈悲、なさけ、謙遜、柔和、寛容をまとえ。互いに忍び、ゆるし合え。主がゆるして下さったように、あなたたちもそうせよ」（コロサイ3・12—13）。

互いにしたがう

パウロはまたローマの牢獄のなかから、小アジアのエフェゾの信者にあてた手紙で、男女の関係について深い教えを伝えている。

「キリストを畏れて互いに従え。妻たちよ、主に従うように、夫に従え。キリストが自分の体である教会のかしらであるように、夫は妻のかしらである。教会がキリストに従うように、妻はすべてにおいて夫に従え」（5・21—24）。従うというのは、ここではキリストと教会の模範によって解釈される。

従うとは尊敬と深い理解を示すことである。夫はキリストの例にならって、まずかれの方から妻にたいして、この尊敬と理解を見せねばならない。

「夫たちよ、キリストが教会を愛し、そのために命も与えられたように、あなたたちも妻を愛せよ。夫も自分の体のように妻を愛さねばならぬ」（5・25…28）。

男女が互いに従うとは、自分を与え、また自分を真に愛することでもある。キリストご自身、ご自分の体となった教会、すなわち私たちキリスト者を愛して、すべてをお与えになったのである。

「妻を愛する人は、自分を愛する人である。誰も自分の体をにくむ者はいない、みなそれを養いはぐくむ。キリストも教会のためにそうされるのである。われわれはかれの体の肢体である。『これがために男は父と母とをはなれ、妻と合って、二人は一体となれ』。この奥義は偉大なものである」（5・28—32）。

今月おすすめする本

『生きること、思うこと』

三浦綾子著

マスコミの渦の中で生活し、他人の思考のままに振り回わされながら、他人のことのみに興味を持ちがちになる現代人にとっては、マスコミの中でまるめられた、マス・センスを離れて、自己本来の姿と思考をとり戻す努力が必要かと思われる。「生きるとはまず、自分自身の姿をみつめることから始まると考えている。自分がいかなる者かをわからぬままで、自分の生きる道を探しあてることは不可能なような気がする。実にわたしはそう思って、自分をみつめてきたつもりだった。だが年を重ねるに従って、自分自身を知っていないことに気づくようになった」とこの書の著者はいう。そしてこの自己をみつめることの努力が、この随筆の形となってあらわれたのであろう。信仰にあふれ、明るい庶民性をもった、謙譲な自己探求と告白は、現代人に必要な、自己をみつめ、知ることの大切さを教えてくれる。（主婦の友社発行）（松本）

布教者は
まず自分自身に
布教しなければ
ばならない。
〃今こそ恵みのとき〃
主のご復活にそなえて
ぜひご一読ください。
☆キリストの受難と復活
☆苦しみの秘義
聖パウロ書院
大名町教会隣
でんわ ⑭四五八八
¥520 ¥1,500

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 ⑫0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額　五〇〇万円
一、募金方法　一口五〇〇円
一、送り先　本誌編集部（振替福岡四二九八一）

寄付者報告（敬称略）

一万円・松尾静香（小倉）二千円・赤星宏（美野島）五百円・小池末吉（福岡市）

「生きる」を大会テーマに　高校生九州大会

カトリック高校生会の全九州リーダー会議が、四月三、四の両日熊本市でひらかれ、今夏開催される全九州大会の実施要項を決定した。これによると大会責任は九州各地で高校生会の霊的指導にあたっている司祭団（代表西田邦洋神父）、大会事務局は北九州学連（小倉カトリック教会内、村松俊一会長）、「生きる」を大会テーマに会期は八月六日―九日の四日間。なお会場は未定。会費二千五百円。

広報の日にあたり
情報を自主的に選択し、良心的に対処する能力を養おう

マスメディアが異常なほどに発達して、個人内部にまでふかく滲透しているため、私たちは送られてくる情報にただ受身的になっている。私たちは、個人としても大衆としてもアスメディアを利用するどころか、それにふり廻され、もてあそばれる身になっている。

日本における放送、出版物などのような内容と影響力と効力をそなえているかは、いまここで説明するまでもない。そしてそれは日本だけでなく、多くの国々でも同様である。

教会はこういう社会情勢の到来を予知していたかのように、早くから広報機関に関心と配慮をはらってきた。日本でも昭和七年から「カトリック出版デー」が、また十三年には「出版布教の日」が設けられた。そしてバチカン公会議では広報機関にたいする教会と信者の責任があらためて検討され、やがて「広報の日」が制定されることになった。

さてこの広報の日に、私たち信徒は、何を考え何をすればよいのだろうか。

膨大な資本と組織力の上に立つマスメディア企業を、非力な私たちがかんたんに左右できるとは思わない。しかしマスメディアに一方的にあやつられ、利用されている存在から、かえっていくらかでもそれを利用する側にまわることはできないだろうか。

私たちは、マスコミの仕事に従事する人たちを批判したり非難するよりも、情報を受けとる者としての責任を反省したい。

マスメディア企業も営利事業であるかぎり、もうけ主義、煽情主義に陥りやすい。したがって人の心をそこなう有害なプログラムを送り出すことが少なくない。しかしその反面、健全な娯楽、教養をふかめる内容の情報を提供することもめずらしくはない。このように善悪、長短混合の内容をもつ広報機関にたいして、私たちは一方的に悲観的であったりまたは楽観的であってはなるまい。むしろ私たちは洪水のようにおし寄せてくる情報にたいして、自主的に選択し利用するか、良心的に対処する判断を確立しまた節度と規律の習慣を身につけていなければならない。

このような正しい判断力と良心の形成には、ただするどい知性だけでなく、生活の中に根ざした信念と責任感、しっかりした価値観を育てあげてゆかねばならない。そのためにも家庭では両親が、小教区では司祭や他の指導者が、また職場では信仰に生きる信徒が、小さな集まりを作っているメンバー、とくに青少年たちに正しい目と心を育ててゆくよう、配慮してもらいたいものである。

じっさい家族ぐるみで、また小教区の仲間の集りで、マスコミにたいする意見や反応を語り、確かめ合うことによって、このような目と感性が育成されてゆく。

こうした心の貯えができたとき私たちは自分の経験や教養にてらして、送られてくるものの内容を吟味し、拒否したり受け入れたりすることができる。また集まりの中で出来あがった意見を、質問や回答の形で投書することによって送り手に影響を与え、いくらかでもこれをリードすることができるのである。

広報の日に信徒は、広報機関の浄化と発展のために祈り、これを利用しての使徒活動が効果あるものになるよう、援助してゆきたい。さらにマスメディアを善用できる人間となれるよう、これからもいっそう具体的な努力をつづけることは、何にもまして重要なことであろう。（松本忠信・男子聖パウロ福岡修道院長）

松尾新会長を選出
北九州信徒協で改選

北九州信徒使徒職協議会では、このほど代表者会議をひらき、報告と役員改選をおこなった。

エキュメニズム教会一致のための聖職者会議と信徒構成の委員会のあり方について、改善意見がのべられたあと、教区の他地区の信徒協の昨年度の活動状況が報告された。

つづいて役員改選がおこなわれたが、会長に若松教会の松尾光敏氏がえらばれ、他の役員はすべて会長一任となった。

新役員はつぎのとおり（敬称略）

副会長＝白石鉄也（湯川）村松正俊（戸畑）、会計＝頭島勇（八王寺）、理事＝馬込弥八（小倉）森田十郎門司）古賀喬（天神町）深堀博黒崎）泉洸（新田原）の諸氏。

広報の日講話と座談会
女子パウロ会が教会訪問

六月三日は『世界広報の日』にあたる。福岡聖パウロ女子修道会ではこの日を記念して、男子パウロ会松本神父の広報にかんする講話、参加信徒によるテレビ放送を考える座談会を行なうことをきめ、つぎの予定で教会を訪問することになった。

五月六日戸畑教会、十三日新田原、築城教会、二十日、天神、本城教会、二十七日小倉、島崎、光ケ丘教会、六月三日、高宮、黒崎教会、十日佐賀、唐津教会、十七日大名町教会

ことしの小神新入生

福岡小神学校（福岡市中央区浄水通三八、島山七郎校長）のことしの新入生は六八。中学生は市内平尾中学校に、高校生は泰星に通学する。新入生氏名と出身教会はつぎのとおり。

中学一年＝夫津木裕之（呼子）頭島潔（新田原）牧山満成（馬渡島）岡部敬三（水巻）

中学二年＝力久隆司（唐津）

高校二年＝下町豊重（崎津）

教会りぐめ

八王寺（ルルドの聖母）教会
八幡区八王寺一丁目

小倉の到津遊園地車庫前で電車を降りて、遊園地の崖沿いに右へ歩いてゆく。このあたりは八幡区で、遊園地の山つづきと思われる高いところに、パリー外国宣教会の本部が見えている。

ドルエ神父

八王寺教会はこの宣教会の中にあって、建物の二階がミサの行なわれている聖堂である。主任司祭は、ことし満八十六歳になるというドルエ神父。

『この教会は、少し変っています』と言うのは、教会が宣教会の中にあって、その建物を聖堂に使っているということだろうか。

教会ができたのは昭和三十年の十二月。信者は約二八〇人で、そのうち約3を旧信者が占めている。

ここでは、北九州の信徒協の人たちがよく会合をひらく。したがって使徒職活動も活発だが、幼稚園の父母に受洗者の多いことも この教会の特徴だ。これは前にいたバスチ神父の努力によるものというが、ことしもすでに安河内佳子さん、浜崎映子さんの二人が受洗している。

いま教会の中心となって働いているのは、教会委員長の頭島勇さん、委員の大北良助さん、女性では婦人会長の加藤キヨ子さん。この人たちは、ドルエ神父を援けて、よく信者たちをまとめているようだ。

ドルエ神父が、はじめて長崎にやってきたのは明治四十四年。それから六十余年が過ぎ去ったわけだが、神父はそのうちの十八年間を、神学校で教鞭をとり、多くの邦人司祭を育成してきた。『教え子の中には、大司教、司教もまじっています』それはこの人のひそかな喜びであり、また自慢の種なのである。

『故郷はフランスの西部です。兄弟の子ども達がいますが、もう帰ろうとは思いません』この人は日本に骨を埋めるつもりだ。生涯をかけて日本、とくに北九州のカトリックに尽した功績と、それにともなう労苦を思うと、頭を下げずにはいられないものがある。元気なうちに、その功績と労苦に報いる方法はないものだろうか。

『フランスに〝飢えた腹には耳がない〟ということわざがありますが、布教は耳にではなく、心に語りかけねばなりません。そしてまた、教会が家庭になるということが大切です。初代教会がそうでした。それが未信者に対して、大きな魅力となっていたのです』この人の胸の中には、いまもなお、布教の情熱が燃えつづけているのである。

五月に結婚講座

近く結婚しようとする男女、新婚間もない夫婦のため、幸福な家庭をめざす「結婚講座」が、五月十七日から六月九日まで、毎週木土曜の二回、午後七時から九時まで、福岡市大名町教会の旧聖堂でひらかれる。

今回の講座事務局責任者は井上輝正氏（小郡）と吉川信雄氏（高宮）のふたり。信者だけでなく、誰でも参加できるが、教会で結婚式を希望する人の参加がとくに望まれる。協力金一人千五百円。問合わせ先は、小郡市津古四八三の三二、井上輝正。

司祭人事

休暇帰国シュルツ師（吉塚主任）

同ベルトラン師（永巻主任）同グリフィン師（大江主任）大江代理主任オブライエン師（手取助任）

九月に第2回信徒布教研修会

福岡市大名町教会、信徒布教研修会事務局では、昨年に引きつづき、第二回信徒布教研修会を開催することになり、その準備を進めている。

ことしは九月十四、十五、十六の三日間、会場は福岡聖母園で信徒ひとり一人の布教義務をテーマにする予定。

同じく福岡聖パウロ会小神学校（福岡市中央区小笹町四、松本忠信校長）への新入生は七人。

中学一年＝瀬戸保雄（小倉）永山茂雄（長崎市中町）吉村祐喜（同）徳田隆仁（奄美大島・大熊）伊地知幸夫（奄美大島・古田）高木和政（板木県鹿沼）

中学二年＝里津加佐（奄美大島大熊）

5月のこよみ

3日（木）―6日（日）男女合同クルシリヨ（錬成会）

4日（金）復活第3主日

私たちはキリストの復活を目で見たわけではない。それでも復活の証人にならねばならない。私のうちに復活のキリストが生きておられて、私を新しい人間に生まれ変らせてくださることを体験しているならば、私もキリストの復活を人々に告げることができる。

佐賀教会で堅信

11日（金）聖フィリッポ　聖ヤコボ両使徒

13日（日）復活第4主日

ヨハネは私たちに、御父がキリストをとおしてどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを経験したはずだと言う。神の子としてのこの体験こそ、御父への信仰の結果である。この体験をもたないかぎり私はまだ本当に神を知ったとは言えない。

召命を祈願する日
熊本市内四教会連合運動会

20日（日）復活第5主日

キリストという木につながり、樹液をうけている者は、美しい実をつける。実とは、復活できた者にふさわしい生活をいとなむことである。そういう生活をつづけることがとりもなおさず御父の栄光である。

光ケ丘教会で堅信

21日（月）―26日（土）司教協議会定期総会

27日（日）復活第6主日

キリストの木につながって生じる実とは、キリストのように愛を実行することである。復活した者がめざす愛の理想は「友のために命をかけるほどの愛」である。このような愛は聖霊のめぐみとして与えられる。

「私たちに与えられた聖霊によって、この心に神の愛が注がれた」とパウロは教える。

31日（木）元后の聖母

6月3日（主の昇天の祭日）は世界広報の日

事務用機器　文具・紙
放送用機器
福岡市南区大楠二丁目13番21号
有限会社　シオタ事務機
(52) 5327・(53) 4905
スチール製品　デスク・ロッカー・黒板

各種高圧ガス・溶接材料の総合商社
各種溶接機械・器具材料
各種工作機械・器具材料
各種労働安全保護具
配管工事設計施行
有限会社　松尾溶材商会
代表取締役　松尾光敏
北九州市若松区大字藤ノ木宮丸1924の20
電話　(093) 771―3657―9

典礼刷新が目ざすもの

教会活動の頂点と源泉

〔公会議をふり返える〕(9)

（黒崎教会の聖土曜日盛式）

キリストの復活祭をむかえた教会には、いまよろこびのふんいきがみなぎっている。復活祭は、キリストの死からの復活を祝うだけでなく、神に造られたものすべてがキリストの恩恵の力によって新しく創造されること、なかでもアダムの子である私たちが、罪から解放されて、神の子に生まれ変ったことを祝う。この祝祭のなかで、キリストに結ばれた者に与えられる救いの神秘の事実が、あきらかにされる。

聖土曜日のよるに始まる復活祭の盛式にあずかった私たちは長い伝統にみがかれたカトリック典礼の形をとおしてこの神秘にふれることができた。光の祝別を皮切りにキリストを象徴するろうそくの祝別、会衆の手にした小ろうそくに点火されて広がる光の波、救いのご計画が実現にむかうさまをたどる聖書の朗読、洗礼水の祝福と新しい神の子の誕生、そしてキリストと共に全教会のよみがえりをよろこぶアレルヤの叫び、それは全キリストの死と復活の神秘を劇的に再現すると同時に、そのめぐみがゆたかに注がれる一瞬である

◇典礼の本質は何か◇

これまで何度もふれてきたように、第二バチカン公会議のめざした目標は、教会が自らを刷新するということであった。この目標にいたるために公会議は「教会とは何であるか」という自己認識「教会は世界にたいして何をしなければならないか」という教会の役割の自覚を深め、この反省の上に立って、これまでの諸制度を現代の必要にもっと順応させる一方、キリスト者の生活が、いっそう豊かな力あるものとなるように、その具体的な道をあらゆる角度から審議したのである。

こういう公会議の努力のなかで真先きに取り上げられたのは、「教会の祈り」といわれる「典礼」の刷新と促進であった、典礼の刷新は「キリスト教生活を信者のうちに日々ゆたかにする」という公会議の目標に、もっともじかに関わりをもつものだからである。

こうして公会議がはじまって二年目の一九六三年十二月には、典礼憲章が公布された。これが広報活動に関する教令とならんで最初に公けになった文書である。じつはキリスト信者の信仰生活にもっとも密接な典礼が、教会刷新の第一の実りとして発表されたことは信者一同にふかい印象を与え、公会議のそれからの歩みにつよい期待をいだかせる心理的な効果があったと思われる。

カトリックでいう典礼とは、七つの秘跡（サクラメント）とくにミサのいけにえ、聖務日課、準秘跡とよばれるもの（たとえば修道者の献身式や教会堂の祝別式など）をさすが、典礼憲章はこれに付随するものとして、教会音楽、さらに祭服や聖画聖像、建築などの教会芸術に関する規則も取りあつかっている。

典礼というと一般に教会の聖なる儀式とうけとられる。それはまちがいではないが、典礼はそれだけではない。典礼は「目に見える要素（儀式全般）と目に見えない要素（神のめぐみ）の二つからできている。それは神の御子キリストが人間であられると同時に神であられたのと同じであり、またカトリック教会が一般の共同体と同じく人間的・社会的であると同時に、神的な性格をそなえているのと共通している。

また典礼は司祭や特定の人によって司式されるが、目に見えないところで主役を演じるのは救い主キリストである。死と復活によって人を救われたキリストが、いまは教会の典礼をとおして天の御父の栄光と人々の救いのために『奉仕』してくださる、これが典礼の本質である。

キリストのこの奉仕を継続してゆく責任を負うのは教会である。キリストの救いのめぐみがすべての時代のすべての人々に示され、実現されてゆくようにと、キリストは教会を設立なさった。だから典礼を行うことは教会にとって最重要な使命となっている。

ここで教会とは聖職者だけを指してはいない。キリストに結ばれたものの全共同体が教会であり、この共同体がキリストと一致して典礼を挙行してゆく。もちろん教会は典礼さえ行っておればよいのではない。宣教、司牧、教育をはじめ種々の福祉の活動もある。これらもまたキリストの救いのわざの継続と考えられるが、典礼こそはこういう教会諸活動の頂点に位置するものである。だから典礼憲章はは っきり「典礼は教会の活動がめざす頂点である」といい、その理由として、教会の他の諸活動は、すべての人が神の子となり、救いをえて父に栄光をささげることをめざしているからだと述べている（10番参照）

要するに典礼とは、キリストのご生涯とくに死と復活の神秘的なわざと、本質的にまったく同じものであり、それによってキリストが父に完全な栄光をささげ、同時に私たちの真の救いを成就してゆかれるのである（憲章7番参照）。

◇典礼教育が必要◇

こういう神聖な典礼に何らかの刷新が企てられ、それに伴って何らかの変更を加えるのは、一種の冒とく行為ではないかと感じる人がいるかもしれない。

教会が刷新しようとするのは、典礼の目に見える要素、外面的な様式の部分である。公会議はこういう典礼様式が「健全な伝統の精神に従って、注意ぶかく全面的に再検討され、今日の事情と必要に応じてこれに新しい活力がささげられるよう希望している」（4番）のである。

典礼の刷新は公会議をまってはじめて行われたのではない。今世紀初頭から「典礼運動」とよばれる動きが教会の各地に生まれていた。それは少しずつ進展して、第二次大戦後にはいっそう盛んになり、ついに公会議ですばらしい実りを結ぶことになった。日本の教会の場合はひじょうに教会の大勢に遅れをとっていたのであるが、それでも十五年前には洗礼やいくつかの秘跡また多くの準秘跡が日本語で行われるようになっている。ミサ中の聖書朗読が日本語になったのもそのすぐあとで、典礼憲章公布の翌年には、全教会と同時期にミサの新しい通常文を使用することになった（六四年三月七日）。では典礼運動にはじまる典礼の刷新は、一体何をめざしたのであろうか。

それは消極的にいえば、教会の典礼が「儀式偏重・法規主義」におちいっているのを是正することである。たとえば、そうごんな典礼を行うという名目であっても儀式そのものが余りにけんらんなものになり、その結果、典礼の本質から信者の目がそらされるようになった。また重要でもない小さな規則がやかましく論じられ、それよりもっと大切な参加者の心がまえが忘れられていた。

典礼刷新がめざす積極的な目的は、典礼の重要さがもっともっと信者から自覚されるようになり、それによって信者がもっとキリストの心に一致して、天の父を礼拝し救いのめぐみに浴することができるようになることである。

このような典礼刷新は短期間でおこなえるものではない。根本的には司祭も信徒も、典礼教育によって典礼についての正しい、ふかい認識をもつようになるのが先決であり、それに平行して全員が典礼に行動的に参加できる手段を講ずることである。

このことについて憲章19番はこうのべている。

「信者の典礼教育と、その内的外的な行動的参加を、それぞれの年齢、条件、生活状態、宗教的教養の程度によって、熱心に、忍耐をもって推進しなければならない。」

◇信徒の行動的参加◇

「典礼への信者の行動的な参加」が典礼刷新の一つの大きなネライであることは、憲章を一読すれば明白である。

「母なる教会は、すべての信者が、典礼の熱行への、充実した、意識的な、行動的な参加へ導かれるようせつに希望している…。この全信徒による充実した行動的参加は、聖なる典礼を刷新し、促進するにあたって、最も留意すべきことである」（14番）。

では行動的な参加とはどういうことであろうか。

参加とは、単なる出席とちがって、典礼のなかで積極的に役割を分担することである。

ミサをささげる司祭は一人で全部の役割を担当しない。そうなれば信者は傍観者にすぎなくなる。「キリスト信者は…ただ司祭の手を通してばかりでなく、信者も司祭とともに汚れなきいけにえを奉献して、自分自身をささげることを学ぶ…」（48番）。

信者が祭壇をかこんで一つに集まるのは、キリストを現存させるためである。聖書を朗読し、共同祈願をとなえ、賛美をうたうときキリストが語り、祈っておられる。パンとぶどう酒を祭壇に運ぶ人は、そこに集まった人と集まれなかった人々の苦しみと喜びの生活を、キリストのいけにえに合わせようと望んで運ぶのである。

司祭はこうして集められた会衆の祈りと供物を受けとり、キリストの代理者としてささげる。

行動的参加とは、また「共同体意識をもって典礼に加わる」ことであるまったく個人的な典礼行為はありえない。すべての典礼がキリストの神秘体の、全教会の行為ではあるが、それに参加するものが積極的に共同体的な行動をとることを、憲章はつよくすすめる。

「キリストを信ずる民が…、充実した行動的な、共同体としての祭儀をもってこれに（聖なるものに）参加できるように、典礼文と儀式とを整える必要がある」（21番）

◇典礼を生きる◇

私たちは、これまで典礼への行動的参加のいくつかのあり方をのべてきたが、最後にもう一つ重要なことを付け加えなければならないと思う。それはおのおのの典礼に独特のめぐみが、キリスト者としての実生活に反映するように努めることである。なぜなら「典礼は教会のあらゆる力が流れ出る源泉である」から。

典礼のなかで行われた礼拝と救いのわざが典礼の場で終ってしまわないで、さらに日常の生活のなかで具体化される努力が欲しいのである。

告白の秘跡で、キリストによって神と和睦できた私たちは、ゆるしとあがないの恩恵を私の隣人にも与え、心からゆるす態度を示すべきなのである。

ミサ中にお互いに「主の平安」と言い交わした私たちが、家庭にも職場にもまことの平和を作り出してゆくよう努めないならば、このあいさつは単なるゼスチュアであって、主の平和に真に参加したことにならない。聖体を拝領して霊的な食物をゆたかにうけた私たちは、物的にも精神的にも飢えて苦しんでいる人々のことを思い出すべきである。「イエスは、あなたもそういうふうにせよと仰せられた」（ルカ10・37）私たちは典礼という頂きにむかって集まってくる。そこの泉からめぐみの水を飲んで、ふたたび自分の生活にもどってゆく、この二つの働きが正しく続けられるならそのとき私たちは「典礼を生きている」と言えるのだ。典礼が生きたものになること、それが結局、公会議による典礼刷新のめざした大きな目標ではなかろうか。（広報室）

ミサは、みんなが心を合わせてみんなのために「キリストを信ずるすべての人の一致」（1番）に寄与するようささげられる。

洗礼は新しい子どもを神の家族にむかえ入れる秘跡であるので、地域の信者ができるだけ多く集まったところで行われるように配慮される。

こういう行動的参加というネライがじっさいに効果をあげるための手段としてとくに早くから着手されてきたのは、儀式の簡素化と各地への順応の二つである。

「儀式は簡素の美をそなえ…、不必要な重複をさけ、信者の理解力に順応し、一般に説明を多く要しないものでなければならない」（34番）。

十年前のミサの儀式と今日のものとを比較すると、たしかに構造は簡素になっている。近いうちに施行される幼児の洗礼式も従来のものに比べて、おどろくほど簡潔になっている。しかし簡素化の理由は、それが現代人の好みに合うからばかりでなく、典礼のなかに隠れている「聖なるものがより明白に表現され、民がこの聖なるものを、できる限り容易に理解できる」ためである（21番）。

各地に順応させるとは、ローマが作成した儀式をすべての国、すべての民族、そのまま使用しないで、各地の伝統や特性に応じて作成しなおすことである。順応のもっとも前提になるのは、ラテン語典礼文の国語訳であるが、儀式そのものの面でも洗礼や結婚の秘跡聖歌などでは、かなり広い順応が日本でも行われている。また典礼聖歌はほとんど全部、日本で新しく作詞作曲されている。

科目　調理師養成科、料理科、被服科
趣味科、家政科
学校法人
福岡家政学院
院長　渡返ハナヨ
福岡市中央区天神三丁目
TEL76—6155(代)

栄養のバランス
牛肉・かしわ・豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
TEL 52・4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ㊲ 2673

ヴィノ・デ・ミサ
（ミサ用ワイン）
720mℓ入 1,000円
教会の信者さまがたから好評をいただいております
取扱店
大楠酒店
福岡市南区大楠二丁目4番8号
電53・4718
ミカエル青木実（大楠教会）

紳士の気品と誇りを創る
お誂え洋服
紳士服の
ニューライン糸永
電話 福岡 52・0820
ペトロ 糸永秀雄
福岡市中央区小笹四丁目4番
2636号

辞書は三省堂

十年間は全力投球

泰星高校新校長　山頭原太郎神父

カトリック福岡教区が経営している泰星高等学校は、市内小笹四丁目に敷地を購入し、十二月完成を目標に、新校舎の建設をすすめているが、この四月、新校長を迎えて、全校に清新の息吹きがあふれている。

本日はその人、山頭原太郎（やまがしら・げんたろう）神父に新任の感想などを聞いてみた。

山頭神父はことし四十九歳。平戸市紐差の生まれで、大柄なたくましい感じの神父さまだ。教皇庁立サレジオ教育大学を卒業、日向学院短期大学、ラ・サール高等学校を経て、泰星高校の校長に迎えられた。

昨年十一月、平田司教に要請されて来福、いらい四月の正式就任まで、学校の実状を調査しながら九大、福大など、上級学校に協力を依頼して回り、また優秀教師をスカウトするなど、態勢固めに努力してきた。

泰星高校については、『専任教師が若いので心強い。しかしスタッフの揃っていないのが残念』というが、先日の入学式では早速新方針を打ちだした。それは

(1)基本は勉強、スポーツすべての点で生徒を鍛える。(2)キリストをとおして、生徒に真剣に人生問題を考えさせる。(3)学力の向上をはかる意味で、単位のとれない者は遠慮なく留年させる。(4)試験は理数科を筆記、文科は一人二十分、口頭で行なう。(5)夏休前に学期の締めくくりとして、二十日間の合宿を実施する。(6)学年末には、一年間の学習を総合した試験を実施する。

というもので、これは泰平ムードの父兄や生徒に、かなりのショックを与えたというが、山頭神父の目ざしているものは、カトリックの特色を教育に実現し、よりよい学校を建設したいということにあるようだ。

関係者の期待は、いま山頭神父のうえに集っているが、神父は新任の感想をつぎのように語り、意欲のあるところをみせてくれた。

『泰星へ来たのは学校を立て直すため。教会の司牧に専念したいと思っていた矢さきだった。これからは職員の待遇をよくして意欲を盛りたて、学業とともにスポーツにも力を入れる。

よい意味でなら、学校の宣伝もどしどしやるつもり。切角来たのだから十年間は全力投球し、それから教会へ帰りたい』

（写真左は泰星高校入学式での平田司教ミサ）

決意もあらたに　レジオ会員のアチェス

レジオ会員の年一回の総会（アチェス）は、三月末から四月上旬にかけて福岡セナートスは大名町教会で、北九州クリアは八幡天神町教会で、熊本クリアは健軍教会でひらかれた。アチェスは会員の献身を聖母マリアの前で新たにし、教会の使徒職実行への決意を固めるもの。

納骨堂起工式

八月末完成の予定

三月三十一日午後三時から福岡市南区大橋のカトリック和田墓地で、納骨堂建設起工式があった。平田司教は参列した建設委員会の目良氏らのこれまでの苦労をねぎらい、永遠のいこいの場が美しく落成することを期待するとあいさつした。

新納骨堂は本年八月末に完成の予定。総工費千七百十八万円。設計は福岡の菅種雄氏、同じく福岡の中島工務店が工事を担当する。鉄筋コンクリート建千平方米余（三十三坪）、桝数約四百。

福岡に共同の納骨堂を建設する案は二年前の春ごろから話し合いがはじまり、市内の信徒十数人で準備委員会を結成、昨年夏までに希望者をつのり、資金調達のめどができたので春早にふみ切ったもの。なお新しく桝の入手を望む人は各教会の委員に申し出るとよい。

福岡・岩田屋で個展

津久見のファロニー神父

大分県津久見市のカトリック教会主任のパウロ・ファロニー神父の油絵個展（約四十五点出品）が五月三日から九日まで、福岡市の岩田屋ギャラリーでひらかれる。同神父はイタリヤ生まれのサレジオ会員、四十九歳、アルゼンチンのブェノスアイレス美術学校卒業、彫刻部門で金メダル獲得、五一年来日、司祭叙階、六十年以来津久見主任、これまでに高山右近像（大阪キリシタン文化館蔵）をはじめ多くの胸像を製作、また日本の風景を主に描いて、九州各地、大阪、名古屋、アメリカ、アルゼンチンで個展をひらいた。八月には東京の伊勢丹デパートでも個展をする。

売上げ利益金はすべて施設のめぐまれぬ子どもたちや幼稚園、教会の建設費用にあてられる。

聖母保育園（馬渡島）落成式

養護施設聖母園も

佐賀県馬渡島で、聖母の騎士修道女会が経営する聖母保育園（シスター平野和子園長）と養護施設聖母園（シスター河野ヨ子）で園舎の増築が完成、四月五日平田司教はじめ県厚生部長、県共同募金事務局長、地元小中学校長らを招いて落成式をおこなった。保育園は子供の部屋と職員宿舎三百五十平方米を増築、総工費二千五百万円（うち補助金五百二十七万円）定員七十人。

養護施設は児童遊戯室と職員宿舎四百十八平方米増築、総工費二千七百万円（うち補助金千二百九十八万円）。定員三十五人。

カタリナ片岡マサ修女

四月十四日午前零時、神奈川県藤沢市のナザレト修道院で死去、九十三歳。

明治十三年長崎市生れ、シャルトル聖パウロ修道女会に入会、四十三年八代女子技芸学校の開校以来、女子教育に献身、昭和二十三年九月から二十九年三月まで同校の後身、八代白百合学園校長をつとめた。二十五日同窓会、職員、生徒参加で学校葬がおこなわれ、熊本県知事、八代市長からも弔電がよせられた。

盛会だった C・アカデミーの集会

C・アカデミー福岡集会実行委員会による『これからの家庭はどう変るか』は、三月二十日と二十一日、福岡市默想の家でひらかれた。参会者は六十人で、カトリックからも宝塚教会シュルツ神父、光丘教会角田伝導士ほか数名の信徒が参加した。

第一日は夕食のあと、関西学院大学教授松村克己氏の『父親が父親らしくないと、子どもは子どもらしく育たず、ひいては社会の崩壊につながる。家庭の根本は夫妻の人格につぐ第三の人格、夫妻格でありこれは家庭が核化、社会化集団化しても、不変の中心的原理である』という講話のあと、ディスカッションに入り、二日めは、九大心療内科教授池見酉次郎氏、九大名誉教授関計夫氏の講話を中心に話しあいが進められた。

参会者には『自分の家庭の問題をみんなに投げかけ、得るところが多かった』など喜びの声が聞かれたが、実行委では『この集いは会話をとおして出会いを追求するもので、泊って話しあうところに意義がある。現在年一回だが、スタッフが増えれば春秋の二回にひらきたい』と言っている。

熊本で殉教者の顕彰慰霊祭

四月二日午前十一時から、熊本市の花岡山のふもとにある小笠原マリア殉教碑の前で、顕彰慰霊祭がおこなわれ、熊本信愛女学院の岩男教諭の講演があった。この記念碑は陸軍墓地に隣接して昭和十一年三月、当時の手取教会主任マルタン師が中心になって建立したもの。小笠原マリア（俗名みや）は、元和五年（一六一九）細川忠興の命によって小倉で殉教した加賀山隼人（高山右近の導きで受洗）の娘。夫の小笠原玄也および子ども二家十五人とともに、忠興の子忠利の新領地肥後熊本の高麗門町禅定寺で、寛永十二年（一六三六）殉教した。

カナの会で青年男女の交流

結婚をのぞむ信徒たちの紹介や交流をはかる目的で結成された、福岡カナの会（平田房刀会長）では、四月八日、地区の青年男女によびかけて能古島へ遠足をこころみた。集まった四十五名の若者たちはフォークダンスや散歩を楽しんだあと、同地の教会でミサにあずかって散会した。

信徒点描

青年連合はチャンス

情熱と研究熱心の大水健二さん

昨年の十月、布教研修会に参加した教区の青年たちが、こんどこの方向を確認するために、福岡の大名町教会に集まった。このとき司会者側の準備不足を衝いて、〝青年の連合体を作ろう〟と提案したのが、新田原教会の大水健二さんだった。

大水さんは新田原教会の青年会長。家庭はお父さんが五島、お母さんも太刀洗本郷出身の旧信者。

子どものときから、カトリックのきびしいしつけを受けてきたという。だが面長で、知的な感じの顔からは、旧信者のイメージを看取することはできない。

『基本線として、〝一致親睦〟〝布教〟〝使徒職〟を出しましたが、まず何よりも青年がまとまることが必要と思いました』

六月会長になったばかりだったがすでに新田原教会で聖書研究会をはじめ、社会問題その他を自由に話しあう グループも作っていた。また山口県と島根県の合同青年連盟についても、その活動状況を調べていたというから、十分の認識と経験を持っていたわけだ。

『青年連合は、カトリックの青年が社会と取り組むチャンスではないでしょうか。私はいましなくてはならないこと、いましかやれないことをやりたいと思っています』

大水さんはことし二十二歳。少年の域を出たばかりだ。〝まずまとまって、それからアクションを起こせばよい〟というのがこの人の考え方。しかしそこには、カトリックのために、何かをしなければならないという使命感と、青年らしい情熱はあっても、まだ具体的な指導原理や対策があるわけではない。

この人が、勉強の必要を強調するのは、そういう自分を知っているからで、〝機関誌を出して、意見交換の場をつくり、たがいに勉強し、励ましあってゆきたい〟というのも、その自覚の上に立ってのことである。

大水さんはいま、新田原を離れて、小倉の住友金属の寮で生活している。ある学校の受験のために、新田原から通っていると、勉強の時間が足りなくなるからである。

『寮生活の中で社会をみて、その中の問題を考えたいと思っています』

住友金属は、鋼材を、ボルトなどの工業資材に製品化する工場。大水さんはここで事務と製図、鋼材の発注を担当している。忙がしいときには、息をつくひまもないほど仕事が集中するが、それだけにまたやり甲斐もあるという。

寮に帰ると、いろいろな人と顔を合わせる。気をつけてみると、そこには社会の縮図があり、労働、交友などいろいろな問題がある。身近には、同室の一人にマルクスを信奉している人がいる。よく話しあうが、まだやっつけられることが多い。この人に、何とかしてカトリックを理解させたいと、闘志をのぞかせる。

――これからどうします？

〝九月になると新田原へ帰ります。青年連合の方も進行していますし、帰ったらまたやりますよ〟

握手の手を差しのべて微笑した

高麗人蔘茶（韓国専売庁管理品）
特別価格2,300円
生命尊重運動九州支部
〒814 福岡市西区別府2―16―13
本多義昭
電話 82―4968
生命尊重運動をつづける資金として
生命尊重運動とは、日本の優生保護法の改廃に生涯を捧げられた、佐々木鉄治神父様のご遺志をついで、この法律の改廃ばかりでなく、現代日本のより根本的な課題として、とくに青年たちに生命と性に関して、キリスト教の立場から啓蒙することを、目ざしている運動です。
この運動の基金および乳児院補助として、私たちは、カナダに総本社をおくアルキャン・アジア・リミテッドの協力を得て、その効能には定評のある「高麗人蔘茶」の廉価販売をいたし、その利益金をこの資金にあてることにしています。
従いまして、この運動を推進協力していただくおつもりで「高麗人蔘茶」をお買求めくださるようお願いいたします。詳細につきましては左記にお問合わせください。

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の 河野電気
ミカエル 河野三千夫
福岡市田 1162―29
TEL 87―3099

教養

お母さんの本棚

構成に行き届いた配慮

女子聖パウロ会の『聖書物語』

《聖書物語》文・わきたあきこ　絵・やのしげこ　発行・女子聖パウロ会　1300円

『聖書』がすぐれた文学であることは、折りにふれ識者によって指摘されてきたが、英国の文学者リチャード・ヂー・モウルトンも、その著『世界文学』の中で、世界の五つの文学的聖典の一つとしてとりあげ、『われわれは、みな、この偉大な文学的世襲財産に対する尊敬においてはひとつでなければならない』と言っている。

この文学的にすぐれ、また神のことばを伝えて、世界の文化に大きな影響を与えてきた聖書を、子ども向けに書きなおしたいわゆる聖書物語は、世界各国で数多く出版されているが、その中ではヴァン・ルーンの『聖書物語』がいちばん人に知られている。わが国では昭和四十二年に発行された、河出書房の『少年少女世界の文学』第二巻に、犬養道子さんの『聖書物語』がある。

女子聖パウロ会発行の『聖書物語』は、『旧約聖書物語』『新約聖書物語』の二冊に分かれたB5版の美本。犬養さんの『聖書物語』に比べてより純粋で、物語の構成も旧・新約両聖書を踏まえ、配慮が行き届いている。

全国学校図書館協議会選定、小学生上級―中学生向き。

旧約聖書物語　旧約はアブラハムを父祖とする民族の歴史であり歴史をとおした神と人間の関係である。この中には天地の創造、神に選ばれた国民の起源、あるいはまたイスラエルの予言者、英雄、王が登場し、読みものとしても興味深いものがある。

本書は旧約のそういう面白さをとおして、神のこころを語っており、解りやすい文章は、小中学生にも容易に理解されるだろう。

新約聖書物語　マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四福音書と使徒行伝をもとに、キリストの生涯と教えを組みたてそのキリストの生涯をとおして、神が愛であるということを解らせてくれる。

お母さんたちには、この『聖書物語』をもとに、将来子どもたちが、聖書の全巻に目をとおすよう指導していただきたいものである。

《いえすさまのおはなし》ぶん・いしもりのぶを　え・やのしげこ　発行・女子聖パウロ会　450円

聖書から幾つかの話を選び、子どもにイエスの教えを伝え、私たちがいまもイエスとともに生きていることを、実感として感じさせようと努力している。著者は『コタンの口笛』などで知られた児童文学者。小学校低学年向き。

《のんのんのあさがお》ぶん・ふじたちづ　え・くぼまさを　発行・女子聖パウロ会　450円

のんのんというやさしく勇気のある女の子の話。六年生の廃品回収に協力する一年生の姿を中心に子どもたちとその生活がよく描けている。とくにのんのんの死という悲しい思い出を、尊い思い出に変えて心の宝にしようという結びは、美しい感動を伝えるに違いない。小学校低学年向き。

《さかなにのまれたよな》ぶん・こじましずこ　え・すずきえつろう　発行・女子聖パウロ会　300円

旧約聖書の物語を、楽しい絵と文で構成した本。魚の腹の中で祈るヨナの姿や、自分だけが正しいと思っているヨナに、きびしい反省を求める神のことばは、子どもの心にも感銘を与えるだろう。幼児向き。（広報室・M）

わたしの宗教教育

① ガイヤール

一年生　がん張れ

四月から小学校にあがった一年生が、多くの教会で公教要理の勉強を本格的に始めます。いままで、この子供たちは家庭での教育で信仰生活に案内されてきました。もちろんカトリックの幼稚園にいった場合、子どもは宗教的な行事にあずかっているので、たとえば朝礼に主の祈りや、天使祝詞をとなえたり、七五三に聖堂で祝福をうけたり、クリスマスで馬小屋の前のご降誕の話しを聞いたりしていますので、すこしは信仰生活を身につけるチャンスがありました。しかしじっさい家庭とくに親が、子どもに及ぼす影響のほうが強かった。

信仰の最初の使者であり、最初の証人である親によって、小さな子どもはキリストと教会に出会うために歩みを始めたのです（教会憲章11番参照）。

公教要理を始める一年生は、これから新しい経験をむかえようとしています。毎週教会にいってそこで先生のもとで、新しい仲間と一緒になって、キリストの教えを学び、祈り、聖歌を歌ったりします。授業の前と後、教会のほかの子どもと一緒に遊ぶことも大いにあります。聖堂で子ども向きの典礼式に参加することも少なくありません。要するにいままで教会の子どもとほとんど無関係に生活してきた小さな子どもは、一年生になってからこのグループに入り、その一員として、いろいろな行事にあずかることになります。

これについて、親は子どもをどう指導したらよいでしょうか。多くの父兄は子どもの信仰教育について、神父と協力しなければならないと責任を感じたうえで、子どもをよく指導するだろうと思います。具体的にいえば「今日は公教要理の日だから教会に行くんですよ、時間ですからおくれないように早く行きなさい。先生に礼儀正しく話しなさい、お話しはまじめに聞きなさい。言われたことをよく守りなさい。友だちとけんかしないで仲よくしなさい」と言って、父兄は子どもが忠実に公教要理に出席するようにすすめます。

しかしこのような指導は必要ではありますが、子どもの外面的な行動に止まるわけですから、十分だとは言えません。なぜなら、公教要理のために教会に行く子どもの経験は、勉強のために学校にゆく経験よりも、はるかに神聖で意味ぶかいものだからです。

公教要理に子どもを呼ぶのは、神父やカテキスタではなく、人を招いてくださる御父です。教えてくれるのは先生ではなくイエスさまです。話をよく聞くことは神の光を心にうけ入れることです。憶えることばは神のみことばです。一緒に勉強にはげむ他の子どもは、ふつうの子どもではなく、自分と同じように御父の呼びかけに答えた兄弟です。かれらと仲よくするときに、ただの親切を生かすことではなく、愛の霊に生かされて、神の民の一致をたてることです。

つまり子どもが、じっさいに経験しているのは、神の民の神秘というものです。子どもが自然にこの神秘を悟ることはありえないので、それを〝啓示〟してやる必要があります。

従って、親は公教要理について子どもに言いつけるとき、外面的な行動だけを目的とせず、子どもの信仰の見方をも育てようとして、この神秘を説明し、それを認識させるように指導しなければならないと思います。

このように神のご計画を啓示する親こそ、自分の子どもにとって「信仰の最初の使者」になると言えましょう。

連載随筆　炉辺詩語

漂泊の詩人　種田山頭火のこころ

森　雅生

大正十三年のある日。熊本市の公会堂前で、泥酔した男が仁王立ちになって走ってくる雷事を止めた。この男が『層雲』（荻原井泉水主宰）の俳人、のちに漂泊流転の詩人として有名になった種田山頭火であった。このとき山頭火は、木庭某という人に、人だかりの中から助けだされ、報恩寺という曹洞宗の寺に連れこまれるが、これはその後の、山頭火の生涯を決定する大きなできごとだった。

種田山頭火

山頭火、種田正一は明治十五年十二月、山口県の防府で生まれた。生家は近在に聞こえた大地主で、父の竹次郎は役場の助役を勤めていた。母のふさは政治に手を出し、女狂いをする竹次郎を持て余して、山頭火十一歳のおり井戸に身を投げて死亡した。

三十四年早稲田大学に入学した山頭火は、三十九年、卒業を前に退学して帰郷、四十年父とともに酒造業をはじめたが、これがうまくゆかなかった。四十二年佐藤サキノと結婚。父に押しつけられたという意識から、この人を愛することができず、次第に酒におぼれ、父もまた女におぼれて、大正五年、種田家はついに破産の憂きめをみたのであった。父は女をつれて他郷に走り、山頭火も熊本に逃れたが、さらに妻子を捨てて上京し、大正十二年、関東の大震災に遭ってふたたび熊本へ帰ってきた。右の事故を起こしたのはこのときのことである。

報恩寺に連れこまれた山頭火は住職望月義庵師の大らかな人格に打たれ、そのまま寺に住みこみ、老師の導きで坐禅に励んだ。十四年、得度して耕畝という名を貰った山頭火は、老師の世話で、熊本から山麓へ通う道が、植木の町を出はずれるところにある『味取り観音』の堂守りに納まった。

明け暮れに松風の鐘ついて

ここの生活はおだやかで寂しかった。冬が来た。やがて凍てつくような寒気の中で、正月がやってくる。夜になると、遥かに明滅する街の灯が見えた。山頭火はこの観音堂で禅を修し、俳句をよんでおればよかったが、無頼の血は、彼をいつまでもそうさせては置かなかった。

生死の中の雪ふりしきる

生死のあわいにふる雪ではない。心の中に、いよいよ深く積ってゆく迷いの雪である。そして十五年四月、山頭火はこの観音堂を後にする。行く先の当てもない、漂泊流転の旅で、この旅は、四国松山の一草庵で往生をとげるまでつづくのである。

山頭火は、事物関係の中でも、また人間関係の中でも、主体となることができなかった。むしろ、その関係の中に埋もれた自己疎外者であった。この山頭火が、生涯をかけた漂泊の中で求めたもの、それは自己疎外からの脱出、あるいはまた、存在の確認だったのではあるまいか。第三句集『山行水行』の中には、つぎのようなことばを見ることができるのである。

『私はやうやく〝存在の世界〟に帰って来て帰家穏坐とでも言いたいこころがする。』

『〝存在の世界〟を再認識して再出発したい私の心がまへである』

詩

歩道橋の上で

緒方　功（囚奴の会同人・鳥栖在住）

子供がたずねる
それから先は　そのずうっとむこうは
もっともっとずっと行ったら
面倒くさくなってつい言ってしまったものだ
もうその先はなんにもないのさ
のっぺらぼうで　怪獣だって行けないんだ
言ってしまって私はハッとした
ほんとにそれから先はなんにもないのかもしれない
三十年前　カアキ色の汗を滴らせ
水虫の足をふみしめて行ったきり
帰ってこない　あのひとたち
狂った魚のように
流れる世界に位置を求めて
分厚く縮まった時間が走る
すっかり狭くなった戒律の空間に
架け渡された歩道橋を
いま渡り了えようとして
うつむきかげんに未来をふりかえる
おまえはだれだ

九州の公害問題を特集

『社会関係と人間』でカトリック社会問題研究所で発行している『社会関係と人間』55号は、『九州の公害問題』を特集している。これは『相互に社会生活上の切実な問題への認識を深め他の人たちとともその成果をわかちあおう』という、同研究所の趣旨にもとづいて企画されたもの。

昨年十一月福岡、黙想の家でひらかれたシンポジュウムから『水俣病』（福岡社会問題研究会A班）、『カネミ油症』（同B班）、『人間標的』（岡垣射爆場問題・北九州社会問題研究会）、『志布志湾開発計画の現状』（鹿児島および都城社会問題研究会）など、九州の代表的な公害をとりあげている。（福岡聖パウロ書院発売・一五〇円）

◇◇今月のすいせん書◇◇
☆愛の祈り
☆イエスとの実存的出会い
¥700 ¥300

キリストを知るよろこびを
読書によって深めよう
人びとの心の奥深くにある
精神的価値を確信し
そこに働かれるキリストを
すべての人に伝えよう

聖パウロ書院
大名町教会隣り
西鉄グランドホテル前
74―4588

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長　ルカ　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角（山荘通）
電話代表　㊷0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額　五〇〇万円
一、募金方法　一口五〇〇円
一、送り先　本誌編集部（振替福岡四二九八一）
寄付者報告（敬称略）
鳥山宏（福岡市）三千円

広報の日（6月3日）のテーマ

精神的な価値のあかしと高揚

教皇庁の広報委員会は、こんどの第7回「世界広報の日」のテーマとして、このテーマを発表した。これはマス・メディアの普及によって、現代社会で物質文明が精神的価値を見失わせていることへの警告。

なお、この日の教会献金は、東京中央出版社発行、「カトリック新聞」の経営補助のため。

ベトナムに真の平和回復を

ティ神父とマンダラ尼が訴え

亡命先きのパリを中心に、南ベトナムの政治犯釈放運動をしているティ神父と、マンダラ尼をむかえての講演会（福岡キリスト教連合会、YMCA、ベ平連共催）が、五月八日夜福岡市住吉の婦人会館でひらかれた。

入江牧師（日基団・城東橋教会）のあいさつにつづいて、マンダラ尼は「ベトナム人は過去の長い歴史のなかで、いつも平和と寛容を尊重し、どんな裏切りにたいしても愛が憎しみに打勝たれることはなかった。ところが外国の政治的圧迫により、南ベトナム政府はこの国の平和回復を妨げている。私たちは外国の軍事的・政治的・経済的撤退を望んでいる」と語った。

またティ神父（四十歳、パリ・サンスルピス大神卒、ソルボンヌ大哲学博士）はこう訴えた。『南ベトナムでは、現在少くとも二十万人が反戦、平和を口にしただけで政治犯として投獄され、言語に絶する取扱いをうけている。一九五五年以来そのぎせいになった者の数は毎月三千人に達し、それはアメリカ軍の爆撃による死傷者の数を上廻る。私がこの運動に身を投じたのは、キリスト者としての信仰にうながされたからだ。戦争の悲惨を知っている日本人は、私たちと一緒にこの運動を推進し、とくに平和確立のために神に祈っていただきたい。』

宗教家らしい信念にみちた、おだやかな両講師の訴えは、集まった約二百五十人の聴衆の心にふかい共感をよびおこした。

むつかしい国土復興

脱皮迫まられる教会

ベトナム

「和平協定後のベトナムはどうなるのか、ベトナムのカトリック教会の現状はどうなっているのか、復興の見通しは」などについて、最近福岡司教館に立寄った一宣教師（ヨーロッパ人、ベトナム滞在十年）はつぎのように語った。

南ベトナムのカトリック信者数は全人口の一割で百五十万人。十五の司教区があり、邦人、外人司祭は相当数にのぼるが確実な数は知らない。女子修道会にいたってはさらに多く、世界中の会が集っているのではないかと錯覚する程だ。大神学校はユエ、ダラット、サイゴンの三カ所、他にカトリック大学がダラットにある。

ベトナム人信者の信仰の強さ、信心への熱心には定評がある。平日のミサでも教会は全部のミサが満員で、よるの祈りにもあふれるほどの信者が集まる。司祭志願者は徴兵免除の特典もあって、大神学校はいずれも三百人以上を収容している。主任司祭と信徒とのつながりは、古い家族制度における家長とその家族員との関係に似ている。北から信者部落ぐるみ避難してきて、サイゴン郊外にもとの主任司祭を中心にそのまま居着いている例は多い。その反面、教会の閉鎖性がつよく、他宗教との交流も消極的で、ゲットー的存在になっている。なお教会の土着化刷新への努力は皆無に近く、西欧的色彩がそのまま残っている。

しかし社会のあらゆる分野で、トップクラスの活動をしている信者は目立って多い。

ベトナム人は団結心がよわいだけでなく、人の仕事を助けるどころか邪魔するという悪い面があるので、これからの復興はかなりむづかしいと思う。全体として依頼心がつよく、北の人は勤勉だが南の人は快活な性格はあるが、仕事熱心とは言えない。もともとこの国はトンキン、安、南コーチンナの三国から成り、言語、気質の違いからみても単一国家とは言い難い。

和平協定と米軍撤退で新しい国造りが始まるが、失業者の増加、道徳の低下、国民性の一面を見ると、前途は必ずしも明るくはない教会の脱皮と刷新こそ先決だろう。

新しい役員で躍進へ

福岡地区信徒協

福岡地区信徒使徒職協議会は、五月二十七日午後一時三十分から大名町で代表者会議をひらき、任期満了にともなう役員の改選をおこない、新しい役員で躍進することになった。任期は二年。

会長坂田三郎（高宮）、副会長土肥久夫（大楠）平木直親（久留米）、書記秋吉俊男（大名）石田幹雄（ビンセンレオ会）、会計今村茂（茶山）、監事平田房刀（箱崎）鬼木保之（高宮）平田正義（本郷）の各氏。

秋に文化講演会を計画

北九州信徒協会議

北九州地区の信徒使徒職協議会（松尾光敏会長）は、全小教区の信徒代表を集めて、五月二十日午後零時から三時まで、八王寺教会で定例会議をひらき、つぎの諸事項を審議した。

❶同地区のカトリック・プロテスタント両派の代表で構成されるエキュメニズム（教会一致）委員会に、村松正俊、馬込弥八、森田十郎の三氏を新しく送る。以後この三人は専門委員会メンバーとして、信徒協のなかでエキュメニズムの諸問題を分担する。

なお今秋、プロテスタントと合同で計画中の文化講演会の講師に、NHK解説委員室の藤瀬五郎氏、または作家の曽野綾子氏を招くことを提案する。

❷信徒協主催の使徒職研修会を例年どおり、八月末か九月上旬におこなう。具体案は研修会準備小委員会（白石鉄也、深堀博、渡辺清、大石透各委員）で作成する。

❸結婚講座開催については、理事会で計画案を作成する。

修道女叙勲

四月二十九日の天皇誕生日、熊本市島崎町のマリアの宣教者フランシスコ修道院のシスター・ルチア高橋トエは勲六等瑞宝章を授与された。

同修女は明治四十一年、長崎県西彼杵郡外海町出津生まれ、昭和十年以来、おもに養護施設で子どもたちのために献身した。

☆　☆　☆

6月のこよみ

3日（日）　主の昇天
きょうは「世界広報の日」。キリストは昇天にさき立ち「全世界に行って、すべての者に福音を伝えなさい」と命じられた。この命令を実行するため、教会はあらゆる手段をつかうが、現代ではとくに出版、放送などの文明の利器を大いに活用する。

10日（日）　聖霊降臨の主日
聖霊の降臨は、新しい世界のはじまりを画する出来事。世界中の人々が集っていたエルサレム、キリストが死んで復活されたこの町が、新しい神の国の象徴的な首都となる。そしてキリストの福音は、この町から全世界に、花の種子のように散ってゆく。

16日（土）－17日（日）　九州地区カトリック学校校長会議（福岡默想の家で）

17日（日）　三位一体の主日
私たちは天地の創造主を父とよぶ。そう呼ぶことができるように、私たちの心に、子としての自覚を注いでくださるのは聖霊である。そして私たちはじっさいにキリストとともに、すでに神の子なのである。

小倉教会で堅信

19日（火）　教区司祭評議会会議（福岡司教館で）

23日（土）　洗礼者聖ヨハネの誕生

24日（日）　キリストのおん体とおん血の祭日
聖体の秘跡は、いけにえであり、同時に神の国の食事である。神の子らは、キリストとともに自分たちを神にささげて、全世界の人々のために祈る。また神の食卓につらなった私たちは、分裂にくるしむ人間の世界に和睦と一致のめぐみをもたらす。

東田島教会で堅信

福岡教区修道女連盟総会（聖葉学園で）

29日（金）　イエズスの聖心の祭日
イエズスの聖心は、天の御父の大きな愛をもっとも具体的に見せてくださる。槍でさしつらぬかれ、開かれたこの聖心を仰ぎ見ることによって、私たちは、神の愛の神秘を肌で感じさせられる。

りぐめ会教

西新（聖パウロ三木）教会

福岡市西区城西三丁目

福岡市西区の中心街、西新交差点から南へ徒歩五分、租原の丘陵地続きの山地が終るところ、隠居所に建てられたという古い民家が神の家に変身したのは、今からちょうど二十年前。昭和二十八年七月、地行教会から独立して西新教会が誕生した。その当時は能古島の信者を入れて信者総数二百五十四人、日本二十六聖殉教者のひとり聖パウロ三木に献げられた。

平田勇神父

初代主任は青木功神父（現行橋主任）。同神父は三年後にここに幼稚園を創立して、地域社会への窓口をひらいた。いまこの園の屋上にあるチャイムベルから日に数回、うつくしい聖母賛歌のメロディーが流れている。三十七年五月青木神父に代って平田勇現主任神父が就任。

「ここは煙害も騒音もなく、それでいて交通の便は絶好。むかしの唐津街道と早良街道の合流点にあたるところですから、人の動きも多いし、最近どんどんスーパーやデパートが出来ています。南のほうには星ノ原、荒江、拾六町、室住などの大団地群がならんでいます。他市、他県からの転入者もふえる一方ですよ」と語る。そういえばこの教会から西側は前原町と二丈町をへて佐賀県境まで、教会は一つもない。

いま平田神父が夢見ているのは教会堂の建設だ。「それは単なる夢ではない、いますぐにでもやろうと思えば出来る」と言い切る神父の表情には、どうしてもこれだけはやりとげたいという執念のようなものが表われている。それというのも今の聖堂は幼稚園の遊戯室四十三坪を借りた形で、信者の司牧上大きな妨げになるのは当然この悩みを一日も早く解消したいというのが神父の考えだろう。

現在の信者数は四百七十九人。能古ノ島は数年前から大名町教会の所属に移っている。信徒代表矢野重隆さん（児島段ボール重役）、レジオ会長工藤昭夫さん（九大理学部教授）、婦人会長の梅田順子さんが表立っての三本柱だが、活発に教会に協力する信徒の層はかなり厚い。ことし八十歳の畠山しげさんは、名実ともにこの教会の長老的存在。伝道者としての、数十年にわたる活動と、それを支えた信仰心が、言わず語らず全信者に大きな影響をおよぼしている。

祭壇のうしろのガラスは、二十六殉教者の絵を、ステンドグラスまがいにあしらったもので、パリの画家バランゼ女史が、日本から送った鳥の子紙に画いたもの。

幼稚園は園児数百八十六人。教諭六人。卒園者総数は千二百二十三人。

幸福な結婚をめざして

23人が受講

近く結婚しようとする人、結婚したばかりの人に、りっぱな家庭幸福な家庭をきずく心構えを準備する結婚講座（愛の学校－福岡結婚講座センター主催、西日本新聞社後援）が、五月十七日から六月九日まで、大名町教会で毎週二回ひらかれている。第四回をむかえた今回の講座の参加者は二十三人。講話と座談と、合唱のたのしいプログラムのなかで、若い人々が先輩たちの行き届いた指導と、生きた体験談に耳をかたむけながら、新しい人生設計を一緒に作り上げていった。

講座責任者はウォード神父（福岡默想の家）、事務局責任は井上輝正氏（小都教会。）

事務用機器　文具・紙
放送用機器

福岡市南区大楠二丁目13番21号

有限会社　シオタ事務機

(52) 5327・(53) 4905

スチール製品　デスク・ロッカー・黒板

’73日米少年少女交流研修旅行
＝海外研修会員募集＝

米国カリフォルニア，コロラド州の教育・報道機関の招聘に依る第二回日米交流家庭滞在を中心とするユニークな少年少女研修旅行を実施！

参加対象　小学生・中学生・高校生　40名
旅行期間　8月1日—8月21日　21日間
旅　程　ロス・アンゼルス（家庭滞在）サン・アントニオ（アラモ）訪問
デンバー市近郊（家庭滞在）サンフランシスコ～ホノルル
後援協力　米国商務省，カトリック系教育機関，コロラド州デンバー市ザ・ディリィー・レポーター，ヘラルド，日本航空，ウェスタン航空

参加要項は〒100円同封の上ご請求下さい。

財団法人　教育適性研究所
〒161　東京都新宿区下落合3—2—18 603
研修団主幹　フランシス　小林康良
TEL　03—953—1299
HONORARY CITIZEN, B.T. NEBRASKA

〔公会議を返えりみる〕(10)

典礼の刷新から教会の刷新へ

典礼参加こそ使徒養成の場

前月号のこの欄で私たちは、第二バチカン公会議による「典礼刷新」が、なにを目差すものであるかを瞥見（べっけん）した。この刷新は具体的には❶私たち信者、聖職者が典礼について昔からいだいていたもろもろの誤解、認識不足、せまい考えをとり去ることに始まり❷典礼は、教会のなかでキリストによる救いのわざの継続（キリストの死と復活から出るめぐみを世の終りまで人々に与え続ける）であるので、教会にとって、どんな活動にも優先する重要な行為であることを、いっそうよく認識すること。❸そのために、信者も聖職者も典礼による神への賛美と人間の聖化のわざに、行動的に意識的に参加できやすくなるため、典礼儀式の改善や順応を手がけることであった。

以上の各点について、かんたんな説明をのべたあと、終りに「典礼を生きる」という項目のなかで、典礼とキリスト者の実生活との密接なかかわり、言いかえると、典礼の行われる時と場所をこえて、もっと広い日常生活の領域で、私たちはどのように典礼を生きつづけるのかを、示唆するにとどめた。以下私たちはこの最後の問題をもっと掘り下げて考え、典礼刷新の目差す真の姿が何であるかを探ってゆきたい。

教会と典礼の正しい認識

第二バチカン公会議の第一の目標は、これまで何度もくり返えしたように「教会の自己認識」である。それは「教会とはなんであるか」ということであり、同時に「教会はどうあればならないか」という教会理想像の確認である。

このことは当然、これまでの教会の姿への反省をふくみ、それからの脱皮、そして将来への刷新を伴っている。このような教会の自己認識と刷新の方向づけは、公会議全体をとおして十分に審議され、比較的早い時期に公布された「教会憲章」（一九六四年十一月二十一日）のなかにみごとに表朗されている。ところが、教会憲章よりちょうど一年早く公布された典礼憲章を見ると、教会の自己認識と刷新の大筋は、典礼憲章のなかにすでにはっきりと指示されているのである。典礼とは本質的になんであるか、これからどのように刷新すべきかを認った この憲章は、教会とはなんであるのか、現代においてどうあるべきか、どう生きるべきかを、すでに予見している。ということは、典礼の刷新なしに教会の刷新はあり得ない、教会の全活動の頂点であり源泉である典礼が、これからの教会の歩みを決定する大切な分岐点であるということになる。

では典礼の刷新がどのように教会の刷新を準備し、方向づけをしているのか、私たちはつぎの三点をとりあげて考察して見たい。

（一）まず第一は、典礼の本質を正しくとらえることによって、教会とはなんであるかをも明らかになるということである。

典礼とは、そこにおいて神がキリストをとおして私たち人間に救いのめぐみをほどこし、また私たちが同じキリストと共に神に賛美をささげる行為である。キリストの司祭としてのお働きであり、じっさいに神秘的な効果がえられるのであって、これまで誤って考えられていたように、単なる儀式でなく、またそうこんな雰囲気を味わいながら共同の信心業を行う場でもない。

典礼に参加する民は、使徒として出発する

教会も同じく、目に見える人間共同体のすがたをまとっていても、本質的には「人類が神から招かれて一つになり、神と親密な交わりを与えられる場」なのである。私たちが教会に入るのは、何らかの親睦団体のメンバーに名を列ねるようなものでなく、まずキリストのものになるという神秘的事実である。教会の目に見えないかしら、そして大司祭であられるキリストが、教会とその典礼のなかに現存しておられて、私たちはこのキリストによって行われる救いのわざを体験し、三位一体の神と出会い、「日々、主における神殿、聖霊における神の住居」となるのである（典礼憲章2）。

だから教会を法的な制度とか、信仰を同じうしている人々の組織か団体とだけ考えてはならないし、また典礼をシンボル的な儀式とだけ見なしてはならない。私たちはよくカトリック教会が量的に信者数をふやし、世界各地にひろがる強力な団体、教皇をかしらとする司教、司祭、信徒のタテ構造のがっちりした組織であることに満足していた。典礼についても、意味がわかることよりもそうごんであること、めぐみにふれることよりも、儀式の細かい規則をやかましく遵守することに、注意をうばわれてしまうきらいがあった。

このような誤解を改め、認識不足を補って、キリストの救いのわざが典礼をとおしていっそう明らかにされ、さらに教会の真のすがたが輝き出ること、そこに公会議による刷新の第二の目標があったのである。

自分の役割を積極的に果たす

（二）典礼の刷新と教会の刷新が結守する第二の点は、信徒と聖職者、すべてのキリスト者が典礼と教会において、自分のはたらきの分担を積極的に果たす者になるということである。

典礼ではそれを、神の救いのご計画とその実現への「行動的参加」とよんでいる。「母なる教会は、すべての信者が、典礼の施行への、充実した、意識的な、行動的な参加へ導かれるよう、せつに希望している。このような参加は典礼自身の本質から要求されるものであり、キリストを信じる民は〝選ばれた民族、王の司祭職、聖なる民、獲得された民〟として、洗礼によって、これらに対する権利と義務を持つのである」（典礼憲章14）。

信者が意識的に行動的に典礼に参加できるようになることが、典礼刷新の要目であるが、教会の刷新もまったく同じことをめざしている。とくに信徒が、教会のはたらきに積極的な役割を果たす権利と義務のあることを表明したことが、この公会議の大きな収獲であったといわれている。

「信徒は皆、神の救いの計画が万国万代のあらゆる人に、よく到達するように働くべき、輝やかしい義務を負っている。そのようなわけで信徒も、各自の力と時代の要求に応じて、教会の救いの事業に積極的に参加するよう、あらゆる道が開かれなければならない」（教会憲章33）。

教会は聖職者や特定のえらばれた人だけのものでない。聖職者中心の教会であることを止めて、全員がとくに信徒が、教会の神秘的使命のにない手として、積極的な行動をとれるようになるならば、教会は万人に開かれた救いの道具となれるだろう。

このような強い自覚をもつ行動的な信徒の養成は、ごく最近はじまったばかりである。だからこそ典礼へのまことの参加、それをめざす典礼教育は、信徒の使徒的養成の場として、もっともっと活用しなければならないのではなかろうか。ミサの典礼は、決して司祭の独だん場でなく、そこに集まった民が、キリストの神秘体と一緒になって参加し、それぞれの分担を忠実に果たしながら、全員のために神のめぐみを求める。自分の趣味や好みのままに、ひとり信心にふけるかのように、他人への配慮と愛に無関心であることは許されない。信仰上の個人主義、ひとりよがり、消極的態度は典礼においては絶対に追放されるべきものである。

同じように他人の救いに献身しない、ことばと生活によって、この世の人々の前に信仰のあかしをしようとしない信者は、教会の生命をマヒさせるものと言える。教会の活動的メンバーになろうという、そういう意識の変革＝回心こそ、公会議がめざした教会刷新の基本である。

神のめぐみを社会に生かす

（三）典礼と教会の中に現存しておられる神とキリストに、信仰の目をむけ、積極的な典礼参加をとおして教会での自分の使命を自覚し、それを果たす決意が固められたうえで、さらに私たちがめざさねばならないのは、典礼と教会が人間社会のなかに浸透して、救いのめぐみをここに生かすことである。

典礼にあずかって神と親しく出会い、「耳できき、目で見、ながめて手でふれた」（ヨハネ1・1）キリストを、私たちは現代生活のなかにもう一度、いや毎日くりかえし受肉させようと努めることによって、こんどは文字通り、「典礼を生きる」者となり、さらには教会そのものを、この世界の光、パン種にすることができる。

教会は本来神秘的な存在であっても、体をまとって人の世の真中に生きているように、典礼を聖堂のなかに世間離れさせておいて、それが典礼のあるべき姿だと思ってはならない。それどころか、典礼と社会生活とは、密接に関わり合ってゆくべきものである。

私たちが日曜日にミサに出かけるのは、一週間の仕事に背をむけることなのだろうか。脱世間、脱俗事が「聖なる典礼」に参加するための条件なのだろうか。典礼とは人間の日常の生活のラン外の行事なのか。祭服やよそ行きを労働服に着かえて、ミサを自分の生活の場でつづけるという考えはもてないのか。

教会とて同じである。教会とは天使の姿で人類の上に君臨するものなのか。世界の出来事、人間のその日その日の関心事や戦いから離れていなければ、教会の聖性が傷つくのだろうか。

神の御子がマリアの子としてこの世に下り、私たちの中の一人となられたという受肉の事実、神がエンマヌエル＝われらと共にまします神になられたという事実を私たちはそのままに認めているのだろうか。

神の御子がこの世界のために受肉され、教会もこの世界に派けんされたように、典礼は人間の救いのために与えられている。典礼に参加できた個人のためばかりでなく、この人をとおして神のめぐみが遠く世界の隅々にまで及んでいくためである。

時々私たちは典礼を神への礼拝と賛美であるとだけ考えるが、典礼とはまず人間に救いをもたらす神の奉仕のわざである。だから神の救いを体験したキリスト者が、こんどは多くの人々の救いのためにどう奉仕のわざをつづけるかという重大な課題が生じてくるわけである。

ところが現代の多くの信者は、ミサや秘跡に積極的な意味を認めないで、それでもなお習慣的に形式的にか教会に体を運んでいるにすぎない。ミサに参加するのが、一時間だけの私個人の神との接触のためならば、ミサが心をわくわくさせる魅力を持たないのはあたりまえである。それはまったく形式的な神との出会いであり、その人にとって結局、典礼とは教会内で始まってそこで完結し、終幕する一場の芝居にすぎない。

神を深く体験しそれを社会生活のなかに生かそうとする毎日の努力によって、私たちはキリストの教会をこの世界に存在させ活動的なものにすることができる。

世界を神に近づけ、神に秩序づけるのは教会の使徒的活動であるが、それを実践するのは、典礼において、現実のキリストにふれ、その声をきいた私たち、救いのよろこびを実感した私たちの使命である。（広報室）

四旬節愛の運動献金

（ベトナムの教会の復興のため）

名町	15,000円	呼子	15,000
大浄水通	12,750	馬渡島	7,000
光ケ丘	3,012	佐賀	
西新	20,000	唐津	12,000
美野島		伊万里	6,000
高宮	51,018	鳥栖	
吉塚	4,010	武雄	1,600
茶山	5,850	鹿島	1,900
箱崎	10,000	多久	1,000
大楠		門司港	23,000
東田	6,473	門司	21,127
古賀	136,729	小倉	25,530
二日市	12,000	湯川	
久留米	25,000	戸畑	30,000
大牟田		若松	14,450
吉野	11,843	黒崎	25,000
今村	33,000	天神	
本郷		八王寺	11,000
小郡	25,003	本城	2,136
水巻	20,000		
直方			
飯塚	5,000		
田川	6,200		
行橋	33,000		
新田原	59,430		
手取	40,000		
荒尾	2,331		
人吉	15,000		
本渡	6,000		
健軍	7,615		
山鹿			
水俣	5,220		
大江	31,000		
津崎	25,000		
島崎	9,000		
玉名	3,080		
菊池	18,000		
八代	35,000		

大神学生	3,674
神学校援助姉妹会	3,000
女子トラピスト会	5,000
マリア会	5,000
幼きイエズス会	
久留米天使園	30,000
熊本〃	20,000
熊本信愛修道院・〃女学院	30,000
聖心修道院・病院	30,000
師イエズス会	4,000
女子聖パウロ会	3,000
カルメル会	5,000
天使の聖母会	10,000
宣教者フランシスコ会	
熊本修道院	30,000
人吉〃	10,000
ノートルダム会	15,000
シャルトル聖パウロ会	40,000
聖母訪問大濠修道院	10,000
吉塚カトリック保育園	5,000
北九州地区・歳末街頭募金	300,000
合計	1,447,981円

辞書は三省堂

紳士の気品と誇りを創る
お誂え洋服
紳士服の
ニューライン 糸永
電話 福岡 52・0820
ペトロ 糸永秀雄
福岡市中央区小笹四丁目4番 2636号

ヴィノ・デ・ミサ
（ミサ用ワイン）
720mℓ入 1,000円
教会の信者さまがたから好評をいただいております
取扱店
大楠酒店
福岡市南区大楠二丁目4番8号
電53・4718
ミカエル青木実（大楠教会）

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電(57)2673

栄養のバランス
牛肉・かしわ・豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
TEL 52・4015

学校法人
福岡家政学院
院長 渡辺ハナヨ
福岡市中央区天神三丁目
TEL 76—6155(代)
科目
調理師養成科、料理科、被服科
趣味科、家政科

"どこかで何かの役に立ちたい"

日本画に打ち込む岡本愛子さん

教会に通いながら、ひそかに日本画の勉強に打ち込んでいる老婦人がいる。大名町教会の岡本愛子さん（七二）がそうだ。

岡本さんが絵の道に入ったのは十年前。三人の子息が成長して家を離れたあと、『何かしなくては』と、終戦まで東京で修業していたという松尾画伯の門を叩いたのがはじまりだった。

『ある大名の抱え絵師の画稿が家にありますが獣や鳥の姿態を、いろいろな角度から執拗に追求していて、昔の人の修業のきびしさには心を打たれます』と語る岡本さんは、徒弟制度の中で叩きあげた松尾画伯の厳格な指導を受けてきたが、昨年は庭のテッセンを描いてみこと県展に入選した。『としよりの出る幕ではないと思いましたが、まわりの人たちに強くすすめられましたので』と控えめだが、四〇号のキャンバスに紫の花を散らし、竹垣、緑の葉、茎の緑で調子をとったこの絵はなかなかの秀作。

家庭の仕事をしたり、絵を描いたりが岡本さんの日常のようだが、この人にはまた個人的に世話をしている数人の人がいる。『私を必要としている人がいまして』ということばの中には、はっきりと岡本さんの信仰の姿が感じられ、

『私は池大雅の絵を持っています。竹を描いただけのものですが、これには七つのとりえがあると聞かされています。私がこうしていることも、どこかで何かの役に立っているのではないかと思い、そうあることを願っています』というとき、それはいっそう印象的に聞こえる。

岡本さんは宮崎市城ケ崎の生まれで、もと九大教授岡本勇象氏の夫人。福岡市大濠の自宅で、ご主人とふたりの静かな暮しである。

（岡本さんの入選作品）

岡垣射爆場問題

北九州社研で討議

五月十三日、八幡区黒崎教会に生態福岡歯大助教授、戸次氏（岡垣町在住、小学校教諭）、岡部睦子さん（射爆場から子どもを守る母親の会）を招き、「岡垣射爆場これからの問題」について話し合った。

岡垣町長選挙（四月八日投票、保守系辻守荘当選）後、防衛庁および県・町は五年後撤去を口実に、射爆再開を着々と準備し、射爆場撤去の運動はいま新しい段階をむかえている。北九州社研ではこの住民運動を八月の全国セミナー（24日―26日）で発表し、全参加者に訴える。

なお具体的な話し合いの内容は

❶町長選における革新系（撤去派）敗北の意味と住民の意志。

❷子どもを守る母親の会のこんごの運動の進め方、組織および責任者を明確にするかどうか。

❸十数年まえ、新田原の女子トラピスト大修道院が移転したいきさつを調べよう。

❹射爆場のある岡垣町に移住する人たちの考え、ベットタウンとして北九州の企業が団地化を進めている実態。

❺射爆場問題の本質は結局、憲法問題である。

❻岡垣町の司牧責任をもつ、水巻教会への働きかけは慎重におこなう。教会にではなく信徒有志に呼びかけよう。

北九州社研としては、この問題には息長く取組むのが正義への働きであると確信して、活動を進めている。

教育の中の差別

北九州教師の会のテーマ

北九州カトリック教師の会は、毎月第二木曜日の午後五時三十分から二時間、戸畑教会でバスチ神父の指導のもとに集会をひらいている、これは公立、私立の小、中高、大学のカトリック教師が、日常問題をもちよって、その解決を、キリスト者として福音の光に照らして考える会である。

具体的には児童生徒のこと、職場同僚のこと、私学のこと、教育公務員のストライキ、文部省、教育委員会の教育行政のことなど、現代の学校教育、家庭教育のもっている多くの難問をとりあげる。

ことし前半期は「教育の中の差別」をテーマに、毎月ひとりが問題を提起し、それを中心に討議して「自分だったら、自分の学校ではこうしてみよう」と、他人の問題を自分のものとして考え、反省して実行に移すことにしている。

北九州市には五―六十人のカトリック教師がいるが、毎月のこの集会には十―十二人の常時出席者しかなく、とくに若い教師の顔が少ないのが惜しまれる。なお年一回は、講師を招いての講演、懇談会をもつ計画もある。

信徒点描

期待できる青年信徒

佐賀教会の青年会長　江口　文好さん

ことし二月の三日と四日、佐賀教会は単独で『信徒布教研修会』を開催した。そのとき青年の中心となって、この計画を推進したのは青年会長の江口文好さんだった。

江口さんは、いま西南学院大学商学部の四年生。昨年と一昨年、江口さんが所属している財政学研究会が、全国五十二校から選ばれた十二校にまじって、全日本学生経済セミナールに連続出場した。

いずれも江口さんの論文が、審査を通過した結果だそうだが、この人のそういう頭の良さが、信徒布教研修会を成功に導いた。

『信徒布教研修会は無理な計画でした。でもうまくいったと思っています』

江口さんが教会委員の塚原さんに、"経費はみる。内容も一任するから信徒布教研修会をやってくれ"と言われたのは、開催予定日の二週間前。年頭に布教活動の一環として、教会の計画に組み込まれていたそうだが、それにしても無理な話だった。

まず会場を武雄の三国屋に決めた。『布教のさまたげを自分の心に求めよう』というテーマを選び、レクリエーションを大名町教会の信徒布教研修会事務局に依頼した。講師の点で少しもたついたが、それも愛の実行運動の近藤神父に落ちついた。さてふたをあけてみると、県内の教会から、神父信者あわせて六十人にのぼる人たちが参加した。江口さんたちの努力が、研修会を成功に持ちこんだわけだ。『アルコールを出したので女性に非難されましたが、教会では話しあえないような問題が出て有益な研修会でした』と、江口さんは快心の微笑を浮かべる。

この江口さんが受洗したのは高校二年のとき。本家の長男なので家庭や親せきの激しい反対にあったという。だがいまはもう反対する人はいない。信徒としての江口さんの行動が、その人たちを納得させたのであろう。

『私としては、いまがいちばん充実しているときではないでしょうか』

四年生になって、学校のクラブ活動が暇になった。いまは心おきなく教会の仕事に専念することができる。それだけに青年会についても、『私たちの手で、教会の中に何でも自由に話しあえる雰囲気を作りたい』『青年会で事務局を設けて、布教研修会や教会新聞の発行に力を入れたい』と意欲的だが、いま、何よりも江口さんを燃えあがらせているのは、やはり青年連合の問題のようだ。

江口さんは『私が欲しいのは横のつながりです。教区の青年が手をとりあえば、それは大きな力になりますよ』という。この人の頭にある青年連合は、教会青年の活動的な集りで、純粋で活動的な青年のパワーを、カトリックと社会の中に生かしてゆこうということである。『私の考え方を、時間をかけても青年連合に浸透させたいと思います』と熱意をみせるが、この熱意がどう実を結ぶかはこんごの課題であろう。いずれにしても、青年信徒江口さんの将来には期待が持てそうだ。

熊本信徒合同運動会

熊本地方の信者たちの血をわかせ、胸をおどらせる「合同運動会」は、五月十三日、少年の町グランドでことしもにぎやかに行われた。森と芝生の緑がはえる広場に特設された祭壇で、九時から司教ミサがささげられたあと、手取、島崎、帯山、健軍、菊池の五教会（八代、本渡などの連合軍は天候をきすかって不参加）から集まった七百人が、競技と応援に、日ごろの練習の見せ場とばかり大いにハッスル。一番の出し物「モデル競争」では、クレオパトラを演出した手取が一位。綜合では少年の町の子どもたちの奮戦があって、菊池教会の優勝となった。

使徒職への決意みなぎる

通算12回のクルシリヨ

五月の連休を利用しての信徒練成会（クルシリヨ）は、三日から六日まで、三十二人（男12人、女20人）が参加して福岡黙想の家でひらかれた。これまで男子八回、女子三回のクルシリヨがあり、今回はじめて男女合同の開催となったが、終始なごやかなふんい気のなかに使徒職への決意がみなぎり予想以上の効果をあげて解散した。参加者の所属の内訳はつぎのとおり。

司祭1、大神学生3、新田原5、久留米3、八王寺3、今村3、湯川2、水俣2、東田島2、福音の光修道会2、黒崎、本郷、光カ丘島崎、二日市各1。

今月おすすめする本

「平和の福音を告げる」

「カトリック入門」の神学的背景

P・ネメシエギ著

要理書にむかう場合、ひとは一種のあらたまった期待をもって読みはじめる。書かれてあることが予備的な導入であるのか、教えの本質的なものであるのかの判断はしないので、事柄の想起点が自分から遠いものであれば、あとにつづく教えにさえも異和感を持つものである。

「カトリック入門」が、四十六年四月に初出版された時、期待が大きかった反面、おおかたから疎まれた事は残念である。

ネメシエギ師の本書をよんでその原因が「カトリック入門」の読み方にあることを知った。

本書は「入門」以前に読まるべき書物ではないかと思われる種類の本である。

この中で「入門」中の、祈りと聖霊に対するすなおさで読まれなければならない大部分と、どうにでもあり得る準備的導入的内容とを、同じ比重で読み過す危険から救われる。

キリストの教えを宣教する職務にある人はもちろん、すべての信者が教えの証人であるならば、この本を読んで「カトリック入門」を見直して欲しいと願う。

愛すべき教えは、愛すべきものとして伝えられる筈のものであるからである。

全信者がこういった努力を積んだ上で、著者も期待される通り五年後、十年後には、すくなくとも愛すべき「カトリック入門」が姿を見せる事を期待したいものである。（オリエンス宗教研究所、二五〇ページ、七〇〇円）

救ライ街頭募金

熊本の高校生会

熊本市内のカトリック高校生は四つのルーテル教会と九州学院のプロテスタント高校生と合流して六月三日にインドの救ライのため二時間街頭募金をおこない、つづいて親睦と交流の会をひらく。

高麗人蔘茶（韓国専売庁管理品）
特別価格2,300円

生命尊重運動をつづける資金として

生命尊重運動とは、日本の優生保護法の改廃に生涯を捧げられた、佐々木鉄治神父様のご遺志をついで、この法律の改廃ばかりでなく、現代日本のより根本的な課題として、とくに青年たちに生命と性に関して、キリスト教の立場から啓蒙することを、目ざしている運動です。

この運動の基金および乳児院補助として、私たちは、カナダに総本社をおくアルキャン・アジア・リミテッドの協力を得て、その効能には定評のある「高麗人蔘茶」の廉価販売をいたし、その利益金をこの資金にあてることにしています。

従いまして、この運動を推進協力していただくおつもりで「高麗人蔘茶」をお買求めくださるようお願いいたします。詳細につきましては左記にお問合わせください。

生命尊重運動九州支部
〒814　福岡市西区別府2―16―13
本多義昭
電話 82―4968

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の　河野電気
ミカエル　河野三千夫
福岡市田 1162―29
TEL 87―3099

転任地熊本 信愛の素描

水浦　シヅエ

三月末に和歌山から熊本に転任してきた。

五月ともなれば、申しあわせたように一斉にいろどりどりの花が咲く。熊本信愛は特に花いっぱいの学園である。とりわけ学校の西側の垣根づたいに匂うばらは、とげまで美しい。散策の足をとどめてしばしそのばらを見ていると、

反対にばらに見つめられていた。
人はいざ心もしらずふるさとは
花で昔の香に匂いけり

という古歌がうかんだ。このばらは十年前と同じ形、同じ色をしているが実は全くちがった命を生きている。その一ひらも新しく生まれなかったものはない。にもかかわらず、香りはやはり昔と同じばらの香りである、などと思いめぐらしていると、何だかこの歌の作者の気持がわかるようだ。しかし、上の句にある〝人の心〟はどうであろうか。

この度の突然の転任で、五年ぶりに、八年間住んでいた熊本に帰って来た私を迎えてくれたものはあの聖ルカが記す慈悲深い放蕩息子の父親のそれであった。放蕩娘は「人はいざ心もしらず」とは義理にもいえない今昔の親しみを覚えている。しかし一方では、どうしようもない不安がつきまとっている。それというのも、この学校の数年間における発展を前にしておのいているからである。

生徒数は一八〇〇余り、先生もそれに応じて増員。校舎も年中行事のように増改築。西合志には大グラウンドが整備されて陸上部の合宿訓練が徹底し、「国体」には例年出場権獲得。それとは異色の活躍の途上にあるのが珠算部で、毎夕遅くまで血の出るような猛訓練をして、競技会という競技会に片っぱしから勝ち進み、今年は県下で初優勝、全国大会に備えているという。その他、タイプや英語の検定、放送部などのコンクールにも屈指の成績をあげていると聞いている。普通科の大学進学率も年々高まり、保育科、衛生看護科の進学、就職状況も好評裡に広がりを見せているとか。

今年の二月には宿願の体育館兼講堂が見事落成して、その美しい殿堂で、卒業式に始まる諸行事が繰り広げられている。

ざっとこれが私の熊本信愛着任の第一印象である。それは大いに感謝すべく喜ぶべきことには違いない。ところが、私の心に映った信愛の姿が、時としてまぼろしのようにはかなく見えることがある。凄い経済成長のかげに、大きなひずみを残した日本の縮図ではないかと思うことがあるからである。そうしたある日のことである。

夕方、七時頃の電話で、やさしいおじいさんの声。「信愛女学院ですか」「はい」「あなたの学校の生徒でした」「それがどうしたんでしょうか」「今日の帰り、私はへとへとに疲れていましたが、他の高校生は誰ひとり見向きもしないのに、信愛の制服の生徒さんが、すっと立って席を譲ってくれました。あまり有難くて、ひとことお礼を申したく電話した次第です」と。私は受話器を握いて、その光景を追い求めた。たしかにこの生徒はほめられようとか、学校の名誉とかを当てにして席を譲ったのではあるまい。人間のこころに秘められた暖かい思いやりが、たまたま座席ゆずりの形をとって現われたままである。必要なとき、必要な場所において、自由自在に、彼女は周囲の人々を喜ばせているに違いない。またフィーリングの時代だからではなく、このおじいさんのように、人の好意に対して、素直に感動する敏感な心を持ちたいものである。席をゆずるというような、簡単で何ともないことが大いに何でもあることだと、一本の電話で痛感した。

このことがあって以来、私は信愛教育の奥の手を探り当てた喜びでいっぱいになった。そういう目で学園全体を見ていると、すべてに心がゆきとどいているのを実感する。誰がしたともなく、あちこちに花が生けられ、雨で濡れた渡り廊下がいつの間にか拭きとられている。講堂の行事が終ると、頼まれないのに椅子の片付けが始まる。お帰りのお客様の靴が磨かれてある…。こういった実例は座席ゆずりと同じく一朝一夕にしてできることではない。やはり、長い伝統の中で培われ、育まれてきた奉仕の精神に外ならない。それが今日の物質主義、利己主義の風潮にも耐えて、学園の中に脈行っていることを思う時、この中に生きておられるキリストに出会う心地して、衿を正さざるを得ない。この内なる奉仕の精神こそ信愛の学校の支えであり、存在価値でもあると思う。いささかよいことづくめに終始したことを恥じつつ、転任地の素描としたい。（熊本信愛女学院校長）

教養

わたしの宗教教育

② ガイヤール

親と一緒に祈る

子どもの信仰教育の一部として祈りの教育があります。一部とはいっても、もちろん祈りの養成ということは、いかにも大切なことがらですから、親の責任として絶対におろそかにできない問題です。このことについて三つの点をとり上げ、親の協力を求めたいものです。

まず第一に、親が子どもと一緒になって祈ることの必要です。家庭祭壇、または十字架のまえで、どんな祈りをとなえたらよいのか、大きな問題ですが、いまここではふれないことにして、もっと根本的なことを話してみます。

それは祈っている親の姿を子どもに見せるということです。ではなぜ祈る姿を見せる必要があるのでしょうか。それはまず、子どもにとって勧めになるし、刺激になるからです。ひざまづいて祈りなさいと命令するよりも、模範を示すほうが効果的なのです。

お父さんやお母さんが、つかれているのに、忙しいのに、大事な時間をきせいにして十字架のまえで、ひざまづいて祈る姿は、言葉よりも何よりも、祈りの大切さをわからせてくれます。子ども、とくに低学年の子どもには、おとなをまねる特徴がありますから、この祈りの手本は、たしかに力強い効果を生むようです。

そればかりでなく、親の祈る姿は神の存在を証しします。天地万物が造り主を証明すると同じように、小さな子どもたちに、信頼している親が祈っている姿は、御父の存在を証明します。

心理の問題ですが、子どもにとって、親にはまちがいや誤り、うそなどは絶対にありえないものです。したがって親が神さまに忠実に祈るとすれば、それを目にする子どもは、あたりまえのように、神さまが絶対にいらっしゃると、しみじみ感じて、神を信じることになります。つまり親にとって、祈りの模範を示すことは、子どもの存在をたたえるために、大事にしなければならない一つのチャンスです。

家庭で親と一緒に祈ることに、もう一つ意味があります。それは信仰と日常生活を密着させることです。日曜日だけは掟を守って教会に行き、ミサにあずかってしまうと、義務を果たしたと安心して平日の生活にもどり、神さまを忘れた毎日をすごすという傾向はいまも強く残っています。それを直すには信徒にも神父にもいろいろの努力が必要ですが、子どものことだけを考えてみますと、家庭で親と一緒に祈るという教育は、非常に役立つものと思われます。

家庭の祈りを体験する子どもは信仰が教会の中だけのでなく、平日にも、家でおとなと一緒に生かすべきものだと、自然に感じることになります。つまり信仰と日常生活との密着は、この目立たない小さな養成から始まります。

ところで子どもが心から祈れるようになるため、親としてもう一つ意識しなければならないのは、御父はきっと祈りを聞いてくださるという信頼感を、子どもに与えることです。そのためにはどうしたらよいのでしょうか。

子どもがいろいろと親に話したがっているのに、親がうるさがって、少しも耳を傾けてくれないなら、子どもは次第に親への信頼を失い、生きる喜びもなくしてしまいます。親への信頼を失った子どもは、同時に天の御父への信頼も失って、神さまに祈る心もおこらなくなります。身近かな親が聞いてくれないのなら、目に見えない神さまが聞いてくださるはずがないと、子どもは単純に思いこんでしまいます。

祈りの心を育てようと思えば、まず親として、子どもの話しに愛の耳をかたむけなければなりません。親の愛情が神の愛を保証するのであって、親の愛情をしみじみ体験する子どもは、おのずから御父の愛を信仰するよう教育されると信じます。

忙しさのなかにもひまを作って子どもの相手になろうとする、この小さな努力に、じつは大きな意味があるのではないでしょうか。

連載随筆　炉辺詩語

悪魔

森　雅生

悪魔は絶え間なくわが傍らで騒ぎたて
触知し得ない空気のように　わが身の回りに漂っている
燕のこめば　たちまち肺は灼げただれ
罪深く　また窮みのない欲望に満ちあふれる
―ボードレール『悪の華』―

ここに訳したのは『悪の華』の中の、『破壊』という作品の一部である。ボードレールはこの詩で自ら体験したのは、その深刻な罪の意識に由来していると言われているが、ボードレールは、罪をのがれようとする努力によって、罪の重みを知り、悪魔の威力を知ったのであった。

悪魔は私たちの心の中に巣くっている。私たちが悪魔の威力を知らないのは、良心が鈍化しているか、欲如しているからである。親鸞は八十六歳のとき、この自分の心に栖む悪魔――蛇かさそりのようなあさましい根性に目を向けて、悲しみの声を発したそうだが、クリスチャンの私たちは、常住、悪魔を心に抱いていることを自覚し、そのことを悲しむよりもむしろそんな自分が、なお神の恩寵の中に生かされていることを喜び、感謝しなければならないのではあるまいか。

ボードレールは一八二一年、パリで生まれ、再婚した母と義理の父に反抗して、文学の世界に足を踏み入れた。『悪の華』はその代表作で、ボードレールはこの詩集で、『罪の意識』を明確にとらえ人間の心にひそむ悲劇を分析しようとした。そしてそれが抒情詩の質を一変させ、近代詩への新しい道を切りひらくという、偉業を成就することになったのである。

『悪の華』は、出版された当時、背徳と腐敗と頽廃の書として、社会の指弾を浴びたが、ボードレールの死後、『火箭』『赤裸の心』『書簡集』などが刊行されるに及び、疑惑と汚名はしだいに薄らいでゆき、今日ではすでに、『悪の華』が、ボードレールのカトリック信仰に基づいていることを、疑う人はいなくなった。

作家のアナトオル・フランスは『近づいて観ると、ボードレールは背徳の詩人にあらずして、それとは全く別な、罪の詩人である。彼の道徳説は神学者たちのそれとあまり異なっていない。……原罪の教義は〈悪の華〉において、最終の詩的表現を見出したと言ってもよい』と書いており、ここにはボードレールの人物と作品にたいする、きわめて深い洞察を見ることができるのである。

一八六六年三月、ボードレールはナミュウルに遊び、サン・ルウの寺院を眺めているとき、突然、よろめいて石階の上に倒れた。そしてそれがもとで、一八六七年八月三十一日、老母の顔を見守りながら死んでいった。四十六歳であった。

詩　声

辻村亜騎（匈奴の会同人）

未だ日はのぼらなかった
はるかな地平線は混沌を蔵して昏く
人間は沼と葦のあいだで
蒼白の眠りをねむっていた
斯る愚昧のあかときにも
グレシアの鴿のように
純粋の声は生まれいでたが
その声は不毛の野に亡び
その愛は乾いて
泥土の中に埋もれていった……
かつて始原の眼に
曙をともした暁き
きょう石の如くにわれを搏つ
叱咤！
その声はわれを越える
われを越えて原子雲の形で
人間の慟哭に重なってゆく

――旧作――

プロテスタント　カトリック
合同聖書講演会

共同訳聖書について
―現代に語る神のことば―
講演題
宮内　俊三氏（日本聖書協会総主事）
講師
六月七日（木）午後七時三十分―九時
日時
日本キリスト教団中部教会
福岡市中央区大名二丁目
会場
福岡市内カトリック・プロテスタント教会（入場無料）
主催

六月三日「広報の日」
六月十七日「父の日」によせて
おすすめしたい本
新刊　愛を問う
佐古純一郎　山田中澄江　崎庸一郎　著
¥450
孤独。結婚。生きがい。現代人の大きなこの問いかけに、著者たちの自らの貴重な思索と実践のあとを、それぞれ独特の筆致で描いている。
新刊　育つ育てる　三宅　みち著
¥400
心を耕す教育、知恵を育む教育という見出しのもとに、今の幼児教育の問題点の扱い方を親切にのべている。
福岡・リーぶる天神　金文堂
北九州・金栄堂　ナガリ書店
門司・金山堂　でも扱っておりますので、ご利用ください。
聖パウロ書院
大名町教会隣
西鉄グランドホテル前　(74)4588

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長　ルカ　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角（山荘通）
電話代表　(52)0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額　五百万円
一、募金方法　一口五百円
一、送り先　本誌編集部（振替福岡四二九八一）

寄付者報告（敬称略）
行橋市祇園町竹下晴子五千円
累計　十七万三千五百円

泰星高校 新校舎起工式

学校法人泰星学園（理事長平田三郎司教）が経営する泰星高等学校（山頭原太郎校長）の校舎と体育館の建築起工式が、六月十四日午前十一時から新校地にえらばれた福岡市小笹四丁目であった。関係者約四十人が列席するなかで、平田司教が工事の安全を祈って鍬入れをおこなった。校地は市立動物園西門の西側、約二万三千平方米、設計は菅種雄氏、施工は藤田工業株式会社で、来年はじめ完工予定。

司教教書

痛悔と回心の実践を

6月10日から聖年開始

パウロ六世教皇は、二年後の一九七五年（昭和五十年）を聖年とすることを決定された。この聖年は去る六月十日、聖霊降臨の大祝日から発足して二年後に終幕する。平田司教は聖年開始にあたって教書を発布し、教区民に痛悔と回心と祈りをもって、キリストのあがないの恵みに与るようすすめた。教書の内容はつぎのとおり（一部省略）

聖年とは

聖年とは、キリストによるあがないのみわざを記念し、罪の痛悔と償いの実行によって、救いのお恵みに与かることができるよう、一年間をそれにあてるものです。最初に聖年が行われたのは、紀元一三〇〇年でした。この時から五十年毎に行われていたのが、やがて二十五年毎に祝われるようになりました。過去のもっとも新しい聖年は、一九五〇年で、聖母マリアの被昇天の教義が宣言された年です。

聖年の開式はローマで盛大に挙行されるのが普通ですが、今回はまず世界中の各国、各教区で一年半にわたって聖年の務めをつづけたあと、ローマで盛大に擧をとることになっています。聖年の務めとは、一口に言って、キリストのご受難とご死去の神秘に、私ども信者がいっそうつよく結ばれるように、痛悔の心、熱心な祈り、愛の実践をもって、真実の信仰に生きるように回心することであります。したがって聖年とは、なにか外部的な行事を展開することよりも、まことの信仰精神を高めるのをめざしています。もちろんなにかの行事も各地で行われますし、ローマの請教会や自分の教区内のある指定教会への巡礼のようなことが勧められます。それにしても、聖年とは、神のお心に立ちかえることをめざして、全教会が霊的修業にはげむときなのであります。

神と人との和解

今回の聖年は前回の聖年から二十五年目ですが、特別の意味をもつ聖年だと言えます。と申しますのは、一九七五年が第二バチカン公会議が終って十周年にあたるからです。この公会議は、みなさんご存知のとおり、教会全体の回心と刷新をねがって開かれました。そしてこのたびの聖年のテーマとしては「和解」ということばがあげられていますが、このことばは、公会議による全教会の回心と大いに関係があります。回心とは、自分の悪いところに気づいて、そこから立ちなおろうと、ゆるしを求めて神に近づくことです。こういう回心は、キリストのあがないによるめぐみとして与えられるものであり、同時に私たちのほうからの決断にかかっています。私たちが心をひらいて神にゆるしを求めるのにたいして、神が腕をひらいて受け入れてくださいます。そこに和解が生まれます。神との和解につとめる私たちは、また一方、個人や民族や国家のあいだの和解、仲直りの成立のために力そえをすることもできます。現代世界のいたるところに見られる大人と青年の断絶、民族間の争い、国と国の対立が少しでもなくなるように、神のめぐみを祈りながら働きかけてゆくのは、福音に生きる私たちのつとめでもあります。

聖年の特別免償をえるために、福岡県の信者は司教座聖堂に、熊本県のかたは手取教会に、佐賀県のかたは佐賀教会に参詣し、またこれらの教会でなされる聖年行事に参加し、回心の実（じつ）をあげるようにしてください。

この聖年のめざす回心と和解が、教区のみなさんのうちにうつくしく実ることを祈りながら、司教祝福をおくります。

第二回 信徒布教研修会

事務局に内容と苦心を聞く

昨年九月海星女子学院で開かれた『第一回信徒布教研修会』は、青年連盟結成の端緒になるなど、教区の布教活動に大きな刺激を与えたが、ことしも福岡地区信徒使徒職協議会、レジオ・マリエ、ヴィンセンシオ・ア・パウロ会、福岡教区クルシリヨ事務局などの共催で、『第二回信徒布教研修会』を開催することになった。

そのプログラムもほぼ完成したが、こん回実務を担当したのは福岡大名町教会内『信徒布教研修会事務局』のメンバー、鈴木美子、林龍士、村上政隆、浦口勝也、石田幹雄、萩尾博隆、鬼木昌之（順不同）の皆さん。

この人たちが研修会の計画に手をつけたのはことしの一月。林さんは『テーマの選定で苦労しました』というが、そのテーマに『二の足を踏むな』が浮びあがったのは三月、五月には指導者のリバス神父を迎えてさらに話を進め、本式に『われらみな兄弟』が決定した。このテーマの目ざすものは、現代社会の動きの中で、自分の回りにどうやって仲間を作るか（布教するか）を話しあうことで、詳しい資料は申込みのとき手渡されることになっている。

終始話し合いの中心になってきた鈴木さんは、その経過の中から『こん回は二回めで、前回に比べて細かく計画を建てることができました。テーマを一本に絞ったのは、中心がつかみやすく、容易に話しが進められるようにという配慮から。またスケジュールも参加者の実情に合わせるよう努力しました』と語っていた。

なお研修会の内容はつぎのとおりで、事務局、共催団体では『昨年より一歩進んだ研修会になると思います。教区の信徒、司祭、修道者多数の参加をお待ちしています』と言っている。

期日＝昭和四十八年九月十四日（金）午後七時三十分集合、十六日午後四時解散
会場＝福岡市中央区御所谷一福岡聾唖学園
テーマ＝『われらみな兄弟』
指導＝インシドロ・リバス神父
会費＝三千円（千円は申込みのとき前納）
申込受付＝七月二十一日―八月二十日（事務局あて）

☆　☆　☆　☆　☆

りぐめ会教 泰

行橋（三位一体）教会

行橋市大橋溝添

日豐本線行橋駅まえの商店街を東に抜けて国道十号線で右折、英彦山に源をもつ今川のほとりに行橋教会がある。

行橋市は北九州工業地帯と観光地の別府、さらに新しい大分臨海工業地帯と直結する線上にあって、古くから京都郡の商業の中心地として栄えたところ。いまでは北九州市のベッドタウンであるほかに、火力発電所、セメント工場、安川電機、東洋陶器にとりかこまれ、商業市としての特色はむしろ稀薄だ。

青木功神父

他方、市南部の新田原は昔ながらの農村地帯で、四季それぞれに果実の生産が多い。行橋小教区に所属するのは、苅田、豊津、犀川の三町。なかでも豊津町には小倉小笠原藩の出城があり、いまでも城下町の香りを残している。

信者はここに約二百二十人。平戸、五島から昭和のはじめに集団移住してきた旧信者の一群である。これにたいして行橋市周辺のぞく信者数は十指で足りるほどだったというから、まさに隔世の感がある。

はじめ駅の近く、神田町のある洋裁学校を改造して、聖堂兼幼稚園にしたのはドヌワイエ神父（現在はパリで司牧）。そのとき二十五人の園児で はじまった 幼稚園は、いまでは二百九十人。主任の竹田さんは創立以来の勤続。三十六年七月に現在地に移り、四十二年六月にアインシャート神父が、さらに三年後に青木功神父が福岡市大楠教会から着任した。

「幼稚園のほうは先生がヴェテランだし、教会は信者さんがどんどんやってくれますから、私は何もしなくていいんです」と笑う青木神父だが、体の不調を押し、地味な司牧活動をつづけている。信徒活動をリードするのは、ここ一番の古顔出口周一さん（四十九歳・築城基地勤務）、白井芳数さん（五十六歳、めがね商）、追立季治さん（四十三歳、安川電機勤務）ら。青年会と婦人会も定期集会をしている。

めずらしいのは、ドヌワイエ神父が結成したスカウト行橋第一分団、ボーイ、ガール、カブ、ブラウニーあわせて約七十人が毎週土曜日、聖堂で祈りと訓話を聞いたあと訓練にはげんでいる。ここの幼稚園を出た少年たちが多いが、指導者がいないのが悩みとのこと。白木氏が団委員長をつとめている。

司祭候補者認可式

六月十三日福岡大神学院で、神学生五人が司祭志願者として公けに認可された。この式はミサ中平田司教が行い、各人にストールが与えられた。認可をうけた学生氏名、所属教区はつぎのとおり。

竹森勇、渡辺隆義（福岡）諸岡清美、山内実（長崎）、畑田和幸（大分）

7月のこよみ

1日（日）　聖ペトロ・聖パウロ両使徒
キリストへの信仰を表明し、そのために生涯をささげたペトロ、このひとりのよわい人間の上に教会は建てられた。
平田司教ご霊名の祝日

3日（火）　教区全司祭の集会

8日（日）　年間第14主日
キリストの郷里の人には、このふしぎな同郷人にたいして的外れの期待をいだく。神のご計画を知ることのできる人は少ない。

15日（日）　年間第15主日
キリストは弟子たちを宣教につかわすが、神の呼びかけに耳をかたむける人は多くはない。しかし空しい叫びのようであっても、私たちは叫びを止めてはならない。

22日（日）　年間第16主日
神の呼びかけに耳をとざす人もいるが、まだ一度も神の声をきけなかった人も多いのだ。誰がこの人たちに福音を告げるのか。

29日（日）　年間第17主日
砂漠に取りのこされた人々に、生命のパンを持ってゆくのは私たちだ。

8月のこよみ

8月5日（日）　年間第18主日
キリストは砂漠にいる人々に語りかける。現代社会の砂漠にいる人々は、物質をこえた、生命のことばに飢えている。

6日（月）　主の変容の祝日

12日（日）　年間第19主日
友人と一緒に食事をするのは、親しい友情の表現である。キリストはすべての人をこの「親しみの食事」に招いておられる。

19日（日）　聖母の被昇天の祭日
マリアが天にあげられたのは、マリアおひとりの栄誉でなく、私たちキリスト者全員に希望を与える、母の運命は子らの運命である。

26日（日）　年間第21主日
神の呼びかけに耳をかたむけよう。騒音はあまりに多く、私たちはそれに心をうばわれて、神からはなれてしまう危険が多い。

事務用機器　文具・紙
放送用機器
福岡市南区大楠二丁目13番21号
有限会社　シオタ事務機
(52)5327・(53)4905
スチール製品　デスク・ロッカー・黒板

各種高圧ガス・溶接材料の総合商社
各種溶接機械・器具材料
各種工作機械・器具材料
各種労働安全保護具
配管工事設計施工
有限会社　松尾溶材商会
代表取締役　松尾光敏
北九州市若松区大字藤ノ木宮丸1924の20
電話　(093)771―3657―9

［公会議をふり返える］（最終回）

明日の教会建設に必要なもの

共同体精神にみちた教会愛

第二バチカン公会議が開かれてすでに十年が過ぎた。この十年はカトリック教会にとって、かつて経験しなかった大激動の時であった。公会議開催の時点で予想できたところをはるかに越えた大変化が教会内部に起こった。私たちは公会議の教えを深めることによって、教会刷新の方向を正しく受けとめようと、一年にわたって「公会議をふり返える」を連載してきた。私たちは公会議の内容を正しく把握しないかぎり、今日の教会に留まることはできないのみか、明日の教会の建設に足を踏み出すこともできない。私たちが頭の中に画く明日の教会の青写真は、今日の教会の現状、ひいてはこの公会議の教えとまったく無関係のものではないはずである。だから私たちは本連載の最後の項として、明日の教会は何を大切にし、何を強調すべきかを公会議の教えのなかから抽出して、かんたんな説明を付して見ることにした。

神の民

神は、散っている人々を呼び集めて一つの共同体にすることをお望みになった。まず旧約時代は、モーセに導かれてエジプトから出たイスラエル民族を、ご自分の民としてえらび、真の神を礼拝する共同体とし、その上に救いの恵みを与えられた。

つぎに神の御子のご来臨によって、その福音を信じて洗礼をうけた者はみな神の子とよばれ、三位一体の神にかたどって共同体を作る。これが新しい神の民である。キリストをかしらといただくこの民は、神の国を建設し、人々の救いのために奉仕することをめざす。神の子らのこの共同体が教会であり、礼拝と救いの共同体、すべての人々に開かれた共同体なのである。

この共同体の魂ともいわれるものは聖霊であり、その賜ものである愛によって全員が一つに結ばれる。洗礼によって私たちはこの共同体の中に迎えいれられ、聖体のいけにえをささげて神を礼拝し、同じ一つのパンによって養われるだれも自分のためだけに神の恵みを顧わず、利己的にそれを保有してはならない。

旅人であるこの民はみな不完全なものであると自覚しているからこそ、完全をめざして励まし合い助け合う。「信者の群は、心と霊とを一つにしていた。だれも自分の持ち物を自分のものだと言わず、すべてのものを共有していた…。かれらの中には、一人も貧しい人がなかった」（使4・32―34）。このような初代教会の信者たちの生活態度は、明日の教会にとっても一つのモデルと見なされる。

「信者たちはみな一致して生活し、すべてのものを共有していた。かれらは自分たちの資産と持ち物とを売り、おのおのの必要に応じてそれを分け、また心を一つにしていた」（2・44―46）。

明日の教会がもっとも大切にしなければならないのは、この共同体的一致の精神である。私たちに物質的な富、霊的な恵みが与えられるならば、それを全体のために利用する責任がある。自分のもっている能力を他人のためにも使うのが奉仕である。職務によって人の上に立った者は、その権威をもって誰よりもいっそう奉仕を活発にしなければならない。共同体精神の第一の特徴はこの奉仕の実践にある。

私たちはまず小教区のなかで物心両面の助け合いの態勢をつくろう。他人に心を閉じたり無関心であることを止めよう。奉仕をめざして一緒に働く場所と機会を探そう。一小教区だけでなく他の小教区とも手をとり合って、より効果的に奉仕できるようにしたい。婦人会も青年会も小さなグループから少しずつ大きく連合してゆくようにしよう。現代世界のなかで、きわめて小さな群でしかない私たちが、ばらばらに愛を実行しないで、一つにまとまるように工夫しよう。修道者も神の民の一員であることを、信徒たちとの共同の働きをとおして現わしてゆこう。司祭たちも兄弟的な一致と愛の実践によって、群全体の模範となるよう努めよう。

エキュメニズム

私たちは神の民であるという自覚から、必然的にキリストを信じる他の兄弟たち（カトリック以外のキリスト者）への対話と交わりが始まる。

教会憲章によると「全能の父なる神と、救い主である神の子キリストを愛をもって信じ、洗礼によってしるしを受けてキリストと結ばれた者」は、不完全ではあるが、私たちと結ばれて神の民の共同体に属している。この特別のきずなにもとづいてお互いに助け合い、より完全な一致に向おうと努力するのが、エキュメニカル運動（エキュメニズムとも言う）である。

公会議以来、プロテスタントの兄弟たちとの相互理解は深まってきた。それに聖霊の大きな恵みであるが、私たちはそれに答えて一致を実現し、キリストを知らない大衆の前にも福音のあかしを示さねばならない。

専門の神学者のあいだでは、高いレベルの話し合いがあるだろうが、私たち普通の信徒同志でも教え合うことは多いし、また社会活動の分野で具体的に協力してゆくことができる。この点についてエキュメニズムの教令はつぎのように奨励している。

発展途上国の社会的・技術的改革を助けるとか、人間の尊厳の正しい認識の確立とか、平和のための運動とか、その他のいわゆる社会問題（福祉、労働条件、住宅）について、共に働くことによって、キリストの福音のおきてを共同で実践することになる。

本欄の下に掲載しているエキュメニカルな研修会の開催はその典型的な例であるし、共同訳聖書の刊行もそうである。その他に各地でよく行われる合同の募金運動、市民クリスマス、靖国神社法案反対運動なども挙げることができる。

宣教活動

神の民の第一の特徴は、共同体全体への愛と奉仕の実践であるとのべたが、そのことは裏返して言うと、愛と奉仕を忘れた者は、共同体のふところの中に名目的には留まっていても、じっさいは真のキリスト者ではないということになる。そして他方私たちの周りには洗礼をうけてはいないが、誠実な心をもって神をさがし求め、また良心に従って生きようと努めている多くの人がいる。かれらはいろいろの意味で神の民に秩序づけられた〝神の国の同盟者〟である。

私たちはこのような人たちにも愛と奉仕を義務づけられている。神の民が多くの国民のなかに立てられたのは、暗を照らす灯台の役割を果たすためであり、人々の救いの共同体となるためである。

宣教は明日の教会にとってますます重大な使命である。「キリストのすべての弟子には、自分にできるかぎり信仰を広める義務が課せられている」。しかしじっさいには私たちの宣教意欲は十分ではない。宣教を特定の人たちのことと考え、何の使命感も持ちえないのは、あきらかに共同体精神の欠除である。外にむかって働くのは宣教師たちの役目で、すでにあみにかかったものは、静かに自分の救霊のことだけに専念すればよいというのが、カトリック者の長い信念であった。この伝統を打ち破るのは容易であるまい。しかしこれまで及びもつかなかったこの仕事に取り組まないかぎり、明日の教会は自滅する。司祭と修道者、信徒の共同戦線が根本的に必要である。そして第一線に立つのはむしろ信徒であり、かれらを宣教者として養成するのは司祭のつとめである。

要理教育

神の民がこの世界で光を輝やかし、キリストの福音をあかしできるには、いろいろの形のトレーニングを必要とする。それにはたとえば使命感を促すもの、活動意欲を高めるもの、知識や方法を教えるもの、共同体精神を養うもの、神との親密を深め信仰を強めるものなど、さまざまな信者訓練がある。教会の宣教活動についての教令はのべている。

「神の協力者である宣教者は、神が各自にゆだねられた祭司的・預言者的・王的任務を果たしうるような信者の集団を育てあげなければならない…。キリスト教共同体は、当初から、各自の必要に、できる限り各自が対処できるように、訓練されなければならない」（15番）

訓練には高度の組織的なものもあるが、もっと大衆的な訓練もある。小教区や家庭集会、その他読書会、研究会、研修会をとおして身近かに与えられる「要理教育」である。

要理教育は子どもから老人におよび、しかもとくに青少年の、とくに若い父母の、とくに社会的地位にある人のための生きた信仰の教育である。「これは信仰を慰らし、固め、キリストの精神による生命を養い、典礼の秘義への意識的で行動的な参加へ導き、使徒的活動へと励ますものである」（教育に関する宣言、4番）。

掟を強調するよりもキリストご自身をどう生きるか、罪をさけるよりもどう愛を実践するかを強調する。教義の理論的説明よりも、神の民として生き完成してゆく道を教育することである。

この意味で典礼は信仰教育と使徒養成の第一の場である。キリストとの交わりを体験し、信仰のよろこびを感じる典礼参加により、またそのような体験を自分のことばで生々と語ることのできるよう信者を訓練するのが望ましい。

明日の教会を築くのは、キリストを生きる信者の共同体である。

聖書教育

旧約の神の民に与えられた一つの特典は「いつも神のことばを耳にした」ということである。神自ら、時としては預言者をとおして神は民に語り、かれらを導き教え、叱責し、そして励まされた。

「神は、何度も、いろいろな方法で、その昔、預言者を通じて、先祖に語られたが、この終りの日々には…その子を通して語られた」（ヘブライ1・1―2）

神は一回きり語られるのでなく一般的に語られるのでもなく、私にむかって、くり返し語りかけてこられる。それが聖書朗読と聖書教育の中心である。「じっさい聖書において、天にいます父は、深い愛情をもって、常に自分の子どもたちと会って、互いに語り合う」（啓示憲章21番）。

聖書のなかで福音書がもっともすぐれた啓示であることは言うまでもない。従って聖書研究と黙想はこの福音書を中心に行われるのがよい。それによって私たちの中にキリストが受肉し、生きつづけてくださる。

聖書はまさに要理教育の真ずいである。公会議以来、典礼刷新やエキュメニズムのすすめなどによって、信者のあいだにも聖書への関心が高まったことは認められるが、しかし本当の聖書教育はごくまれにしか見当らない。

神約の民に二つの食物が提供されている。キリストの聖体と神のことば＝聖書である。この二つの食物に生かされた者が明日の教会建設の立役者になれるのだ。

教会愛

教会の危機がこんにちほど深刻に感じられた時代はないであろうし、明日の教会についても多くの人が危惧（きぐ）の念をいだいている。だが私たちはキリストの建てた教会にたいし絶対的な信頼を失わないようにしたい。この信仰にもとづいて私たちは教会を刷新し、さまざまな欠陥を直視しながらも、これを埋める努力をつづけたい。教会が背負っている苦悩と弱さは、ある特別の人のものでなく、私たちのものである。だから私たち自身がみんなと協力して教会を生き返えらせ、「しみなく、しわなく、その類いの何もない、輝やかしく聖く、けがれのない教会」の再建をめざしていくのである。こういう努力がまことの教会愛であり、これがなかったら、私たちの一切の活動は結局、自己満足か活動のための活動にすぎなくなる。

私たちは、まず小教区を大切にし、教区を愛し、教会全体を愛しよう。そこにいる人々、司祭と信徒、司教と教皇を愛し、私たちの奉仕を望み必要としているすべての人々に、正しく答えてゆく努力をつづけよう。「各自はキリストの教会を愛する尺度に応じて聖霊をもっている」とアウグスチヌスは教えている。明日の教会は、教会を愛する私たちが作るのである。

（広報室）

エキュメニカルな国際研修会

教会指導者の養成めざす

アジアの教会人（教職者および信徒）のための国際研修会（インターナショナル・トレーニング・インスチチュート）が、八月十二日から三十一日まで福岡海星女子学院でひらかれるが、開会式には日本、韓国、台湾、香港、フィリッピン、南太平洋諸島からの参加者のほか、市内のキリスト教各派教会指導者らが来賓として出席する。

この研修会は指導者養成のための三週間のエキュメニカルな内容をもつもので、めざすところは、小教区生活にじっさいに適用できる種々の方法について、地域諸教会の教職者や信徒リーダーを訓練することである。内容の中心は教育的な種々の方法、社会にたいする教会のあり方、霊的訓練の二十世紀的諸形態の研究である。カリキュラムとしては、神学、文化学研究の講義とゼミナールがなされる。三週間のあいだ参加者は、共同体としてまた個人としての反省と祈りをとおして、いろいろの形式の典礼にあずかる。

こういう正式のプログラムとは別に、九州の歴史的・文化的な場所の見学、国際色ゆたかな余興などもある。

エキュメニカル・インスチチュートとよばれる研修団体は、すでに東南アジア、インド、アフリカ、南アメリカなどの十カ所で、上にあげたと同じ研修会を主催した。今回のものは日本最初の研修会である。

エキュメニカル・インスチチュート自身は、二十年以上も前から、地域教会のための研究と訓練センターとして活動している。現在までに千六百以上の国際講義と八十四の教師養成コースを全世界でおこなっている。これからも教職者と信徒のための神学・文化学研究コースを計画している。そのうちのいくつかは来年中に福岡で開かれる。国際研修会について詳細を知りたい方は、左記あてご照会いただきたい。

福岡市中央区桜坂三丁目12―88

R・ジョンストン

科目　調理師養成科、料理科、被服科
趣味科、家政科
学校法人
福岡家政学院
院長　渡辺ハナヨ
福岡市中央区天神三丁目
TEL76―6155(代)

栄養のバランス
牛肉・かしわ・豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
TEL 52・4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電(57)2673

ヴィノ・デ・ミサ
（ミサ用ワイン）
720mℓ入 1,000円
ミサ用のぶどう酒ですが、家庭用・贈答用としても、みなさまに好評をいただいております。
取扱店
大楠酒店
福岡市南区大楠二丁目4番8号
電53・4718
ミカエル青木実（大楠教会）

紳士の気品と誇りを創る
お誂え洋服
紳士服の
ニューライン 糸永
電話 福岡 52・0820
ペトロ 糸永秀雄
福岡市中央区小笹四丁目4番
2636号

辞書は三省堂

親睦と活動をめざし『カトリック婦人の集い』

将来は布教、市民運動も

『福岡教区婦人の連帯を広めよう』と、『福岡教区カトリック婦人の集い』が発足した。発起人は高宮教会の鬼木久美さんと、同教会マリヤ会の会員たち。『市内教会の婦人の力を寄せ集めて、対内対外活動の強力な態勢を作りたい』というのがこの人たちの願い。

第一回の集りは昨年九月二十日、高宮教会でひらかれた。このとき話しあったのは❶市内教会婦人の親睦を深めよう❷婦人の意見を交換しあって、よりよい教会活動を推進しよう❸家庭生活、子どもの教育のあり方についての実際の問題、意見を交換する場をつくろう、ということだった。鬼木さんは、婦人の集いを思いついたきっかけをつぎのように語っている。

『高宮教会の婦人会長を勤めていたとき、大神学校でひらかれた信徒使徒職協議会の発会式に参加しました。そのときの妙に親しみのない、白々しい雰囲気を淋しく感じたのが、親睦の集りを作ろうと思ったはじまりで、その後――去年の夏ですが、高校生の夏期練成会で、食事の準備を頼まれ、各教会に声をかけました。浄水通教会の吉川さん、茶山教会の笹淵さんなど、多数の方々の協力で、無事昼夜の食事を準備することができましたが、そのとき〝これを機会に婦人の集りを作りましょう〟と話しあったのがきっかけとなりました』

三回めの集りは五月九日、黙想会の形で黙想の家でひらかれた。このとき鬼木さんのほか、浄水通教会の吉川八重子さん、大名町教会の佐藤正子さんが世話人に選ばれ、いちおう集りの形がまとまった。

世話人の丹野さんは、

『これは将来の婦人会とは全く別で、各教会婦人の自由な、そして個人を単位とした集りです。従来の婦人会の連合体と考えている人や、せっかくうまくいっている婦人会をかき回さないでくれといわれる教会がありますが、そうではなく、親睦を主にした集りですから、気楽く、自由な気持で参加していただきたいと思います』という。いまこの人たちが考えているのは、一人暮しの老人の世話、結婚講座、カナの会への協力など。将来は布教、市民運動にも手を伸ばしたいというが、親睦の中に、婦人らしい活動を展開しようというこの集りは、活動の場を持たなかった福岡教区の婦人たちに、大きな刺激をもたらしそうだ。（写真はこれからの計画を話し合う婦人たち）

共同訳聖書に関心を

福岡で聖書講演会

数年前から刊行準備をすすめている共同訳聖書に、キリスト者の関心を高めて協力を求めようと、六月七日午後七時半から、カトリック・プロテスタント合同の聖書講演会が、福岡市大名二丁目の日本キリスト教団・中部教会でひらかれ、約九十人が出席した。

共同訳聖書とは、日本のカトリックとプロテスタントが共同して現代の大衆にも理解できることばで聖書をほん訳するもので、両派から聖書学の最高権威者が参加し、信徒たちの拠金で支えられる。

講演会はイエール神父（福岡大神学院教授）の聖書朗読と祈り、主催者代表深堀神父のあいさつのあと、日本聖書協会総主事・宮内俊三氏が「現代に語りかける神の言（ことば）」と題して約一時間講演をおこなった。その中で氏は、日本における聖書翻訳の歴史、その刊行状況、日本人の聖書にたいする興味と関心、そしてこんどの共同訳聖書の目的や特徴についてのべた。おわりに野田牧師がこの大事業をよろこび、祈りと献金をもって援助しようとアッピールして解散した。

ベトナム募金

百五十万円突破

四旬節愛の運動として「ベトナム教会の復興のため」に福岡教区でおこなった募金は、六月二十一日現在で百五十万七千二百六十一円に達した。金額は日本カリタス・ジャパンに寄託し、このほど同理事長松村菅和神父より感謝状が届いた。なお平田司教および担当司祭宗永一神父も協力援助に感謝している。

献金表の追加

本郷	33,000円
島栖	19,000
直方	1,200
帯山	9,500
黒崎援助会	3,580
計	59,280
総計	1,507,261円

信徒点描

レジオが行動の基盤

手取教会のレジオ会員　村上征二さん

村上征二さん。熊本、手取教会の青年信徒。三〇歳。大阪で生まれ、熊本で育った。色が浅黒く、眉の濃い顔は、見るからにたくましい感じ。

『酒のみの父と争って家を飛びだしました。十七歳のときです』

酒ばかりのんでいるお父さんとの間に、親と子の対話がなくなった。加えてお父さんは酒のせいで病気がち。家の中は、いつもじめじめと暗く、それがたまらなく嫌だった。〝いまはあのときの父の気持がよく解ります。父は父なりに、暖いものを持っていたと思えるようになりました〟過去の苦渋を噛みしめているような話しぶりだが、そう言えるところに、この人の人間の成長があるのだろう。

『シスター・テクラに出会ったのが、カトリックへの第一歩でした』

村上さんは胃カイヨウを患い、琵琶崎聖母慈恵病院に入院した。そこでシスター・テクラに会い、その人格に触れたことが、この人に受洗への道をひらいてくれた。しかしこのときの村上さんは二〇歳、まだカトリックのことは何も知らなかった。

村上さんは、慈恵病院を退院して大阪へ行った。働いているうちに、生活と人生の問題に悩みはじめた。考え、苦しんでいるうちに、急にシスター・テクラに会いたくなった。ふたたび慈恵病院を訪れたが、シスターはすでに転出して病院にはいなかった。かわりにガラハ神父に会い、なにかと相談の相手になってもらった。こういうことが、村上さんを、しだいにカトリックの理解へ導いてゆくのだが、心ある人なら、そこに、召しだしの神秘を見てとることができるだろう。村上さんが洗礼を受けたのは二十五歳、シスターテクラとの出会いから五年の歳月が流れていた。

『役職につくことはきらいです』

だからレジオでも平の会員。しかし熱心な会員で、〝村上さんは気の短いところはありますが、仕事には積極的で、レジオでもよく働いてくれます〟会長の清水レイ子さんと、副会長の村島チエ子さん。村上さん自身もレジオの意義を自覚し、〝レジオに加わったことは非常によかった。いまの私には、レジオはすべての行動の基盤です〟と言っている。

この人はまた、青年連合を推進したメンバーの一人だ。

『青年連盟の活動の根拠は信仰です。小教区で指導をうけ、私たち自身も聖書研究など、信仰を深める努力をしなければなりません。これからの私たちの仕事は、教会の外側の社会に働きかけることですが、カトリックを社会の中に持ちこんでも、そこに受け入れの姿勢がなかったら、どうすることもできません。無理をせず、たゆまぬ努力を続けることが必要ではないでしょうか』

青年連合は、いちおうの形ができあがって、名称も〝青年連盟〟と正式に決められた。教区の青年たちが、ようやく手をつないだ感じだが、むずかしくなるのはこれから。推進メンバーの一人として、村上さんの責任も大きいわけだ。

青年のなかには、村上さんの消極性を指摘する人がいる。だがそれは、年令と経歴からくる用心深さで、村上さんに前向きの姿勢がないということではない。それは教会と青年連盟の仕事のために、組合の執行委員を断った一事をみても明らかだろう。村上さんが、こんごこの青年連盟の動きのなかで、どんな役割を果たすか、期待をもって見守っていよう。

ジョアン又右衛門殉教標建つ

福岡県三井郡の本郷教会（主任牧山重光神父）で、六月十日午後二時から、ジョアン又右衛門殉教地と記念標の祝別が平田司教司式でおこなわれ、信徒多数のほか大刀洗町長らが参列した。

この本郷と今村一帯には早くからキリシタン部落があり、柳川城主田中吉政、忠政の時代にもキリシタンは保護されたが、やがて迫害が激しくなったころジョアン又右衛門も捕えられ、本郷字流川（ながれこ）で殉教、ハタモン場とも呼ばれたこの地は、かれの墓（現在の今村教会）とともに崇敬の的であった。

土地は平田政芳さんが管理していたが、こんど美しく整地して木製十字架が建てられ、将来は顕彰記念碑を造ることになっている。

九州地区カトリック学校長会議ひらく

九州地区カトリック学校長定例会議（カトリック教育協議会主催）は、六月十六、十七の両日福岡市の黙想の家でひらかれた。参加校二十校。ことしは「これからのカトリック学校・現状分析と将来の展望」をテーマに、各学校のかかえる具体的な問題をありのままに発表して、それについて語り合うという打ち解けた会議となった。

まず開会冒頭に平田司教が宣教を第一方針とする日本の教会にとって、教育事業こそはもっとも重要なものである。学校が生徒と父兄に、強くキリスト教的影響を及ぼすものであって欲しいとのべた。つぎに九大教授稲垣良典氏が「教育と習慣」と題して約一時間講演をおこない、アウグスチヌスとトマスにおける「教える」の概念をもとに、教師とは何かの知識を与える主役ではなく、神のすがたを刻みこむ者であると説明した。

さらにヘルベック神父（教育協議会理事長）は、教育に当たるものは、誰によって、誰のために呼ばれているかを常に自問し、与えられた使命への確信、研究心を盛んにして、現代日本の青少年に不動のものを与えるよう努めて欲しいと語った。

このあと、各学校の現状報告を二日にわたっておこない、相互の激励のうちに閉会した。

ガラシャ夫人墓前祭

第十七回細川ガラシャ夫人墓前祭は、六月三日午前十時半から熊本市立田山の泰勝寺でおこなわれた。市内各教会の婦人会、熊本信愛女学院生徒らが参列してミサと献花式のあと、「風雪のガラシャ夫人」と題して偉徳をたたえる島田真富氏の講話があり、吟詠、舞踊などが献じられた。

石原要右衛門さん

六月十八日午後九時、すい臓がんのため死去、七十四歳。長崎県外海町出津出身、若くして松山市ドミニカン学院に学び伝道士資格をとり、宇和島、高知の教会をはじめ、福岡大名町（三年）久留米（一年）八代（十八年）大江（十ケ月）崎津（五年）手取（六年）など約四十年間、宣教師を助けて伝道に専念した。八代市に隠退したが、昭和三十七年四月には教会への功績によりヨハネ二十三世教皇からラテラン第一等十字勲章をさずかった。葬儀は十九日午後四時から深堀司教、ドノフー管区長ら七人の司祭によってささげられた。

高麗人蔘茶（韓国専売庁管理品）
特別価格2,300円

生命尊重運動をつづける資金として

生命尊重運動とは、日本の優生保護法の改廃に生涯を捧げられた、佐々木鉄治神父様のご遺志をついで、この法律の改廃ばかりでなく、現代日本のより根本的な課題として、とくに青年たちに生命と性に関して、キリスト教の立場から啓蒙することを、目ざしている運動です。

この運動の基金および乳児院補助として、私たちは、カナダに総本社をおくアルキャン・アジア・リミテッドの協力を得て、その効能には定評のある「高麗人蔘茶」の廉価販売をいたし、その利益金をこの資金にあてることにしています。

もし教会諸団体で販売なさいますならば、利益金の一部を配分させていただきます。詳細について左記にお問合せください。

生命尊重運動九州支部
〒814 福岡市西区別府2―16―13
本多義昭
電話 82―4968

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の 河野電気
ミカエル 河野三千夫
福岡市田 1162―29
TEL 87―3099

近ごろ言葉について思うこと

今村　茂

近ごろ、言葉とは何とむずかしいものだろうか、と思う。外国語ではなくて、日本語のことである。言葉というものは、自分の意思を他人に伝えるための重要な手段であるばかりでなく、ひとりでものごとを考える時でもなくてかなわぬ道具なのだから、私たちは私たちの言葉をもっと大事にすべきではなかろうか。というのは、日本語はいま乱れに乱れていて、どれが正しいのやら、どれが間違っているのやら、それさえ決めかねるくらいなのだからである。例えば、「私は梅の花を好きである」というような文章に時々お目にかかる。これは勿論「私は梅の花が好きである」というべきところだが、こういう文章が出てくるのはたぶん英語の影響なのであろう。もっと極端な例としては「そのことを好感した」というのがあった。文章は簡潔であることが望ましいといっても、本来の日本語に「好感する」という動詞はない。ここは少々面倒くさくても「そのことを好感をもって迎えた」とすべきである。

こういう誤りの例をあげていってもきりがないが、日本語を混乱させ、その品位を下落させているものとして、敬語および丁寧語の誤用と濫用を見のがすわけにはいかない。日本人とくに日本女性は昔から「御」が好きらしい。長い単語を途中で切って、そのかわり頭に「お」をつけるのは、もとは御殿女中独自の習慣だったのだそうである。つまり「もてあそびもの」を「おもちゃ」とし、「でんがく」を「おでん」とするやり方で、「さうまいも」を「おさつ」というのはこの伝である。しかし「おさつをいただく」などといわれると、一万円札でも食べるのかと錯覚しそうである。だいたい、何にでも「お」をつけさえすれば丁寧になると思うのが早計で、「お上品」「お立派」「お人よし」というと、いささか皮肉な感じになってしまう。また聞きの話だが、「にぎり」を「おにぎり」という人がいるそうで、きっとその人は「にぎりめし」を食べたこともないお上品な方なのだろう。

もっとおかしいのは外来語に「おピアノ」「おコーヒー」「おトイレ」という場合である。「おトイレにいく」というのを耳にすると、何か録音（おといれ）したくてテープレコーダーでもっていくのかと早トチリしかねない。「茶」は字だけでなく発音もシナ語のままなので、外来語と見なしてもよいと思うが、この場合は「お」をつけたほうが日本的だし、発音もすっきりするようである。

敬語の誤用や濫用も多いようで、自分の子供やペットの犬猫についてまで「してあげる」というのはおかしい。また言葉づかいのプロであるはずのアナウンサーが「ご出発された」といういい方をするが、正しくは「ご出発なされた」である。みどりの窓口の「お求めやすい」も誤りで「お求めになりやすい」と書くべきである。

では私たちカトリック信者の言葉づかいはどうであろうか。私たちは聖体を「ごせいたい」聖堂を「おみどう」といっているが、この流儀でいくと聖心を「おみこころ」聖霊を「ごせいれい」といわねばならぬことになろう。聖という字には最大の敬意がこめられているはずだから、「御」を外してもよいのではなかろうか。「ごミサ」の場合はいわずもがなであろう。また話し言葉としては「神父さま」「信者さん」は美しい言葉だと思うけれども、新聞記事などでは「神父（司祭）」「信者」で十分であろう。

一般的にいえば、言葉づかいは言葉の本性からして正確・簡潔であることを旨とすべきであるが、敬語・丁寧語を適切に織りこむことによって微妙なニュアンスを表わすこともまた望ましい。しかし過ぎたるは及ばざるがごとしで、敬語や丁寧語を使いすぎると「丁寧」を通りこして「ご丁寧」「ばか丁寧」になってしまう。正確で簡潔で、しかも味のある言葉づかいをわがものにするのは、たしかにむずかしいことである。だが、幸運にも私たちの身辺によい手本があると思う。というのは舌いほうの「新約聖書」（ラゲ訳）のことだが、文語という利点をさし引いても、模範とするに足る立派な文章であると思われるのだが、いかがなものであろうか。

（いまむら・しげる、福岡大学教授）

教養

連載随筆　炉辺詩語

謙虚な愛

森　雅生

信ずること
キリストの名を呼ぶこと
人をゆるし出来るかぎり愛すること
それを私の一番よい仕事としたい
—八木重吉『仕事』—

八木重吉は、今日、キリスト教（プロテスタント）の詩人として知られている。だがこの人は、その周囲に佐藤惣之助、草野心平のような、有力な詩人を持っていたにもかかわらず、長いあいだ無名、あるいは無名に近い詩人だった。

人に知られるようになったのは戦後で、妻のとみ子が再婚した、歌人吉野秀雄、評論家小林秀雄らの努力に負うところが大きいが、筆者がはじめて、八木重吉の名を、ある文芸雑誌で見たのは四十数年前だから、この人がいかに長いあいだ、日本文学の片隅に埋れていたか知ることができよう。

重吉は明治三十一年二月、東京府南多摩郡堺村相原大戸四四七三番地で生まれた。大正六年三月、鎌倉師範学校を卒業し、東京高等師範学校に入学したが、この高等師範在学中に、キリスト教に入信したといわれている。

重吉は大正十一年、二十五歳で島田とみ子と結婚、三十歳のとき妻と愛児二人を残して病死した。詩作の期間は六年というから、詩を作りはじめたのは、結婚の前年、すなわち大正十年、二十四歳のころと推定することができる。

ここに掲げた詩は晩年、病床での作。

一年七月におよぶ病床の生活で、重吉は一途な信仰の中から、まことの喜びを発見して、それを『一番よい仕事としたい』と表現した。中心は『人をゆるし出来るかぎり愛すること』にあろう。

『愛』については、これまで多くの人が考え、たたえ、歌ってきた。中でもキルケゴールは、何よりもまず神の愛を考え、それを人間関係の中に再現しようと試みた。それがキルケゴールのレギーネ体験で、愛の実験といわれるものである。

キルケゴールは、この実験の結果として、神においては、愛が自由であり同時に支配的で、完全に統一されているが、人間のばあいは、愛が本質として自由なら、愛する者は対照、すなわち他者の自由を願わねばならないという矛盾と不条理を発見した。重吉の愛は、神の示す愛を、自分の仕事として行なおうということで、愛の本質を哲学的に追求したキルケゴールに比べ、もっと信仰的で、謙虚な愛である。

この重吉の詩は、思ったことをそのまま書いてあるようで、近代の詩を読みなれた眼にはもの足りない感じがする。重吉が長いあいだ無名だった要因の一つと言えようが、作者自身はこう書きたいと思い、そして満足しているのである。そしてこういう形の詩は、誰にでも書けそうに思われるが、実は作者の素直な人格から生まれるもので、そこには、技巧を越えた高いものがあり、とくにゆたかな詩想と、深い境地を有する重吉の詩は、これをまねることはほとんど不可能である。

詩

司馬遷

舌間信夫

（匈奴の会同人）

煙られた顔に
一すじの亀裂が走って
白虹の歯なみがあらわれる
十年の
腐刑にたえた男の
それが最後の笑だ
筆を折る
さわやかなひびきに
重りあってうなだれる百の帝王
歴史の二千年を
噛み砕いたかすかな痛みが
黒い象形文字にすわれていく
種をまいたのは父
憎しみをそだてたのは武帝
酸性の黄土に
溢れる羊水を堰きとめて
一万里
長城の外壁を抉る
匈奴の鋭爪音いを
独り
司馬遷はきいている

わたしの宗教教育　③　ガイヤール

その日の体験から祈る

子どもの信仰教育を重んじる親は、祈る習慣を身につけさせるために、子どもを家庭の祈りに与らせるように努めます。こういう家では低学年の小さな子どもも家庭祭壇の前に坐って、親と一緒に祈祷文をとなえます。以前に一般的だったこの習慣も、いまでは様々の理由で次第に見られなくなっています。

これについてどうしたらよいでしょうか。無理にでも、大人のとなえる祈りに子どもを参加させるように、やかましく言う必要がありますかそれとも、祈りなさいと言うだけにして、子どもの自由にまかせるほうがよいのでしょうか。

第一に言えるのは、祈祷書の祈りは、子どもむきのものでなく大人むきです。ことばは文語体で古く、子どもに理解できるはずはなく、内容も抽象的すぎているので子どもの心と生活体験に合うはずはない。どの面から考えても、この祈りは祈ろうとする子どもにとって、ふさわしい表現になるとは思いません。親に強いられて、やっと口でとなえられるようになった子どもはいますが、「お祈りであなたは神さまに何を言いましたか」と尋ねると、子どもは何も答えられません。ここでキリストのおことばが頭に浮んできます。

『祈りのときに異邦人のようにむだごとを言ってはならない。異邦人はことばさえ多ければ、聞き入れてもらえると考えている。あなたたちはこう言いなさい。天にましますわれらの父よ……』。

「私の子どもは初告解がまだ出来ない」という親がいます。「どうしてですか」と尋ねると「痛悔の祈りをどうしてもおぼえられないからです」と言うのです。つまり祈りの養成といわれると、祈祷書の祈りを暗記させることだと思う人が多いのです。

しかし文章を暗記させるのは祈りの養成の一部分にすぎず、その最後の段階だと言わなければならない。きまった文章をとなえさせるまえに、子どもに祈る心を養う必要があります。

ことばとしては、子どもがふだん使うことば、たとえば、ありがとう、ごめんなさい、おねがい、よかった、感謝しますなどの、短かい、かんたんなことばが適切です。内容としても、きまったものでなく、毎日の具体的な生活によって変ってくるものです。

その日子どもが体験したことを見ながら、いや子ども自身に意識させ、見聞させながら、神さまに、上にあげたような短いことばを言わせます。つまり一方では、生活のほうに目をむけさせ「きょうはお勉強がよくできた、遊びもおもしろかった、テレビのことで妹とけんかして悪かった、好きな先生と話してよかった」などのような出来事を思い出させます。

もう一方では神さまのほうに目をあげさせ「ありがとうございます。すみません、おねがいします」などと言わせます。神さまと毎日の生活とを結びつけながら、祈らせてゆくということは、祈りの養成の出発点といえます。

このような指導はもちろん母親の役目になります。母のひざの上でおぼえた祈りは一生忘れられないとよく言いますが、そのとおりです。ところが指導とは、ただ一日のことを反省させ、祈りなさいと言いつけてから自分は家事にもどってしまうことではない。むしろ子どものそばに坐って、ゆっくり一日の生活について話し合いながら祈るところまで行かねばならない。人工衛星と違って、子どもの祈りは遠くから誘導できるものではありません。

始めるまえに祈りやすい静かなふんいきを作る必要もあります。せまい部屋にテレビがついたままで、大人のおしゃべりが聞こえたり、部屋が散らかっていたら、環境に敏感な子どもは落着けるはずがない。子どもの祈りは家庭のみんなに協力を求めるものです。

また一番適当な時間もえらばなければならない。まだ宿題が終っていないとか、目をはなせない位おもしろいテレビを見ているとか遊びに夢中になっている時などは適切とは言えません。無理に引っぱって祈りをさせようとしても、おそらく十分に落着けないでしょう。いつが一番いいか、母親と子どもが話し合ってきめましょう。

このような指導によって、親はキリストが言われた『まことの礼拝者、霊と真理による礼拝者』を育てることになるのです。

おすすめしたい本

新刊　愛を問う
佐古純一郎
田中澄江
山崎庸一郎　著
¥450

孤独。結婚。生きがい。現代人の大きなこの問いかけに、著者たちの自らの貴重な思索と実践のあとを、それぞれ独特の筆致で描いている。

新刊　育つ育てる　三宅　みち著
¥400

心を耕す教育、知恵を育む教育という見出しのもとに、今の幼児教育の問題点の扱い方を親切にのべている。

福岡・リーぶる天神　金文堂
北九州・金栄堂　ナガリ書店
門司・金山堂　でも扱っておりますので、ご利用ください。

聖パウロ書院
大名町教会隣
西鉄グランドホテル前　(74)4588

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長　ルカ　吉川　東陽
福岡市中央区平尾四ツ角（山荘通）
電話　代表　(52)0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額　五百万円
一、募金方法　一口　五百円
一、送り先　本誌編集部（振替福岡四二九八一）

寄付者報告

福岡市鈴木美子一万円、吉良キヌエ五百円、中谷五百円
累計　十八万四、五〇〇円

〝仲間からの布教〟を考える

9月14日から研修会

九月十四日から十六日まで、第二回信徒布教研修会がひらかれることしのテーマは『われらみな兄弟』。信徒にできる〝仲間からの布教〟について考え、布教活動を盛り上げることをめざす。

参加者は信徒、修道者、司祭。会場、福岡雙葉学園。参加費三千円。申し込み先き、福岡市大名町カトリック教会。福岡地区信徒協、レジオマリエ、ビンセンシオ会、教区クルシリヨ事務局の共催

第9回 教師研修会

教師の理想像をもとめて

三百五十人が一堂に

福岡教区内の幼稚園、保育園で幼児の教育にたづさわる教師たちの、第九回研修会（カトリック福岡司教区幼児教育連盟主催）は、「真の教師であるキリスト」をテーマに、八月二十一日から二泊三日間、佐賀市外の川上峡温泉・龍登園でひらかれた。参加者はこれまでの最高の三百五十人。

乾盛夫会長（吉賀暁の星園長）と平田司教のあいさつ、大会祈願カトリック幼稚園賛歌で開会式がおこなわれたあと、シスター渡辺和子（ノートルダム清心女子大学長）の「真の教師なるキリスト」と題する講演、翌日午前中には浜尾実氏（聖心女子学院教諭）の「おさなごの如く」の講演があり、参加者が二十のグループに分かれてそれぞれの講演の内容をもとにカトリック教師像について反省、掘り下げ、意見交換をするという形式がとられた。

同じ教育の職務に従事する人々が、自分の天職について真剣な考察を深めえたことを、心からよろこぶ声が多く聞かれ、文字どおり内容充実した研修会であった。最後に全員で「幼な児が親とともに神の祝福を尊ぶ人に成長して行く手助けとなれますように、神の祝福を求めます」と祈って、解散した。

シスター渡辺の講演要旨

私たち教師は、子どもから学ぶ人でなくてはならない。そのため父兄の歓心やカリキュラム偏重の教育をさけ、子ども中心の教育、一人びとりの子どもから出発する教育を心がけねばならない。どの子どもかけがえのない価値と独自性を具えている。その価値を見出し大切にする心こそ、愛である。一見無価値と思えるものにも価値を見出し、それにとり囲まれている時こそ、人間最高のしあわせである。

浜尾氏の講演要旨

私たちは今日まで多くの教育をうけてきた。多く受けた者はまた多く与えなければならない。私は父として、前東宮侍従として、学校教師として、カトリック者としての私の経験から話したい。教師とは真理と道徳を教える人、親の代理者、子どもたちの兄姉であり、守護の天使である。

カトリック教師はキリストから多くのものを汲みとることができる。キリストについて学び、子どもたちのために心から祈るものでなければならない。

愛するとは好きとは違い、損を覚悟で人のために時間と体力と能力をささげることである。好きでない子どもでも愛することはできる。しつけとは理屈でなく体でおぼえさせるもの、その段階では体罰も有効である。恵まれている子どもに、そのことを自覚させるにはどうしたらよいか、思いやりの必要を口で説くことはむづかしい。

教師は専門分野にとじこもり、視野のせまい、非常識な人間になりがちだ。また「おさなな心」を忘れた人も多い。美しいものにすなおに感激する心、何事にも無我夢中でとり組む心をとりもどすように努めたい。

修道女連盟総会

行事予定など決定

福岡教区修道女連盟総会は、六月二十四日午前十時半から福岡雙葉学園でひらかれ、百五十人が参加した。

旧役員のあいさつ、経過報告のあと新役員（下記）の紹介があり、つづいてスーハン神父（サレジオ会大分地区長）の「共同生活、過去、現代、未来」と題する講話があり、二時十五分から平田司教司式ミサ、霊名の祝日の花束贈呈があった。

今年度の役員はつぎのとおり、委員長・秋山（戸畑コングレガシオン・ド・ノートルダム）、副委員長・斉藤（吉塚三位一体会）、青木（福岡福音の光会）書記・中島（熊本幼きイエズス会）、会計・山田（福岡司会）、監査・中川（福岡師イエズス会）、村上（天草聖心会）の諸シスター。

なお同連盟の今年度研修行事予定はつぎのとおり。

十一月＝使徒職について、十二月＝家事従事のシスターのため、三月＝人間関係について、四月＝同、五月＝院長のため、六月＝総会。

十月に使徒職研修会

北九州地区信徒協で

北九州地区の信徒使徒職協議会（松尾光敏会長）では、十月二十八日午前十時から戸畑教会の天使園で、信徒研修会をひらくことを決定した。

こん回はじめから分科会をひらき、各分科会でひとりずつの司祭が分担問題について、数分間ずつリポートを発表し、参加者がこれについて徹底的に討議してゆくことになった。

予定されているテーマと司祭リポーターの氏名はつぎのとおり。

教会一致の問題（バスチ）、結婚講座のあり方（キニュー）、社会問題と信徒（トクベフ）、教会内における青年の位置づけ（デシャンブ、西田）、婦人の役割（ラバルタ）、職場における布教（ボネ）、労働組合と信徒（バイヨ）子どもと信仰（青木功）、召命について（青木保）、離教者対策（グロージャン）、地区委員のあり方（ベルトラン）、教会内の対話（バスカレル）。

司祭人事

帰国中のルカ神父は高宮教会に帰任。同教会の藤田忠美神父は東京聖アントニオ神学院で研学。日本聖学校卒業のマッリュレイト神父は熊本手取助任。

教会めぐり

門司（聖ペトロ）教会

北九州市門司区別院一丁目

国鉄門司駅から西鉄原町電停へ、さらに東本願寺九州別院にむかう坂道の途中に、門司教会と同付属幼稚園がある。うしろに海抜五百メートル、緑一色の戸ノ上山、そのふもとを関門大橋につながる九州縦貫道路が走る。前面は関門海峡をへだてて彦山が目の前である。

ラバルタ神父

この教会は門司区広石町にあった教会（創立明治四十年）が昭和二十八年六月の大水害で破壊されたため、ここに新しい土地を見付けて移転してきたもの。あの大水害のとき、モーゼ神父（現在フランス帰国中）は、危険を予知して信者数人と老朽の司祭館から聖堂入口のほうに避難した直後、ごう音とともにおそってきた山津波によって、司祭館は一瞬のうちに姿を消し、聖堂も内部は土砂に埋まり、神父たちの立っていた玄関口だけが、わずかに安全だったと言う。これで何もかも失ったモーゼ神父は翌年いまの土地を手に入れ、司祭館兼聖堂を建てて新生第一歩をふみ出した。現聖堂は三十七年十二月末完成、祝別された。

現主任ラバルタ神父は昨年四月着任、その前は田川、八幡天神、戸畑で十数年司牧にあたった新進気鋭の宣教師。四十七歳。神父としてはこの土地柄にじっくりなじむのを待っている姿勢のようだ。新しい試みとしては小教区を十八地区に分けて、小さな集会をとおして信徒との交わりを深めようとしている。

「信徒間の親睦、教会から遠ざかっている人たちと接近する機会をもちたいと思っています。対社会的な活動をはじめるのもそれからです」と神父は語っている。

信徒数は四五六人、門司鉄道局があるせいか、国鉄や関連会社に勤める人が多い。八月十五日取材訪問の日、聖母被昇天のミサがあって、百人ほどの信者が参加していた。子どもたちに比べて男子壮年信者の出席の多いのが、とくに目についた。信徒をリードするのは森田十郎、守山寛、末永武行、賀来栄、深井鎮一、森山政光氏らで、ビンセンシオ会を中心に活躍している。

門司は大陸との交易の場として日露戦役後に急速に栄えた港町。そのころからの古い信者で健在なのが守山寛一氏（九十歳）と、木本タツ（八十二歳）、キクの姉妹。守山さんは乙女峠で有名な津和野で、信仰を守りとおした守山甚三郎の次男、浦上四番崩れや、長崎・北九州一帯の教会の歴史については、まさに生き辞引き的存在。

幼稚園児三百六十人、教諭十一人。

9月のことよみ

2日（日）年間第22主日
「神のことばを、ただ聞くだけではならない」とある。教会にかようだけの信仰でなく、教会から出て来て、愛を実行しようとつとめることこそ、まことの信仰である。

8日（土）聖マリアの誕生
レジオ熊本クリア默想会（平田司教指導、八代教会で）

9日（日）年間23主日
まったく耳のきこえないつんぼがいる。自分の都合のわるいことだけ、きこえないつんぼもいる。第一は身体的欠陥で、第二は心理的欠陥である。隣人愛を忘れた信仰も、この第二のたぐいである

移住の日献金

10日（月）日本二百五福者殉教者
江戸時代初期には、長崎をはじめ全国で多くの信者が殉教した。そのうちの二百五人がローマに福者として公けに尊崇される。

14日（金）16日（日）信徒布教研修会（福岡で）

15日（土）悲しみの聖母　敬老の日

16日（日）年間第24主日
キリストが奇跡的にいやされた人に、口外しないよう固く言われたのは、人々がご自分をスーパーマンのように「有名人」に祭り上げるのをさけるためだった。キリストは実は「無力なしもべ」として、人々を救われる。

18日（火）教区神学講座開講

23日（日）年間第25主日
キリストは、幼な子を受け入れよと言われる。幼な子とは、自分の力だけで生きてゆけない人たちのことである。病人、労働条件のわるいところで働く労働者、相談相手をもたない人、そのような人たちである。

29日（土）聖ミカエルら大天使の祝日
聖書には、天使のことが記されている。人間を救う神のおはたらきにかれら天使が協力する

30日（日）年間第26主日
「富んでいる人はわざわい」と主は言われる。聖書にいう富者とは、満ちたりていると信じている人、他人の苦しさや苦しみに無関心か目をつむっている人のこと。

事務用機器　文具・紙
放送用機器
福岡市南区大楠二丁目13番21号
有限会社　シオタ事務機
(52) 5327・(53) 4905
スチール製品　デスク・ロッカー・黒板

放射線科
大北内科
北九州市若松区本町2丁目10番
TEL　771…4224番

青年問題特集

昨年から今年にかけて新潟、浦和、東京、横浜、広島の各教区で、青年大会、研修会などが相ついで開催され、青年会の動きが急に活発化しているが、福岡教区でも今年の二月、小教区の青年会を組織した『青年連盟』が発足した。本日はその中心となって活動している人たちに集まってもらい、青年連盟の考え方、将来の見とおしなど、その問題点を探ってみた。

青年連盟の契機

レジオ・マリエ、信徒使徒職協議会、ヴィンセンシオ・ア・パウロ会、福岡教区クルシリヨ事務局の共催で『信徒布教研修会』がひらかれたのは昨年の九月。場所は福岡市老司の海星女子学院だった。この研修会の二日め、全体会の終わった午後十時に、会議室に集まった青年たちが、青年会の問題について討議をはじめた。これが青年連盟への足がかりとなったわけだが、そのときのことを、新田原教会の大水さんはつぎのように語ってくれた。

『クルシリヨで知りあった、熊本の村上君と話しているうちに青年がまとまったらという話が出ました。そこで大急ぎで青年を集め、〝各地区で、青年がばらばらで活動をするより、連合体を作って、いましている仕事を進め、強化しよう〟ということになったのです』

この夜は、青年会のない教会はどうするか、アクショングループとの関係をどうするかなど、幾つかの問題がとりあげられたが、決論がでるまでには至らなかった。代表者の名簿を作って、研修会のあとも連絡をとり、青年会の発展を計ることを申しあわせ、深夜の二時に散会した。

この集まりを見た近藤神父（愛の実行運動本部）は、研修会が終わったあとで『青年達のこんな熱意に接したのは初めてです』と感激し、広報室の深堀神父も『青年のこの盛りあがりを、無駄にしたくはないですね』と言っていたが、このときの青年達の盛りあがりを想像することができよう。

考え方の食い違い

研修会が終わったあと、十一月二十六日、この人達は再び大名町教会に集まった。連合体を作るための話しあいであったが、集まった人達の連合体に対する考え方に布教に重点を置こう、親睦機関にしようという食い違いがあって、ここでも決論を出すことはできなかった。

青年連合が発足するまでには、なお二、三回このような集まりがひらかれる。だが光ガ丘教会の石田さんが、『発足するまでは考え方の調整ばかりでした』というように、第一回の集まりで出てきた『考え方の違い』は、いつも持ち越されて、発足後のいまも統一されていないという。

ある信者は、そういう内部の事情を『それは、連盟結成の動機に問題があるのではないですか』と首をひねるが、その動機について新田原教会の大水さんは、

『これまでの青年会には、神父の下で働かされるという傾向が強かった。しかし神父の手足になるということは、雑用をさせられるということで、それは青年でなければできないというものではありません。青年会の中には、青年会独自の活動を望む声が強く、それが表面に出てきたということではないでしょうか』と語っている。

動機に、決定的な何かが必要だという理論は成り立たないだろうが、ただ気になるのは現代という状況のなかでの、青年連盟結成の動機としては弱すぎるということだ。あまりにも自然発生的、消極的、ここには青年らしい意欲も研修会で盛りあがったという熱意も認められないのである。

連盟発足後も統一されていないという『考え方の違い』の問題は、恐らくはそういう消極性と、指導理念の欠除にもとづいているのである。そしてそれをもっと端的に証明するのは、ことし五月二十六、二十七日の例会で決められた、

『自分の職場において布教に全力を尽し、信者としての義務を遂行するために育成し合い、活動の根拠となることを目的とする』という『趣旨』の文章であろう。

布教活動の場を職場に求めた点は、いかにも青年らしい発想のようだが、これは従来も、カトリックのなかで繰り返し言われてきたことで、いま青年連盟があらためて取りあげるほどのことではない。そのこともふくめて、ここにはこの人たちのイージーさや、布教に対する視野の狭さが、まざれもなく観取されるのである。

現代青年のイメージを

しかしながら『青年不在』といわれてきたカトリックの、しかも身近な福岡教区に、青年会の連合体ができて、動きはじめたということは喜ばしいことである。

信者のなかには、青年連合について『この人達が教会のパワーとして、布教の第一線に立ってくれるのは嬉しいことですが、年も若く経験も浅いこの人達がどんなことをし、こんご何をしようとするのか、批判を交えて見守ってゆきたいと思います』という人がいる。

青年連合がいま計画し、推進しているのはリーダー研修会と、機関誌の発行である。具体的なことは知らないが、リーダー研修会はリーダーの基本を学ぼうということで、八月二十五、六日、福岡市西新町のピオネ荘でひらかれる。機関誌は十月発行の予定で、こちらは地区の問題をとおして信者の姿勢と、考えを明らかにしようというのが狙いのようだ。

いずれも内容が解らないので、論評はさし控えたいが、この段階においても、全く問題がないというわけではない。

六月三日付のカトリック新聞は千葉地区青年会の研修会の記事を掲げ、昨年十二月十日付の紙面には、『情報交換のための新聞発行も』という小見出しがついている。リーダー研修会と機関誌発行を、そのまだだとはいわないが、行きあたりばったりに、どこの青年会でもやりそうなことに手をつけるというのはどうであろうか。

それでは青年連盟の将来について、この人たちはどう考えているのか。大水さんは、

『教会のなかに、時代とともに出てきている問題を解決してゆきたいと思います』というが、この常識的な発言のなかから、青年連盟の将来をはかることはできない。深堀神父の、

『大水さんのいうことは、そういう意味での自己刷新で、それも大切でしょうが、青年は自分たちの社会における位置を考え、できあがった社会に対する批判者でなければなりません。現代青年のイメージは、社会における造反分子、あるいは新しい時代を作りだそうとする闘士という色彩が強いと思いますが、そういう青年のパワーをいい意味で、青年連盟のなかに持ち込めないものでしょうか』という意見には、青年連盟の姿勢に対する、きびしい批判がこめられているのではあるまいか。

欠けている社会意識

この人達の発言には、具体的なものが欠けている。布教について語るときも、社会問題に触れるときも、概念的で、具体的な内容がないために、この人たちが何をはあくし、どんなことを言おうとしているのか、その真実を判断することができない。大名町教会の鈴木さんは、そんな状態を

『カトリック青年の性格的欠点で、社会的なことに対して理論がないのです』と指摘する。鈴木さんのことばの巾を、少しばかり広げてみると、それは多分つぎのようなことになるのであろう。

『現代社会に何が行なわれ、何が起きているかを知り、正しい判断によって問題をひろいあげたとき、はじめて何をしなければならないかということが解る。私達はこの価値判断を社会意識と呼ぶわけだが、それがなければ、社会の複雑な現象の中から問題を探り出すことはできない。カトリックの青年には、そういう点が欠けているのだ』

カトリック信徒に、社会意識が欠落していることは、教会の内部だけでなく、一般社会の識者達が指摘しているところである。カトリックの人達が、口では『現代に適応する』とか、『社会参加』とか、立派なことを言いながら、実際には、何ひとつそれらしい動きを見せない原因は、そこに求められるのだが、またその半面には、教会内部に、社会に足を踏み入れることを嫌がる人がいて、その人達が大勢をしめているということも事実である。

青年連盟の将来には、現代社会をどうはあくするか、教会内部の障害をどう乗り越えて、どう社会への布教を実践するかということが、大きな課題として横たわっているといえよう。そして、現代社会の複雑な情勢と、そのなかで激しく揺れ動いているカトリックのなかで、ひとつのパワーとして結成された青年連盟が、そういう方向に目をそそぎ、何かをしようとしないならば、青年連盟結成の意味は、まったくないと言ってよかろう。

発足した『青年連盟』

活動の根拠を目標に

その問題点を探る

指道者は不要か

青年連盟は、いまその第一歩を踏みだしたばかりだ。経験の浅いこの人達が、連合体をどうやって経営していくのだろうか。日常活動をどう展開するのか、それを支える指導理念は、カトリックと社会の動きに対する展望はなど、多分の不安があるようだ。そこには当然、指導者と支援の問題が浮びあがって来るはずである。

深堀神父の

『指導司祭とは別に、具体的な活動を指導してくれる人、あるいは助言してくれる人が必要だとは思いませんか』という質問に、胸をはって『必要性を感じません』と答えた人がいた。

この人たちの自信のほどがうかがえて、いさぎよいといえばいさぎよかったが、まだ方針も計画も定まらない時点、そう言い切ることには思いあがりの感が強かった。

連盟の歩みに、正しい判断をもとに方向を示し、あるいは具体的に活動を導いてくれる人は、模索の多い現時点ではぜひ必要であり、また連盟がこんご順調な成長を遂げるためには、精神面でも活動面でも、多くの困難に遭遇するはずだ。困難のなかで励まし、あるいは道をひらいてくれる人を、いまの時点でぜひ確保しておく必要があろう。そういう意味で、この人たちが、指導者の問題をもっと真剣に考えるよう希望しておきたい。

さきに、青年連盟の指導者の問題について意見を求めたとき、

『指導者も必要でしょうが、教会の協力がもっと必要ではありませんか。教会が積極的に協力してやらないと、若い人達には何もできませんよ』と言った信者がいた。また深堀神父も、

『あの人達だけにまかせないで、もっとまわりの者が協力すべきですよ』と言っている。その教会の協力態勢はどうなっているのだろうか。

教区の支援態勢

三月十一日付のカトリック新聞は、『青年司牧促進の年』のなかで、新潟教区の青年大会をとりあげている。その記事に新潟教区報に掲載された、伊藤庄治郎司教のメッセージを巻頭に掲げている。同司教は『新しい時代には新しい構想が要求される……新しい構想をつくり出すために、時代意識に敏感な青年のインスピレーションが教会のためにも大いに役立つと信ずる』と述べ、教区青年大会を通じて『教区の将来の骨幹となる優秀な青年の輩出と養成が行なわれるように期待する』と結んでいる。

新潟教区では、一九七〇年の教区信徒大会で、『青年信徒養成運動』が提案され、過去二年間にわたり、地区（新潟・山形・秋田）ごとに青年大会がひらかれてきた。九月に予定されている青年大会は、地区の成果を、さらに教区のレベルにまで引きあげたものである。地区長会議は、この青年大会を『原則的に若者の自主性を重んじ、運営されるものであるが教区レベルの大会として援助』することを確認しているが、ここには、司教のメッセージとともに、新潟教区の青年信徒養成に対する積極的な姿勢を見ることができる。

また五月の十二日と十三日、千葉地区青年会は、千葉市田辺町の、聖母マリア幼稚園で研修会を開催した。この研修会には浜尾司教、寺西英夫神父らが講師として参加しているが、ここにも司教、司祭が積極的に、青年信徒の養成に乗りだしはじめていることがうかがわれる。

これらは臨時司教会議で、『青年司牧促進委員会』が発足したことを反映しているわけだが、その点福岡教区の状況はどうであろうか。

福岡教区の青年連盟は、小教区青年会の有志たちが自発的に動きだし、昨年の研修会いらい、こつこつと地歩を固めてきた。発足までの間には、『青年司牧促進委員会』の設立の意味をどう考え、どう受けとめているのだろうか。またこんごの青年の司牧はどうなるのであろうか。

青年連盟が、教区の支援なくして発足したことは、他教区の青年会に比べて不幸であったといえようが、『青年司牧促進委員会』が設立されたという今日の時点で、教区はこの青年連盟を、このまま放置しておいてよいのであろうか。

昨年十二月三日のカトリック新聞は、島根・山口の青年大会の記事のなかに『この大会には福岡教区新田原教会の青年会の代表が見学にきていた』と報道している。十二月といえば、すでに連盟結成への動きがはじまっているころだ。恐らくこの人は、青年連盟結成のための勉強として、わざわざ島根まで見学に出向いたのであろう。

青年連盟の結成には、このような人目に触れない努力が積みあげられているのだが、教区はそこまで目を向けて、この人達の努力に酬いるため、青年連盟の育成をはかるためにも、もっと積極的な支援態勢をつくるべきではあるまいか。（広報室）

カール神父マニラへ

福岡御受難修道院（黙想の家）のカール神父は、九月から来年四月までフイリッピン・マニラ市の東アジア司牧研究所で研学する。

目科
調理師養成科、料理科、被服科
趣味科、家政科
学校法人
福岡家政学院
院長　渡辺ハナヨ
福岡市中央区天神三丁目
TEL 76—6155(代)

栄養のバランス
牛肉・かしわ・豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
TEL 52・4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ㊲ 2673

ヴィノ・デ・ミサ
（ミサ用ワイン）
720mℓ入 1,000円
ミサ用のぶどう酒ですが、家庭用・贈答用としても、みなさまに好評をいただいております。
取扱店
大楠酒店
福岡市南区大楠二丁目4番8号
電 53・4718
ミカエル青木実（大楠教会）

紳士の気品と誇りを創る
お誂え洋服
紳士服の
ニューライン 糸永
電話 福岡 52・0820
ペトロ 糸永秀雄
福岡市中央区小笹四丁目4番
2636号

辞書は三省堂

神に捧げた毎日
求道者に母と慕われる
佐賀教会の久池井さん

教会を訪れる求道者に母のように慕われながら、黙々と使徒職に打ち込んでいる老婦人がいる。

佐賀教会の聖堂の前に、佐賀カトリック教会案内所がある。硝子ばりの中を覗くと、本の間にはさまって、若い女性と話している清潔な老婦人が目にとまる。これがその人、久池井（くちい）ニハ子さん、六十二歳である。

『ここを訪れる人を教会に導くのが私の仕事ですが、最近は信仰を求めてくる人が少なくなりました』と語る久池井さんは、藤津郡塩田の出身。昭和三十四年五月、聖霊降臨の祝日に受洗した。弟さんの死に会ったのが直接の動機だが、そのとき人間とは何か、死とは、神とはと思い悩み、回答を求めてつぎつぎに宗教書を読み漁ったという。そんなとき偶然手にしたのがカトリックの本。はじめてキリストを知り心を打たれたが、カトリックの信仰をつかむことができず長い間苦しんだ。そのうちにお父さんが亡くなり、自由な身体になった。思い切って鹿島教会を訪問したことが受洗に結びつくもとになった。

佐賀教会に来たのは受洗して八年め、まかない婦として働いていたが、一昨年、案内所ができたとき、すすめられてそこの主任になった。久池井さんの一日の仕事は、朝五時に起床、教会内外の掃除、九時から夜の九時までは案内所で、図書販売と教会の案内に当る。その間に求道者の要理教育がはさまるというから相当の忙がしさだ。

久池井さんは『毎日を神にささげたつもりです。苦になることはありません』というが、この人を頼ってくる未信者は多く、導かれて入信する人も少なくはない。この人の教会の役に立ちたいという願いが、そんな所で実を結んでいる訳で、現在も二十数人の要理教育を引き受けているそうだ。

青年会のメンバーだという若い信者は、そんな久池井さんを『久池井さんは人の気持をくむことが上手で、求道者に対しても、一般の信者にはできないような、こまかな所まで配慮が行きとどきます。求道者が慕い寄るのは当然で、佐賀教会にはなくてはならぬ人です』と語っていた。

元気で合宿練成
熊本の少年90人

熊本県内教会の小学四年以上中学生九十人の練成会は、八月十六日から三日間、菊池郡西合志町の「少年の町」でひらかれた。企画後援は熊本地区信徒協（中野尚夫会長）で、昨年につづき二回目のこころみ。

参加した少年たちはミサの侍者をつとめているのがほとんどで、この合宿をとおして司祭召命と教会精神を高めることをめざした。青年会の有志数人が、高校生らの協力をえて指導にあたり、深堀敏神父が「奉仕のよろこび」をテーマに講話を受け持った。朝のミサ、ロザリオ、黙想、水泳その他各種スポーツなど盛りたくさんのスケジュールであったが、樹と芝生につつまれた少年の町の三日間は子どもたちに、忘れられない印象を残した。最終日、平田司教ら十人の司祭が共同ミサをささげ、司教は司祭への召命の尊さを説教した。

（少年たちと談笑する平田司教）

地域あげて平和祈願
盆踊りに千人参加

八月七日夜七時から福岡市吉塚教会で、平和祈願祭と盆踊り会があった。信徒はじめ全町内の住民約千人が親子づれで参加、ミサ中平田司教は平和のめぐみを神に祈ろうと説教、またカトリック保育園の父兄会長が「平和宣言」をのべた。教会広場には盆踊りのやぐらが組まれ、やき鳥、ビール、とうもろこし、飲料水の屋台がならび、大にぎわいであった。

ベルギーからアンゼラスの鐘

熊本県天草の大江教会はこのたび、ベルギーからアンゼラスの鐘を購入、七月八日信者や一般町民の列席のなかで平田司教による祝別式をおこなった。鐘の大きさは八十八センチ、六百キロ。同教会では戦時中に鐘が徴発され、戦後は間に合わせの鐘を備えつけていたが、音色もわるく、現在帰国中のグリーヒン神父や信徒たちも、早くからもっとりっぱなものをと希望していた。ところが四十五年秋、故ガルニエ神父の胸像設置の際、多額の寄付が集まったため、残金を基金として鐘の建設委員会を設立し、森口義春医師を委員長に、信徒たちが浄財をもちよったが、経費は運搬費をふくめ九十一万円。

大江教会の塔に合わせて特注したものだけに、朝夕の鐘のひびきは、地元民の自慢のタネになっている。

第五回結婚講座ひらく
9月20日から福岡で

近く結婚しようとする男女、また新婚早々の夫婦のための結婚講座（第五回）は、九月二十日から十月二十三日まで、毎週木曜と土曜の二回、夜七時から九時まで、福岡市中央区大名のカトリック教会（英会話アカデミー）でひらかれる。主題と講師はつぎのとおり、九月二十日（木）オリエンテーション＝同講座事務局・井上輝正婚約時代＝会社員・石田幹夫夫妻、二十二日（土）新婚時代＝自営・吉川信雄夫妻、座談会。二十七日（木）夫として父として＝福岡大学教授・今村茂、座談会。二十九日（土）妻として母として＝主婦・田中幹子、座談会。十月四日（木）社会と家庭とのつながり＝会社役員＝山田耕三郎、愛の円熟をめざしてサンスルピス大神学院講師・深堀敏。十月六日（土）すこやかな子を生むために＝九州大学講師・岡村靖、座談会。十一（木）家庭経済（男性の立場）＝九州大学講師・土田充義、同（女性の立場）＝主婦・村上アイ子。十三日（土）門出にあたって＝同講座責任者ウォード、座談会、修了式。

申込み先き、福岡市博多区光ケ丘町一―三。カトリック教会、または福岡市中央区大名二―七、カトリック教会。協力費、一人千五百円。

教派と国籍をこえて
教職者の合同研修会

東アジア諸国のキリスト教教職者の合同研修会（インターナショナル・トレーニング・インスチチュト）は、八月十二日から三十一日まで福岡海星女子学院でひらかれ、韓国、フィリッピンなどの司祭、牧師、信徒ら約七十人が教派と国籍の違いをこえて、祈りと研究に打ちこんだ。日本からの参加は司祭、修道女各一、信徒数人で十九日には全員浄水通教会のミサに列席して、信者らと交歓した。

信徒点描
すべてを収容児のために
聖小崎育児園　木藤幸子さん

『聖小崎育児園』は、北九州市八幡区折尾本城字赤坂にあるが、アフターケアホームに、日本でも珍しい大舎制、小舎制を採用するなど、園長の積極的な経営が関係者の注目を集めている。

この人、木藤幸子さんは熊本の生まれ。育児園に入ったのは昭和二十五年の十二月。当時の園長はルリエ神父で、終戦後間もない育児園は人手不足、それに物資の不足も手伝って、世話が行きとどかず、病人、死人が続出するという最悪の状態の中にあった。

昭和二十七年、三十歳になったとき、思い切ってやめてしまおうと決意しかけた。そのときわずかなためらいを呼んだのは、無心な子どもの『先生もお嫁さんになるのでしょう。先生がいなくなったら、だれが相談相手になってくれる』ということばだった。木藤さんは、自分の道を探り当てるために、ちょうどほこりまった聖婢姉妹会の修練に参加し、その中で育児園に止まる気持になったという。

木藤さんがカトリックの洗礼を受けたのは、二十三年の八月。はじめて久留米教会を訪ねたとき、外国人のムルグ神父が出てきて、流暢な日本語で話しかけたので、びっくりして声も出なかったそうだ。受洗して間もなく、ムルグ神父にすすめられてルリエ神父の許にきたが、当座は教会のまかないや、病中のベノア神父の看病が仕事だった。木藤さんは後に、ルリエ神父の看病に当り、臨終までつきそうことになるが、その看病の体験を『神父さまも人間ですから、苦しいときには人間の弱さを見せられます。私がつまづかなかったのは、それまでの世間の経験があったからで、神父さまの看病は、だれにでもできるというものではありませんよ』と述懐する。

卒園後就職しているのは二百三十人。卒園者の結婚は百組を突破し、また上級学校に進んでいる優秀な人たちもいる。最近、関西学院の社会学部に入っているA君の、二十一歳の誕生を祝いに行って教授と会ってきた。『成績優秀で、来年から授業料が全額免除になると聞いたときは、嬉しくて涙がでました』そして『うちの子どもたちは、育児園のことを、決して隠そうとほしません。私のこともお母さんと呼んでくれるのですよ』と感激する。

木藤さんの毎日は、決まった仕事のほか、官庁との接衝、あるいは会議と多忙である。そのほか、電話が夜なかにかかってくるし、中学三年生と、起居をともにすることもある。ときには結婚の仲人役も引き受けねばならない。『自分のことなど絶対にできません』とこぼすが、この人の喜びも生き甲斐も、すべては、収容児のために働くということにかかっているようだ。

木藤さんの不満は、カトリックの、福祉事業に対する考え方が遅れているということ。『プロテスタントでは、指導者を外国に出して勉強させているのに、カトリックには指導者さえ満足にはいないのですよ。なぜもっと信者を起用して、指導者をふやさないのでしょうか』と訴えていた。

順調に進展
熊本共助組合

カトリック熊本共助組合では、さきほど第一回定期総会をひらき事業計画などの審議、新理事および役員の選出と職務分担を決定した。

① 事業計画、

(イ)出資金総額目標。九月末日までに百万円、来年三月末日で二百万円の目標。但し百万円に達した時貸付金を一人五万円までアップする。

(ロ)共助組合について認識を深めるために、組合員が座談会を各地でひらく。

(ハ)家庭生活の向上のために庶民経済についての講演会をひらく。

② 出資金共済制度と貸付金共済制度に加入し、連合会費一人三百円を納入する。

新理事は理事長野田義之（再任）副理事長福山圭輔氏以下十一人

同組合の進行状況は、昨年十一月発足当時、組合員数百七人、出資総額三十万八千円、今年五月末日現在で百三十三人、七十万二千円に上昇した。

青年会キャンプ

熊本市カトリック合同青年会は昨年につづき、ことしも一般青年によびかけて、矢部・丸山キャンプ場で八月四日と五日の両日、親睦キャンプをひらいた。男女五十人以上の青年がフォークダンスやキャンプファイヤーを楽しみ、野外ミサに参加した。

聖ペトロ献金（7月1日）

町	16,193	小	湯	倉	29,300
通	6,500	戸	若	川	14,283
兵	7,588	天	黒	畑	20,000
新	21,429	八	水	松	5,500
島	5,000	直	飯	神	5,000
塚	3,000	王	田	崎	15,000
山	3,000	行	新	寺	6,000
崎	5,066	手	荒	巻	5,663
楠	3,441	人	本	方	1,300
島	2,500	健	帯	塚	3,500
賀	2,000	水	大	川	2,000
市	6,224	崎	島	橋	12,300
米	16,000	玉	菊	原	17,080
野	1,022	八	合	取	14,000
村	30,000			尾	1,000
郷	6,000			吉	10,000
郡	2,975			渡	7,000
子	2,640			軍	8,725
島	4,000			山	8,900
賀	6,000			俣	3,230
津	5,000			江	6,000
里	2,500			津	4,500
栖	860			崎	19,600
雄	1,800			名	2,720
島	1,500			池	8,900
久	1,000			代	16,500
司	11,318			計	427,197
港	4,640				

名水ケ野　田日留　渡万司
大浄光西美吉茶箱大東古二久吉今本小呼馬佐唐伊鳥武鹿多門門

読んじゃおう！ 見ちゃおう！ 楽しもう！
良書月刊誌
家庭の友
100円
中央出版社
〒160 東京都新宿区四谷1の2
TEL 03(357)6401

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の 河野電気
ミカエル 河野三千夫
福岡市田 1162―29
TEL 87―3099

カンナ・サルビアの花

八十島　稔

カンナの花の白はまだ見たこともないが、赤、黄、桃、絞り色の花々は、それぞれ炬火にも似ていて美しい。矮性のものもあるけれど、カンナは人間の眼の高さに、焦点をあわせるように咲く花で、どこか情熱的でもある。熱帯アジア、熱帯アメリカ、アフリカに、

自然に分布していたものだから、それらしい様相を秘めているのであろうが、西印度諸島のものにはその宿根から澱粉がとれて、食用にされるという話をきいたこともある。十九世紀の末に初まったカンナの改良では、イタリアで改良されたイタリアン・カンナ、フランスで改良のフレンチ・カンナの二つの系統があるようだが、われわれの見ているものの多くは、結実することもあるフレンチ・カンナのようである。海の見えない山郷で育った私は、カンナの花と新月とをだぶらせて、いくつかの詩を書いたものだが、

砂路めば砂に灼け入るカンナかな　小名木　滋

の句を識ってから、真夏の海際や、海辺の路地などで見かける、炎えるようなこの花に、最近特に興味を覚えるようになった。大きな葉の形と、葉の厚みがこれほど頼もしいものはない。片仮名の名をもつ西洋花は、われわれの周囲にある野草ほど、親しみが湧きあがって来ないが、カンナの真赤な花には、超現実的な詩情を感じる迫力があった。その一つの詩を列記しておこう。

火を噴く山のことを思い出していたら
庭のカンナが花の貌をのぞかせる
麦酒の泡立つなかから
栗色の髪の毛をした少女達が現われそうだ
地中海やスエズ運河を航行する素的な船のキャビンから
目も覚めるような便りをくれるものはいないだろうか
私の前には緑のナプキンをひろげた芝生がある
炎える陽はその緑のナプキンにも火をつける
黒人の膚のように光沢のある黒く乾いた土
赤いカンナがムッシュと私に呼びかける
帽子もかぶらない炎える頭に炎えるカンナが咲いている
摂氏三十四度
風速〇米の天

この詩は、たしか一九七〇年の庭のカンナを見てのスケッチ風なものであるが、印象としては炎えるような盛夏の、大阪千里丘の万国博の会場が鮮やかに甦ってくる。赤や黄の炬火をシンボルにしたカンナの花が幾つかの会場をめぐって、大群生をなしていたことを、忘れることは出来ない。広場では太陽の国々の娘達の踊りが、くり拡げられたのである。それらの追想を集約したような句に、

女の唇十も集めてカンナの花　山口　青邨

があって面白い。句もここまで来れば、芭蕉の見える距離ではない。私の詩を圧縮してみたら、こんな句になったという方が、近道かも知れない。私が目の高さに見る花だと言うのは、所詮はこのことと、同じであろう。かつては神聖な新月の、いけにえのように思っていた、黄色いカンナの花も、月の岩石を自分の目の前で見せつけられる現在では、花の霊感も変わってくるのが当然と言える。がやがやと俗っぽい騒ぎを眺めながら、

物いひやカンナ火を吐くひる下り　(岡崎清一郎)

と、わが敬愛する詩人は詠う。千似の句に八散りし花のせてカンナの広葉かな〉があるが、広葉に散ればいい方で、咲き終えてから散るまでが、食べちらした食器のようにきたなくて、花には不似合の怠けもの。このごろは海水浴場そのままとも思われるスタイルで、街中を歩いている娘達がいる。日影に入りながら、いつまでもおしゃべりしている恪好は、黄と赤の絞りのカンナの花と、どこか共通点があるような気もする。

寂しさもてあましゐたりカンナ咲く　正岡　容

は、昨今の娘風俗を知らずに死んだ一人だが、絽の着物、角帯、白足袋の西鶴ぼりのこの作家が見たら、どう評言を変えただろうか。寂しさ故のカンナの花が、対照的に、烈しさを伝えてくるように思えてならない。私の住居の近くには、カンナを畠一枚もつくっている農家がある。昼寝の憚意から覚めて、眺めるときの美しさは例えようもない。生活を支えるための栽培であれば、当然のことでも、一株づつ売られていくのは、さっきと別な意味で寥しいものだ。しかし花を囲んでの、声高の饒舌は、ニュアンスがあって、岡崎流に面白い夏の風物詩と言える。

さきに女の唇と言う句を引例したが、〈くちびるばな科〉に属する花にサルビアがある。サルビアは和名を緋衣草（ひごろもそう）といい、その赤花を単的に名にしたが、知るひとも尠く、いまではサルビアで罷り通っている。苞も萼も花冠も緋色で、花冠の上唇は下唇よりも長い。サルビアはブラジルの原産で、この鮮烈な赤い花を見ていると、ブラジルやメキシコあたりの広漠たる野面と、乾いた土地が浮んでくるが、花の眺めは、その国の民族衣裳を着飾ったマドモアゼル達の、踊着の裾模様を思い出させるものがある。花は穂状に序々に咲き上っていく。あくまでも赤い花、あくまでもあおい葉、咲き終るころには、胡麻粒ぐらいの茶褐色の種が、一粒萼の底に見える。一八三二年わが国に、渡ってきたと言われるサルビアは、西洋花としてもかなりの歴史を持ち、われわれの花になり切った感じだが、サルビアは澄明で乾いた蒼空の下で見るのが、一番美しいようだ。いつだっか秋の彼岸に飛弾の高山にいったとき、合掌造りを跳め、一位一刀彫の彫師達が、土産物の仏像や翁の面などを彫り刻んでいた店先に、炎えついて来そうなサルビアの花が、咲いていたのは、思い出すだけでも公害化時代に、蒼空が感じられて気休めになる。水車の廻る音まで織りまぜているようで。清冽な流れのような色をした空気の中では、花冠も萼もひときわ大きかった。私は五六粒の小さな種を、見失なわないように、大事に東京まで持ち帰えったが、翌年の花どきに在来のものと同じ色褪めした花や、艶の無い葉を見て、蝕ばまれる街の公害に、哀しいほどの憤りを、感じないではいられなかった。

サルビアのむらさきもあり月雫　八十島　稔

それよりも先き、まだ赤坂に住んでいたころ、神宮外苑の花壇に、サルビアの紫ばかりの花を見たが、サルビアも紫ばかりを見ていると、日本に帰化してしまった花の感じが強く、東洋的な月の雫に濡れる思いがした。サルビアの紫はそれから二、三年私も作ってはみたが、花の赤さを犯すような気がして、やめてしまった。仔犬に荒らされても、私は、

朝灼けやサルビアの虹踏み散らす

鮮烈そのままの赤い花が欲しい。

（東京在住・詩人）

八十島稔詩句随筆集

『花の曼陀羅』　第3巻

著者は第一巻のあとがきに『筑紫路に通ずる山裾で育った私は、生まれながらに名もない野草にも特別な感情を持ち、その色の濃淡にさえ心をひかれた。〝ひらかなの母の匂ひや花あやめ〟私の花に対する愛情は、爰に芽生えたとも謂える』と記している。

この本には、季節ごとに咲き出る花をとりあげ、著者の周辺にいる人たち、たとえば詩人の田中冬二、故人では室生犀星、石田波郷などの句を中心に、味わい深い文章の数々を収めている。愛情をこめた深い感懐、広い視野と博識、そして詩情のあふれた文章には、花の香のような魅力が漂っており俳句、詩文を愛する人たちに、ぜひ一読を奨めたい本である。

著者は福岡県の出身で、かつて村野四郎、北園克衛などとともに詩壇の第一線で活躍した人、現在は『青芝俳句会』に所属している芝俳句会発行・一、〇〇〇円）。

（相模原市谷口、青柳寺内、青

わたしの宗教教育　④　ガイヤール

祈りの場のふんいき

子どもの祈りの指導にあたって、祈りのことば、内容、時間、ふんいきなどに、どれほど気をつけなければならないかについては、すでに説明しましたが、残っている問題のなかから、今回は二つをとり上げることにしましょう。

その一つは祈るときの行儀の問題です。自由に子どもを育てたい現代では祈りの行儀はあまり重要視されないのではないかと思います。要するに祈りといえば、まず第一に心の問題だと思って、体の姿勢はどうでもよいと考えがちです。だからふとんの中に入って、眠りながら「天にましまして」「めでたし」を唱える子どもがいるし、歯をみがいたり脱いだりしながら祈りのことばをつぶやく子どももおります。ところが祈るときには大人でもそうですが、まして子どものばあい、心と体は密接に結ばれています。祈る心を起こさせるためには、体にも祈りにふさわしい態度をとらせることが、とくに大切です。

正座したり手を合わせたり、目をつむったり、ゆっくり十字架のしるしをしたり、からだを左右上下にゆすらないように努力したり、ことばをはっきり言ったり、などの小さな注意はオーバーではありません。

これによって子どもは、落着いた体のなかに、祈りに向う静かな心を起こすことができます。口から出ることばを通してだけでなく、全身を通しても、子どもが神さまに話しかけることになって、結局体の正しい姿勢は、祈りの一つの大事な表現になります。

モンテッソリー女史も「体の訓練を通じて心を築きあげる」と言っていますが、祈りへの養成にあたって、決してそれを忘れてはならないと思います。

もう一つの問題は、祈りの場所です。家庭祭だんのある家ではその前で祈らせるのが当然です。しかし実際は、家庭祭だんが祈りの助けにならないで、かえってじゃまになっていることが多いのです。祭だんの中をのぞいてみると、おどろくほどたくさんのものがしまってあります。十字架一本か二本、マリア、ヨゼフ、イエスの聖心の像がいくつか、それにご絵数枚、小きさきテレジア、大天使ミカエル、聖家族、ジャンヌ・ダルクなど好きな聖人のご絵、そして隅には家族全員の祈祷書や聖歌集、ヴェールやロザリオ。最後にご絵と像のあいだに、必ず古いローソクが何本かそびえています。これは家庭祭壇なのか、それともパウロ会の店なのか。こんなみぐるしい祭だんの前で、子どもに祈らせるわけにはゆきません。

まず大掃除。そして必要なもの即ちきれいな十字架一つ、聖母のきれいな絵一枚、それにお花。ほかの余計なものは、とりのぞいて別の所にしまっておく。このように質素でしかもきれいな祭だんの前で、そして、この祭だんから生じるふんいきに包まれた子どもは、心を散らさずに祈ることができるでしょう。素朴な美しさのなかで祈らせるのが根本です。

家庭祭だんのない家では、それと同じ意味で祈りのコーナーを作る必要があります。どこにつくるかは家によって違いますが、まず第一に静かな所を選びましょう。しかし祈るのが恥かしいといって、かくれた所につくるのはよくないと思います。床ノ間の前などどうでしょうか。

最近のカトリック幼稚園で、新しい祈りの教育方針が見られます。これまでのように、朝礼のとき朝の祈りをやらせないで、各教室に作った祈りのコーナーの前で、一人びとり、またお友達と一緒に、自由に行って祈りをささげるというやり方です。園としては、親にも家で同じようにするよう指導します。

静けさのうちに、行儀をよくして、きれいなところで、心をこめた祈りのことばをささげるという心構えは、団体的な行動が多く、マスコミの影響の多い現代では、子どもの個人的信仰を育成するために、はかりしれない重要性を持っています。

連載随筆　炉辺詩語

リルケ遠望 (1)

森　雅生

薔薇の内部

どこにこのような内部をつつむ外部があるだろう。
この清らかな布は
どのような傷をつつめばよいだろう。
この憂いを知らぬ
ひらききった薔薇の花の
内湖の水には　どこの空が
映っているのだろう。
薔薇はただひそかに
花びらと花びらとを触れあって、
いまにも誰かの手に崩されることを
知らぬように見える。
花はもうわれとわが身を
ささえきれぬ。ひとつひとつ咲き
こぼれて
外にあふれ、
限りない夏の日のなかへ流れ入る
しだいにその日が充ちて輪を閉じ
ついには憂い全体がひとつの部屋
夢のなかの部屋となるまで。

これはドイツの詩人、ライナー・マリア・リルケの『新詩集』（一九七〇年）に見られる作品である。繊細な感覚、美しいイメージ、充実した思考の、いかにもリルケらしい詩で、リルケの数多い薔薇の詩の中でも、最高に位置する一篇ではあるまいか。

このリルケは、一八七五年十二月四日、ボヘミヤの古都プラハの、カトリックの家庭に生まれた。父はヨオゼフ、陸軍将校を志しながら、達成することができず、鉄道会社に勤めていた。母のゾフィアは富裕な商家の出で、異常に虚栄心の強い、ふう変わりな女性だった。リルケはこの母に、五歳になるまで女の子として育てられた。このことは、同じ年ごろの男の子から隔離し、幼いリルケを、孤独の中におとし入れる結果となった。リルケは、この孤独の中で、人間存在の頼りなさを感得し、孤独の中で苦しむことが、自分に与えられた運命であることを自覚したと言われている。そうであれば、後年実存的な存在として人間をとらえ、歌った詩人リルケは、まぎれもなく、この時期に誕生していたのである。

リルケが詩を作りはじめたのもこのころで、母にそそのかされ、彼女を喜ばせるために、幼い文字を綴ったのがはじまりだという。このときできた作詩の習慣は、その後もずっと続いたが、無理に入学させられた幼年学校の孤独な生活の中で、いよいよ熱意を深めていったようである。

リルケの四行詩が、ウインの『ダス・インテレサンテ・ブラット』に掲載されたのは、一八九一年の四月、これが活字になったリルケの最初の作品であった。

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ　吉川　東陽
福岡市中央区平尾四ツ角（山荘通）
電話　代表 ㊷0568

今月おすすめしたい本
新刊☆リサちゃんとこひつじ
ヨハナ・シュビーリ原作
宮下　健三　訳
¥550
スイスの美しい山を舞台にした、たのしい物語のうちに、神さまのやさしいみ心を、あじわわせてくれる。
小学校三・四年生向
新刊
☆ホイヴェルス神父説教集
H・ホイヴェルス著
¥500
在日五十年という著者の、短かいが、味わいのある話は、わかりやすく、神への信頼と希望を深めてくれる。
聖パウロ書院
大名町教会となり
西鉄グランドホテル前
74・4588

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額　五百万円
一、募金方法　一口五百円
一、送り先　本誌編集部（振替福岡四二九八一）

創立25周年式典
11月に福岡大神学院

福岡サンスルピス大神学院（西区神松寺、高木善行院長）の創立二十五周年記念式典が、十一月二十一日聖母マリアのご奉献の祝日に盛大に行われる。同学院は昭和二十三年ローマ聖座から司祭養成の正式の大神学校として認可され、九州全域と沖縄をふくむ長崎大司教区管区の大神学生を収容。これまでに百二十人以上の司祭が巣立った。神学（四年）哲学（二年）ラテン語（二年）の三学科の八年課程。

記念式典には田口枢機卿（大阪大司教）レゼ枢機卿（もと万ナダ・モントリオール大司教、同学院の創立者）のほか、内外から多数の来賓、関係者が出席する。

友人との心のふれ合いの中で
布教の新しい道さぐる
信徒布教研修会

第二回信徒布教研修会（福岡地区信徒協、レジオマリエ福岡セナートス、クルシリヨ事務局共催）は、九月十四日夕方八時から十六日午後四時まで、福岡雙葉学園でひらかれた。全参加者七十人のうち、修道女約二十人のほかは男女青年信徒の参加が目立ち、三日間を通じて活気にみちたふんいきが感じられた。

東京のインドロ・リバス神父と愛の実行運動の古沢恒子さんが全体の指導を受けもったが、オリエンテーション、全体会議での実際的なリードには地元信徒があたり、自主的な展開をめざした会となった。この研修会のねらいは、布教を聖職者ではなく信徒の問題として受けとめ、自分たちに可能な布教方法はなんであるかを具体的に討議して推進してゆこうとするものであった。そのためことしのテーマ「一致と兄弟愛」を中心に、「あなたはどのように友人仲間を大切にし、心のふれ合いをしているか、その兄弟愛をとおしてどのように職場や地域社会でお互いの一致を生み出そうとしているか」を時間をかけて話し合った。

どのグループも、自分たちの仲間や友人との交わりを見直し、かれらが真剣に求め、悩み、解決しようとしていることを取り上げ、それに対しキリスト者はどのように答え、考え、働きかけているかが報告された。

平田司教も顔を見せて信徒の声を聞き、第三日の「模擬指導者会議」にも参加して拍手を浴びた。リバス神父は最後のまとめで次のように語った。

「いまや私たちは、教会を率先リードできる自信をもった信徒の出現を期待している。また今回のような研修会も転換期にきているのではないか。もう話し合いをくりかえすだけでなく、信仰のもっと深いものを追求する段階にきていると思う」。

教区信徒協　役員改選
会長に松尾光敏氏

九月九日午後一時半から、大名町教会で教区信徒使徒職協議会の役員会がひらかれ、各地区の年間活動報告につづいて新役員の改選を行った。カッコ内は所属地区。

会長＝松尾光敏（北九州）
副会長＝坂田三郎（福岡）牧野利正（佐賀）中野尚夫（熊本）
書記＝白石鉄也（北九州）
会計＝頭島勇（北九州）
監査＝平木直親（福岡）桜井太郎（佐賀）
役員＝土肥久夫（福岡）尾下守（佐賀）高木信治（熊本）鬼木保之（レジオマリエ代表）山田耕司（ビンセンシオ代表）

熊本に朝食祈禱会

毎週一回早朝に、カトリックとプロテスタント諸教会の信者が一カ所に集まって、共同で祈りをささげる「朝食祈禱会」が、熊本市内でも始まっている。

同市では毎週月曜午前七時から八時まで、新町二丁目のYMCAで。プログラムは賛美歌、聖書朗読、奨励（説教）、祈りなど。そのあと軽い食事をとりながら歓談する。教会一致運動のすばらしい現われであり、だれでも自由に参加できる。

福岡・熊本の市民クリスマス

福岡市民クリスマスは十二月十八日（火）、少年文化会館（中央区舞鶴二丁目）で開催される。ことし始めて市内のカトリック、プロテスタント諸教会信徒有志による合唱を中心に合同賛美礼拝がある。この合唱隊に参加希望の方は前方の柵の中に、ブランコや遊動円木の見えているのが教会の幼稚園で、横に長い聞舎の建物を左に見て、アーチ型の門をくぐると、突きあたりに瀟洒（しょうしゃ）な構えの司祭館と聖堂が建っている。

この教会が、はじめて伊万里市蓮池町に建ったのは昭和二十八年。YWCAで練習中。なお市民クリスマスの当日はカトリックからも多数参加が望まれている。

熊本の市民クリスマスは十二月十七日（月）午後六時半から熊本市民会館でひらかれる。ことしは百人の合唱団がヘンデルの「メサイア」をほぼ全曲発表する。

司祭人事

コロンバン会のマックグラス神父とシーヒー神父は、熊本マリスト学園（男子高中）に奉職

手取教会主任ノーリス神父は休暇で帰国。

天草本渡で殉教祭

十一月十一日（日）、天草の本渡市で恒例のキリシタン殉教祭がひらかれる。正午から殉教公園でミサ聖祭があり、よる六時、カトリック教会から殉教公園まで、平和を祈願してキャンドル行列がおこなわれる。

教会りぐめ

サルデイ神父

伊万里（聖ヨゼフ）教会
佐賀県伊万里市二里町八谷搦

伊万里のバスターミナルでバスを降りて、国道を南へ歩き、喫茶店のある角を右に折れ、少し行くとまばらな、新開地らしい感じの家並の間に、ボーリング場と青果市場がならんでいる。この青果市場のすぐ先きから右に曲って、

年。初代の司祭は、ミラノ外国宣教会のムラトリ神父。それまでは月に一回、唐津教会の神父によって、信者の家庭でミサが行なわれていた。いまの司祭は三代めで、おなじミラノ会のサルデイ神父。この人は、イタリー北部の名門、パードバー大学を中退して神父になったという変り種で、三十九年に、山梨県甲府市の教会からここに移ってきた。恰幅のいい、柔和な感じの神父さまである。

教会が、蓮池町から現在地に移転してきたのは四十四年。信者は一五〇人、ほとんどが旧信者。佐賀地区信徒協の副会長で、十二人の子持として、カトリックグラフに紹介された尾下守さん（48）のほか、榊石松さん（65）、深堀光三郎さん（63）らが、中心となって神父を援けている。

サルデイ神父は『ここは旧信者ばかりで、何もしていませんよ』というが、日曜には、未信者の子どもを集め、英語、書道、要理を教える日曜学校、信者のためには、春学校、夏学校をひらき、要理と祈りを教えている。

またクリスマスには、市内の小学生を招待して子ども大会がひらかれる。幼稚園で、映画や園児の遊戯を見せ、プレゼントを持たせて帰すそうだが、神父は『子ども大会は、思い出としていつまでも心に残るものです。そういう意味で、将来に賭けた布教と言ってよいと思います。これはどこでもできることですから、ほかの教会にもぜひ奨めてください』と、真剣な表情で語っていた。

幼稚園は、教会がここに移ってから創立された。一四〇人の園児をかかえているが、教会のある西伊万里地区に幼稚園がなかったので、地区の家庭から喜んで迎えられた。この幼稚園の特徴は裸教育で、この日も、パンツ一枚の園児たちが、楽しそうに運動場を駆けめぐっていた。家庭でも『おかげで、うちの子どもは風邪もひきません』と喜ばれているそうだ。

教会の入口で足を止めると、前は一面の青田。その稲の波を目で追ってゆくと、青田の尽きたところに、標高四〇〇メートル、伊万里富士と呼ばれる腰岳がそびえており、中腹に幽かに白く、点のように見えているのが、『伊万里女子トラピスト修道院』だった。

10月のこよみ

3日（水）リジューの聖テレジア修女
ことしはこの聖女の生誕百年にあたる。

7日（日）年間第27主日
性道徳、結婚生活、両親の務めなどに、目をおうほどの混乱が起っている。その原因がなんであるにせよ、現代人の心が「かたくな」で、正道を見失っているからこそ、教会は、確固とした教えを声を大にして伝えなければならない。

13日（土）二日市新築教会起工式

14日（日）年間第28主日
「富に頼る人が神の国にはいるのは、ほとんど不可能だ」とキリストは仰せられる。私たちはいまつぎのように言うことができる。「富に頼る国が栄えた例は歴史上、見あたらない」。物質的富の過剰が個人や社会を破滅させた例を、私たちはいくつも知っている。

光カ丘教会創立20周年記念ミサ（午前十時）

15日（月）―20日（土）教区邦人司祭の年の黙想会（福岡黙想の家で）

21日（日）年間第29主日
きょうは「布教の日」。パウロ教皇は聖年開始にあたって、布教精神の高揚を全世界の信者によびかけている。司祭・宣教師の減少がますます深刻になっている今、信徒のあいだから、布教に進んで尽力する活動家の出ることが期待される。

28日（日）年間第30主日
盲人が目をあけてもらって、イエスのあとについてゆく姿は、待望された救いの日が来たことのしるしとして受けとめられる。それは絶望的な状態にあった者に、救いの手がのべられ、立ち上って父の家に帰ってゆく日である。

（諸聖人の祝日は十一月第一日曜日に祝われていたが、ことしから十一月一日に祝うこともできる。但し、守るべき祝日ではない）

北九州地区信徒研修会（戸畑天使園）

納骨堂祝別式

福岡市南区大橋に近い和田カトリック墓地に、待望の納骨堂が十月上旬、完成します。福岡地区の墓地建設準備委員会（現在は建設委員会）の目良氏ら十数名の信徒の献身的尽力が実をむすんだものです。十一月四日に平田司教司式で祝別式がおこなわれます。（時刻未定）

事務用機器　文具・紙
放送用機器
福岡市南区大楠二丁目13番21号
有限会社　シオタ事務機
(52) 5327・(53) 4905
スチール製品　デスク・ロッカー・黒板

お金や証券・不動産のことなら、
どんなことでもご相談ください
— 三菱信託銀行は財務のデパートです —
貸付信託　交通安全信託
金銭信託　財産形成信託
奥さま年金信託　しんたくホームローン〝幸福〟
総合教育信託　ローン付住宅信託
海外子女教育信託　不動産
まごころて奉仕する……
三菱信託銀行
三菱信託銀行　福岡支店
財務相談役　田中幹子（マリア・ローザ）
福岡市中央区天神1丁目11番17号1階（福岡ビル）御用の方は私あてご連絡ください

『信徒使徒職協議会』は、間もなく発足満二周年を迎える。略称の信徒協という名はしばしば耳にしてきたが、この二年間、少なくとも表面的には、私たちが期待したような活動は見られなかった。信者の中には『信徒協は何をしているのか』など、疑いをはさむ人も少なくないが、しかしまた信者の側にも信徒協の名は知っていても、信徒協の性格や仕事については、認識のない人が意外に多いのではあるまいか。

今回は信徒協の役員諸氏に集ってもらい、教会の使徒職推進の原動力とも思えるこの人たちに、信徒協のいろいろを聞いてみた。

信徒協発足二周年
業績に見られる消極性
目に立つ北九州の動き

信徒協の前駆
『教区布教委員会』

教区の『信徒使徒職協議会』は、平田司教の要請にもとづいて、昭和四十六年の十一月二十一日発足した。教区信徒の、使徒職活動を推進しようということであったが、ここで振り返ってみたいのは十数年前に、おなじような目的で『教区布教委員会』が成結され、信徒協の前駆的な役割りを果たしていたということだ。

この『教区布教委員会』が結成されたのは、三十二年九月二十九日。第一回の集会は、この日司教館でひらかれ、会長の小野救さんはじめ、教区の役員が選ばれた。そしてあくる十月十三日には、ローマの『第二回信徒使徒職世界大会』に呼応し、布教委員会の結成式を兼ねた『信徒使徒職大会』が聖愛学園でひらかれている。大会には、二千人に及ぶ信者が集ったといわれ、当時の信者の熱意をうかがうことができる。布教委員会はその後、第二バチカン公会議によって、世界中のカトリックの機構が変ったため、存在の意味を喪い、自然消滅の止むなきに至ったが、信徒協は意識の有無にかかわらず、その布教委員会を新しい光の中で受けついだわけである。

信徒協は、バチカン公会議以後の、カトリックの新しい波の中で、信徒使徒職教令にもとづいて結成されたものだが、信徒協の人たちは、発足当時の事情をつぎのように語っている。

『地区、教区がばらばらではいけない。教区でまとまらなければということだった』

『四十五年の一月、平田司教の要請をうけて準備を進めた。平田司教に、何をぼやぼやしているのかと尻を叩かれたようなものだった』

布教委員会のときは、発足までに、一年半の時日を要している。当然、信徒協の発足にも準備期間が必要だった。地区別に見ると、北九地区では四十五年の二月、有志の提案にもとづき、バスチ神父との話し合いが持たれ、明治学園で発会式があったのは、翌四十六年四月二十五日だった。

福岡地区は、有志が数回にわたって協議したのち、四十五年の十二月準備会に移行し、翌年四月一日発足にこぎつけた。熊本地区では、四十六年八月、教区の準備会に招かれた時点から、地区の準備がはじまり、発足したのは、教区の信徒協結成から、一カ月遅れた十二月であった。佐賀地区には、前の布教委員会の組織が、そのまま残っていた。小教区間の連絡、地区の問題についての話し合いなど、すべてこの委員会でしていたが、信徒協の発足を機に、二年前に発展解消を遂げた。

地区信徒協はこのような形で準備され、教区信徒協は、小教区および地区信徒協の上に立つ、最高機関として発足したわけだが、では役職者の組織はどうなっているのであろうか。

教区信徒協には、会長一、副会長三、書記、会計各一、監査二、その他の役員若干が置かれ、これにアクショングループ代表が加わっている。地区はその事情によって一定していないが、監事または理事のもとに、小教区の代表が集まり、小教区では、教会委員が信徒協を兼ねているところ、教会委員をそのまま振り替えているところが多いようだ。

『私たちは何をしたらよいのか』熱心な話し合いがつづく（布教研修会で）

信徒協とは何かということ

ところで『信徒使徒職協議会』とは何であろうか。この点については地区、教区ともにその考え方は必ずしも一致していなかった。

北九『使徒職教令にもとづく、北九の信徒活動についての連絡協議機関』

福岡『信徒の使徒的活動を推進するもの』

熊本『小教区信徒の意志の連絡機関で、信徒を指導する考えはない』

教区信徒協ではまた、『現時点では社会への働きかけよりも、宗教活動に重点を置いている。現実にはやはり連絡機関だろう』という。

型にはまり、うまく交わされた感じだが、この人たちの、信徒協に対する姿勢が伺がえるような気もする。発足して二年足らず、足許を固めているといういまの段階では、無理もないことかも知れない。それに『保守、進歩半々という信者の状態で、二つを合わせて刷新を考えなければならない』（熊本）という、複雑な教会の事情も考慮に入れる必要があろう。

信徒協については、『信徒使徒職に対する教令』第五章『協力のための組織』に、

『福音宣教と聖化における、あるいは慈善や社会その他の分野における教会の使徒的活動を助けるため、教区に協議会が設置されることが望ましい』と書いてあり、これには、小林有方司教の解説があるので、少し長くなるがその一部を紹介してみよう。

『使徒職協議会とは、既存の各種団体間の事業や会員の調整という、いわば消極的な面のみならず、更にすすんで、未だ着手されていない、ある必要面での活動のための、新たな組織を結成させるための推進的協議会でもあるべきだということです。信徒独自の自主性を損うことは許されませんが、信徒の自主的意欲を増すことは必要なことであり、現在必要であって、しかも未だ着手されていないある面に信徒の目を向けさせることが必要なのです。そうでないと、教区の使徒職活動の分野がとかく偏りがちになる恨れがあります』

『協議会は小教区単位にあっては、主任司祭を中心にその地区内の修道者と信徒団の代表および各種団体の代表らをもって、また教区的スケールにおいては司教を中心に司祭団、修道者団および信徒団から選ばれた各代表たちによって委員会を構成し、既存の使徒職団体相互間の調整と、なすべきでありながら、なされないでいてしかもなす可能性ある使徒職の場の探究と方向づけを行ない、信徒すなわち使徒であるという鉄則の上に全信徒を網羅する使徒職体制を築き上げる……使徒職協議会とは、そのような恩恵に満ちた涯しない展望をもってキリストのからだの成長と発展を目ざすものであるべです』

信徒使徒職協議会が何であるかは、この中に端的に示されている。信徒協の人たちは、この中にもっと具体的な問題を探り、また一般信者も、信徒協が何であるか、この解説をとおして、熟考する必要があるのではなかろうか。

信徒協は何をしたか

この十月は、教区信徒協が発足して、二年めの最後の月に当たる。今日まで一般信者の間で囁かれた声は、『信徒協は何をしているか』ということであった。それは大神学校で信徒大会をひらき華々しく出発した信徒協への大きな期待が、そう言わせているに違いないのだが、では信徒協はこの二年間、現実にどんな活動をしてきたのだろうか。まず地区の活動から見てみよう。

北九では、婦人会に協力して連合体の組織づくりに成功し、また新田原、湯川の墓地斡施にも貢献した。しかしここがいちばん力を入れているのは、年間行事の『信徒研修会』だろう。ことしも十月二十八日、戸畑教会の天使園でひらかれることになっているが、その内容はつぎのように充実したものだ。

教会一致の問題（バスチ）、結婚講座のあり方（キニュー）、社会問題と信徒（トクベフ）、教会内における青年の位置づけ（デンヤンブ、西田）、婦人の役割（ラバルタ）、職場における布教（バイヨ）、子どもと信仰（青木功）、召命について（青木保）、離教対策（グロージャン）、地区委員のあり方（ベルトラン）、教会内の対話（パスカレル）その他。

現代カトリックの問題を、ほとんど網羅した感じで、地区の雰囲気と指導者たちの姿勢が、このテーマを見ただけで解るような気がする。

北九について積極的なのは佐賀であろう。佐賀はレジオ・マリエを中心に、信者の活動を展開している。レジオの会員が一般信者を動かして、家庭訪問、病院訪問、怠り信者の掘り起こしなどを推進しているもので、信徒協はバックからこれを支えているわけだ。

ここにはまた、年一回の文化講演会がある。これは東京から講師を招いてひらくもので、昨年は作家の田中澄江さんと曽野綾子さんを招き、大きな成功を納めた。

熊本も地味ではあるが動いている。教会内部では聖職者の召命促進、リバス神父によるCLC、教会外では心のともしびの配布、また教会一致運動も積極的に進められている。

福岡は、はじめ十数項目の計画を掲げ、その中から必要なものだけをとりあげたそうだが、実施したのは布教研修会、怠り信者対策、歳末街頭募金など。このうち布教研修会はほとんど名前を貸しただけ、歳末募金は何処ででもやっていることで、とくに取りあげるほどのことではない。実質的なものは怠り信者の対策だけだが、これでは少し淋しすぎるのではあるまいか。

教区の信徒協は、『下部組織から持ちこまれた問題を協議し、検討するのが信徒協だ。具体的な計画は建てられない』という。これには、ある神父の『教区の信徒協は、小教区、地区の計画の相談にあづかるのが仕事で、信徒協自身が何かをするのではない。問題は下部組織の積極性だ』という意見もあるが、しかし教区信徒協が、下部組織の上に立つものであれば、下部組織、あるいは教区を展望したうえでの指導方針にのっとった計画は当然あるべきであり、組織全体を動かすような計画も進められなければなるまい。そういう点はさきに引用した小林司教の教令解説に明らかに示されている。実は信徒協の性格のあいまいさも、このへんに起因するのであって、信者から『信徒協とは何か』という疑問の出るゆえんも、そこにあるのである。

こんごの課題

地区信徒協をふくめ、教区信徒協は、こんご何をしようとしているのであろうか。昭和四十九年の展望について質問したが、回答らしい回答は返ってこなかった。

信徒協の業績を見ると、そこには小林司教の、『既存の各種団体の事業や会員の調整という消極的な面』に傾き過ぎている印象が強い。これからは『現在必要であって、しかもまだ着手されていないある面』に、信者の目を向けさせる努力が必要ではあるまいか。それは、たとえばこういうことだ。

教区ではさきに、有志の努力によって『青年連盟』が結成されたが、これは結成前は、『まだ着手されないある面』の一つであったはずである。青年司牧は、『青年司牧促進委員会』が発足したあと、各教区が全力をあげて推進していることで、カトリック新聞九月二十三日号にも、一面に『青年と教会活動・動き始めた大教会』という大見出しで、東京麹町教会が『社会に若きキリスト者を』をテーマに、青年層大会をひらいた記事が出ている。いち早く『青年司牧促進委員会』を反映して、動きはじめている他教区に比べ、福岡教区に、未だに青年に対する対策がないということは、他教区に大きく遅れをとっていることを意味する。教区信徒協は、まずこういう問題に着目しなければならないのではないか。

取材の席では、司祭と信徒協の協力、司祭間の意見の調整が話題にのぼった。それは司祭と信徒協の協力、司祭間の意見の調整がなされれば、信徒協の仕事を推進することができないということであった。

また『布教研修会』は、教区のレベルでやってくれ』という意見が出た。教区の一致をはかるためにも、内容の充実という観点からも、これは検討してみる価値があるだろう。それから社会運動的なこと、靖国神社問題や岡垣射爆場問題などに、どう対処するかという質問があったが、今日の時点で、もっとも目を注がなければならないこの問題には、『社会に向う姿勢に間違いはない』という意見は出ても、具体的にどうするかという回答は出なかった。

これらの問題をふくめて、対内的に、対外的に信徒協に考えてもらいたいこと、信徒協がしなければならないことは多い。そしてそれをどうさばき、実績を積み重ねてゆくかが、こんごの信徒協の課題であろう。

科目　調理師養成科、料理科、被服科
趣味科、家政科
学校法人
福岡家政学院
院長　渡辺ハナヨ
福岡市中央区天神三丁目
TEL76—6155(代)

栄養のバランス
牛肉・かしわ・豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
TEL 52・4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ㊼ 2673

ヴィノ・デ・ミサ
（ミサ用ワイン）
720mℓ入 1,000円
ミサ用のぶどう酒ですが、家庭用・贈答用としても、みなさまに好評をいただいております。
取扱店
大楠酒店
福岡市南区大楠二丁目4番8号
電53・4718
ミカエル青木実（大楠教会）

紳士の気品と誇りを創る
お誂え洋服
紳士服の
ニューライン 糸永
電話 福岡 52・0820
ペトロ 糸永秀雄
福岡市中央区小笹四丁目4番
2636号

辞書は三省堂

施設の子どもを招き
共同生活の意義を教える
八木山ユース・ホステルの山川さん

シーズン中の八月、日本ユース・ホステル協会八木山ユース・ホステルが、カトリックの養護施設、聖小崎育児園の子どもたちを招いて、共同生活の意義を、体験をとおして指導した。これを思いたったのは、八木山ユース・ホステルのペアレント、山川勲さん三十二歳で、

『三年前ですが、朝日新聞の主催で、身体障害児のためにキャンプをしたことがあります。そのヒントというわけでもありませんが、ユース・ホステルでいう奉仕だけでなく、社会にも目をひらきたいということで、聖小崎育児園の皆さんを招きました』という。

共同生活は、八月十三日から十五日にかけて、小中学生二十四人と、先生二人を招いて行なわれた。主な行事は、昼が飯盒（はんごう）すいさんと水遊び、夜はダムサイドでの花火あげなど。施設の生活しか知らない子どもたちは、躍りあがって喜んだが、共同生活には、自分のことは自分でするという考えが大切。そういう意味で、部屋の掃除から毛布の折りたたみまで、みっちりと教えこんだそうだ。

指導に当ったのは山川さんのほか、山川さんが呼びかけて集めた、ユース・ホステルの会員八人と、ヘルパー十五人で、この中には、遠く大阪から駆けつけた三人の人もまじっていた。

この山川さんは泰星高校の出身二年生のとき吉塚教会で受洗した信者。マリア会に籍を置いたこともあるが、中村学園短大で栄養士の免許をとったのち、国立病院、みさかえの園などを経て、八木山ユース・ホステルのペアレントになった。仕事はユース・ホステルの管理、宿泊者の指導と監督など。昨年は会員三十五人とともに、イタリーからオランダまで、ヨーロッパを一周してきた。

『ユース・ホステルは、リヒルト・シルマンという小学教師がはじめたもので、友愛、奉仕、規律を精神としています。しかし奉仕、規律も、愛がなければ固苦しいばかりです。私はカトリックの愛を、ユース・ホステルの中に生かしたいと考え、こんどもそれに賭けたいと思っています』と語っていた。（写真はキャンプ風景）

全国社研セミナーで
岡部さんが現地報告
社会正義にもっと積極的参加を

第十回をむかえた社会問題研究会セミナーは、八月二十四日から三日間横浜聖園女学園でひらかれ、全国各地から約百五十人が参加した。ことしは講演会中心でなく、「正義のためにどう働くか」をテーマに、公害や不正に苦しむ人々のためにどのように社会正義を行なおうとしているかの実地報告をとり上げて、キリスト者の態度を話し合った。

報告をしたのは、宮崎県の土呂久と松尾鉱山の鉱害を告発して、被害者の救済につくしている生熊来吉氏（福岡歯科大助教授）と、福岡県岡垣射爆場の撤去運動に加わっている岡部勝子さん（主婦）、深堀尚氏（沖田中学校教諭）の三人で、いずれも北九州社研のメンバー。同社研からは他に黒崎教会主任のトクベフ神父以下六人が出席した。

岡部、深堀両氏は「生命・人権と生活」と題してつぎのように語った。

「日本の教会には社会運動にタッチしようとしない伝統があり、この種の運動はすべて左がかった、偏向活動ときめつける。政治的に中立であろうとの美名のもとに、社会正義のための働きにも消極的になっているのだ。カネミ油症患者を救う会の紙野氏はプロテスタントであるが、不正義に抵抗し戦う運動の先頭に立つ者のなかに、カトリック者はほとんどいない。しかし社会への働きかけがないかぎり、我々は福音の教えに充分に答えていない」

岡部さんは「射爆場から子どもを守る母親の会」のメンバーとして、教育の立場から運動に参加したものだが、聴衆のなかから「主婦でも社会運動に協力できるという実例を見せてもらって、力づよく感じた」との反響があった。またトクベフ神父は霊的講話のなかで「日曜日ごとに信者たちは教会に集って、祈ったり聖歌をうたったりしているが、その信仰が教会のなかに閉じこめられて、外に現われないのは残念だ」と述べた。

最後に同社研の指導司祭ムルグ神父はつぎのように指摘した。

「正義を実現させるために命がけではたらくキリスト者は少ない。つよく正義を求めている現代社会の、その渦の中に教会はおかれている。教会がいまその責任をはたすためには、しっかりした司祭としっかりした信徒が必要だ。らくな時代よりもけわしい迫害の時代を泳ぎぬく強いキリスト者を現代は要求している」

信徒点描
たくましい信徒育成へ
教区信徒協会長 松尾光敏さん

去る九月九日開かれた教区信徒使徒職協議会の役員会で、北九州市若松教会の松尾光敏さんが会長にえらばれた。この協議会が発足して二年たらず、独り歩きできるまでに育て上げてゆく緊急の責任が、会長はじめ新役員におわされたわけである。

松尾さんは昭和二年、長崎市浦上の生まれ、もちろん幼児洗礼、本人に言わせると「いいも悪いもコチコチの旧信者の典型」だそうだ。十年、一家をあげて北九州市戸畑に移住、旧制戸畑中学三年で予科練になり、終戦の年、福岡の警察学校へ。卒業して配置されたのが、戸畑教会と背中合わせにあった戸畑消防署。

『非番の日はルリエ神父様（故人）の小使、伝道士、運転手、そのほかもろもろの雑務を仰せつかったものです』。

二十九年からある金属会社に勤務、三十六年独立して若松に高圧ガス、溶接材料の会社を設立した。

「私が信徒としての新しい自覚と責任にめざめたのは、教区の第一回クルシリヨに参加してからです」。このあとクルシリヨの講師、そして錬成長（四回）として信徒リーダーの養成の役目をはたすかたわら、四十四年から三回、信徒使徒職全国推進会議に、また全国クルシリヨ・リーダー会議に参加した。

「このような会議をとおして私が学んだのは、個人的な信仰のワクから脱皮して教会と社会に目を向けるということ、共同体精神を身につけた信徒リーダーの養成が急務だということでした」。

教区に信徒使徒職協議会を設けるという指示が出たときにも、松尾さんはまず北九州地区でそれを発足させようと手を打った。その準備から誕生への過程のなかでこの人が改めて痛感させられたのは「教会内にはタテのつながりはありますが、ヨコの連帯はまったくありませんね。いろいろ活動しているグループも、たがいに協力し合うということはなく、国の中に国が割拠している有様といえます」。

タテのつながりが強ければ強いほど、ヨコの結びがよわくなるのは社会学的な常識である。もし信徒が司祭にたよりすぎるとか、司祭が信徒の行動のすべてに采配をふるうという状態がつづくかぎり、教会内に真の一致が芽生えることはあるまい。司祭も信徒も頭の切りかえを迫られている。

「私がこれから取組まなければならないのは、教区全体のアクション団体の一致協力の態勢をつくることです。それに、もっと自主的に教会と共に働ける信徒の養成だと思っています」と、松尾さんは会長としての抱負を語る。

また一方、北九州地区信徒協がいま力を入れているのは、教会一致運動（エキュメニズム）の促進と、北九州カトリック婦人会の育成だという。

この婦人会はことし一月の発足以来、韓国のライ病患者救済のため、衣類などの物資を定期的に送る運動を展開中。

「私たちカトリック信者は、おっとり育った良家の子女という印象を外部の人に与えているようですね」。

たくましい信者の育成、それが活動する教会に生まれ変るための前提条件であろう。新会長の指導力と熱意に期待したい。

JOC錬成会
「教育」について掘り下げる

JOC（カトリック青年労働者連盟）福岡地連のメンバー三十人は、八月二十四日から三日間、福岡黙想の家で錬成会をおこなった。

今回は、東京の小川総指導司祭はじめ地元の六人の司祭も加わって、JOCの年間研究テーマである「教育」について掘り下げ、家庭、社会とくにマスコミ）職場、教会におけるそれぞれの教育の実情を見直し、その中で現代人がどのような人間に育っているか、福音による人間教育はなんであるかを研究した。

なお最後の共同ミサのあいだにジョシストとして活躍しながら、求道中であった北九州市八幡区の中村玲子さんの洗礼式があり、中村さんは式中、神と労働者にたいし生涯忠実であることを誓った。

しあわせな家庭建設めざし
第五回結婚講座

第五回結婚講座は、九月二十日から十月十三日まで、毎週木曜と十曜の二回、福岡市大名町教会の旧聖堂でひらかれている。

講座責任者はウォード神父（御受難会）、事務局代表は井上輝正さん（小郡教会）で、今回の参加者は九組十八人。講師らの熱心な話しで座談会も活発な意見の交換がみられ、結婚生活の意義、しあわせな家庭建設への決意が深められていった。

手取教会で敬老の集い
深堀司教かこんで

九月十五日敬老の日、熊本市手取教会に深堀司教はじめ約三十人のお年寄りが招かれ、座談と慰安の会がひらかれた。子どもたちの舞踊や歌、記念品（新約聖書）の贈呈のあと現体験福式にあずかって散会した。

満百歳の浅山ツタさん

田中首相からもお祝い

聖母慈幼聖母老人ホーム（熊本市鳥崎町、マリアの宣教者フランシスコ修道会経営）の浅山ツタさんは、ことし七月三日で満百歳をむかえたが、敬老の日田中首相からお祝いの額縁、銀盃、清酒一本、また沢田県知事から紫のふとんとお菓子一箱を贈られた。浅山さんは芦北郡の生まれ、矢部で裁縫の先生をつとめたことがあり、昭和二十七年同老人ホームに入って受洗、いまでも祈祷書とロザリオを手に祈りの毎日を過している。

運動会と演芸会
今村聖母園で

九月二十二日午前十時から福岡県大刀洗町今の今村聖母園老人ホームで、地域交歓運動会がひらかれた。ホーム玄関前の広場に敷いたじゅうたんの上で、同園のお年寄り七十人と、東木郷の老人クラブの人たち十数人、町役場職員、民生委員らが一諸に、競技やフォークダンス、炭坑節音頭などを楽しんだ。日や体の不自由な老人もプログラムに参加したが、午後からは老人だけの器楽合奏、踊り、飛入りなど盛りたくさんの演芸会があった。昨年十一月から週二回、練習をはじめたという器楽合奏では君が代行進曲を見事に演奏して、大喝采を浴びた。

県展に入選
泰星高校の大場君

第二十九回福岡県展、洋画部門で、泰星高校一年生の大場雅文君が最年少で初入選し、話題をよんだ。

入選作は〝悲しみ〟と題する孔版画で、高校受験地獄の苦しみや悲しみを表現したという。父親の大場正男さん（44才）は、国画会所属の版画家。雅文君は小学校のときから木版画が得意で、小学校一年で年賀ハガキコンクールに入選、郵政大臣賞を獲得、中学時代から孔版画に取り組んでいる。

読んじゃおう！ 見ちゃおう！ 楽しもう！
良書月刊誌
家庭の友
100円
中央出版社
〒160 東京都新宿区四谷1の2
TEL 03(357)6401

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の 河野電気
ミカエル 河野三千夫
福岡市田 1162—29
TEL 87—3099

胸をうつ病床詠

三上りつよさんの歌集『白さるすべり』

昭和十三年に発病

カトリックの信者で、三十数年にわたり、闘病の生活を続けている、福岡市今川一丁目の三上りつよさん六十三歳が、この九月『白さるすべり』という歌集を出版した。

『白さるすべり』は、三上さんの六十歳の還暦を記念して編まれたもので、コスモス叢書の第八十三篇。三上さんには、すでに第一歌集『冬の実』があるので、これは第二歌集ということになり、『冬の実』以後、昭和三十六年から四十六年までの歌二八〇首と、歌誌『コスモス』に掲載された短文『幼・三題』を収めている。

三上さんは奈良高等女子師範学校を卒業して、東京高円寺の光塩高等女学校に勤め、横浜の香蘭高女に移つて間もなく、現在のご主人と結婚した。ご主人は九州大学工学部教授三上操氏で、三上さんは、このご主人の福岡高等学校(旧制)赴任に従って、昭和十三年福岡へやってきたが、福岡に着くと間もなく発病し、それから今日まで、ずっと病床の生活が続いている。

衰へし身を励まして生きむとす
暁すでに蝉鳴きしきる
衰へし身をかばひつつ傘さして
時雨の道を歩む寂しさ

三十数年の病床生活は、ほとんどが寝たり起きたりで、一日中起ていたことはないという三上さんには、私たちのいう日常生活はなかったに違いない。毎日が病気との闘いであり、その中で、何としても生きねばと自らを励まし、また病身をかえりみた深い寂しさもあったであろう。右の二首には、そういう三上さんが、何のけれんみもなく、淡々と表現されており、それが読む者の胸を打つのである。

一生(ひとよ)かけ こし愛

三上さんが歌に手をつけたのは、昭和二十八年ごろで、新聞の歌壇に投書したのがはじまりだった。その後、中島哀浪の『ひのくに』に入会、三十二年には、宮柊二の『コスモス』に移り、さらに『女入短歌』に参加し、いまでは両誌とも、同人の列に加わっている。

三上さんは『病床の生活で、家族に愚痴を言いたくない、弱音を吐きたくないという気持が、歌に発散されるのでしょう』というが、それは、三上さんの気性の強さというより、病床生活の苦しみに、耐えようとする気持と解した方が当っていよう。

楽しき事何もあらずと繰返し言
ひつつ酔ひし夫(つま)寝入りぬ
ししむらの営み哀し愛さへも答(しもと)
の如く享けてわが来つ
癒えぬまま老いまさりゆくわが
傍に夫また老いて怒り易くなる
いたはりなど言ひし事なき夫と
しも思へばゆとり無かりし現実

うたたねの夫の寝顔の清ければ
一生かけ こし愛を思ひぬ

三上さんのばあい、病床の生活が長いだけに、ご主人との関係が、いちばん気になることではなかったろうか。そして当然のことながら、三上さんの胸の中には、苦痛を与える者としての夫と、その夫にすまないと思っている自分が、矛盾のままに重なっていたはずで、これらの歌には、そういう夫婦の姿がよく表現されている。終りの歌には、その矛盾を超越した愛が歌われており、歌の良し悪しを超えた尊いものを感じとることができる。

平明さの中にきびしさ

今ははや微動だにせぬ亡骸(なきがら)か組
まれし御手の黒き十字架
(母逝(おく)く)

冬の日は深く差し入り本箱の奥
処(どこ)に白し亡母(はは)のマリア像

三上さんは、このお母さんによって、幼児のとき洗礼を受けた。いまもその信仰は続いているようだが、『私は迷っている小羊ですが、私のような者も、神さまはお見捨てにならないでしょう』というこの人の言葉には、かえって強い信仰が潜んでいるように思われる。

病み妻のかかる悩みは告ぐべきや
十字架もちし黒衣のひとに
黒き服に司祭は立ちて十字架を
負ふ確かなる瞳を向くる

この二首には、信仰に対する関心の強さが同がえるのではあるまいか。

三上さんの歌は、総じて平明で解りやすいが、その平明さの中にはきびしさが堪えられている。それは、三上さんが病床で見た人間の深淵、あるいは病者の悲痛といったもので、この歌集の特色も、そういう処に求めてよいと思う。

(写真は三上さん)　(M)

わたしの宗教教育

⑤ ガイヤール

子どもの読書(上)

「うちの子どもに宗教を身につけさせるには、一週間にたった一時間の公教要理ではとうてい足りないと思いますから、よい本をよませたいのですが」ある父兄会の席上、小二の子どもの父親がこういうのを聞いたことがあります。私も同感です。

世俗化したふんいきの中で暮らす現代の子どもは、教会で一時間勉強しても、十分心の養いを得られません。テレビもなく、漫画の本も少なかった昔の子どもは、聖書物語、聖人伝、偉人伝などをよくよんでいました。

映像の文化になった今は、大人も子どもも、静かに読書する時間はまれで、テレビの前に坐る時間のほうが、はるかに長いというのが、一般的現実です。

もう一つ変ってきたのは、子どもにする贈り物のことです。以前は、誕生日、正月、入学の時などにする贈り物には、いい本が一番有意義なものと考えられていましたが、今は違うようです。現代の子どもはうるさくて、本で満足しないとか、いろいろな理由で次第に本をプレゼントにする習慣がなくなり、代りに高価なおもちゃ、自転車を買ってやったり、子どもにお金をやって好きなものを買わせたりします。

このやり方は、一般教育についてもそうですが、信仰教育の面からも、大きなマイナスになると考えます。なぜなら、読書は子どもに、何にもまして強い印象を与えるものだからです。テレビと比べても、テレビは映像をうつして、さまざまの出来事について具体的で幅のひろい知識を与えるけれども、その反面、瞬間的な映像が多すぎるし、場面の変化も余りにはげしすぎて、子どもは見るだけで精一杯、考える ヒマが ありません。受ける印象は多いがうすく、得る知識は多いが、断片的で浅いものです。

それに対して読書は子どもの努力を求めますが、そのかわり集中力が育てられます。また自分なりのリズムで、自由に想像しながら、好きな所を一度も三度もよみ返すことができます。このいわば、熟読によって受ける印象はふかく、気持だけでなく、心も打たれるし、頭もゆたかになります。よみながら好きなままに、いろいろなことを心に画いて個人的に味わえるこの喜びは貴重なものです。

もう一つ言いたいのは、読書にあたって、大人と子どもの心理は大きく違うということです。大人の場合は、教養を求めることも少なくないのですが、ただ気分転換とか、または毎日のきびしい現実から、一時的にでも逃げようという気持のほうが多いのです。子どもならもちろん、目的をはっきり意識しなくても、現実から逃げるどころが、現実を知るために読書します。

幼児は現実を知らず、幻想の中に生きていますが、小学校に上るころには、現にある世界を発見したいという心が強まってきます。現実と幻想を区別する能力が高まるにつれて、自分の生きている環境と時代の認識をふくめて、また別の時代の人間のことなども、知りたいと願ってきます。結局世界を発見させるためには、読書は重大な意味をもっています。

なお本人がそれを意識していなくても子どもは理想像を探し求めています。おもしろい本をよむときには、主人公を外から見たり、聞いたりするばかりでなく、それと一体になります。言いかえると、生きるのは主人公ひとりでなく、子ども自身が主人公のなかで生きたり、行動したりするのです。

その心理を考えてみますと、子どもが、正常な精神的発展をとげるために、りっぱな人物の登場する本をよませることが、どれほど大切であるかがわかります。あなたは親として、子どもの心をゆたかにする本をよませるよう、じゅうぶん心がけているでしょうか。

教養

連載随筆　炉辺詩語

リルケ遠望(2)

森　雅生

私はあなたを私にあてがっていた　私は見たのだ
あなたが私で赤く染まったのを
私たちに何があったのか
誰にそれが語れよう　私たちは
取り返していたのだ
それをする閑暇(ひま)がなかったすべての事を　私は飛び越えてきた
青春の　すべての衝動のなかで
不思議な成熟をとげ
そしてあなたは　愛するひとよ
私の心のうえに
何かある野生の幼年をひろげていた

この詩はリルケが、離別した妻ルウ・アンドレアス・サロメに、ずっと後になって捧げた作品の一部であるが、この数行の中にも、リルケのルウ・サロメに対する思慕の深さと、過去のかかわりが伺えよう。

ルウ・アンドレアス・サロメは彫刻家のオーギュスト・ロダンとともに、リルケの芸術に決定的な影響を及ぼしただ一人の女性である。ルウ・サロメは帝政ロシアの将軍の娘で、十九歳のとき、ヘンドリック・ギロートという牧師に教育され、キルケゴール、ルソーからショーペンハウエルまで、ヨーロッパ文化遺産の大半を吸収したと言われ、ずばぬけた知性と美貌で多くの男性を引きつけていた。それがどんなものであったかは、交際した男性が、ワグナー、トルストイ、ブーバー、フロイト、ニーチェなど、一流の人物ばかりであることからも推察できる。

リルケがこのルウ・サロメを、作家のヴァッサーマンから紹介されたのは、一八九七年の五月、このときリルケは二十二歳、ルウ・サロメが三十六歳であった。青白い顔、くぼんだ目、口ひげとあごひげが、顔の輪郭を形づくっているというような、貧相なリルケは、どこから見ても、ルウ・サロメの欲心をかち取るような男ではなかった。しかしリルケは、なかなかの情熱家で、執拗にルウ・サロメにつきまとい、僅か数週間の間に、このルウ・サロメを妻にしたのであった。

ことばの技巧と、流麗なリズムだけのリルケの詩はルウ・サロメの知性には訴えなかった。ルウ・サロメは、あるときはともに聖書をひもとき、キリスト像の意味するものについて語りあい、あるときは夜ふけの庭にリルケを導き、花の名を教え、梢をわたる風や、せせらぎの音に耳を傾けることを教えるなど、助言と励ましを惜らなかった。

リルケもまた、そういうルウ・サロメにすがりつき、ときには反発しながら、必死になって自己の修練に努力した。そしてリルケのこの努力は、十年後の『新詩集』に、みごとな結実を見せることになるのである。

リルケの詩の実存主義的な思想は、第二次大戦後、ようやく明らかにされたが、私は、そういう思想を、リルケがルウ・サロメから受けついだのではないかと思っている。いまは手もとに資料が乏しく、それを証明する手だてがないが、ルウ・サロメは、ニーチェと深いかかわりを持った時期があり、ニーチェから、実存主義的な思想を学びとっていたということは、考えられないことではない。ニーチェールウ・サロメ―リルケという図式のなかに、実存主義思想の伝達を考えることは、空想に過ぎるのであろうか。

詩　銀木犀の花咲く小径

野田宇太郎
(東京在住・近代文学研究家)

そこら一面匂ひを撒きちらす
この一本の誉(おと)りのやうな花の木

秋の滅びへの季節が来て
せめてひとときの誇りのために生きてゐる
この一本の誉りのやうな匂ひの木
このひそかな小径を辿(たど)る人の眼を誘ひ
立ちどまれば
生命(せいめい)のみちのりを想ひ出させる
この一本の匂ふ花の木。

読書感想文募集

本誌読者のみなさんから「読書感想文」を募集いたします。

カトリック書やその他の宗教書にかぎらず、童話、紀行文、小説詩集、随筆など、人にもすすめたい本がありましたら、内容紹介と感想を四百字以内にまとめて、本編集部あてお送りください。

なお書名、著者のほか、ページ数、定価、発行所を明記してください。

聖母が人々に知られ愛されるようロザリオの月におすすめしたい本

☆再版 ルルドの出来事
志村　辰弥 著
¥230

聖母のみ名がより多くの人々に知られ、その御あわれみがますます賛えられることを願いつつルルドの出来事を誠実に伝えている。

☆イエズスのおかさん
脇田　晶子 著
¥380

マリアの生涯をわかりやすく書いた本として、多くの子どもたちに読まれ、したしまれている。ご両親もいっしょに読んでほしい本。小学二、三年生のため。

営業時間
平日　九時半～六時
日曜　第二ミサ後午前中
水曜　定休日

聖パウロ書院
大名町教会隣
西鉄グランド・ホテル前
(74) 4588

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ　吉川　東陽
福岡市中央区平尾四ツ角(山荘通)
電話　代表 (52) 0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額　五百万円
一、募金方法　一口五百円
一、送り先　本誌編集部（振替福岡四二九八一）

寄付者名（敬称略）
梅野スエノ　千円
松尾　トク　五百円
（大名町教会）
累計　十八万六千円

『聖書思想事典』を記念出版
十一月下旬発売

福岡大神学院では、創立二十五周年を記念して『聖書思想事典』を出版する。フランスで発行された「聖書神学語彙」（編集者レオン・デュープール）の翻訳で、同神学院の聖書学教授イエール神父が九年がかりで手がけたもの。印刷、製本、出版は三省堂。B五版、千八ページ、定価五千円。十一月下旬に全国で発売される。プロテスタント聖書学者からも絶賛のことばがよせられている。

―福岡大神学院創立記念に―
司祭養成こそ宣教する教会の最大の関心事

福岡サンスルピス大神学院（高木善行院長）は、来る十一月二十一日関係者多数を招いて、学院創立二十五周年記念式典をおこなう。司祭の養成は、主イエズス・キリストによる十二使徒の選定と養成は申すに及ばず、長い二千年の歴史のなかでもカトリック教会にとって、最大関心事の一つであった。福音の種子が持ち運ばれるすべての土地で、宣教師たちは何よりもまず、そこで司祭の育成に心がけた。

わが国でもすでに聖フランシスコ・ザベリオの来日と宣教の開始後ながくたたないうちに、日本人司祭の養成のために九州にも安土にもセミナリオ（神学校）が創設され、一六〇一年関ケ原の合戦の翌年にはセルケイラ司教が長崎で二人のイエズス会員を司祭に叙している。その後数年間にイエズス会員二十人以上、教区司祭七人、他に修道会所属のものが叙階されたことが記録されている。

鎖国が終って信教の自由のきざしが見え始めたころ、パリ外国宣教会の司祭たちがまず手がけたのも日本人司祭の養成であった。将来の司祭を志す少年たちが、密かに長崎からピナンに向け送られたのはこの時である。やがて長崎の公教神学校、そして東京に大神学校が設けられて、そこから多くの邦人司祭が巣立っていった。

福岡市サンスルピス大神学院校舎と聖堂（右）

スルピス会司祭来日

福岡教区では、昭和七年ブルトン司教が九州の諸教区長の同意のもとに、カナダからスルピス会司祭の来日を要請した。スルピス会というのは、司祭養成に関するトレント公会議の決議を実施にうつすため、十七世紀中ごろフランスで創立された会で（修道会ではない）、教区ではたらく将来の司祭の養成に専念する。福岡からの願いに応じて最初に日本の土をふんだスルピス会員は、レージェとブレボの両神父。

やがてオーブリ、ツルデル、そしてロビヤール神父らも来日。十一年に大牟田市に最初の神学校が、さらに十三年に布教聖省の認可のもとに福岡市に哲学科神学校が開校。ここで最初に学んだ当時の神学生のなかに牧山藤房神父や糸永武男神父らがいた。レージェー神父は十四年カナダの新しい任務につくため帰国、のちにモントリオール大司教、枢機卿にあげられた。十八年十二月太平洋戦争たけなわのころ、神学生全員が召集や徴集をうけて学校を出たので、神学校は閉鎖の止むなきにいたった。

二十年八月終戦、そして早くも十月には兵役にあった神学生が元気に神学校に姿をあらわし、平田ロビヤール神父らに温かくむかえられた。再開された神学校は浄水通の現在の小神学校であった。戦後カトリック教会の前途は明るく九州地区の司教団は、司祭の養成をスルピス会に委ねることとし、昭和二十三年福岡サンスルピス大神学院の創設が、ローマ聖座から認可された。同年十一月に市の西南部、油山に近く校地を購入、二十六年三月校舎完成。こうして二十年来の夢は見事に実現した。

召命減少の問題

福岡大神学院は高等学校課程終了の学力をもつものに入学を認めて、まずラテン科二年、つぎに哲学科二年、さらに神学科四年、計八年間の研究と修業の期間を経ることになっている。今年四月現在の学生数はラテン科二十人、哲学科十一人、神学科十四人であった。長崎、福岡、大分、鹿児島各教区のほか大阪、名古屋、広島の諸教区と聖パウロ会から数人ずつ学生が送られている。

いま教会全体の大きな悩みの種になっているのは、司祭として生涯をささげようという若者の数が急速に減少していることである。それは日本だけの現象でなく欧米各国でもさらに一層深刻な問題となっているが、同胞への宣教に多くの働き手を必要としているわが国では、召命の増加のためには教会当局や神学校側だけでなく、全信者が自分たちの死活の問題として真剣に取組まねばならない。司祭は上からではなく、信者の家庭から芽生えてくるものであり、家庭こそ「神学校以前の神学校」である。

福岡市内局番変更

来る11月23日（勤労感謝の日）から、福岡市の2ケタの市内局番が3ケタの市内局番に変更される。したがって、現在の2ケタの局番の末尾に1をつける。なお司教館事務所に 52―5589 の電話が新設されました。

りぐめ会教
泰光ヶ丘（聖母の汚れなき御心）教会
福岡市博多区光ヶ丘町

去る十月十四日、小教区創立三十周年を祝った光ケ丘教会は、福岡市の南端、西鉄急行電車雑餉隈（ざっしょのくま）駅と春日原駅の中間にある。この日教会あげてのお祝いには、聖母献身会のもと日本管区長ギル神父（ニューヨーク市在住）や別府・光の園門菊園の長田シゲさんらも参加して、古くからの信徒らと旧友を温めた。

ハー神父

この長田さんがはじめた光の園愛児園保育所と道一つへだてて、聖母献身会のマックローリン神父が仮教会と司祭館を建て、那珂町小教区として発足したのは昭和二十八年九月。当時の神父と信者の交わりはまったく家族的で、七輪でパンを焼いてミサ後の話し合いをするという有様だったという。

この親睦のふんいきは、二十年後の今日、信徒人口が四百五十人になっても失われていない。第五代主任のハー神父（四十七歳）は創立間もないころにも主任をつとめたことがあり、もうすっかり信者たちの心にとけこんでいる。『うちの神父さんは、誰とでも気軽につき合う。頼まれたら何でもする、決しておごった顔を見せないですよ』と神父礼賛をくり返えすのは、もう十二年以上も伝道士の仕事をしている角田景次郎さん。

そういう緊密な結びつき、神父と信者の思いやりがあったからこそ、創立以来の念願であった本教会の建設も、昭和四十三年六月に成しとげることができた。アメリカからの寄付も相当にあったが、教会あげての汗のにじむ努力が実ったものだという。

いまこの小教区に属するのは南福岡地区、大野城市、春日市の全域で、人口十万人。福岡の中心とは交通の便がよいので、転入者は年々増加の一方をたどる。乙金、南ケ丘、弥永と文字通り団地群がつづく。当然若い家族が多いが、転出入がはげしいのも特徴。こんな土地柄でどのように布教を展開してゆくかが、光ケ丘教会の課題の一つ。

レジオは昨年十一月にすでに八百回集会をひらき、ビンセンシオはまだ新しいが、十数人のメンバーで着実に動いている。最近は共助組合も発足、経済上の相互援助で愛の実践に乗り出す。婦人会はメンバーも強力で全教会活動の心臓の役割をはたしている。

この教会で目を引くもう一つのことは、教会の表面に立つのが中年層よりも青年層だという点。じっさいには四十歳代からそれ以上が大部を占めるのだが、責任を負うのは二十～三十歳代の人々。若年寄は顧問にまわってみんなを支持する。そのせいか年間行事も青年らしいプログラムのものが多い。春は壮青年会員のソフトボール大会。夏は子どものサマースクール。冬は町内の子どものパーティなど。去る十月七日には地域社会に貢献したとの理由で、地元の自治連合会から教会に表彰状がおくられた。これから十年、二十年先き、光ケ丘教会がどう地域に生きる教会になれるか、それが楽しみだ。

11月のこよみ

1日（木）諸聖人祭（この日または次の主日に）
神を父と仰ぎ、キリストによって結ばれた信仰家族のお祝い。この世を去った人も、生存中の人もみな大きな共同体として神を賛美する。

2日（金）死者の日
すべての死者のため、またとくに身近かな死者の永遠の安息を祈る。

4日（日）年間第31主日
人間のすることに、光と香りをそえるのは愛である。筋のとおった行為であっても、輝きと暖かみのないものがある。自動販売機に似ている。心をこめて、力をつくして愛を注ぐことが力説される。愛は神のめぐみである。

福岡納骨堂祝別・落成式（午後2時）

6日（火）邦人教区司祭集会

11日（日）年間第32主日
キリストは貧しい女の小さな献金を賞賛なさる。かな女は帝王に匹敵する心のゆたかさをもっていたのである。小さな行為を偉大なものに変えるのが愛である

天草殉教祭（ミサ正午、キャンドル行列六時）

18日（日）年間第33主日
「日本沈没」という大惨事も起りうるそうであるが、キリストが宇宙と世界の破滅について語られたのは、その意味ではない。自分の内の古い世界と秩序をこわして、神の準備された永遠の国に移ることを勧められたのだ。

21日（水）聖マリアの奉献

福岡大神学院創立二十五周年記念式典

23日（日）勤労感謝の日

25日（日）王であるキリストの祭日
キリストの死と復活によって新しく生れた国は「神の国」とよばれる。私たちはみなこの国の民である。キリストの愛の憲法に従って生きるのが、その最大の特徴である。

佐賀地区青年信徒大会（九時ミサ）

事務用機器　文具・紙
放送用機器

福岡市南区大楠二丁目13番21号

有限会社 シオタ事務機

(52) 5327・(53) 4905

スチール製品　デスク・ロッカー・黒板

昭和49年度

泰星高等学校生徒募集要項

泰星高等学校は、福岡カトリック司教区が経営する男子私立学校です。学校法人泰星学園の理事長は、平田三郎司教で、言うまでもなくカトリック教育方針にもとづき、知識と人格の両面の育成に力を注ぎます。カトリック信者の家庭の子弟のためには最適の学校です。寮の設備もあります。

募集人員　普通科　200名
願書受付　昭和49年2月1日～7日まで（午前9時―午後5時）
試験期日・科目　昭和49年2月8日（金）、英語、国語、数学
試験場　福岡市中央区小笹4丁目228番地　泰星高校内

泰星高校は、昭和49年1月完成をめざして、校舎と体育館を上記の新校地に建設中です。市立動物園の西側入口に近く、教育環境としてはこの上なくすばらしい所です。

泰星高等学校長　山頭原太郎 神父
福岡市中央区平尾5丁目　TEL　531-0838～9

問われる布教の今日的意義

バチカン改革の波意識せよ

信徒布教研修会とその問題点

福岡地区信徒協、レジオ・マリエ福岡セナートス、クルシリヨ事務局主催の、『第二回信徒布教研修会』は、九月十四日夜八時から十六日午後四時まで、福岡雙葉学園においてひらかれました。参加したのは神父、修道女、信者あわせて七十人で、まずまずの成果といってよいでしょう。

最近はこうした研修会が全国的にふえてきていますが、かならずしも、そのいずれもが成功を納めているとはいい難いように思われます。そこでこん回は、福岡の研修会、その第一回と第二回の経過をふり返り、参加した人たちの意見を聞きながら、研修会の在り方について考えてみたいと思います。

第一回の信徒布教研修会

第一回の『信徒布教研修会』は昨年の九月、二十二日から二十四日まで、福岡市老司の海星女子学院に司祭一四、修道女一八、一般信者八八、計一二〇人が集まってひらかれました。この中には島根県松江教会のアルバレス神父のほか、山口県高千帆教会、鹿児島県ザビエル教会、長崎教区の司祭、信者が含まれていて、各地の教会で、いかに『布教』についての関心が高まっているかを、うかがうことができました。

第一回の研修会は、予想をうわ回った成功を納めました。十一月十一日付の本紙は『ムンムンする熱気が会場にみなぎり、この人たちの布教に対する真剣な姿勢がうかがわれた』と集まりのもようを伝え、参会者からも、『真剣な生き方と考えを知ることができ、参加してよかったと思います』『家庭の婦人と青年が集まったことをすばらしいと思いました。よかったのは残っていた古い考え方が、この研修会で新しい考え方に変わったことです。こんごとも熱意と計画を実現してほしいと思います』という、喜びの声が聞かれました。

この研修会を計画し、推進したのは、大名町教会のレジオ会員たちでした。一月の集まりで、年間の行事を考え、話しあっているうちに、『信徒布教研修会』の計画が浮びあがってきたといいます。事務局Aさんはそのときの事情を、つぎのように話してくれました。

『それまでのレジオの仕事は、神父と教会の手伝いでしかありませんでした。私たちは、仕事をとおしてレジオの一致をはかり、仕事の幅を広げるとともに、消極的といわれている一般信者の姿勢を、外に向けることができればと思い、信徒布教研修会に取り組みました』

この人たちが研修会の準備を進めながら、いちばん気にしたことは、『その場かぎりの研修会にしてはならない。この中から、何でもいいから、実践活動を生みださなければならない』ということでした。実際には、実践活動らしいものは生まれませんでしたが、それは研修会を盛りあげ、のちに『青年連盟』という、青年信徒の結束を生みだす遠因ともなりました。

霊的読書からヒント　第二回信徒布教研修会

第一回の研修会が終わると、新たに『信徒布教研修会事務局』が発足しました。研修会の業務一切はこの事務局に引き継がれ、第二回信徒布教研修会の準備は、この事務局の集まりの中で進められることになりました。

会議を繰り返す中に、計画が熟してきたのは春ごろです。ロンバルディ神父の『公会議後の諸問題』ネメシェギ神父の『日まわり』など、霊的読書の中にヒントを求め、講師のリバス神父にも足を運んでもらい、『われらみな兄弟』というテーマにたどりつきました。

二回めということで、一回のときほどの気おいもなく、準備はスムーズに進んでゆきましたが、思いもかけない障害が出てきました。

これは書きたいことではありませんが、こんごのことを考えるうえからも、ぜひ書いておかねばならないことで、それは、幾人かの話を総合すると、およそつぎのようなことです。

事務局員の一人Bさんが、ある時期から急に非協力的になり、開会の直前、突然事務局を止めたいと申し出てきました。それがある神父のさしがねであることが解ったのは、Bさんのいうことが、神父の口ぶりそのままで、事務局の集まりの日になると、神父が教会にやってきて、Bさんとひそひそと話しを交し、そのありさまを目撃した人が出てきたからでした。また神父が『研修会なんかつぶしてやる』と放言するのを、実際に耳にした人もあるというのです。

こういう話しの実体をつかむことは容易ではありません。またこれをもって、ただちに二人を誹謗（ひぼう）しようという気もありませんが、もしこの話しが事実であるとすれば、Bさんがしたことは、軽蔑に価する背信行為であり、神父のやり方はまことに卑劣、陰険といわねばなりません。

この問題で事務局に動揺があり、責任者が心を労したことは事実です。しかし研修会は、九月十四日幕をあけ、十六日には何とか無事に終了しました。参加した人は、一回に比べるとはるかに少なく、盛りあがりにも乏しかったようですが、Aさんは、

『昨年ほどの盛りあがりはみられませんでしたが、地味だっただけに、かえって内容はあったのではないでしょうか』といい、ただ一人参加したC神父も、

『三日間つづけての研修会は、全国でも珍らしいことです。かなりの盛りあがりがあり、参会者も熱心にやりました。いちおう成功とみてよいのではないでしょうか』といっていました。

新しい布教の道をさぐって熱心な討議

参会者の声に聞く

第一回の研修会をふり返り、第二回の経過をざっとたどってみましたが、当事者たちの熱意と心労は、この中にも明らかに見てとれると思います。では参加した人たちの反応はどうだったでしょうか、幾人かの人に、感想の声を聞いてみましょう。

『当事者の熱心さと、人間の関係を真剣に考えている姿に心を打たれました』シスター・D

『一回めは、その場での感じはよかったのですが、解りにくい点もありました。こん回は内容が充実していて、盛りあがりの中に、実行への志向が感じられました』信者Eさん・女性

『自分の信仰に、温室的な要素があったことを発見しました。研修会を終えて、結婚後のこれからも、布教活動に参加できる自信がつきました』信徒Fさん・男性

『人を一般的に見ないで、この人と、個別的に見る姿勢が出てきたことは、非常によかったと思っています』C神父

これは参会者のだれもが感じた、そしていうわりのない声に違いありません。それはそれでよいのだと思いますが、しかしこの人たちの声が、布教の具体的な問題に解れないのはなぜでしょうか。布教を研修し、その感想を聞かれたとき、答にもどる布教すべきかが出てくるのは当然のことで、それが出てこないということは、参会者の姿勢の甘さ、あるいは、研修会の微温的な性格に起因している、ということができるのではないでしょうか。

感想的なディスカッション

信徒布教研修会は、CLCの方式にもとづいています。よその研修会は知りませんから、福岡の研修会にかぎっていうと。開催に先だって、事務局から参会者に、目的、研究の要点、ディスカッションのヒントを印刷した資料が送りとどけられます。研修会ではその資料をもとに、ディスカッションと全体会議が展開されます。

参加した人はすでに経験ずみですが、このディスカッションは、ヒントの出し方に論理性が欠けていますので、いきおい、その場の思いつきによる、感想的な会話に堕してゆきます。少しくどくなりますが、実例について見てみましょう。

資料のディスカッションBを見ると、『現代世界が要求している一致への動きについて』という題目があって、そのあとにつぎのような質問が掲げられています。

1、私たちの住む地域社会で何らかの目的のために一致しようとする動きがありますか。それはどのような意図による一致ですか。

2、公害などの問題の中で自らを守り、また利益を目ざすための一致の動きが見られます。これに対して兄弟の困難や苦しみを同時に自分のこととして考え、助け合おうとするための一致の動きを体験したことがありますか。

3、圧制や洗脳による一致など神不在の共同体があります。これらに対応し、影響を与えるためには、キリスト共同体が要求されます。あなたは世界中に散在する数多い兄弟の一人として生きている意識がありますか。（4以下省略）

ここには『現代世界が要求している一致について』に、直接結び付くものは何もありません。さらに『一致』という言葉は共通していても、内容はバラバラで、論理的なつながりはどこにも認めることができません。ディスカッションが、感想的になる原因はそこにあるので、こういう論理性の欠落したディスカッションの中から、事務局の人たちが期待している、実践活動が生まれるとは、まったく考えられません。なぜかなら、行動は論理をとおしてしか生まれないからです。

社会に目をひらいた布教を

布教研修会の性格は、『布教』をどう考えるかによって決まります。

この研修会では、未信者の一人一人に話しかけるということが、基本になっているように思われます。それは方法としては間違ってはいません。ある意味ではオーソドックスでさえありましょう。だが現代という時点に立って考えるとき、果して正しいといい切ってしまうことができるでしょうか。信者のGさんはこういいます。

『私たちは、私たちがいま、第二バチカン公会議による、改革の波の中にいることを意識しなければなりません。布教もその公会議の改革を踏まえなければ、今日の布教としての意味が、失なわれるのではないでしょうか』公会議の大きなテーマの一つは、『現代社会に目をひらけ』ということです。昭和四十三年の八月に発行された、『公会議解説文書』第一巻の、『世界に開かれた教会』は、冒頭の序文に、つぎのように記しています。

『最後にさらにもう一つ教会現代化の理由がある。信者たちはかれらの信仰が現代社会の諸問題と密接に触れ合い、深い関係があることを見てとり、それらの問題を人間の本性や人生の目的に関する教会の教えに沿って解決するように、かれらの力を発揮すべきなのである。そうでなければキリスト教徒はけっして社会活動の分野に大きな影響を与えることはできないであろう』

ここにいわれているのは、信者が現代社会と自分のかかわりをよく認識して、社会の中で起きているいろいろな問題を、人間性や、人間の生き方についての、教会の教えに照らして解決せよ。そうでなければ、キリスト教徒は社会活動の分野に影響を与え、その立ち場を主張することはできない、ということでしょう。

布教がこの考え方を踏まえ、社会に関心を向けなければならないのは当然で、そこに布教の新しさ布教の今日的な意義があると考えられます。単に、一人一人に話しかけるという布教の仕方は、従来の布教の考え方を一歩も出ていません。それを盛んにするかどうかも、信者が動くか動かないかというだけの問題で、布教の今日的な考え方には、まったくかかわりのないことです。一人一人に話しかけるという布教は、むしろ、信者の目を、社会から外らすことになりはしないでしょうか。

そうでなくても、いま力トリックの中で、いちばん要求されているのは、社会に目をひらいた布教です。研修会が、そこに目をひらかないなら、今日の布教研修会としての意味はありません。ほかの宗教でやっている、信徒を作ろうというだけの、エゴイスチックな研修会と、何らの違いもないということになりましょう。

研修会の方法が、一つであってよいということはありません。今日の研修会は、いかに信者の目を社会に向け、いかに積極的な布教を展開するかという見地に立ってもっと多種多様な試みがなされてよいと思います。

（広報室）

科目　調理師養成科、料理科、被服科
趣味科、家政科
学校法人
福岡家政学院
院長　渡辺ハナヨ
福岡市中央区天神三丁目
TEL 76—6155（代）

栄養のバランス
牛肉・かしわ・豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
TEL 52・4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ㊲ 2673

ヴィノ・デ・ミサ
（ミサ用ワイン）
720mℓ入 1,000円
ミサ用のぶどう酒ですが、家庭用・贈答用としても、みなさまに好評をいただいております。
取扱店
大楠酒店
福岡市南区大楠二丁目4番8号
電53・4718
ミカエル青木実（大楠教会）

紳士の気品と誇りを創る
お誂え洋服
紳士服の
ニューライン　糸永
電話 福岡 52・0820
ペトロ　糸永秀雄
福岡市中央区小笹四丁目4番
2636号

辞書は三省堂

さかんな秋の芸術活動

人間の実存を問いかける

横尾龍彦さんの個展

カトリック画家として知られる横尾龍彦さんが、十月十日から二十日まで、福岡市博多区下川端町の、ギャラリー・ふくだで個展をひらいた。福岡での個展は、一昨年のフォルム画廊につづいてこれが三回めで、世ふつのイメージを、グワッシュと水彩絵具で幻想的に描いた特異な作品が、観客の注目を集めていた。画廊の白谷さんは不在の横尾さんに代って『横尾先生は、人間の実存を絵画によって問いかけておられるのではないでしょうか』と話していた。

横尾さんは東京芸大出身で、昭和二十九年から三十六年にかけて二科、新制作、日本版画協会、日本版画院の展覧会に出品、版画院では二回受賞している。横尾さんの評価は、その特異な作風で最近めきめき高まってきているが、数少ないカトリック芸術家として、最も大切にしたい一人。

なお希望者には、展覧会が終ったあとも見せてくれるそうだ。

横尾龍彦さん

会場に飾られた作品は『深淵の門』『白い馬』など二十三点。中

華麗な色彩にあふれた雙葉美術展

雙葉学園が玉屋で美術展

具象からサイケ調まで一堂に

福岡雙葉学園の創立四十周年を記念する美術展が、十月二十日から二十三日まで、福岡市東中洲の玉屋デパート六階でひらかれた。

会場に展示した作品は小学生一〇〇点、中高校生二五〇点。具象から抽象、サイケ調まで、現代の小中高校生の傾向を一堂に集めた感じで、華麗な色採が押しかける観客を驚かし、とくに割り箸で描いた小学生のペン画には人の足が集っていた。

この指導に当った八久保皐爾先生（小学生担当）、滝口文喜先生（中高生担当）は、展覧会についてつぎのように話していた。

『学園として公開の会場で展覧会をするのははじめてです。作品は授業中に描いたものばかりで、この展覧会のためにとくに制作したものはありません。最近は生徒の描く対象も巾が広くなり、公害（高校生）、自然と人間（中三）のようなテーマも、抵抗なくこなせるようになっています。学園の画のレベルは相当に高く、昨年は全日本学生美術展に一〇〇人が出品六〇人が受賞、また学校も日本学生美術賞を獲得しました』

二科展で特選

久留米の津田教諭

第五十八回二科展で、久留米信愛女学院の津田洋子教諭（雅号滝洋子）の作品『堰』が洋画部門で特選を受けた。津田さんは昭和三年生まれ、福岡女子大卒、高校で美術と数学を教えている。「こんどの作品は八女郡星野村で川の流れに人生の移りかわりを感じながら写生しました」と語っている。久留米市梅満町在住。

信徒点描

結婚生活の確立を

福岡結婚講座事務長　井上輝正さん

これから結婚しようとしている人、また結婚した人たちに、幸福な家庭を築いてもらおうと始められた『結婚講座』は、十月十三日その第五回めの講座を終了した。

この講座の司会を勤めたのは、県立福岡農業高校で英語を教えている井上輝正さん、四十四歳。

井上さんは東京の生まれ。昭和二十七年、中央大学法学部を卒業したのち、日本交通株式会社で働いていたが、たまたま、熊本県玉名郡長洲町で知りあった、現夫人の清子さんと東京で結婚、信者の夫人にすすめられてカトリックに入信した。九州へ来たのは、結婚の明くる年、三十四年で、『東京は住みにくい』という、夫人の言葉に動かされてのことだった。

『結婚講座はこれまで百人以上の人が参加し、その中には多数の未信者が交っています。この人たちにカトリックの考え方を伝え、信仰の賜によって、どのように家庭を築くかということを教えれば、それだけで、もう十分に布教の役目を果すことになると思います』

この人が結婚講座にかかわりを持ったのは昭和四十五年、責任者のライル神父に選ばれてスタッフの一人に加った。第二回の講座では、『夫として、父として』というテーマを与えられた。はじめてのことで、参加者の数も、どんな人たちが来るのかもわからず、不安を押さえることができなかったという。

『週刊誌に見られるように、こん日は性道徳の乱れた時代で、若い人たちには、結婚の考え方にもムード的な要素が多く、結婚の意味や価値を、真剣に考えようとはしません。そこから性道徳の乱れも生じてくるわけですが、この人たちに健全な知識を与え、結婚生活を確立させることができれば、社会的にも大きな貢献となるのではないでしょうか』

そういうところに、この講座の特徴があり、テレビ、ラジオが、ユニークな講座としていち早く紹介し、朝日新聞が大きく扱った原因でもあろう。参加した人たちは、はじめはいやいやの感じで出てくるが、終りには『参加してよかった』と喜び、中には新婚旅行の帰りに、わざわざ、事務局を訪ねてくる人もあるそうだ。

井上さんはまた、結婚講座センターの事務局長でもある。昨年の七月は、スタッフの協力をえて、『結婚講座の手引』というパンフレットを作った。これは全国の結婚講座でも初めての試みで、『布教』『東星ニュース』などで紹介されると、沖縄、北海道をはじめ、全国各地から申し込みが殺到したという。このへんに、井上さんらしい、積極的な姿勢がうかがえるようだ。

『信徒使徒職には問題が沢山あり、私なりに考えていることもあります。しかしいまのところ結婚講座一本で行くつもりです。講座については、もっと内容を充実させたいし、講師の数も殖やしたいと考えていますが、これには各小教区の、積極的な協力を必要とします』

結婚講座が社会に与えている影響には、たしかに大きなものがあり、またある神父のように『結婚講座こそ、ほんとの使徒職ですよ』ということもできるだろう。結婚講座のこんごの発展を祈り、あわせて井上さんの活躍に期待したい。

日本歌曲の夕べ

熊本の新圭子さん

郷土の熊本市を中心に、質の高い音楽活動をつづけているソプラノの新（あたらし）圭子さんは、十月に熊本と長崎でリサイタル「日本歌曲の夕べ」をひらいて、大好評であった。熊本では郵便貯金会館で、熊本日日新聞社と熊本放送後援、長崎ではNBCビデオホールで、長崎新聞社とNBC放送後援。ピアノ伴奏は川口耕平氏。うたったのは六つの子供の歌（中田喜直作曲）、笛吹き女（露木次男作曲）、くちなし（高田三郎作曲）その他数曲。

追悼演奏会

広島エリザベト音大

広島エリザベト音楽大学では、前理事長エルネスト・ゴーセンス神父の追悼演奏会（一行百五十人）をつぎのとおりひらく。

11月13日（火）戸畑明治学園ホール。11月15日（木）熊本県立図書館ホール。いずれも午後六時半、入場料、一般六百円、学生四百円。プログラムは、ラベル作曲、なき王女のためのパヴァヌ、ブラッヒャー作曲、パガニーニの主題によるオーケストラのための変奏曲、ファリャ作曲、ピアノ協奏曲、フォーレ作曲、レクイエム。

復興援助を訴える

南ベトナムのミン神父

戦火が止んで、国土の復興に全力を集注している南ベトナムの状況については、東京の白柳誠一大司教が現地視察をおこない、その報告がカトリック新聞で報道されたが、日本カトリック教会に積極的に、時宜に適した援助を要請するため、南ベトナム司教協議会の事務局長ミン神父がこのほど来日した。同神父は全国で講演会やテレビ会見で広く協力を求めるが、福岡教区では十一月一日久留米信愛女学院をはじめ、熊本、福岡、北九州で神父を招いて講演会がひらかれた。

講演と座談会

森田宗一氏招いて

森田宗一氏（東京家裁判事）は十月八日午前十時から午後三時まで、福岡県遠賀郡岡垣町の「子どもを守る母親の会」のメンバー二十人に子どものしつけについて座談会をもった。そのなかで森田氏は「子どもの要求をそのままにとり上げる親は、自信を失った親に多い。物質的にゆたかになりすぎている子どもに〝おあづけ〟の味を教える必要がある」と強調した。岡垣町は自衛隊の射撃場のあるところ、その撤去のために同町の母親たちが教育的な見地から立ち上っている。

森田氏は同夜七時からも北九州市の黒崎教会で、子どもをもつ親たちに「現代社会での親と子の問題」について話し、親と子の気持がカミ合わなくなっているのが現代の家庭の特徴であり、上手な対話によって融合をはかる努力がいるとのべた。

婦人会合同で一泊黙想会

福岡市内の大名町、浄水通、高宮、茶山の四教会の婦人たち四十人は、十月九日と十日の両日、黙想の家で合同の黙想会をもった。テーマは「聖書における婦人たち」。指導はウォード神父。家庭をはなれゆっくり一泊して静かな祈りの時間をもてたことは、ほとんどの参加者にとってはじめての経験で、「ほんとうに信仰の目が洗われる思いでした」と語っていた。

新田原教会で秋の運動会

新田原教会（主任 山川辰幸神父）の秋の運動会は、十月七日ミサ後から三時半まで、教会前広場に全信者を集めておこなわれた。四地区にわかれての対抗競技、新田原病院のシスター、職員による踊りには大喝采があがり、得点で最高点をあげた徳永地区が優勝旗を獲得した。

移住献金

（9月9日）

町	5,305円	港	2,750
通	9,901	倉	21,460
丘	6,000	川	16,829
新	5,000	畑	5,600
島		松	7,000
塚	3,000	神	14,000
山	4,319	崎	5,000
崎		寺	
宮	3,440	城	5,500
楠	2,738	巻	1,500
島		方	2,000
賀	5,552	塚	1,500
市	13,000	川	10,400
米	3,030	橋	16,818
田	1,550	原	15,000
野	25,000	取	350
村	5,920	尾	6,600
郷	2,885	吉	5,000
郡	3,586	渡	9,432
子	4,000	軍	10,000
島		山	2,485
賀	5,000	俣	3,250
津	2,900	江	6,200
里		津	30,200
栖	1,420	崎	2,340
雄	1,380	名	5,000
島	1,000	池	5,000
久	6,265	代	5,000
司		八	
門		合計	333,405
名水ケ野		田	
大浄光西美吉茶箱高大東古二久大吉今本小呼馬佐唐伊鳥武鹿多門		日留牟田	
大浄光西美吉茶箱高大東古二久大吉今本小呼馬佐唐伊鳥武鹿多門		渡万	

読んじゃおう！ 見ちゃおう！ 楽しもう！
良書月刊誌
家庭の友
100円
中央出版社
〒160 東京都新宿区四谷1の2
TEL 03(357)6401

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の 河野電気
ミカエル 河野三千夫
福岡市田 1162—29
TEL 87—3099

教養

プロゲリア病

山内清海

ある日曜日の午後、東京から旧友の訪問をうけた。相変らず忙しい人で、「二時間しか時間がない」というかれを、砂漠のような東京ではとても見られない、野山に美しく紅葉した秋景色を見せようと、油山へのドライブに誘った。

日本は北から南に細長くのびている関係もあって、気候風土の変化が微妙であるが、なかでも日本の秋は、移動性高気圧の影響で、空気は乾燥し、澄みきったさわやかな秋晴れをもたらす。

日曜であることもあって、秋たけなわの油山には、この心地よい秋晴れに誘われてか、登山姿の若人の群、家族ぐるみの楽しそうなグループなど多く、紅葉のもとでの酒宴を楽しむ人もいた。いずれも日本の秋ならではの眺めである。

このすばらしい秋景色を観賞しながら交わすよもやま話のなかでかれは、プロゲリア病という奇妙な病気についてかなり詳細に話してくれた。

今から約二十年前、東部カナダで十一才の子供が老衰のために死亡した、というのがことのはじまりであるらしい。つまりこの少年は誕生からわずか十一年間で、九十才の老人の特性をいろいろの面でしめして死んだのである。プロゲリア病と呼ばれるこの奇妙な病気は、老衰、動脈硬化、ハゲ、しわだらけのたるんだ皮膚などをその徴候とするまれな病気なのだそうである。要するにこの少年は、普通の人に九十年間の長い一生に起こる種々の生物学的変化をわずか十一年間で経験し、死んだときには老人だったというわけである。

私はプロゲリア病について聞きながら、この病気が、極端なまでの不調和と矛盾を、その特徴とする現代社会を象徴するように思えてならなかった。

われわれは人類史上かつてなかったほどの富と経済力に恵まれているかと思えば、他方ではそれに劣らぬ多くの人びとが、飢えと欠乏に苦しめられている。

人間の権利が主張され、最高限に認められているかと思えば、相続く戦争と内乱はもちろん、ごく最近では東アフリカのポルトガル領モザンビークでの、ポルトガル軍による住民虐殺にみられるような、弱肉強食的生き方がまかりとおり、生命権さえも否定されている。

人間の自由を強調する一方では、また新しい型の社会的・心理的奴隷化が起こっている。

さらに現代人は宇宙旅行、原子エネルギー開発、通信技術の発達をはじめ、臓器移植手術にその片鱗がみられるような、長足の進歩をとげた現代科学を過信し、人間の偉大さに酔いしれ、自己礼拝の衝動にかられている反面、人間相互間の不信と断絶、価値観の相対性、利己主義と絶望感などを伴なうニヒリズム的思想に蝕ばまれている。

「人間性」とか、「人間らしい生き方」を主張するまではよいが、ついにはニーチェとともに神の死を宣言し、サルトルとともに神を最大の邪魔ものとして排斥し、ついには「神不在の社会」をつくりあげてしまった。

このような矛盾と不調和の、プロゲリア病に苦しむ社会に生きていながら、教養ある人、豊かな社会的経験者をも含めて、多くの現代人は、その事実を否定したり、無頓着であったりする。

「これを無視していればいつかは過ぎ去るだろう」と考え、あたかも外交官が駐在国で治外法権を求めているように「隔離された平和」を求め、その圏外にいることを欲して、もっぱら逃避的生き方に甘んじ、自己の殻に閉じ込もろうとする人も少なくないし、「仕方ないことだ」と、なかば断念的に、しかし懸命に自分自身にいいきかせ、自らを慰めることで自己満足する人もいる。

しかしキリスト者は、これほど重大な問題に無知であったり、または無関心であってはならない。キリスト者こそ現代を毒するこの病源をつきとめ、その撲滅と、正しい社会建設に立ちあがらなければならない。

デルフォイのアポロ神殿には、「汝自身を知れ」という意味のことばがかかげられていたとか。永遠者なる神の現臨の場所である神殿で、「汝は一体何者なのか」、「神ならぬわが身を知れ」という意味だろうが、これこそプロゲリア病に悩み苦しむ現代人への貴重な勧告ではなかろうか。

数日前に受け取った例の友人からの手紙には、「プロゲリア病の特効薬は発見できましたか」と、皮肉とも冗談とも、また真面目にもとれることばが記されていた。

（やまうち・きよみ福岡大神学院教授）

連載随筆　炉辺詩語

リルケ　遠望 (2)
―リルケと私―

森　雅生

リルケを日本にはじめて紹介したのは森鷗外であった。明治四十二年、雑誌『太陽』に掲載された『家常茶飯』という戯曲がそうである。この戯曲はリルケのごく初期の作品で、まだドイツでも認められていなかったリルケに目をとめたのは、やはり鷗外の見識といってよかろう。

リルケの詩がまとまって本になったのは、昭和のはじめ茅野蕭々博士が訳出された『リルケ詩集』がはじめてではなかったろうか。私は小学校を卒えて間もなく、福岡日日新聞に掲載された笹沢美明という人の文章で、はじめてリルケの名を知り、この『リルケ詩集』を欲しいと思いながら、家人に許されなかったことをいまも覚えている。

リルケの影響を受けた詩人として、よく立原道造や伊藤静雄の名があげられるが、この人たちがリルケから学んだのは、その抒情的な一面に過ぎなかった。当時の日本には、リルケを抒情詩人とする理解が行きわたっていたのである。

私が思想的な詩人としてのリルケを知ったのは戦後で、ハイデガーの『乏しき時代の詩人』を読んでからである。この論文は存在論、あるいは存在史論の観点からリルケとヘルデルリンを論じたものであるが、ハイデガーは、私たちの生きているこの時代を神の不在の時代、神を見出しえない乏しい時代であるとして、『リルケがこの乏しき時代に果して詩人であるのか、彼の詩作は時代の乏しき時代に果して詩人であるのか、彼の詩作は時代の乏しさといかに関係するであろうか。それは深淵にどの程度まで深く到達しているのであろうか』と言っている。論文はこのあと、デリケートで周到な、存在論的、言語学的な解明に及ぶのであるが、そこにはハイデガーという哲学者と、リルケという詩人が、二つの軌道の接点で、激しく火花を散らすありさまを観取することができる。

私はこのとき、抒情詩人とのみ思っていたリルケが、ハイデガーのような哲学者の考察に堪えるものを持っていることを知って、尠からぬ驚きを感じたが、リルケについてはその後、実存主義の立場から論評した飜訳も出はじめ、思想的詩人としての評価も次第に定まりつつあるようである。

私はリルケの詩集を座右からはずしたことはない。だがそれほど傾倒している訳でもない。リルケを語ると、よく『君の詩にはリルケの匂いもしないではないか』と言われるが、リルケの詩をまねようという気もないのである。リルケは私のような平凡な人間には手もとどかない、多分一生かかっても学びおおせない詩人である。私はただ、混乱した現代の詩の中で、こつこつと自分の詩を書きつづけているので、尊敬する思想詩人として、またひとつの道標として遠望しているだけである。

（この稿終り）

詩

罪の構図

俣野　衛（匈奴の会同人）

凍ついた深夜　街は
石のように気息をひそめ　狂気の風が
足早に駆けぬけてゆく
ビルディングの墓標に
亡びの影がかさなり
倒れかかる建物の下で　煮ざめた鼠が
蹌踉と歩みを止める

歪つな空の縁を
失なわれた祈りの声が掠め
静止した時間の中に
獣は　ユダのように蹲る

腐臭の漂う闇の中で
悪の霊が牙をむき　獣は
錆びた声で
犯した罪を独白する

幽かに幻の十字架が軋み
カルワリヨの丘で
キリストの胸もとから
鮮血が　糸を引いて滴り落ちる

子どもの読書（中）

わたしの宗教教育 ⑥

ガイヤール

ゆたかな心を育てるために、読書は非常に役立つとわかっていますが、どんな本をえらんだらよいのかとなると、迷う親も少なくないと思います。こん回は何冊かの本を紹介することにしましょう。

(1)聖書にかんする本

低学年むき『子どもの聖書絵物語』ケネス・N・テイラー著、西満訳。一八四ページ、一、〇〇〇円。いのちのことば社発行。

左ページに絵、右ページに物語下段に聖書本文の引用箇所が示してある。ほかに親が子どもにする質問項目があり、それを用いて対話ができるようになっている。小学校に入る子どもに最適の贈りものになる。

『イエスさまのはなし』文・石森延男、絵・矢野滋子。七六ページ、四五〇円。女子パウロ会発行。

『イエスのおかあさま』脇田晶子著。一四五ページ、三八〇円。女子パウロ会発行。

一―三章は伝説によるマリアの幼年時代、四章以下は福音書によるマリアの生涯。さし絵入り。

高学年むき『原色聖書物語』サムエル・テリエン編、高崎毅、山川道子監修。全三巻、地図入り、三、六〇〇円。創元社発行。

『聖書物語』文・脇田晶子、絵・矢野滋子。全三巻。一、三〇〇円。女子パウロ会発行。

絵は白黒でぬり絵に利用できる。子ども向き聖書としては最高のでき、大人のためにもぜひ家庭で使っていただきたい本。聖地の写真がよい。

(2)聖人の伝記

聖人伝は読者が少ないせいか、最近ではほとんど見ることができない。とくに子どもむきの聖人伝は数が少ない。

『ひかりはいつまでも』脇田晶子著。二五〇円。女子パウロ会発行。

ペトロからマリア・ゴレッチまで、十人の聖人の簡潔な紹介。

グロリア文庫（二十五冊シリーズ）に、『パラの聖女』（幼きイエスの聖テレジア）や『フランシスコ』『高山右近』などがあるが、子どもむきとは言いがたい。

(3)道徳教育にかんする本

『のんのんのあさがお』藤田千津著、久保雅勇絵。四五〇円。

小学一、二年の女の子のため、心のやさしさを育てる話。

『やぎかいのもに』ヨハンナ・スピリ著、谷村まち子訳、小坂しげる絵。四五〇円。

良心に従って正直に行動する男の子の話。

『浦上の旅人たち』今西祐行著。二七二ページ、五八〇円。実業之日本社発行。

創作少年少女シリーズの一冊。長崎浦上のキリシタンの信仰と勇気と物語。野間文芸賞など多くの賞を獲得している。

現代っ子はマンガばかり見て、本を読まないとよく言われるが、誇張することは避けた方がよい。小学高学年のなかには、『創作童話』や『創作えばなし』などを、熱心によんでいる子どもが少なくない。以前に比べると、言語や偉人伝は少ないが、『カラー版子どもの伝記シリーズ』（ポプラ社）のなかで、たとえば『ヘレン・ケラー』（文・野村純三）はよくよまれている。巻末に親のための解説がつき、幼いヘレンが天地の造り主である神を、どのように教えられたかについて書かれている。きわめて示唆に富む話である。

私の本棚

北九州市若松区　宮崎恵子

「当用漢字物語」（上・下巻）

漢字というと、とかく我々は固苦しく考えがちである。その考えを捨て去り、おもしろく便利なものであるということを知る必要がある。そのためには、どうすればよいか、その解決策のひとつとして、この本を読まれることをおすすめする。漢字の誕生について、楽しく学ぶことができるし、短く要領よく説明してあるので、好きなところから読みはじめることができる。

ミサのおり、また福音の朗読のとき、漢字一字でさえ、まちがって読めば、異なった意味となってしまう。その点からも、漢字をもう少し重視して、読み誤まることのないようにしたいものである。小学校高学年でも十分読むことができる本である。

（西日本新聞社発行・上下巻ともに一三〇円）

今月おすすめしたい本

☆再版　ファチマの牧童　光明社　¥650

ファチマにおける、三人の子どもたちへの聖母のご出現は、世界の平和を告げるためのものでした。聖母の教えに忠実であろうと、けんめいに励んだ牧童たちの、祈りと犠牲にみちた魂に、感動する。

☆葬儀のしおり　ドンボスコ社　¥140

キリストのからだとして、互いに結ばれているわたしたちは再会の希望のうちに、なくなった兄弟たちを思い、祈ります。本書は、カトリックの葬儀について、くわしく説明してありますが、祈り文を、黙想に使うこともおすすめします。

聖パウロ書院
大名町教会隣
西鉄グランドホテル前
(74) 4588

内科・胃腸科・循環器科

吉川病院

院長ルカ　吉川東陽

福岡市中央区平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 (52) 0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額　五百万円
一、募金方法　一口五百円
一、送り先　本誌編集部（振替福岡四二九八一）

殉教公園にキャンドル行列

祖先をしのび平和祈願

恒例の「天草殉教祭」は十一月十一日本渡市の観光協会主催でおこなわれたが、同市大浜町のカトリック教会では正午から平田司教とデイキン、コア、オブライエン神父らの共同ミサがあり、地元ばじめ崎津、大江両教会から信徒多数も参列して、教えに殉じた祖先の信仰をしのんだ。また午後六時半からは名物のキャンドル行列があり、司教会から約五百人の信者、市民が十字架を先頭にろうそくを手に賛美歌を歌いながら市内目抜通りを行進し、殉教公園をへて千人塚前に到着、聖体降福式があって世界平和の祈願がささげられた。

司祭養成25周年を記念

創立者 レージェ枢機卿列席

福岡サンスルピス大神学院

福岡サンスルピス大神学院（福岡市西区神松寺）の創立二十五周年記念式典は、十一月二十一日聖マリアの奉献の祝日を期しておこなわれ、三百人ちかい内外の来賓・関係者が出席した。

当日は同神学院を指導するサンスルピス会（教区司祭の養成に専念する司祭の会、十七世紀中ごろフランスで創立された）の伝統的祝日で、同院を巣立った司祭らが「アルマ・マーテル＝母校」に里帰りして司祭職への献身を新たにする日でもある。このスルピス会から送られた二人の先駆者がはじめて日本の地をふんだ昭和八年から数えてことしは四十年目、この記念をもあわせての感謝ミサは、田口枢機卿（大阪大司教）、レージェ枢機卿（もとモントリオール大司教）はじめ司教、司祭ら七十五人の共同司式でささげられた。糸永・鹿児島司教は説教のなかで「司祭はまず福音の伝達者であり、その使命を果すため叙階のめぐみに信頼してキリストの愛を身をもって世の人々にあかししなければならない」とのべた。

ミサにつづいて記念式典にうつり、まず高木院長が、思い出としては美しいが幾多の困難にもまれてきたこの二十五年間、精神的に物質的に神学校を助けた多くの個人や団体に感謝を表明、またサンスルピス会のドーリス・カナダ管区長とブッショー総長は司祭養成に賭ける同会の決意と精神について考えを披瀝した。また田口枢機卿は日本司教団を代表して、里脇・長崎大司教は九州地区司教団を代表してそれぞれ同会の努力に敬意と感謝をあらわしたが、万場注目のレージェ枢機卿は四十年前におぼえた流暢（りゅうちょう）な日本語でつぎのようにあいさつした。

私は高木院長の招待を教皇に示し、その強いすすめを頂いて日本を訪問、この祝賀に列席した。聖パウロは種まく人は刈入れを考えずに働けと教えているが、四十年前の種まきが、予想だにしなかった大きな収穫をあげたのを目撃して驚いている。司祭なしに司教は何もできないし、また信者は秘跡の恩恵に与ることはできない。司祭こそは教会の中心である。その意味で司祭養成は教会にとって不可欠の事業である。この記念式典がここに在学中の神学生にとって召出しを再確認する機会ともなれば幸いである。

レージェ枢機卿は一九〇四年カナダ、ケベック州バレフィルド生まれ、二十九年司祭叙階、三十三年来日、神学生の養成にあたり三十九年帰国、バレフィルド教区の総代理、四十六年ローマのカナダ学院長、五十年三月モントリオール大司教選任、五十三年一月ピオ十二世教皇から枢機卿に任命、六十七年アフリカ、カメルーンのマウンデに宣教師として出発、今日に至る。

福岡大神学院が正式の神学、哲学科課程をもつ司祭養成の場としてローマの認可をうける前には、ラテン語と哲学を教える中神学校（東京大神学校の予科にあたる）が大牟田市に誕生、それから福岡の司教館の一隅に、さらに市内大濠の現聖母訪問会の屋敷にうつり、戦後は現在の浄水通り小神学校で再開、昭和二十六年に新築校舎に入った。

その間の校長はレージェ、ロビヤール（故人）オーブリ（カナダ在住）ラブラント（インド在住）高木師らで、現在会計およびラテン語教授のツルデル師は大牟田以来一貫して日本の神学生のために献身している。卒業生は司教三人、司祭百二十二人。在学生は四十二人。ほかに休学生数人。（写真右はレージェ枢機卿と高木院長、上は感謝ミサ）

尾上さんに勲七等宝冠章

熊本少年の町の保母、尾上ウキさん（六一歳）が永年福祉事業に従事したかどで、十一月三日の文化の日に勲七等宝冠章を授与された。尾上さんは南松浦郡北魚目村の出身。昭和四年砂ケ浦伝導婦養成所を卒業、青砂ケ浦保育所保母、天使園保母などを経て、昭和三十年一月、開設したばかりの少年の町に入所した。

市民のためのクリスマス

唐津、熊本、福岡で開催

教会外の人たちにキリスト降誕の意味をわかってもらおうとカトリック・プロテスタント両派合同でおこなう市民クリスマスの集いが、ことしも各地でおこなわれる、唐津市では四教会共催で十二月十六日午後二時から、とくに子どもと父兄を招いて、キャンドル・サービス、聖劇、合唱などのプログラムが計画されている。

もうすっかりお馴染みになった熊本市民クリスマスは、十七日午後六時半から市民会館でひらかれる。ことしは百人の合唱団がヘンデルの「メサイア」をほぼ全面発表する。福岡の市民クリスマスは十八日よる。はじめて市内のカトリックとプロテスタント諸教会の信徒有志による合唱を中心に合同賛美礼拝をおこなう。

近代的な納骨堂落成

福岡市南区の大橋墓地

11月4日落成した福岡地区納骨堂

いまから三十八年前の昭和十年いらい、信者の土葬用の墓地として使用されてきた通称大橋墓地（福岡市南区大字和田字大谷）に、近代的な納骨堂が建設され去る十一月四日午後二時から、信徒多数が出席して落成祝別式がおこなわれた。

式は本堂建設のため、三年前から地味な準備をつづけてきた、墓地建設委員会にたいする平田司教の感謝に始まり、委員会代表目良直氏が今日までの経過と、これからの希望について報告、つづいて遺骨の奉安があり、共同ミサをささげて散会した。

この納骨堂は鉄筋コンクリート二階建、六本の柱の上に奉安室がのっている形で、総面積約百五十三平方米。総工費千七百十八万円。設計は福岡の菅種雄氏、施工は同じく中島組で、四七一柩中、すでに三〇〇柩が売約済み。

この日発足した納骨堂管理委員会は、近いうちに管理規則と細則を決定するが、小教区毎に任命される管理委員が、新規申込みや納骨堂参詣者の世話にあたり、また周辺の緑化を進める予定。

司祭人事

熊本地区長トノフー師帰国、臨時地区長にグリフイン師、手取教会主任も兼任。

多久教会主任ペンツオ師はミラー会イタリヤ本部付。

帰国中のモーゼ師はパリ会北九州本部付、同じくベルトラン師は水巻教会に帰任。

12月のこよみ

2日(日) 待降節第1主日
待降節は、神のほうに心を向けなおす時、回心の時期である。ミサのはじめにも私たちは、祭だんの上にキリストをむかえるために、回心の決意をする。「人の子の前に立つ力が与えられる」ためである。

高宮教会で堅信

邦人司祭育成のための献金日

3日(月) 聖フランシスコ・ザベリヨの祝日

8日(土) 無原罪の聖マリアの祭日
マリアを神の御子の母とするために特別の恵みを与えられた。マリアは神の傑作といわれる。

9日(日) 待降節第2主日
今日私たちに改心をうながすのは、洗者ヨハネである。かれのきびしい言葉は荒れ野に集った人々の心にしみこむ。ミサに集る私たちは、この改心へのうながしをどう受けとめるのか。

16日(日) 待降節第3主日
回心とはキリストを受げられる心の準備のこと。せまい自己主義をすてること。めぐまれた状態にあって、人のことに関心をはらわなくなっている私の心に、するどいメスをあてること。「持っている人は、持っていない人に分けてやりなさい」。

唐津市民クリスマス（文化会館）

吉塚教会で堅信

17日(月) 熊本市民クリスマス（市民会館）

18日(火) 福岡市民クリスマス（少年文化会館）

23日(日) 待降節第4主日
マリアとエリザベトのよろこびは私たちの心にも伝わる。私たちも魂のなかに神の御子キリストを宿し、はぐくみ、その愛すべきお顔を一日も早く多くの人々に見せてやりたい。

25日(火)主イエズス・キリストのご降誕の祭日
私たちはことし何とも騒然とした、落着を失った気持で、主キリストのご誕生を祝う。こういう時代のふんいきに生きる私たちであるからこそ、世界を訪れてくださる神の御子に、心の目を集中させたい。

30日(日) 聖家族の主日
イエズスも私たち同様、家族のなかで生長し、いろいろのことを教えられて社会のなかに出てゆかれた。

事務用機器　文具・紙
放送用機器

福岡市南区大楠二丁目13番21号

有限会社 シオタ事務機

(52) 5327・(53) 4905

スチール製品　デスク・ロッカー・黒板

昭和49年度

泰星高等学校生徒募集要項

泰星高等学校は、福岡カトリック 司教区が経営する男子私立学校です。学校法人泰星学園の理事長は、平田三郎司教で．言うまでもなくカトリック教育方針にもとづき、知識と人格の両面の育成に力を注ぎます。カトリック信者の家庭の子弟のためには最適の学校です。寮の設備もあります。

募集人員　普通科　200名
願書受付　昭和49年2月1日～7日まで（午前9時―午後5時）
試験期日・科目　昭和49年2月8日（金）、英語、国語、数学
試験場　福岡市中央区小笹4丁目228番地　泰星高校内

泰星高校は、昭和49年1月完成をめざして、校舎と体育館を上記の新校地に建設中です。市立動物園の西側入口に近く、教育環境としてはこの上なくすばらしい所です。

泰星高等学校長　山頭原太郎 神父
福岡市中央区平尾5丁目　TEL　531-0838～9

創立一周年・北九州社研

写真＝カネミ油症患者を見舞い、紙野氏をはげます

『北九州社会問題研究会』は、さる十一月、創立満一周年を迎えましたが、岡垣射爆場の問題をはじめ、その目ざましい活動ぶりは、全国の社会問題研究会から注目されています。こん回は、この北九州社会問題研究会の一年を振りかえり、その業績、考え方、創立の意義などを探りながら、あらためて『社会参加』ということを考えてみました。

社研とは何か

北九州社会問題研究会（以下北九州社研と略称）は、ご存知のとおり、カトリック社会問題研究所の下部組織ですが、このカトリック社会問題研究所とは何でしょうか。北九州社研に触れる前に、カトリック社会問題研究所に目を配っておきましょう。

カトリック社会問題研究所（以下社研と略称）は、JOCの創立者J・ムルグ神父によって、昭和三十七年に創立されました。

ムルグ神父は、社研創立の契機を、『社会関係と人間』五十号記念特集の『社会問題研究所はなぜ生まれたか』の中に、つぎのように記しています。

『一般的に日本のカトリック者たちが、社会問題に対して関心が薄いことがわかったからであった。彼らが社会建設の配慮を非キリスト者に委ねてしまい、その間彼ら自身は、自分の霊魂の救いに専念しているか、または利己心から何事にも専念していなかったからであった。』

またその目的について、同じ文章の中にこう書いています。

『社会問題研究所のすべての活動、すなわち雑誌、セミナー、会議、グループ活動等は、社会の中にキリストの精神を具現するために、社会的な角度からキリスト教的に人間と社会を建設することを目的としている。』

社研の性格は、右のムルグ神父のことばに明らかだと思いますが、私たちはここに、社研創立の意味のほかに、社会の不正義や罪悪に無関心であった、従来の個人主義的な信仰に対する否定と、進んで社会に働きかけようとする積極的な姿勢が、強く打ち出されていることに注意しなければなりません。

白柳大司教は、同じ雑誌の『カトリック社会問題研究所創立十周年によせて』の中に、

『シノドス（全世界司教代表者会議）の出席者が異句同音、ある焦りをもって強調してやまなかったのは、今は教会が新しい宣言を出したり、理論のみを強調するときでなく、すでにわれわれがもっているすばらしい教会の社会的教えを実行に移す時であるということであった。――過去、現在、数多くの信徒、修道者が生涯をかけて愛の業に従事し、福音の証しをたてているのは実に力強いことであるが、社会の不正義が罪悪であり、この分野においても各人が責任をもち、なにかをする義務があることまでに神の民を気づかせることができなかったことに、教会はみずからを恥じ、あらたな決意のもとに、シノドス出席者自身の内的回心をはじめとして、広く教会全体が良心を新たにすることをみずからの急務としたのである。』

と書いておられます。

大司教は、社会の不正義が罪悪であり、この分野で私たちが責任を持ち、何かをする義務があることを強調されていますが、ここには社研の目的が、さらに具体化されているようです。社会の不正義と罪悪に、カトリック教徒が責任を持つということは、ここにも書かれているように、従来の信徒や修道者の愛の業にはなかったことです。問題は、それが現在もなお進行していないという点にありますが、その原因は、やはり社会という概念の新しさにあるといえましょう。

ムルグ神父が社研を創立したのは、前にも記しましたが昭和三十七年で、これは第二バチカン公会議の『現代世界憲章』が発布される三年前ということになります。カトリックの中に、曲りなりにも社会に対する関心が高まったのは、『現代世界憲章』が発布されてからのことですから、ムルグ神父が、いかにさとく『時のしるし』を感じとったかがわかりましょう。

北九州社研の行動性

『北九州社研』ができたのは、昨年十一月です。幾人かの信者が社研の横浜セミナーに参加し、北九州にも社研を作ろうと提案したのがきっかけとなりました。現在の会員は二十三人、指導司祭は黒崎教会のトクベフ神父です。

北九州社研の動きはなかなか活発です。十一月五日には福岡社研の公害シンポジウムに加わり、岡部睦子さんたちが、岡垣射爆場の撤去について問題を提起、大きな反響を呼びました。この問題は後にまとめられて福岡の『水俣病』『カネミ油症』、鹿児島・都城の『志布志湾開発の現状』などとともに、『社会関係と人間』の五十五号に掲載されました。

会員のAさんは、

『この一年は公害問題、とくに北九州周辺の公害にテーマをしぼりました。岡垣射爆場の問題もその一環として考え、こんごともづけていくつもりです』と言っていますが、つぎにざっと北九州社研の一年を振り返ってみましょう。

四十七年十一月△福岡の公害シンポジウムに参加△岡垣射爆場の問題を聞く会開催△カネミ油症の問題で、坐り込み実行中の紙野柳蔵氏訪問

四十八年一月△東大の『公害自主講座』に会員数人が参加

〃　二月　△夏の社研横浜セミナーの準備。北九州地区の各教会で、その説明会と資金カンパ実施。またセミナーに、岡垣射爆場の問題をとりあげてもらうことを要請△岡垣町長改選にさいし、射爆場撤去公約の候補者を支援する『子どもを守る母親の会』に協力

〃　八月　△横浜の社研全国セミナーに、トクベフ神父以下六人が参加、深堀、岡部両氏が、射爆場の問題を中心に現地報告

〃　九月　△北九州地区各教会で、横浜セミナーの経過報告

北九州社研の行動的な性格は、この一年の歩みの中によく現れていますが、これは従来理論研究に中心を置いてきた社研にとっては、異例のことでした。北九州社研のこうした行動性は、ムルグ神父にも喜ばれ、行動する社研のモデルケースとして公認されました。この行動性について、会員の一人は

『私たちは行動から出発しました。社研ができたと思ったら、いきなり射爆場問題が飛び込んできて驚きましたが、やるべきことはやらなければと思い、この問題と取り組みました。これが、行動しながら学ぶことを、私たちに教えてくれたのです。』と語っています。

許されない無関心

社会に目を向けようとか、社会参加とかいうことは、福岡教区でも、これまで繰り返し言われてきたことです。だがそれは口さきだけの飾りで、一度も実行に移されたことはありませんでした。とくに研修会のような集りでは、せっぱつまったような形で強調されましたが、それはいつも安直に布教に結びつけられ、いつの間にか、個人的な接触とすりかえられてしまいました。

このへんに社会意識の欠落した、カトリック信者の体質を指摘できると思いますが、北九州社研は、そんな教区の中で、はじめてほんとの社会参加を実行したわけです。細かくみれば、まだいろいろ問題はありますが、その勇気と積極性には、心ある人なら、励ましの拍手をおくらずにはいられないでしょう。

小倉には、二千五百人の信者がいると言われますが、カネミ油症の問題について質問すると、カネミとは何ですか」と聞き返す人が多いそうです。Bさんは

『地もとの人がこのありさまです。いかに社会意識がなく、社会問題に無関心かということがわかります。』と嘆きますが、トクベフ神父はこう言っていました。

『いまの教会には、社会に対する関心は全くありません。北九州社研の活動に対しても無関心で、社研の人は社研の人、自分たちの思うようにしてください。私には私の仕事がありますから、という具合です。北九州社研はこういう人たちに、社研の活動をおして、社会の不正義にたち向うことの意味を知ってもらいたいと思っています。私たちの仕事は、キリストの教えにしたがって、社会の不正義に異議の申し立てをすることです。それが今日の信者として、キリストの望みに答える最上の道だと考えます。』

この人たちの行動が、『社会の不正義が罪悪であり、この分野で私たちが責任を持ち、何かをする義務がある。』という白柳大司教のことばと、同じ考え方に立っていることはいうまでもありません。それがこの人たちの視点であり、この人たちの社会参加が、安直に布教につながらない意味も、従来の信徒との考え方の違いもそこにあると思われます。

この人たちの、消極的な神父、信徒に対する批判はきびしく、

『信者も指導者も、社会参加などという口さきだけの言葉にかくれて、責任逃れをしているのではないでしょうか。口でどんなに立派なことを言っても、自ら実行しないなら意味はありませんよ。』

『教会の中で、社会問題をいちばんよく知っているのは神父ですよ。その神父が、社会問題に無関心をよそおうというのは、いったいどういうことでしょうか。いまの教会はまだ神父中心で、神父の指導がなければ信者は動きません。神父には、もっと真剣に社会のことを考えてもらいたいですね。』

と訴えていました。

この人たちに対する理解は、周辺はともかく、北九州地区にも、教区にもほとんどありません。それは信者の社会に対する無関心に直結することに違いありませんが、こんにち、無関心が無関心のままで許されないことは、もと緑ケ丘短大助教授の相良敦子さんが、『社会関係と人間』に書いた『キリスト者と社会問題』を読むとよくわかります。その一部を掲げてみましょう。

『信徒は世俗の中に生きている。世俗の各々の務めと仕事に携わり、家庭と社会の一般的生活条件の中で生活する者である。この世俗の職業と活動は、独占的ではないにしても信徒独自の領域である…。第二ヴァチカン公会議は、このように〝信徒〟と〝世俗〟の関係を認識させてくれた。信徒の生活が社会問題を離れてはあり得ないということは、〝信徒〟の性格のこの定義からも見えてくる。』

『この世の秩序の刷新を信徒個有の任務として受けとり、この世の秩序において決然として具体的に行動すること、信徒が市民として各々の能力の責任感をもって、他の市民と協力し、万事において常に神の国の義を求めることである（信徒使徒職教令7）。すなわちキリスト者は、自分の全能力を尽し、他の市民と協力して世俗社会の諸活動に打ち込みつつ、そこに新しい秩序を打ち建てて行かねばならない。』

Cさんは『信者が社会に目ざめるには、いままでの信仰への問い直しが必要ではないでしょうか。』と言います。それは過去の個人主義的な信仰と、カトリックが社会の中で何をしてきたかを反省せよということですが、いまの信者は、そこまで下りてゆかれば、社会参加の意味が、理解できないのかもしれません。

高く評価、創立の意義

北九州社研は、これから何をしようとしているのでしょうか。

Dさんは『現在のところ、計画は立たないというのが実状です。何かしなくてはという焦りがあると、永続きしないのではないでしょうか。創立と同時に岡垣問題が飛び込んできて、そのまま突っ走った感じですが、これからは、落ちついて取り組むことができると思います。公会議文書、聖書の研究も進めてゆくつもりです。』

Eさんも

『公害に限らず、幅広く社会問題と取り組んでゆきたいと思っています。そのためには、共産党と同調することもありましょうが、こんごは理論研究を推進して、カトリックの北九州社研という立ち場を、堅持してゆく考えです』と言っていました。また、Fさんのように、

『北九州社研だけでは不十分ですよ。各地区に問題はあるのですから、小教区に社研を作り、地区ごとに盛りあげてゆくべきです』と主張する人もあります。

ともあれ北九州社研は、カトリックの社会参加に、貴重な突破口を作ったわけで、そういう意味でも、創立の意義は高く評価されてよいと思いますが、またこの社研を足場に、この活動がさらに広がることを祈らずにはおれません。

（広報室）

社会参加に貴重な突破口

注目される行動の足跡

山崎忠雄氏　十一月一日午後一時十五分、東京都世田谷区の自宅で死去、八十二歳、上野毛教会で葬儀。山口県萩市出身、大正十四年から二十数年間サンモール修道会の教育事業に献身、昭和二十六年以来大牟田明光学園の創立に尽力、三十七年まで同校主事、ローマから十字勲章をうけた。氏の長男和雄氏は東京田園調布聖業学園教頭、次男寿雄氏はマリア会司祭、長女トミヨさんは大牟田明光学園校長でカノッサ会修道女。

科目　調理師養成科、料理科、被服科
趣味科、家政科
学校法人
福岡家政学院
院長　渡辺ハナヨ
福岡市中央区天神三丁目
TEL76―6155(代)

栄養のバランス
牛肉・かしわ・豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
TEL 52・4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電㊲2673

ヴィノ・デ・ミサ
（ミサ用ワイン）
720mℓ入 1,000円
ミサ用のぶどう酒ですが、家庭用・贈答用としても、みなさまに好評をいただいております。
取扱店
大楠酒店
福岡市南区大楠二丁目4番8号
電53・4718
ミカエル青木実（大楠教会）

紳士の気品と誇りを創る
お誂え洋服
紳士服の
ニューライン　糸永
電話　福岡52・0820
ペトロ　糸永秀雄
福岡市中央区小笹四丁目4番
2636号

辞書は三省堂

韓国ソログト島救援に奔走

北九州婦人会長、森山ユリ子さん

『カトリック北九州婦人会』では、十一月中を目標に、い韓国ソログト島に救恤（きゅうじゅつ）品を送る準備を進めているが、その推進力となって奔走しているのは、会長の森山ユリ子さん、五十七歳だ。

森山さんは門司の生まれ、各地を転々として門司に帰ってきたのは昭和十九年。四十六年退職するまで、二十七年数カ月を小学校の教師として過してきた。いまは『京都看物学院』を経営、家庭はお母さん、ご主人、お嫁さんの三人暮し。『カトリックの信者であることを、何よりも誇りに思っています』という。

使徒的使命の養成、地域社会の秩序刷新をスローガンに、小教区の婦人会が結束して『カトリック北九州婦人会』を結成、ことしの一月、第一回の集りがひらかれたとき、森山さんは会長に推された。そして婦人会は五月の例会でポルノ映画の看板の排除、ソログト島の救援について協議、七月具体策を検討し、九月から活動に入った。

ポルノ映画看板の件は市に陳情して、谷伍平北九州市長から『青少年問題協議会を中心に協力したい』旨の返事をもらい、ソログト島救援のほうは、小教区婦人会の協力で相当量の衣料と現金が集っているという。

『ソログト島は韓国の小さな島で、ここに住む人たちは、衣料がなく新聞紙にくるまって寒さをしのいでいるそうです。遅くとも十一月の末までには発送したいと思っていますが、これは大きな仕事で、また領事館、税関の手つづき、荷造り、運搬、荷役など大変です』

この森山さんはことしいっぱいで会長の任期が終るので、これは婦人会会長としての最後の大仕事になるわけだ。

積極的な姿勢と熱意

北九州地区の信徒研修会

北九州地区信徒使徒職協議会主催の信徒研修会は、地区の司祭、修道女、信徒約一五〇人が参加し、十月二十八日戸畑市千防戸畑天使園でひらかれた。

午前十一時松尾信徒協会長が、『キリストの教えを自分のことばで伝えるためには、養成が必要であり、行動も養成なくしては生まれない。各分科会で活発に意見を交換しよう』とあいさつし、そのあとただちに分科会に入った。

分科会は、(1)労働と信徒（ボネ）(2)召命について（青木）(3)婦人の役割（ラバルタ）(4)教会における青年信徒の位置づけ（デシャンプ）(5)離郷問題について（クロージャン）(6)社会問題と信徒（トクベフ）(7)教会内の対話（パスカレル）(8)一致について（バスチ）(9)親と子どもの信仰（ガイヤール）(10)同上（ベリオン）など一〇グループに分かれ、担当司祭のリポートを中心に、参加者の討議によって、問題を掘り下げるという方法で行なわれたが、(1)労働と信徒(3)婦人の役割(6)社会問題と信徒(9)(10)親と子どもの信仰には、とくに参加者が多く、地区信徒の傾向をうかがうことができた。

全体会議で、各グループの代表が分科会のまとめを報告、松尾会長のいわゆる養成を目ざして、積極的な姿勢と熱意を見せ、つづいて平田司教によるミサが行なわれ、感激の中に午後五時すぎ散会したが、平田司教は研修会についてつぎのように語っていた。

『参加者が予想外に多く、分科会でもしっかりした意見を聞くことができました。この研修会をもとに、地区で信徒活動がさらに盛りあがるよう祈ります』

（写真は研修分科会）

全信徒に呼びかけ

ベトナム復興援助募金

平田司教は、いま全国的に展開されている日本カトリック教会による、ベトナム復興援助のための募金運動を、教区内で再開するよう小教区、および修道会によびかけた。よびかけの内容はつぎのとおり。

『福岡教区では、今春すでに四旬節愛の運動として、ベトナム教会復興のために広く募金を行った。この呼びかけにたいしては、非常に寛大な協力がよせられ、募金額は五百五十万円以上に達した。ところが今秋、日本司教団の招きで、南ベトナム司教協議会の事務局長ミン神父が来日して、いまテントの中で暮している、百万におよぶ戦争避難民を定着させるため、ジャングルを切り開き、農業を営ませるための必要な器具の援助を、久留米、熊本、福岡、北九州でなまなましい実状説明をとおして訴えた。

この訴えに答えて、ベトナムの兄弟たちのため愛の募金を福岡教区でも再開したい。物価の異常な上昇その他で、生活の楽でない人々も少くないが、私たちよりもはるかに悲惨な境遇にある人たちのことを考え、「あり余る豊かなお金のなかからでなく」生活費の一部をさいてでも、援助の手をさしのべてもらえないだろうか。』

なお募金期間は本年十二月末日まで、各教会、修道院、施設で、適当と思われる方法で行なわれる。

年末募金はじまる

熊本はインド救ライ

福岡地区信徒協では、全信徒の協力をえて十二月一日から三十一日まで、福岡・久留米両市とその周辺の市町村で、例年どおり街頭に出てクリスマス扶け合い運動をおこなう。目標額二百万円。募金はこの地域の貧困家庭に分配する久留米信愛女学院生徒もこの期間中、同市内でベトナム復興のための街頭募金をする。

北九州信徒協は十二月一日から二十五日まで、北九州市を中心に愛の街頭募金を行うことを決定し、全教会に協力を要請した。目標額は八十万円。募金の半分はカリタス・ジャパンに、残りの半分は地元のカトリック養護施設に贈る。

熊本市内カトリック四教会では、他のプロテスタント諸教会と合同して、十二月八、九、十五、十六の四日間、街頭募金を行い、インド救ライの父と仰がれた、故宮崎博士の遺業を援助する。

移住献金追加分

大名町　一四、七二八円
総合計　三四八、一八七円

布教献金（10月21日）

町通	16,560	小湧	倉	27,203
丘	5,650	戸	川	15,943
新	7,516	若	畑	20,000
島	6,780	天	松	7,000
宮	5,000	黒	神	5,000
塚	15,000	八	崎	20,000
山	—	本	寺	5,000
崎	3,000	水	城	2,000
楠	7,140	直	巻	7,800
島	2,410	飯	方	1,000
智	3,278	田	塚	2,000
市	—	行	川	1,610
米	6,831	新	橋	7,467
田	11,500	手	原	15,628
野	2,000	荒	取	20,200
村	1,050	人	尾	1,000
郷	40,200	本	吉	8,650
郡	12,462	健	渡	7,000
子	1,555	帯	軍	7,845
渡	4,700	水	山	8,000
賀	3,500	大	俣	5,220
津	5,000	崎	江	4,800
里	5,000	島	津	7,500
栖	4,000	玉	崎	28,000
雄	4,119	菊	名	2,700
島	2,000	八	池	13,000
久	1,500		代	6,575
司	3,000			
港	5,575			
門	2,270			
名水ケ野		王田		
大浄光西美		日留牟		
高吉茶箱大		田		
東古二久大		島		
吉今木小呼		万		
馬佐唐伊鳥		司		
武鹿多門門				
合計	446,737			

信徒点描

就職児童の将来が心配

熊本少年の町事務長　嘉松清市さん

熊本県西合志町黒石のバス停を熊本へ少し引き返し、左に折れると、一本の道が白く真っすぐに延びていて、その突き当りが『熊本少年の町』である。

黒っぽい石門を抜けて、桜の並木の間を歩いて行くと正面に聖堂が見えている。その前は広場で、ヒイラギに囲まれた芝生を中心に事務室、児童館、食堂などの建物が、紅葉した樹立に囲まれ、労りあうように向き合って並んでいる。総面積二万一千坪、芝生も立木も手入れが行きとどき、構内全部が庭園のような美しさだ。

この中にはプールをふくめ、二十一棟の施設があり、幼児を入れて七十五人の児童が収容されている。

『年をとるにつれて、子どもが可愛くなってゆきます。どうかして子どもたちを喜ばせたいというのが私の気持で、六十四歳になったいまも、子どもといっしょに、サッカーやテニスをするのが楽しみです』

事務長の嘉松清市さんは、そう言って温和な顔に微笑を浮かべる。

嘉松さんが少年の町に来たのは、昭和二十九年の八月。土地購入の手続から法人関係の定款作りまで、全部独力でやってのけたという。少年の町ができたのは昭和三十年一月、児童を収容したのが四月だった。

『はじめは感化院と間違えられ、土地の人たちに反対されて困りました。町長を引っぱりだし、県庁で説明を聞かせて、やっと納得してもらいましたが、小学校でも受け入れを拒まれ、五月になってやっと入学が許されるという始末でした』

当時のそういう状況の中で、この人の苦労は並み大抵のことではなかったようだ。

嘉松さんは長崎市浦上の出身。戦争中は北京の日本大使館に籍を置き、河南、河北を駆けずり回った。終戦後引きあげて、文部省で適格審査室主任を勤め、追放者の救済に当っていたが、そこを退職したのは、偉い人はあぐらをかいていて、小中学校の先生だけが追放されるという不条理に、疑問を感じたためだったという。こういう経歴が、少年の町事務長という重責に、今日まで堪えぬいてきたこの人を、大きく支えてきたのではあるまいか。

この人の心配の種は、少年の町を出て就職してゆく子どもたちの将来である。就職先はほとんど関東、関西方面。就職した土地の教会に依頼状は送るけれど、受け入れの態勢がないため、いつの間にか教会に足を向けなくなるそうだ。

『就職先に、教会へ来なさいという電話はあるようですが、施設を出て就職した子どもたちは、それだけでは教会に行きませんよ。レジオの人たちが接触してくれるなど、もっと適切な方法を考えてくれたらと思います。就職して職を変るうちに、消息が途絶えてしまうという実例もありますので、それを防ぐためにも、ぜひ教会の協力をお願いしたいですね』

嘉松さんは若いころから、詩や歌を作ることが好きで、作った作品をこつこつとノートに書きとめている。

鐘の音に円らな瞳子（つぶらなひとみ）草原の光かかえて子らの祈りす

この人の子どもたちへの愛情が色濃くにじみでた一首だ。

中学生むけ要理教育

北九州市で研究会

十一月十八日午後二時から北九州市小倉教会で「中学生に要理を教えるカテキスタの研究会」がひらかれた。集ったのはじっさいに要理教育にあたっている人たちと中学校教師ら十五人、それにガイヤル神父ら司祭四人。

とり上げたのは中学生の要理勉強への出席率のわるい点と、かれらの能力に応じた要理教育法。小学校時代、あるいはそれ以前から要理を教えられてきた子どもが中学に進んだころから、信仰の教えを自分のことばで表現できなくなるのはなぜか、この問題をめぐっていろいろの意見がよせられたが、その中から「中学時代の子どもにはただ要理を教えるのではなく何かの活動をおこなわせる一方、自分たちで学びたいことがらを自主的に見つけ、勉強を受身にではなく積極的に切り開いてゆく〝参加〟の形をとるのがいいのではないか」など、思い切った考えがみちびき出された。なお次回も同じ主題について研究する。

聖書を理解するための基本的概念を選び
丁寧に解説した　聖書の用語事典

聖書思想事典

聖書のくめども尽きない宝を　ひとりでも多くの人々に分ちたい念願をこめて生まれた　待望の書！

翻訳監修者　Z・イェール（サン・スルピス大神学院）
翻訳者　小平卓保　河井田研朗

A5判 1,008ページ ＝ 5,000円

本書の特色

◉聖書の用語事典

331の聖書用語を選び，旧約から新約にかけての思想的発展の跡をたどることを主眼としたもので，聖書の単なる百科辞典ではなく，聖書の実際的イメージを解明するための用語事典。

◉総合的な把握

一民族の精神生活の結晶として，長い年月をかけてできあがった聖書は膨大であり，その時代環境・文学類型は多岐にわたっている。聖書を読みながら，その中心思想を的確にとらえることは困難であるが，本書は，その全体像を提示し，聖書が各主題について何を語っているかを明示する。

推薦のことば

平田三郎（福岡司教）

公会議の精神に基づく堅実な刷新をはかるためにも、宣教に従事するためにも、また日曜ごとのミサ聖祭にあずかるためにも、聖書の深い理解が不可欠である。その意味で、本書の出版はきわめて時宜を得たものであり、聖職者だけでなく、信徒の方々にも広く推奨したいと思う。

絶好のクリスマス　プレゼント

三省堂

哲学ノートによみがえる
レージェ枢機卿の横顔

糸永武男

福岡大神学院創立三十五周年記念式典に、レージェ枢機卿が来日された。師は昭和八年来日され、神学校創立のため四年間の準備期間を過しておられるので、この記念式典を迎える土台となった当時の記憶をたどって、師のおもかげをしのびたい。

三十六年前のことなので、何から思い出してよいやらと思案していたところ、本棚からとり出したノートの中に、レージェ教授の哲学講義をメモしたのが見付かった。開いてみると、まづ司祭を志す者の勉強態度と心構えが説かれており、ページをめくっていくうちに三十六年前のレージェ教授の熱烈な講義の姿がよみがえってきた。教授は物静かで冷静、心の底まで見透すような鋭い理智と慈父的な眼差しの校長だったが、始業の祈で授業に入るや忽ち雄弁となり、流暢な日本語で、一語一語かんでふくめるように講義する慎重な人となった。それでいて、授業の終には、顔から耳まで紅潮するほど、全精力を傾注し尽すので、生徒はその炎のような姿に圧倒される毎日だった。授業後は、昼食前の十五分間、聖堂での特別祈祷に、師は紅潮した顔に両手をあてて祈っておられた。おそらく自分に託された召命の種子の、豊かなみのりを願っておられたものに違いない。当時の生徒の目にはそう思える姿だった。

当初の神学校は、大牟田カトリック教会で発足し、生徒は五名だった。聖堂、司祭館、古い日本家屋、幼稚園が別々に点在していたので、その間を往復し、四畳半の押入れの戸をはずした食堂で日用の糧をいただき、雨天のときは、一日の行動に雨傘が欠かせなかった。一週一度の五衛門風呂沸しも神学生の仕事だった。休憩時間は、生徒と気軽に談笑したり、講義の延長のようなものになったりした。また自分の神学生時代を語られた、こんな話もあった。

『僕たちは十年後、どこで何をしているだろうかと、友達同志語りあったこともあるが、まさかこの大牟田で大神学校を創立することになろうとは……』そのとき生徒が「今から十年後にはカルディナルでしょう」と申しあげたら、「神の思召しならパパ様かも知れないよ」と言って、即座に大きなゼスチュアで生徒をはげまされた。このような神学校生活が、二学期に入って順調になりかけたころ、大牟田市民の大半が、爆発的に流行した赤痢にかかり、小学校が病院となる悲惨な状態が起った。当時は現在のように特効薬はなく、減食、或は絶食療法にたよっていたので、多くの人が死んでいった。非常に苦難続きの一年目であった。第二年目に入って、福岡市浄水通り司祭館を神学校にし、そこで勉強にいそしんだ。日用の糧をいただくため、当時小学校だった現在の泰星高校まで、一日三回の往復をしたものである。

ふりかえってみると、福岡小神学校が、大名町教会で発足した当初から苦労の連続だったので、不自由に慣れていたためか、自分のおかれた環境をぐちるのではなく、耐えることを当然のことと考えるようになっていた。だがいっぽうには、一日でも早く司祭になりたいというあせりがあった。あるときレージェ教授はこういわれた。「そんなに早く司祭になりたいなら、明日叙階式をするようにしましょう」生徒が「いいえ、まだ勉強がたりませんから」と答えると、「まだ適当でないことを自分で覚るなら、毎日の勉学に励みなさい」とやさしくさとされ、希望と勇気を与えられた。このようなサンスルピス大神学院が、偉容な、隠れた縁の下の力持ち的な土台の上に、創立二十五周年の華麗を誇るに至ったのである。

現在は、衣食住満ち足りて余りある恵まれた環境で、神学生は修徳と勉学ができる。昔とは比較にならない。それなのに召命が少いのはどうしてだろう、召命の種が芽を出しても途中でしぼんでしまうのはなぜか。物質文明の目ざましい進歩が忍耐心をうばい、神をもうばい、召命の道さえもうばってしまうのだろうか。「我に従え」といわれるキリストの言葉を聞いて、実行に移して行く若者はいないのだろうか。レージェ枢機卿の神学生のときのことば「十年後、或は二十年後、どこで何をしているだろうか」と、希望をもって進む神学生が、多数であることを祈る家庭が増えてほしいものである。（いとなが・たけお、今村教会助任司祭）

大牟田時代の神学校、前列中央レージェ神父、左ツルデル、右平田勇神父、後列左牧山藤房、糸永武男神学生

教養

わたしの宗教教育 ⑦

ガイヤール

子どもの読書（下）

子どもの読書指導をどうするかは、親にとっても、やさしいことではないと思います。よい本を買ってきて、これを読みなさいというだけで問題が解決するわけではありません。また三、四年生になっても、漫画や絵本にだけ興味があって、どんなに親がすすめても、まじめな本を読む気を起こさない子どもがいます。どうしたらよいのでしょうか。

小さな子どもが漫画を読むのは悪いとばかりはいえません。なぜなら、一、二年生の子どもがおぼえたことばはまだ少ないし、書ける単語といえばもっと少ないので、ふつうの本を読める段階に達していないからです。字が読めず、書けもしない子どもの場合、いろいろな知識を得るためには、おとなの話を聞くことと並んで、絵本を読む以外には道はありません。

三、四年生になって自然に字をおぼえ、能力が発達する関係で、子どもは次第に漫画にたいして物足りなさを感じ、同時にまじめな本を読む傾向をあらわしてくるはずです。この年齢になっても、子どもが読書に興味をもたないようであれば、親は適当に指導しなければなりませんが、この教育で一番効果的なのは、まず手本を見せることです。読書している親の姿は、子どもにとって大きな刺戦になるし、親をまねて自分もまじめに本を読まなければ、親のようなりっぱな人間にはなりえない、という考えを起こすようになります。

それから子どもと具体的に話し合いながら、漫画のつまらなさや乏しさに比べて、本の面白さとその富を意識させる必要があります。もちろんはじめは読みやすい、面白い本をすすめ、また子どもと話し合うために、自分も読んで内容を知っておかねばなりません。

読書に時間をかけるように強いる必要はありません。子どもは本の面白さを味わえるようになったら、自分で時間を長くするようになるからです。逆に高学年になると、読みすぎる子どもも見つけられます。他の子どもと遊びもせず、テレビも見ず、宿題もおろそかにするほど、一週間に何冊もの本を読む子どもがいます。親としては、肉体的・精神的に害になるこの極端を許すわけにはゆきません。こんな子どもにはどうすればよいのでしょうか。

強制的に読書を止めさせるのはどうしても読みたい子どもを、よけいに苦しませることになるから避けるべきです。子ども自身が好奇心や焦りを抑えて、よむテンポと量をおさえ、読みこなすことを目的とし、親は子どもの読んだことについて、一緒に話し合う時間を持たなければなりません。走り読みする子どもは、結局いつも先のことを知りたがるから、ゆっくり味わうことができません。話し合いの中で、親は子どもが気づかなかった、そういう味わいに目をとめ、その面白さを見つけさせることができます。そうすれば子ども自身、だんだんゆっくり読めるようになります。

読書後の子どもの話し合いに、もう一つよい点があります。それは子どもの考え方を正しく育てることです。

読んだことについて、必ずよい点、悪い点を見つけて、どうしたらよいのか悪いのかを考えたり、人のわざのなかに神のみわざを眺めたり、一緒に感謝したりする必要があります。信仰によるこの読み取り方、この解釈は子どもの信仰教育上、非常に役立つものと思われます。このような読書の指導は、親子の心のふれ合いをもうけるためにも、貴重なチャンスではありませんか。

連載随筆　炉辺詩語

柿本人麻呂・自らの死を傷む歌

森雅生

鴨山の　磐根し纏ける　吾をかも　知らにと妹が　待ちつつあらむ

柿本人麻呂

万葉集巻二に見られる歌で、前書に『柿本朝臣人麻呂、在三石見国一臨レ死時自傷作歌一首（柿本朝臣人麻呂の、石見の国にありて死なむとせし時に、みづから傷みて作れる歌一首）』とあり、死に臨んだ人麻呂が自ら悲しんで詠んだ歌であることがわかる。

この歌には『人麻呂の石見に居り、又石見から都へ還ったり、又石見において死んだ痕を想像させる歌などは、悉くは、人麻呂自身のものと言ふことはできない様にも思ふ』という折口信夫氏の説がある。いったい人麻呂については、万葉集の歌のほかには資料とするものがなく、私たちは万葉集の歌をもとに、歴史をひもをとき、想像をもって補い、僅かに事蹟の一部を知ることができるのみである。多くの学者の説はあるが、歌に即したこと以外は、ほとんど根拠のない想像に止まっているのであって、右の折口氏の説も、その一つと考えてまずは間違いあるまい。

前書にある『石見の国』は、武田祐吉氏の『万葉集全注釈』に、『山陰道の西方、日本海に面し、今、出雲の国と共に島根県となっている』と書かれている。人麻呂が石見で死んだことは定説に近いが、『鴨山』がどこかということは、まだ何もわかっていない。斉藤茂吉氏に『鴨山考』という研究があるが、これもまた根拠のない想像の説である。

人麻呂が七〇二年以後石見にいたことは、残された歌によって知ることができるが、いつ石見に赴任したかわからない。また官位についても明らかでなく、前書に『死なむとせし時に』にあることから、六位以下であろうと推察できるだけである。当時は三位以上に『薨』、五位以上に『卒』を使い、『死』は六位以下に当てられていたのである。

一首は、『鴨山の磐を枕に、死の床に横たわっている私のことも知らずに、妻はひたすらに私の訪れを待っているのであろう。まことに悲しいことだ』という意味であろう。妻が待っているというのは、当時の風習にかかわりのあることで、妻は夫とともに住まうのではなく、家に止まっていて、夫の訪れるのを待つのがふつうだったのである。斉藤茂吉氏の『万葉秀歌』に、『当時人麻呂は石見国府の役人として、出張の如き旅にあって、鴨山のほとりで死んだのであろう』とあるのは誤りということになろう。

草壁の皇子、あるいは路傍に横たわった死者まで、数多くの人の死を悼み、すぐれた挽歌を残した人麻呂が、いまは磐根を枕に、迫ってくる死を自分の死として受け止めようとしているのである。この歌には、不可避の死を目のあたりにし、自己の実存をじっと見つめている人麻呂の、悲痛でしかも静かな眼差しが感じられる。諦念めいた理屈を避けて、単的に妻のことを言っているのがよく人麻呂らしい格調には乏しいが、やはりすぐれた歌のひとつであろう。

詩

くろい一本の杭のように

岡部隆介（匈奴の会同人）

くろい一本の杭の影が水にゆれている
やわらかに曲ってゆらいでいる

この川にはもう魚族はいないはず
みんな水に溶けてしまったという
古譚の川だ

くろい一本の杭の影がゆれてあることに
メタフィジックな意味づけをしようなどと考えぬがいい
ただ　それだけのことだ

半ば腐った杭の水苔をやさしくつつく
生き残りの砂いろの魚がいるなどと
だれにも　言うな

主の降誕を祝い
親しい方に
カトリック書籍を
おくりましょう

お子さまには
☆新刊絵本 べつれへむへいこうえ・まつもとみつよ
星にのってみちおくんとようこちゃんはあかちゃんのキリストさまにあいに行きました……。こどもの夢をさそう文と絵でクリスマスのおはなしがたのしく書かれている。
おとなのかたには
☆われをだれと思うか　女子パウロ会訳
二千年の歳月を越えても、今もなお無数の人間がようこんで、かれに生涯をささげていく。いったいかれは何者だろうか？キリストの生涯を人々に知らせるためのよい本です。
このほかにも馬小屋セット・クリスマス・カードなど各種とりそろえておりますのでご利用ください。
十二月の営業時間
十二月十五日(土)～二十四日(月)午前九時半～午後七時まで
十二月二十三日(日)　午前十時～午後四時まで
毎水曜日　定休日
聖パウロ書院
大名町教会隣
西鉄グランド・ホテル前
でんわ七四一―四五八八
¥200　¥300

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角（山荘通）
電話代表(521)0568